

銀座第1遺跡

(一・二・三・四次調査)

Ginza 1 site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書25

2006

宮崎県埋蔵文化財センター



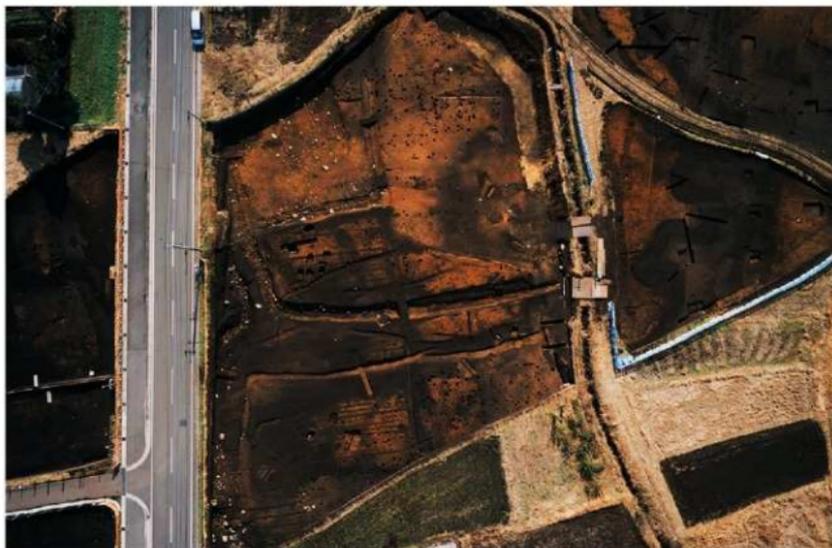
銀座第1遺跡近景（南から）



一次・二次・三次調査区



四次調査区



A区全景（一次調査）



C区全景（二次調査）



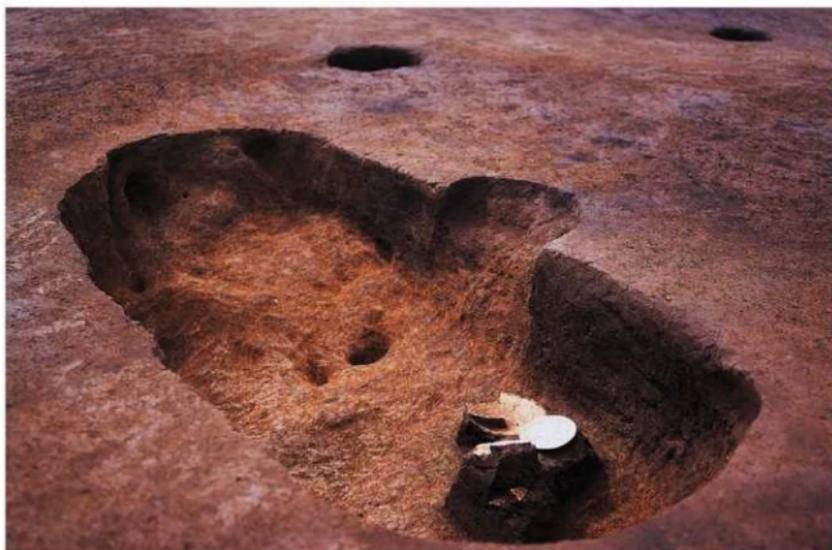
B区全景 (三次調査)



D・E区 (四次調査)



道路状遺構とピット群（二次調査）



中世土坑墓（四次調査）

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した銀座第1遺跡は宮崎県児湯郡川南町に位置し、平成14年度から15年度にかけて四次にわたる発掘調査を実施し、旧石器時代から近世までの遺構・遺物を確認することができました。

縄文時代の成果としては、丘陵下の低地に展開する集石遺構群があり、当時の生活域が台地上にとどまらなかったことが分かります。また溝から出土した弥生土器の数々は、付近に集落の存在を暗示するものです。

特筆すべきは中世～近世の成果で、方形区画を基礎とする集落の存在が明らかとなりました。そこから出土した多種多様の遺物は盛んな交流をうかがわせ、土師器には豊後国との関わりを強く感じさせるものも含まれていました。

ここに報告する内容は、今後当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になると考えられます。

本書が学術資料としてだけでなく学校教育や生涯学習などの場で活用され、また埋蔵文化財保護に対する理解の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 宮園 淳 一

例 言

1. 本書は、平成14～15年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に係る埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は日本道路公団の委託により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社となったが、本報告書中では日本道路公団として記載する。
3. 本遺跡（銀座第1遺跡）は38,600㎡（変更前33,700㎡）を調査対象範囲とする遺跡であるが、本書はそのうち14,040㎡の調査成果について掲載した。
4. 現地での実測等の記録は、永山博一・鶴戸周成・阿部直人・小山博・高橋浩子・藤木聡・高木裕志・松尾有年・金丸史絵・成相景子・嶋田史子・小宇都あずさ・黒木修が行ったほか、発掘作業員が補助した。
5. 本書使用の遺物実測図の作成は、谷口武範・永山・鶴戸・堀田孝博・藤木が行ったほか、整理作業員が補助した。
6. 本書使用の実測図等の浄書は、永山・鶴戸・堀田・藤木が行ったほか、整理作業員が補助した。
7. 現地での写真撮影は永山・鶴戸・阿部・今塩屋毅行・高木・金丸・小宇都が行い、遺物写真は鶴戸が撮影した。
8. グリッド杭設置・空中写真は次の機関に委託した。

グリッド杭設置：有限会社黒木測量設計コンサルタント（一・二・四次）
有限会社タイユー測量設計（一・二・四次）
株式会社外山測量設計コンサルタント（三次）

空中写真：有限会社スカイサーベイ九州（一～四次）
九州航空株式会社（一・二・四次）
9. 本書で使用した遺跡位置図は、国土地理院発行の2万5千万分の1図「川南」・「石河内」をもとに作成した。
10. 本書で使用した方位は座標北（座標第Ⅱ系）を基本とし、平面図の一部に磁北（本地域における真北との偏差は約6°15'W）を用いている。図中にそれぞれG. N. ないしM. N. と標記して区別した。また標高は海拔絶対高である。
11. 出土遺物の石材同定については赤崎広志、藤木が行った。
12. 本書の執筆分担は以下のとおりである。

【第Ⅰ章】 第1節：谷口、第2・3節：永山
【第Ⅱ章】 第1・2節：永山
【第Ⅲ章】 第1～3節：永山
【第Ⅳ章】 第1・2節：永山、第3節1（1）・（2）：藤木、第3節1（3）：谷口、第3節2（1）：永山、第3節2（2）①：堀田、②：永山、③：藤木
【第Ⅴ章】 第1～6節：鶴戸
【第Ⅵ章】 1：堀田、2：鶴戸、3：堀田、4：堀田

なお編集は平成16年度に永山・鶴戸が行ったものを引継ぎ、平成17年度に堀田、金丸琴路が最終的な編集を行った。
13. 出土遺物、その他の諸記録は宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第I章	はじめに	
第1節	調査の経緯と概要	1
第2節	調査の組織	1
第3節	報告書の記載について	2
第II章	遺跡の環境	
第1節	地理的環境	4
第2節	歴史的環境	4
第III章	調査の方法と経過	
第1節	確認調査の概要	6
第2節	調査区の設定と調査経過	7
第3節	整理作業及び報告書作成	11
第IV章	一次・二次・四次調査の記録	
第1節	調査の概要	12
第2節	基本層序	13
第3節	遺構と遺物	
1	旧石器時代～古墳時代の遺物	
(1)	旧石器時代の石器	20
(2)	縄文時代～弥生時代の石器・石製品	20
(3)	縄文時代・弥生時代～古墳時代の土器	22
2	中世～近世の遺構と遺物	
(1)	遺構	
①	溝状遺構	27
②	掘立柱建物跡	50
③	土坑	68
④	土坑墓	75
⑤	道路状遺構	83
⑥	石積遺構	88
(2)	遺物	
①	土器・陶磁器類	89
②	金属製品類	101
③	石器・石製品	106
第V章	三次調査の記録	
第1節	調査の概要	
1	縄文時代早期の調査	113
2	アカホヤ火山灰(K-Ah)降灰後の調査	114
第2節	基本層序	
1	基本層序	115
第3節	縄文時代早期の遺構と遺物	
1	縄文時代早期の概要	117
2	遺構と遺物	
(1)	遺構(集石遺構)	118
(2)	遺物	137
第4節	弥生時代後期の遺構と遺物	
1	遺構(溝状遺構)	139
2	遺物	146
第5節	中世以降の遺構と遺物	
1	遺構(溝状遺構)と遺物	155
第6節	その他の遺構と遺物	
1	遺構	162
2	遺物	162
第VI章	まとめ	
1	旧石器時代	169
2	縄文時代早期	169
3	弥生時代	170
4	中世～近世	171

挿 図 目 次

第1図	銀座第1遺跡と周辺遺跡位置図	5	第39図	S B 8 実測図	57
第2図	確認調査トレンチ配置図	7	第40図	S B 9 実測図	57
第3図	調査区位置図及びグリッド配置図	9	第41図	S B 10 実測図	58
第4図	A・D区基本層序とE区北西壁 土層断面図	13	第42図	S B 11 実測図	58
第5図	遺構分布図	14	第43図	S B 12 実測図	59
第6図	A区遺構分布図	15	第44図	S B 13 実測図	59
第7図	C区遺構分布図	16	第45図	S B 14 実測図及び柱穴土層断面図	61
第8図	D区遺構分布図	17・18	第46図	S B 15 実測図及び柱穴土層断面図	62
第9図	E区遺構分布図	19	第47図	S B 16 実測図	62
第10図	旧石器時代～弥生時代の石器・ 石製品実測図	21	第48図	S B 17 実測図及び柱穴土層断面図	63
第11図	縄文時代・弥生時代～古墳時代の 土器実測図①	23	第49図	S B 18 実測図及び柱穴土層断面図	64
第12図	縄文時代・弥生時代～古墳時代の 土器実測図②	24	第50図	S B 19 実測図	65
第13図	S E 1・16 実測図	29	第51図	S B 20 実測図	65
第14図	S E 2・8・11・13 実測図	31	第52図	S B 21 実測図	67
第15図	S E 3・4・5・7・9・10・12 実測図	33	第53図	S B 22 実測図	67
第16図	S E 3 土層断面実測図	34	第54図	S C 2・3・4・6・8・10 実測図	69
第17図	S E 5 土層断面実測図及びD区 北東隔壁土層断面実測図	35	第55図	S C 13・14・26・49 実測図	71
第18図	S E 4・7・9・10 土層断面 実測図	36	第56図	S C 65 実測図	72
第19図	S E 6 実測図	37	第57図	S C 66 実測図	73
第20図	S E 14・15・41 実測図	38	第58図	S C 67 実測図	74
第21図	S E 17・18・19・20・21・22・23 実測図	39	第59図	S D 1・2・3・4 実測図	76
第22図	S E 24・25・26・27・40 実測図	40	第60図	S D 5・6・7 実測図	77
第23図	S E 30・31・33・36・37・42・43 実測図①	41	第61図	S D 8・9・10 実測図	79
第24図	S E 30・31・33・36・37・42・43 実測図②	42	第62図	S C 5・S D 11・12・13・14・ 15 実測図	80
第25図	S E 33 硬化面・S E 28・29 実測図	42	第63図	S D 14・15 実測図②	81
第26図	S E 31・32・35 実測図	43	第64図	S D 16 実測図・出土遺物実測図	82
第27図	S E 44・51・S C 68 実測図	44	第65図	S G 1・2 実測図	84
第28図	S E 44・45・46・47・48 実測図	45	第66図	S G 1・2 土層断面実測図	85
第29図	S E 44・S C 68 土層断面実測図	46	第67図	S G 2 (波板状凹凸面) 実測図	86
第30図	S C 68 土層断面実測図	47	第68図	S G 3 (波板状凹凸面) 実測図	87
第31図	S E 49・50 実測図	49	第69図	1号石槌遺構実測図	88
第32図	S B 1 実測図及び柱穴土層断面図	51	第70図	中・近世土器・陶磁器類実測図①	90
第33図	S B 2 実測図	52	第71図	中・近世土器・陶磁器類実測図②	91
第34図	S B 3 実測図	52	第72図	中・近世土器・陶磁器類実測図③	93
第35図	S B 4 実測図	53	第73図	中・近世土器・陶磁器類実測図④	94
第36図	S B 5 実測図	53	第74図	中・近世土器・陶磁器類実測図⑤	95
第37図	S B 6 実測図	55	第75図	中・近世土器・陶磁器類実測図⑥	97
第38図	S B 7 実測図及び柱穴土層断面図	56	第76図	中・近世金属製品実測図①	102
			第77図	中・近世金属製品実測図②	103
			第78図	中・近世石器・石製品実測図①	105
			第79図	中・近世石器・石製品実測図②	106
			第80図	中・近世石器・石製品実測図③	107
			第81図	中・近世石器・石製品実測図④	108
			第82図	中・近世石器・石製品実測図⑤	109
			第83図	調査範囲	113
			第84図	縄文時代早期調査範囲	113
			第85図	溝状遺構分布図	114

第86図	先行トレンチ土層実測箇所	115
第87図	先行トレンチ土層実測図	116
第88図	縄文時代早期遺構・遺物・礫分布図	117
第89図	縄文時代早期集石遺構実測図①	119
第90図	縄文時代早期集石遺構実測図②	123
第91図	縄文時代早期集石遺構実測図③	125
第92図	縄文時代早期集石遺構実測図④	127
第93図	縄文時代早期：礫の接合状況	129
第94図	礫の赤化度・完形率	134
第95図	接合礫（集石遺構を構成する礫） の赤化度・完形率	134
第96図	集石遺構集中域周辺の遺物・礫 分布図	138
第97図	縄文時代早期石器・土器実測図	138
第98図	S E 10平面実測図及び底面直上 出土遺物分布図	140
第99図	S E 10断面実測図①	141
第100図	S E 10断面実測図②	142
第101図	S E 10断面実測図③	143
第102図	S E 10断面実測図④	144
第103図	S E 10断面実測図⑤	145
第104図	S E 10出土弥生土器実測図①	147
第105図	S E 10出土弥生土器実測図②	148
第106図	S E 10出土弥生土器実測図③	149
第107図	S E 10出土弥生土器実測図④	150
第108図	S E 1・6実測図	156
第109図	S E 1出土遺物実測図	156
第110図	S E 2・3・5実測図	157
第111図	S E 2・3出土遺物実測図	157
第112図	S E 4実測図	159
第113図	S E 7・8実測図	160
第114図	S E 7出土遺物実測図	160
第115図	S E 9実測図	161
第116図	S E 9出土遺物実測図	161
第117図	S E 11実測図	163
第118図	その他の遺物（石器）実測図	165
第119図	その他の遺物 （土器・須恵器・陶磁器）実測図	166
第120図	銀座第1遺跡の方形区画	172
第121図	前ノ田村上第1遺跡の方形区画	173
第122図	池開・江口遺跡の方形区画	175
第123図	土師器杯の形態比較	176

表 目 次

第1表	遺構名の対応関係	2
第2表	遺物観察表（石器・石製品①）	20
第3表	遺物観察表（縄文土器・弥生土器①）	24
第4表	遺物観察表（縄文土器・弥生土器②）	25
第5表	掘立柱建物跡一覧表	55

第6表	土坑一覧表	70
第7表	土坑墓一覧表	81
第8表	遺物観察表（土器・陶磁器類①）	99
第9表	遺物観察表（土器・陶磁器類②）	100
第10表	遺物観察表（金属製品類①）	101
第11表	遺物観察表（金属製品類②）	104
第12表	遺物観察表（石器・石製品）	111
第13表	基本層序	115
第14表	集石遺構構成礫観察表①	120
第15表	集石遺構構成礫観察表②	121
第16表	集石遺構構成礫観察表③	122
第17表	集石遺構構成礫観察表④	124
第18表	集石遺構構成礫観察表⑤	126
第19表	縄文時代早期集石遺構構成礫分析表	128
第20表	縄文時代早期出土礫観察表①	130
第21表	縄文時代早期出土礫観察表②	131
第22表	縄文時代早期出土礫観察表③	132
第23表	縄文時代早期出土礫観察表④	133
第24表	縄文時代早期出土接合礫観察表①	135
第25表	縄文時代早期出土接合礫観察表②	136
第26表	縄文時代早期石器器種・石材別 数量表	137
第27表	縄文時代早期石器計測表	139
第28表	縄文時代早期土器観察表	139
第29表	S E 10出土弥生土器観察表①	151
第30表	S E 10出土弥生土器観察表②	152
第31表	S E 10出土弥生土器観察表③	153
第32表	S E 10出土弥生土器観察表④	154
第33表	S E 1・2・3・7・9出土 陶磁器等観察表	162
第34表	S E 3・9出土石器計測表	162
第35表	その他の遺物（石器）計測表	167
第36表	その他の遺物（土器・陶磁器等） 観察表	168

巻頭図版目次

巻頭図版1	銀座第1遺跡近景（南から）
巻頭図版2	一次・二次・三次調査区 四次調査区
巻頭図版3	A区全景（一次調査） C区全景（二次調査）
巻頭図版4	B区全景（三次調査） D・E区（四次調査）
巻頭図版5	道路状遺構とピット群（二次調査） 中世土坑墓（四次調査）

図 版 目 次

図版1	A区全景 S E 1土層断面（北西より）
-----	-------------------------

	SE3土層断面(西より)	弥生時代:SE10遺物出土状況④
	SE4土層断面(南より)	弥生時代:SE10遺物出土状況⑤
図版2	SE6土層断面(北より)	弥生時代:SE10ベルト土層断面①
	SB1(北西より)	弥生時代:SE10ベルト土層断面②
	SB5(北西より)	弥生時代:SE10ベルト土層断面③
	SB6(北西より)	中世以降:溝状遺構検出状況
	SB7(北より)	中世以降:SE1・6
	SB11・12(北東より)	図版12 中世以降:SE1①
	SB14(南西より)	中世以降:SE1②
図版3	SB14-P1遺物出土状況(石臼)	中世以降:SE2①
	SB14-P4遺物出土状況(銭貨)	中世以降:SE2②
	SB15(東より)	中世以降:SE2・3
	SB17・18(東より)	中世以降:SE4
	SB19(南東より)	図版13 中世以降:SE5
	SB21(東より)	中世以降:SE7
図版4	SB14-P3・P4土層断面(柱痕跡)	中世以降:SE9
	SB14土層剥ぎ取り(薬品塗布)	中世以降:SE1ベルト土層断面
	SB14土層剥ぎ取り(布かけ)	中世以降:SE2ベルト土層断面
	作業風景①	中世以降:SE4ベルト土層断面
	作業風景②	図版14 中世以降:SE9ベルト土層断面
図版5	SC26完掘状況	その他:SE11
	SC49完掘状況	縄文時代早期:出土遺物
	SC65(手前)・66(右奥)(南東より)	弥生時代:SE10出土遺物①
	SD1~5・SC1完掘状況(北より)	弥生時代:SE10出土遺物②
	SD8~10完掘状況(南東より)	弥生時代:SE10出土遺物③
図版6	SD11~15完掘状況(北より)	図版15 弥生時代:SE10出土遺物④
	SG1・2と1号石積遺構(北より)	弥生時代:SE10出土遺物⑤
	SG1土層断面(北より)	弥生時代:SE10出土遺物⑥
	SG2(波板状凹凸面)土層断面(南より)	弥生時代:SE10出土遺物⑦
図版7	SG3とSE33・34(南西より)	弥生時代:SE10出土遺物⑧
	SE31(区画溝Ⅲ)(北西より)	弥生時代:SE10出土遺物⑨
	SE44(区画溝Ⅳ)とSC68(西より)	図版16 弥生時代:SE10出土遺物⑩
図版8	先行トレンチ土層断面①	弥生時代:SE10出土遺物⑪
	先行トレンチ土層断面②	弥生時代:SE10出土遺物⑫
	縄文時代早期:出土状況①	弥生時代:SE10出土遺物⑬
	縄文時代早期:出土状況②	中世以降:溝状遺構出土遺物
図版9	縄文時代早期:SI1	(須恵器・陶磁器)〈外面〉
	縄文時代早期:SI2	中世以降:溝状遺構出土遺物
	縄文時代早期:SI3	(須恵器・陶磁器)〈内面〉
	縄文時代早期:SI4	図版17 中世以降:溝状遺構出土遺物(石器)
	縄文時代早期:SI5	その他の遺物:石器類
	縄文時代早期:SI6	その他の遺物:土器・須恵器・陶磁器
	縄文時代早期:SI7	(中世)〈外面〉
図版10	縄文時代早期:SI8	その他の遺物:土器・須恵器・陶磁器
	弥生時代:SE10(A区)	(中世)〈内面〉
	弥生時代:SE10(B区)	その他の遺物:土器・須恵器・陶磁器
	弥生時代:SE10遺物出土状況①	(近世)〈外面〉
	弥生時代:SE10遺物出土状況②	その他の遺物:土器・須恵器・陶磁器
	弥生時代:SE10遺物出土状況③	(近世)〈内面〉

第I章 はじめに

第1節 調査の経緯と概要

東九州自動車道（門川～西都間59km）は、平成8年12月国土開発幹線自動車道建設審議会において整備計画区間に決定した。そのうち都農～西都間約25kmについて、同年12月に建設大臣（現国土交通大臣）より日本道路公団へ施行命令が発令された。一方、県教育委員会では、整備区間決定後の平成10年度に都農～西都間の路線を対象とした詳細な分布調査を行い、79遺跡896,000㎡の埋蔵文化財包蔵地の所在を確認した。そして平成11年度から日本道路公団九州支社と宮崎県教育委員会との間で委託契約を締結し、宮崎県埋蔵文化財センターが用地買収の進捗に合わせ確認調査・本調査および整理作業を実施している。

銀座第1遺跡は、国営農業用水の関係から川南町で最も早く工事着手が予定されており、工事予定箇所について公団・施工業者と調査・工事に支障がないよう調整を常に図りながら調査を行った。確認調査は平成14年5月から平成15年10月までに4回に分けて実施した。なお、一次調査の状況から銀座第2遺跡との間の対象地外にも遺跡拡大の可能性があることから平成14年10月に確認調査を実施し、溝状遺構や土師器・弥生土器等が確認され、調査対象区が南に4,900㎡拡大した。

本調査は、用地の取得・家の移転・調査対象区の拡大などの要因から一次～四次調査まで実施した。後述するように確認調査から四次調査終了まで約3年の歳月を要し、度重なる台風襲来による土砂の流入や県道尾鈴川南停車場線の道路下の調査、工事期間との調整など困難を極めた。調査の間、平成15年2月1日には銀座第2遺跡と合同で現地説明会を実施した。また、平成15年10月17日には宮崎県建設技術協会主催の研修会が行われ約70名の参加があった。

第2節 調査の組織

銀座第1遺跡の調査組織は次のとおりである。

【調査主体】 宮崎県教育委員会
宮崎県埋蔵文化財センター

平成14年度

所長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大園 和博
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
調査第一課長	児玉 章則
総務課総務係長	野邊 文博
調査第一課調査第一係長	谷口 武範
調査第二係長	長津 宗重

平成15年度

所長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大園 和博
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
調査第一課長	児玉 章則
総務課主幹兼総務係長	石川 恵史
調査第一課調査第一係長	谷口 武範
調査第二係長	長津 宗重

平成16年度

所長	宮園 淳一
副所長兼総務課長	大園 和博
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
調査第一課長	山 富雄
総務課主幹兼総務係長	石川 恵史
調査第一課調査第一係長	谷口 武範
主幹兼調査第二係長	長津 宗重

平成17年度

所長	宮園 淳一
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
総務課長	髙越 尊

調査第一課長 山 富雄
 総務課主幹兼総務係長 石川 恵史
 調査第一課
 主幹兼調査第一係長 長津 宗重
 主幹兼調査第二係長 菅付 和樹

加藤 真二 (文化庁)

【調査担当】

調査第一課第一係 主 査 永山 博一
 (平成14～15年度：一・二・四次)
 第一係 主 査 鶴戸 周成
 (平成14年度：三次)
 第一係 主 査 阿部 直人
 (平成15年度：四次)
 第一係 主任主事 小山 博
 (平成15年度：四次)
 調査員 高木 祐志
 松尾 有年
 金丸 史絵
 成相 景子
 小宇都 あずさ
 黒木 修

【報告書作成担当】

調査第一課第一係 主 査 永山 博一
 (平成16年度：一・二・四次)
 第一係 主 査 鶴戸 周成
 (平成15～16年度：三次)
 第二係 主 事 堀田 孝博
 (平成17年度)
 第一係 整理専門員 金丸 琴路
 (平成15～17年度)

本書の 名称	平成14年度 概報	平成15年度 概報
SB1	SB4	
SB2	SB5	
SB4	SB6	
SB5	SB1	
SB6	SB3	
SB7	SB2	
SB14		SB1
SB15		SB2
SB16		SB3
SD16		SD1
SE31		SE4
SE33		SE6
SE37		SE7
SG3		SE11・12
該当無し		SE10

第1表 遺構名の対応関係

【東九州自動車道発掘調査指導委員】

泉 拓良 (京都大学)
 小畑 弘己 (熊本大学)
 田崎 博之 (愛媛大学)
 広瀬 和雄 (国立歴史民俗博物館)
 本田 道輝 (鹿児島大学)
 柳沢 一男 (宮崎大学)

【調査協力】

第3節 報告書の記載について

1. 挿図の縮尺については統一していないが、各キャプションに縮尺を提示する。
2. 本書に記載する層序についての名称は、当センターが刊行している『東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書』の記載に準ずる。
3. 遺構の略称は次のとおりである。
S B…掘立柱建物跡 S C…土坑
S D…土坑墓 S E…溝状遺構
S G…道路状遺構 S I…集石遺構
S H…性格を特定できないピット
4. 遺構の名称について各年度の概要報告と本書の記載が相違している部分がある。対応関係は以下のとおりであり、本書の記載が全てにおいて優先する。
5. 整理作業を進める中で一部遺構の評価について変更が生じたため、以下のように遺物の注記を変更している。
① S E 38・39、S G 4 → S G 3
② S G 3 → S G 2
③ S Z 1 → S C 65
④ S Z 2 → S C 66
⑤ S Z 3 → S C 67
6. 本書は各調査員の分担執筆によるため、表の構成などに不統一の部分があるが、最低限の体裁を合わせるにとどめている。なおそれぞれの文責は例言に記載したとおりである。
7. 先述したように調査は一次～四次に分けてあるが、実際には一・二・四次調査を連続して行いつつ、三次調査はその一時期に並行して実施するという形をとった。
そのため一・二・四次調査の成果を第IV章で記し、三次調査の成果を第V章として単独で扱っている。
よって掲載遺物番号については通し番号を付けたが、遺構番号については図面等の各種記録と整合を図るため、章ごとにそれぞれ1号から付けている。
8. 第IV章第3節及び第V章に提示されている各遺構の計測値は全て「検出面における値」である。
9. 一部の遺物分布図作成には、ビジネス&科学グラフ作成ソフト『The Graph Ver.5.01』を使用している。
10. 土層及び土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準拠した。
11. 掘立柱建物の復元にあたっては、現地での所見を重視し、埋土の状況や柱痕跡の存在などから「ほぼ確実な建物」のみを掲載した。よって図上復元による建物の認定は行っていないが、多数のピットが残されているため、より多くの建物が存在する可能性は否定し得ない。

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

川南町は九州山地の東側、日向灘に面した宮崎県中部に位置し、上面木山(標高1,040m)から派生する山地及び丘陵面と、その東麓から海岸線にかけて広がる段丘面からなる。段丘面は一連の平坦面ではなく崖によって区分され、青鹿面、茶臼原面、国光原面、唐瀬原面、川南原面などの計14面から構成される。

銀座第1遺跡は見湯郡川南町大字川南字前田・香袋畑に所在する。川南町の中心市街地から北西へ約3km、唐瀬原面との境目付近にあり、標高は約116mである。

調査区は北東から続く扇状地の緩斜面と南西の丘陵からの緩斜面とが形成するなだらかな谷地形部にあり、その南には緩やかに傾斜する平野が広がる。現地形は水田および畑地として削平・造成されており起伏はほとんどないが、調査区の一部(D区)では北半部に3箇所の段切りが見られた。

第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺における発掘調査例は少ないが、旧石器時代から歴史時代にかけていくつかの遺跡が確認されている。本節では本遺跡を取り巻く遺跡を時代別に概観する(第1図)。

旧石器時代の遺跡としては、後牟田遺跡や霧島遺跡・藏座村遺跡・銀座第2遺跡・銀座第3A遺跡と発掘調査例は限られるが、大野寅夫氏の踏査や川南町教育委員会が実施した分布調査によって白鬮遺跡・旭ヶ丘遺跡・番野地C遺跡・椎原遺跡・大久保遺跡・谷ノ口遺跡・住吉B遺跡・卒手遺跡など多くの遺跡が確認されている(茂山・大野1977)。当該期の遺跡は主として山地及び丘陵地に集中している傾向が看取される。

縄文時代の遺跡は発掘調査例として後牟田遺

跡・霧島遺跡・藏座村遺跡・銀座第2遺跡・銀座第3A遺跡・上ノ原遺跡が挙げられる。また川南町教育委員会の分布調査によって約60箇所の遺跡が確認されている。特に押型土器を伴う早期の遺跡が顕著であり、旭ヶ丘遺跡・大久保遺跡・住吉B遺跡・丸山西原遺跡・松ヶ迫遺跡・大久保遺跡などがある。縄文時代の遺跡も旧石器時代の遺跡と同様、主として山地及び丘陵地に集中する傾向にある。

川南の台地上や丘陵縁辺部においては、弥生時代、特に中期から後〜終末期にかけての遺跡が多く認められる。遺跡立地の特色として中期の遺跡が丘陵縁辺部、後〜終末期の遺跡が台地上や丘陵縁辺部に集中している傾向にある。

中期の遺跡は発掘調査例は少ないが、後〜終末期の遺跡としては、円形及び方形の周溝墓が確認された東平下遺跡、竪穴住居跡2軒が確認された把言田遺跡、竪穴住居跡1軒が確認された中ノ迫A遺跡、竪穴住居跡6軒が確認された上ノ原遺跡、竪穴住居跡2軒と周溝状遺構が確認された野稲尾遺跡などの調査例がある。その他、未調査の遺跡を含めて数多くの弥生時代の遺跡が認められる。こうした数多くの集落跡群や墳墓群といった遺跡の存在から、後の古墳時代に台地上で展開する川南古墳群などの造営に関わる大規模な社会集団の存在を想定できる。

歴史時代については、奈良時代後半から平安時代前期ごろに比定される蔵骨器を伴う上垂門火葬墓や、戦国期の宗廟原供養塔等が知られている。最近では東九州自動車道(都農〜西都農)建設に伴う発掘調査が行われており、当該期の遺構、遺物が数多く確認されている。調査例としては、前ノ田村上第1遺跡、湯牟田遺跡などがある。



- | | | | | | |
|----------|----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 1 銀座第1遺跡 | 2 銀座第2遺跡 | 3 銀座第3A遺跡 | 4 前ノ田村上第1遺跡 | 5 湯平田遺跡 | 6 蔵座村遺跡 |
| 7 後平田遺跡 | 8 霧島遺跡 | 9 白鬚遺跡 | 10 旭ヶ丘遺跡 | 11 番野地C遺跡 | 12 椎原遺跡 |
| 13 大久保遺跡 | 14 谷ノ口遺跡 | 15 住吉B遺跡 | 16 卒手遺跡 | 17 上ノ原遺跡 | 18 丸山西原遺跡 |
| 19 松ヶ迫遺跡 | 20 東平下遺跡 | 21 杷言田遺跡 | 22 中ノ迫A遺跡 | | |

※ 1～5は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査遺跡。

第1図 銀座第1遺跡と周辺遺跡位置図 (1/50,000)

第三章 調査の方法と経過

第1節 確認調査の概要

【一次確認調査】

一次確認調査は平成14年5月2日～29日に実施した。調査範囲は本調査A区に相当する(第2・3図)。

北側区画については重機を使用し、幅4m、長さ約10～40mで表土を剥いだ後、16箇所の基本トレンチ(2×2m)を設定し、深さ1～1.5mほど掘り下げた。各トレンチ(以下、「T1」などと記す。)の底の部分からは、土石流に由来すると考えられる砂礫層が検出された。

またトレンチの壁際に遺構が検出された場合には、周辺部を拡張してその広がりを確認した。北西部のT2・3・8・9周辺ではアカホヤ火山灰層・黒褐色土層が一部残存しており、その他の部分では暗褐色土層が残っていた。浅い所では約0.5m掘り下げると褐色土層やより下位の土石流による砂礫層が調査区全体に広がっている状況であった。T9では重機で2mまで深掘りを行ったが、砂礫層が続いていた。以上のことから、褐色土層より下では遺物や遺構を包含する可能性は低いと判断した。

遺物は耕作土から中・近世にかけての陶磁器片、土器片などが出土したが、アカホヤ火山灰層以下の層からは出土しなかった。遺構としてはT1・2で暗褐色土層から数箇所のピットと焼土が検出され、T6周辺では東西方向にのびる溝状遺構、さらにT8～9にかけては4基の土坑、南東部区域からは表土を剥いだ面で約80基のピットが検出された。なお、北東部区域の約200㎡は攪乱されていた。

この結果、本調査対象面積を2,800㎡と設定した。

【二次確認調査】

二次確認調査はA区本調査に並行して平成14年10月21日～11月6日に実施した。調査範囲は本調査B区及びC区を含む約6,900㎡になる(第2・3図)。

調査区を3区に分け、県道尾鈴川南停車場線の西側を調査区①及び③、東側を調査区②として調査を行った。2×2mを基本とするトレンチを39箇所設定した。

調査区①では中央を走る農道を境に北側と南側に分け北側に9箇所の、南側に22箇所のトレンチを設定し掘削したところ、アカホヤ火山灰層を確認し、その層を切る溝状遺構を検出した。そこでアカホヤ火山灰層の広がりや溝状遺構の形状・規模を確認するために重機を使用してトレンチを拡張・連結しつつ調査を進めた。

その結果、土層についてはアカホヤ火山灰層が表土下から検出され、部分的ではあるがアカホヤ火山灰層上位の黒褐色土層、および下位の黒褐色土層の広がりが確認できた。

遺構としては溝状遺構が12箇所確認された。遺物は溝状遺構の埋土から土器片、自然流路と想定される褐色土上部から石器(石鏃、剥片)が出土したが、石器については流れ込みによるものと判断した。なお表土から土器片、陶磁器片等が多数出土した一方で、アカホヤ火山灰層の上・下層の黒褐色土等からは遺物等は出土していない。

調査区②では1×15mのトレンチを3箇所、1×11mのトレンチを1箇所設定し調査を進め、アカホヤ火山灰層まで掘り下げた。

その結果、遺物としてはアカホヤ火山灰層上の黒褐色土層から土器片、陶磁器片、石器が出土した。また遺構としては1箇所溝状遺構を確認したほか、ピットを15基検出した。

調査区③では2×2mのトレンチを4箇所設定して調査を進めたが、表土(耕作土)から湧水下の層までの掘り下げは困難を極めた。そこで1箇所のトレンチのみ重機で深く掘り下げたところ、基盤層と考えられる礫層を確認したため調査を終了した。

以上のことから調査区①・②においては本調査対象面積を7,040㎡とし、調査区③については本

調査の必要はないと判断した。

【三次確認調査】

三次確認調査は平成15年5月に実施した。調査範囲は本調査D区に相当する（第2・3図）。

C区から続くビット群、あるいは弥生時代の住居跡等の存在を想定して調査を進めた。

D区は北側から3箇所ほどの段切りが認められたが、地元の方の話では段々畑（水田）が造られていたということであった。重機で表土を30cm程剥いだ後に精査を行ったところ、ビット群の存在を確認できた。さらに土層確認のため、緩斜面に沿ってトレンチ（2×2m）を数箇所設定し、掘削を行った。

調査区の南半は0.9～1.4mの深さまで客土が入っており、その下から溝状遺構が2条確認された。調査区の北半では一部アカホヤ火山灰層も残存していたが、トレンチャーによって攪乱されていた。

この結果から遺構面を1面確認でき、D区は全面的な調査が必要であると判断したため、本調査の対象面積を3,000㎡と設定した。

【四次確認調査】

E区に相当する範囲の確認調査については、区内にあった住居の立ち退き後に、四次本調査と並行して平成15年10月に実施した。

その結果、C区から続くビットを多数確認したため、調査中の四次本調査区に1,200㎡を加えて本調査を実施することとした。

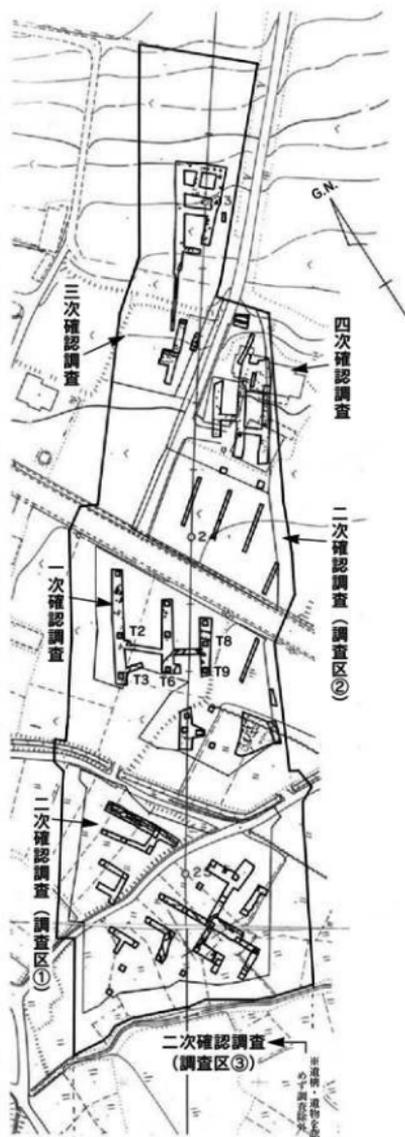
第2節 調査区の設定と調査経過

1 調査区の設定（第3図）

本調査はA区を一次調査、C区を二次調査、B区を三次調査、D区・E区を四次調査として実施した。グリッド杭は座標第Ⅱ系を基準として10m間隔で設定した。

2 調査経過

○一次調査【A区】



第2図 確認調査トレンチ配置図（1/1,500）

(期間) 平成14年7月8日～平成14年10月31日

(調査日誌抄)

- 14.07.08 作業員へのオリエンテーション後、作業開始。確認調査時のブルーシート除去、杭打ち土止めのコンパネ設置等を行う。
- 07.09 調査事務所・休憩棟等を設置。
- 07.10 重機による表土剥ぎ開始(～07.12)。
- 07.16 調査区の測量及びグリッド杭の設置。
- 07.18 遺構精査を開始。ピット群の平板実測、柱痕の有無、埋土状況の確認を開始。
- 07.24 台風11号に備えて、耐風養生を行う。
- 08.06 溝状遺構5条を検出する。
- 08.07 土坑墓の実測を開始。
- 08.08 調査区北側からもピットを検出する。
- 08.09 ローリングタワー上から遺構検出状況を撮影する。
- 08.21 調査区北東部分の表土剥ぎを開始。
- 08.22 柱穴の半截を開始。埋土及び柱痕の再確認作業を行う。溝状遺構のベルト設定後、埋土の除去作業を開始。
- 09.03 掘立柱建物跡の並びを確認しながら実測を開始する。
- 09.10 柱穴の平面実測図の作成を開始。
- 09.26 土坑墓から「寛永通寶」が出土する。六道銭と思われる。実測終了後は土坑墓埋土除去を継続する。
- 10.02 柱穴の完掘作業を開始。溝状遺構の断面実測を開始。
- 10.18 柱穴の平面図実測を終了。
- 10.17 第1回の空中写真撮影を実施する。溝状遺構平面図作成を開始。
- 10.31 A区の調査を終了。

○二次調査【C区】

(期間) 平成14年11月1日～平成15年5月29日

(調査日誌抄)

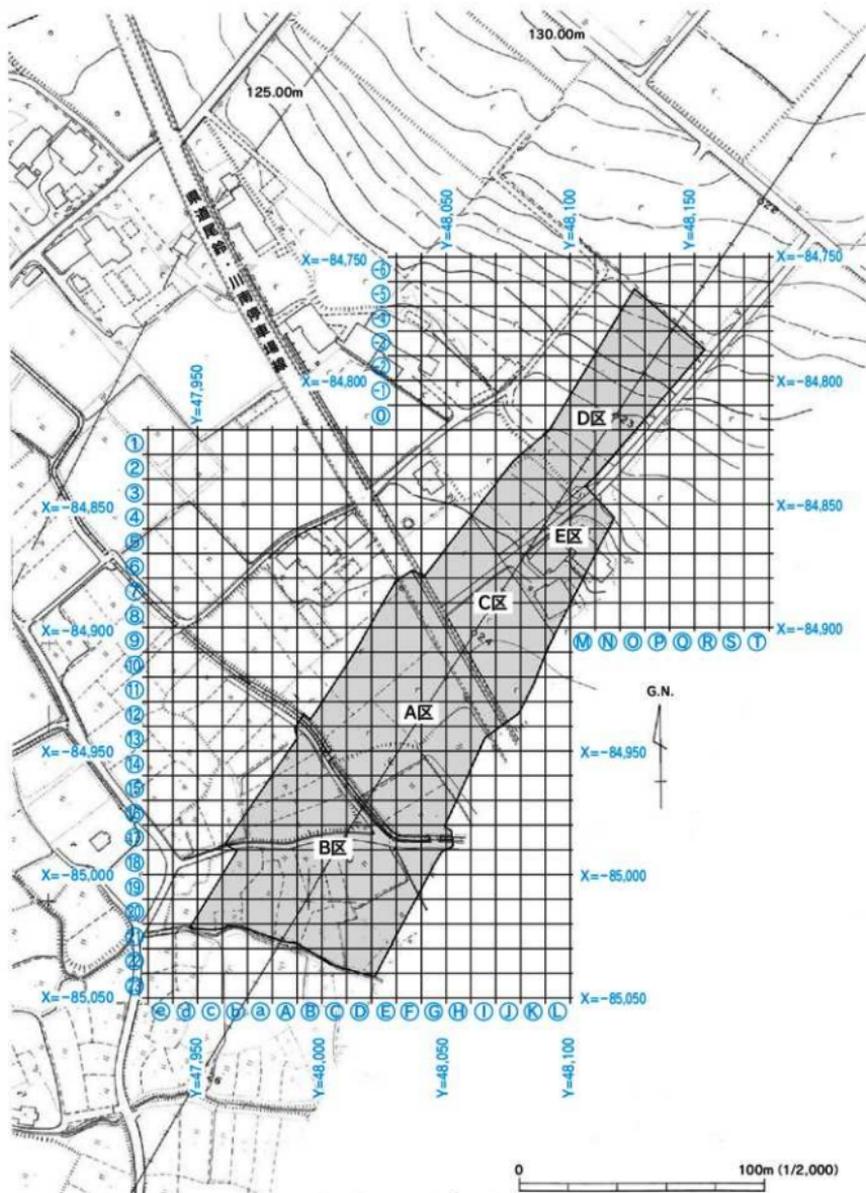
- 14.11.01 二次調査を開始する。
- 11.12 重機による表土除去を開始する。
- 11.14 一次調査区から続く溝状遺構、ピット群等を検出する。

- 11.18 表土直下面の遺構精査後、写真撮影を行う。
- 11.22 遺構分布図を作成。遺構の実測を開始する。
- 12.10 柱穴の柱痕跡、埋土状況の確認をする。一部は完掘作業に入る。
- 12.12 C区の表土除去作業を開始する。調査区内の配水管の存在を確認する。
- 12.18 表土直下面の遺構・遺物の検出作業を開始する。
- 15.01.09 第2回のグリッド杭打ちを実施。A区側の実測を継続する。
- 01.15 近世土坑墓の写真撮影を行う。
- 01.21 C区黒色土の除去作業を行うが、遺物はほとんど出土しない。
- 01.24 第2回の空中写真撮影(一・二次のA区撮影)を実施する。
- 02.01 銀座第2遺跡と合同で現地説明会を実施する。
- 02.05 C区で石積遺構と道路状遺構を検出する。
- 02.06 A区の一部の埋め戻しを終了する。
- 02.10 道路状遺構と側溝を検出する。
- 02.12 柱穴の実測を開始する。道路状遺構にトレンチを設定し、硬化面を確認する。
- 02.13 径約6mの楕円状の土坑を4分割する。
- 02.25 柱穴の1cm掘り下げを実施。土坑、石積遺構の実測を行う。
- 03.05 第3回の空中写真撮影(C区)を実施する。
- 03.07 柱穴の並びを確認し、柱穴の半截を開始。
- 03.14 掘立柱建物の実測を終了。柱痕跡及び埋土の状況を確認する。
- 03.17 調査指導(田崎委員来訪)。
- 03.24 調査指導(本田委員来訪)。
- 03.25 調査指導(加藤調査官・柳沢委員来訪)。
- 03.27 柱穴完掘箇所の実測を行う。
- 04.10 道路状遺構の調査を進める。
- 04.23 第4回の空中写真撮影(C区)を実施する。
- 05.29 C区の埋め戻しを終了。

○三次調査【B区】

(期間) 平成14年12月10日～平成15年3月5日

(調査日誌抄)



第3図 調査区位置図及びグリッド配置図 (1/2,000)

- 12.10 作業を開始。調査区内の安全対策を行う。
- 12.11 表土の除去作業と並行して、表土直下面（アカホヤ火山灰上面）の調査を開始する。
- 12.13 溝状遺構を検出する。
- 12.24 基本土層を確認するための先行トレンチを設定し、土層の確認作業を開始する。
- 12.25 検出された溝状遺構の写真撮影を行う。
- 12.26 基本土層先行トレンチから縄文時代早期の集石遺構を1基検出する。
- 12.27 SE1、2から順次、溝状遺構の調査に着手する。遺構内より遺物（土器、陶磁器、石器等）が出土する。
- 15.01.07 基本土層確認用の先行トレンチを掘り下げ後、土層分層、写真撮影を行う。
- 01.09 SE1の遺構から調査の進捗、調査終了に合わせて、実測（平面及びベルト土層）及び写真撮影に着手する。
- 01.16 弥生時代の溝状遺構を検出する。以後、ベルト設定と埋土土層状況の調査、遺物の検出、実測、写真撮影を順次実施する。また、調査区の測量、グリッド杭の設定を行う（～01.17）。
- 01.31 空中写真撮影を行う。
- 02.01 現地説明会を実施する。
- 02.03 B2区南部にアカホヤ火山灰層下の状況を把握するために3箇所の特レンチを設定し、確認調査を行う。縄文時代早期面の範囲を確定する（約500㎡）。
- 02.04 B1区東側農道下の調査を開始する。トレンチを設定し、溝状遺構を検出する。合わせて陶磁器片が出土する。SE9として調査を進める。
- 02.05 B2区南部の約500㎡のアカホヤ火山灰層を除去し縄文時代早期面の調査を開始する。以後、集石遺構8基を検出し、散磔を認め、遺物（石器、土器）が出土する。
- 02.19 弥生時代の溝状遺構の調査を終了する。多数の弥生時代後期後半と考えられる土器（片）が出土する。
- 02.20 集石遺構の検出を終了し、写真撮影を行う。以後、集石遺構の実測に入る。
- 02.25 縄文時代早期面の散磔、遺物の平面実測写真撮影を行う。
- 02.26 縄文時代早期面のコンタを測定する。以後、調査終了（～03.05）に向け、器材の撤去、搬出等の作業を行う。
- 03.05 B区の調査を終了。
- 四次調査【D・E区】
- （期間）平成15年8月19日～平成16年2月20日（調査日誌抄）
- 15.08.20 調査事務所等設置。
- 08.22 重機による表土除去開始。
- 09.01 作業員による精査を開始。
- 09.02 測量グリッド杭を設置。
- 09.02 調査区に段差があるためベルコンを設置。
- 09.17 柱穴の半截作業開始。柱痕、埋土の確認。
- 09.19 柱穴から銭貨、キセル出土。
- 10.07 溝状遺構ベルト設定後、埋土除去を開始。
- 10.09 中世墓から完形土師器が出土し、写真撮影を行う。
- 10.15 E区の住宅の移転に伴い、確認調査を実施。ピットを多数検出する。
- 11.04 掘立柱建物跡の柱穴から石白が出土。
- 11.12 重機でE区の表土を除去。
- 11.20 E区の遺構分布図の作成を開始。
- 12.03 E区の柱穴完掘作業を開始。
- 12.08 E区の柱穴の実測を開始。
- 12.17 道路状遺構の実測を行う。
- 16.01.08 5回目の空中写真撮影。
- 01.15 柱穴土層断面剥ぎ取り作業。
- 01.19 D区半分の埋土、柱痕確認、実測開始。
- 01.20 D区一部調査が終了し、埋め戻し完了。
- 01.22 柱穴埋土土層の剥ぎ取り作業を行う。
- 02.20 四次調査を終了する。
- 3 現地説明会**
- 発掘調査が三次調査まで進んだ平成15年2月1日に、銀座第2遺跡と合同で現地説明会を実施

した。

現地説明会は、広く町内外の方々に遺跡発掘調査の状況を紹介することにより、郷土の歴史の一端に触れていただき、地域から出土した埋蔵文化財および埋蔵文化財行政に対する認識と理解を一層深めてもらうという目的をもつものである。

一次・二次調査区（A・C区）においては、溝状遺構・土坑墓・掘立柱建物跡等の遺構の状況、出土した土器・陶磁器・銭貨等の解説を行い、遺跡の概要を説明した。

三次調査区（B区）においては、溝状遺構の状況、特に弥生時代の溝状遺構と弥生土器を中心とする出土遺物の状況を直接見学してもらい、解説を加えていった。

当日は、町内外から67名の参加者を得ることができ、当初の目的を達したと考える。

第3節 整理作業及び報告書作成

1 整理作業

整理作業は、一次・二次・四次調査と三次調査に分けて、埋蔵文化財センターにおいて以下の工程で行った。

【一次・二次・四次調査】

○平成16年3月～4月

・遺物（石器、土器、陶磁器）の水洗、注記

○平成16年5月～6月

・遺物（石器、土器、陶磁器）の接合

・鉄器の処理

○平成16年8月～10月

・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）の実測

○平成16年11月～平成17年2月

・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）及び遺構図等のトレース

【三次調査】

○平成15年6月

・遺物（石器、土器、陶磁器）の水洗、注記

○平成15年6月～8月

・遺物（石器、土器、陶磁器）の接合

○平成16年9月～10月

・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）の実測

○平成16年11月～平成17年2月

・報告書掲載遺物（石器、土器、陶磁器、鉄器）及び遺構図等のトレース

2 報告書作成

報告書作成は整理作業と並行して行い、平成17年11月に作成を完了した。

第IV章 一次・二次・四次調査の記録

第1節 調査の概要

銀座第1遺跡(一・二・四次調査)の本調査は、4回の確認調査をもとに9,140㎡を調査対象とし、約2年半にわたって実施した。調査の進捗状況により、調査区をA・C・D・E区(B区は三次調査)に分けて調査を進めた。

調査区の表土下の状況は、一部トレンチャーで掘乱されている箇所があったが、比較的残存良好でアカホヤ火山灰層と暗褐色土層上において弥生時代から中・近世にわたる遺構・遺物を検出した。調査区によっては戦後の土地改良に伴う客土が約2m堆積している部分もあり、そのため重機で表土を約0.1～2m程度剥いだ後、精査を繰り返しながらアカホヤ火山灰層、暗褐色土層面で遺構検出を行った。

検出面での遺構残存状況は比較的良好であったが、結果として弥生時代から中・近世までの遺構が同一面で検出された形となり、遺物を伴わないあるいは出土遺物の帰属時期が広範囲にわたるため時期決定が困難な遺構も数多くあった。

遺跡全体では溝状遺構51条、掘立柱建物跡22棟、土坑68基、土坑墓16基、道路状遺構3条、石積遺構1基、柱痕跡や出土遺物の認められたピットを127基、その他2000基を超えるピットを検出した。

次に各調査区の状況について具体的に述べる。

A区は表土の厚さが0.1～0.5mあり、重機による除去と精査を繰り返した。

遺構としては遺跡内で最大の規模を誇り防御的性格も想定できる区画溝を含めて中・近世の溝状遺構16条、掘立柱建物跡7棟、近世の土坑墓群が3箇所に15基、土坑6基、その他700基以上のピットを検出した。またA区・C区間の県道下の調査を実施したところでは、溝状遺構が7条、掘立柱建物跡1棟、ピット約60基が検出された。

遺物は中・近世の陶磁器類を中心に弥生土器・

石器・銭貨等が出土した。

C区は戦後の土地改良時に客土を入れ畑地にされており、耕作土及び掘乱土が約0.7～1.5mあった。これらを重機で剥いて精査を行った結果、道路状遺構2条、掘立柱建物跡6棟、溝状遺構5条、直径6mを測る大規模な土坑3基を含め14基の土坑、石積遺構1基を検出した。

出土遺物は中・近世の陶磁器類を中心に弥生土器のほか、道路状遺構が現代まで使用されていたため、近・現代の遺物まで出土した。

D区はC区同様に戦後の土地改良に伴う客土が深いところでは約2mも入れてあり、それ以前は段切りによる階段状の緩斜面であった。アカホヤ火山灰層、暗褐色土層面で精査を行ったところ、調査区西半は比較的残存良好だが、東半の上段はトレンチャーで掘乱を受けている箇所が多かった。

区画溝的性格を持つ溝状遺構を含めて中・近世の溝状遺構20条、中・近世の掘立柱建物跡5棟、中世の土坑墓1基、陥し穴と思われる土坑を含め41基の土坑、道路状遺構1条、その他多数のピットを検出した。

遺物は中・近世の土器・陶磁器類や石器のほか、掘立柱建物跡の柱穴内から銭貨・キセル等も出土している。

E区はD区の調査途中までは人家があったため、その移転後に確認調査を実施し、引き続き本調査を進めた。掘乱された部分が全調査区の5分の1にも及んでいたが精査の結果、掘立柱建物跡3棟、溝状遺構2条、土坑12基、その他多数のピットを検出した。

遺物は弥生土器、中・近世から近・現代の遺物まで出土した。

第2節 基本層序

A区基本層序

土層堆積状況は以下のとおりである。

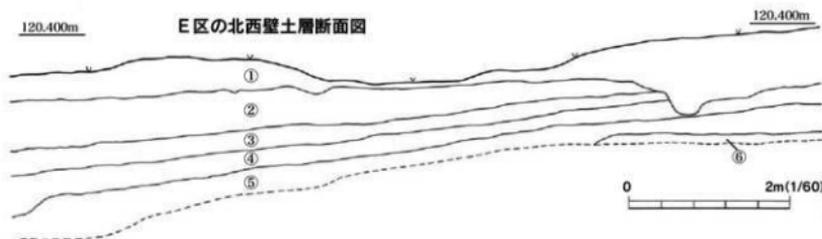
表土を剥いだ状態では、調査区北側にはアカホヤ火山灰層と黒褐色土層が一部残っていたが、南側はアカホヤ火山灰層・黒褐色土層も削平を受け、暗褐色土層が検出面になっている部分が多かった。また褐色土層から礫が混じり深さ1.5m以

下は砂礫層が調査区全体に広がっていた。D区に見られるようなローム層は見られなかった。

D区基本層序

アカホヤ火山灰層がC区との境に一部しか見られず、ほとんど暗褐色土と黄褐色土からの遺構検出であった。A区に見られるような砂礫層は見られなかったが、粘質のローム層が堆積していた。

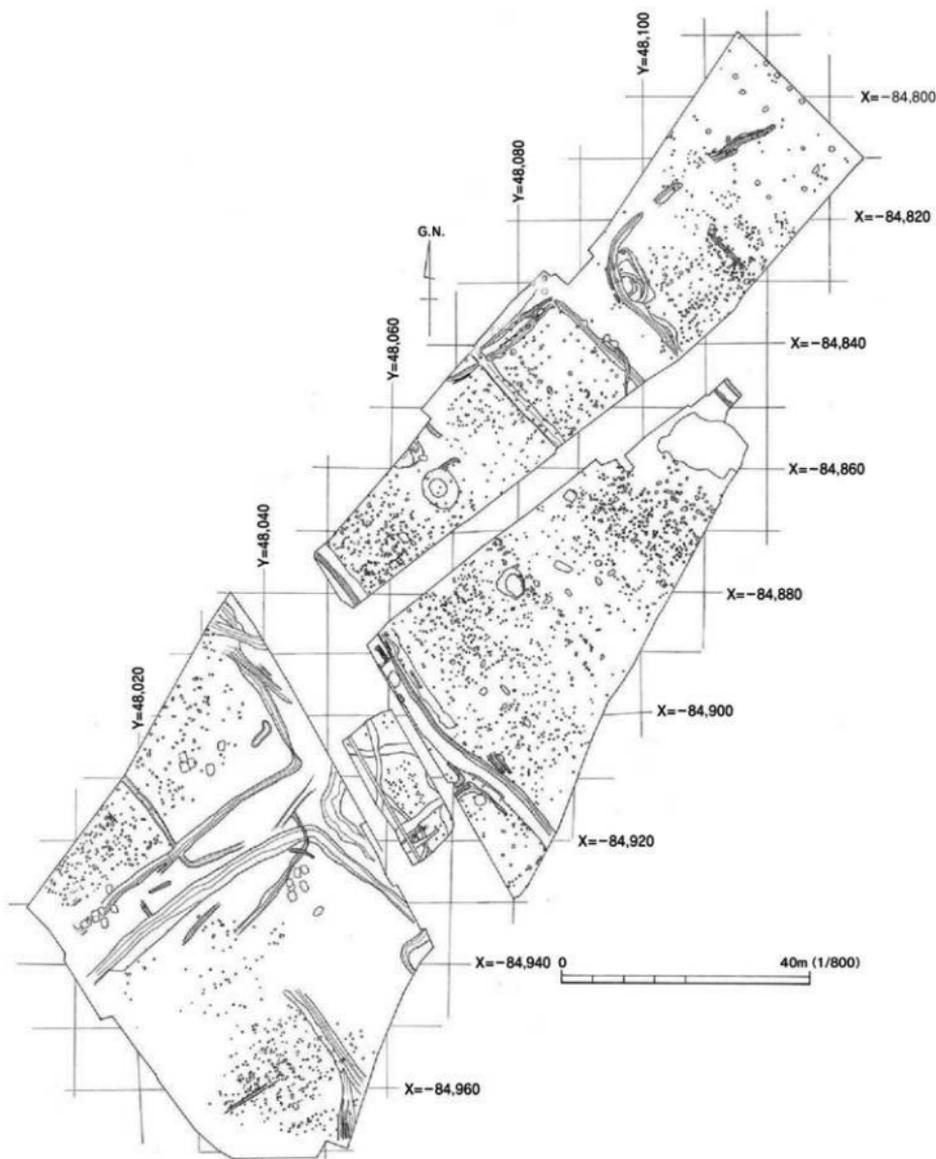
I 層	I 層	I 表土 (30cm)
II 層	II 層	II 暗褐色土 (20cm)
III 層	III 層	III 黄褐色土 (23cm)
IV 層	IV 層	IV 暗褐色土 (15cm)
V 層	V 層	V 褐色土 (25cm)
VI 層	VI 層	VI 明褐色土 (30cm)
VII 層	VII 層	VII 橙色ローム (40cm)
	VIII 層	VIII にぶい橙ローム (40cm)
	IX 層	IX 浅黄褐色ローム (30cm)
	X 層	X 浅黄褐色ローム (30cm)
	XI 層	XI 浅黄褐色ローム (40cm)
I 表土 (30cm)		
II アカホヤ (22cm)		
III 黒褐色土 (12cm)		
IV 暗褐色土 (14cm)		
V 褐色土 (25cm)		
VI 明褐色土 (30cm)		
VII 砂礫層		



【土層注記】

- ①黒褐色粘質土 (2.5Y-3.5/1) 明褐色のロームブロックが混じる。硬質、粘性が低い。
 ②黒褐色粘質土 (7.5YR-2/2) 粘性があり、濡ると軟らかいが、密に堆積しており、硬くしまっている。
 ③黄褐色土 (7.5YR-7/8) アカホヤ層で直径1mm以下の白色・透明・半透明ガラス質粒子を含み、軟らかく粘性はほとんど無い。
 ④黒色粘質土 (7.5YR-2/2) 透明粒子をわずかに含み、やや硬くしまっている。
 ⑤暗褐色粘質土 (10YR-3/4) 暗褐色土の中に半透明粒子を含む。④層よりもやや硬くしまっており、粘性がある。
 ⑥褐色粘質土 (7.5YR-5/6) 0.5mm以下の白色・半透明粒子を含む。やや硬くしまっており、やや粘性がある。

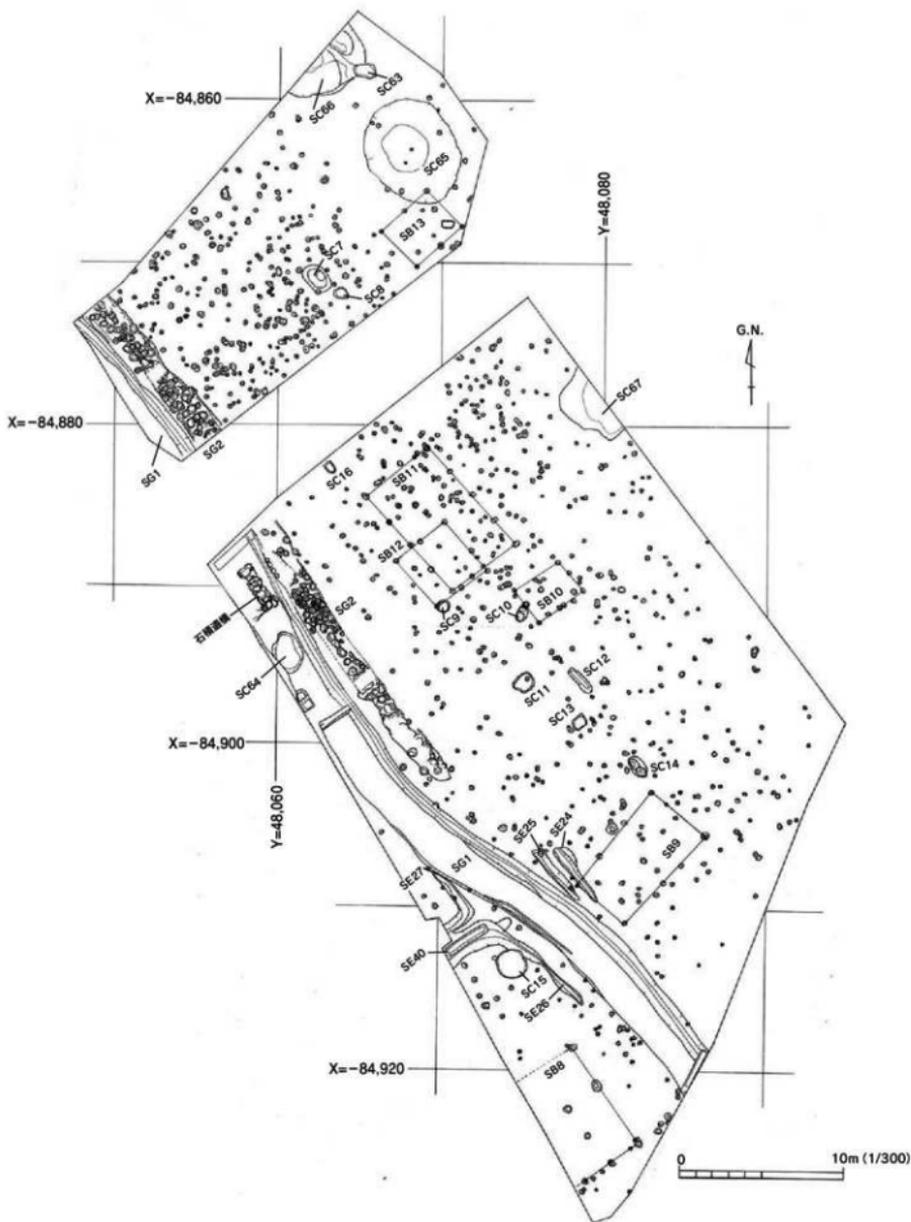
第4図 A・D区基本層序とE区北西壁土層断面図 (1/60)



第5図 遺構分布図 (1/800)



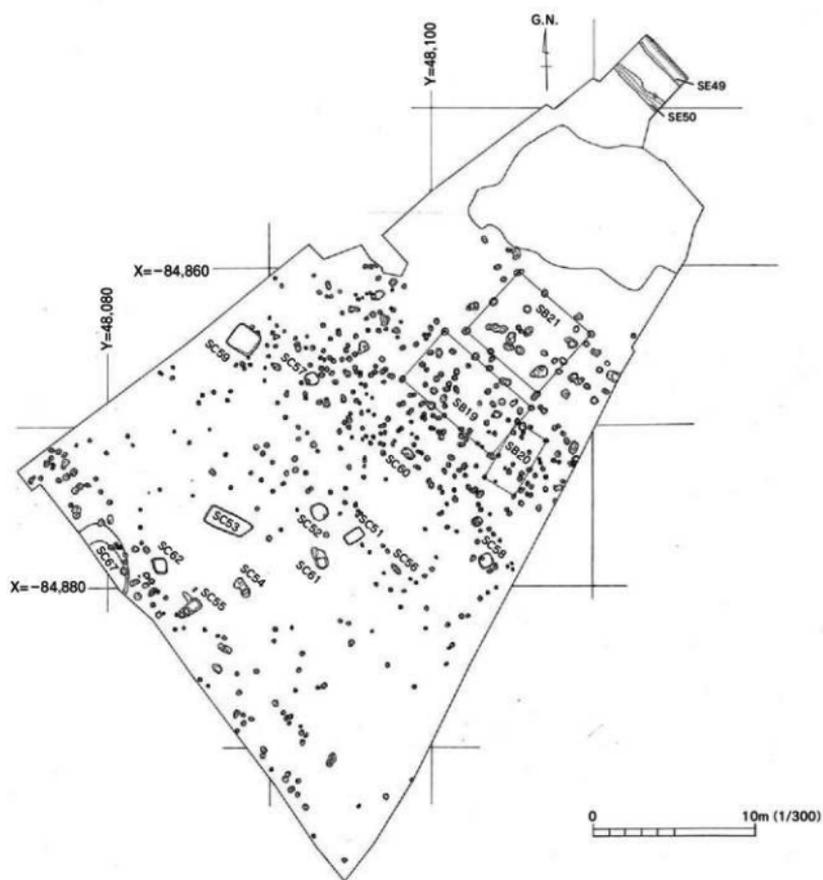
第6图 A区遺構分布图 (1/400)



第7图 C区遺構分布图 (1/300)



第8图 D区遺構分布图 (1/300)



第9图 E区遺構分布图 (1/300)

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代～古墳時代の遺物

(1) 旧石器時代の石器 (第10図1～5)

ナイフ形石器および旧石器と推定される剥片類が中・近世の遺構埋土等より5点出土した。剥片類については周辺遺跡における旧石器石材・剥片剥離に近い点から、旧石器と判断した。石器群の時期は、ナイフ形石器の特徴や周辺遺跡の成果と総合すると、Kr-Kb～ML2相当であろう。

(2) 縄文時代～弥生時代の石器・石製品

(第10図6～19)

チャート製打製石鏃・同未製品、二次加工ある剥片、ホルンフェルスならびにサヌカイト製打製石鏃・打欠石鏃・磨製石斧・チャート製装飾品が、包含層から遊離した状態で少量出土した。

打製石鏃は各種形態があり、そのうち平面五角形のものには縄文後・晩期、長二等辺三角形で基部に浅い抉りが入るものは弥生時代のものであろう。

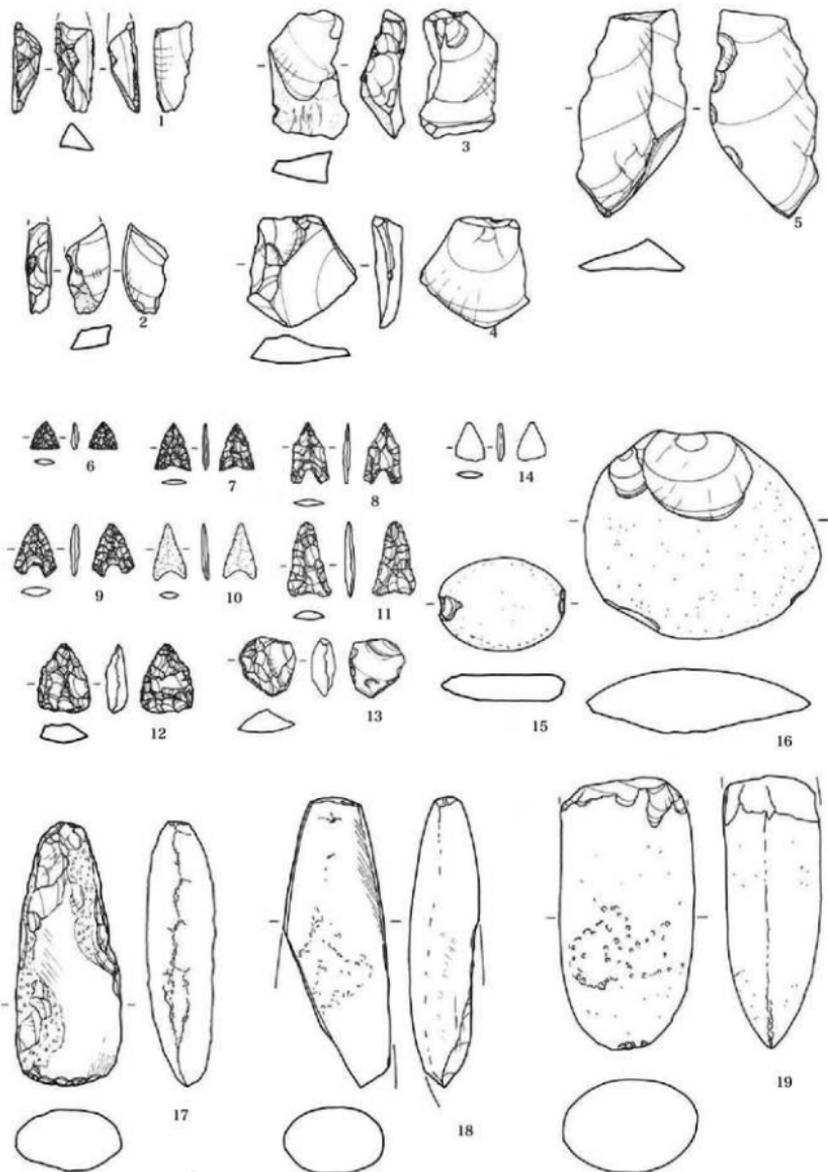
打欠石鏃は1点のみで、小型品である。磨製石斧は大品型1点・小型品2点が出土し、いずれも欠損あるいは刃部等の再研磨が実施されていない廃棄品である。小型品は断面楕円形で基部に平坦面がある点で共通しており、縄文後・晩期の所産であろう。

このほか、チャートをトロトロになるまで磨いた14は装飾品とみた。平面三角形であり、石鏃・サメ歯等を意識したものの可能性も想起され、類例探索が必要である。

なお、風化の程度から縄文～弥生期のものと言えそうな尾鈴山酸性岩類製磨石もあり、これについては中・近世の石器・石製品の項で詳述する。

No	器 種	Gr	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	備 考	
1	ナイフ形石器	DK SG3	-30	ホルンフェルス	3.7	1.6	1.2	4.9	他ホルンフェルスと異なり風化弱く、先端を欠損する。左側縁の調整は中や鋭直状と粗い。右側縁は相対的に細かな調整である。
2	二次加工ある剥片	AIK SE1	-e	流紋岩	3.8	1.8	1.0	7.2	旧石器。欠損のため明確でないが、ナイフ形石器等の未製品の可能性もある。
3	剥片	AIK SE1	-h	流紋岩	5.3	3.3	1.9	24.9	旧石器。縦長剥片。剥片端部に礫面残る。
4	剥片	CIK K9		流紋岩	4.6	4.5	1.3	21.6	旧石器。不定形剥片。
5	剥片	DIK SE44	-21	ホルンフェルス	8.5	4.3	1.3	47.7	縦長剥片。
6	打製石鏃	AIK SE1		チャート	1.2	1.2	0.3	0.2	小形三角形。
7	打製石鏃	AIK SE1	-h	チャート	1.9	1.4	0.2	0.4	二等辺三角形で基部に浅い抉り。
8	打製石鏃	CIK II-18		サヌカイト	2.5	1.6	0.4	0.7	平面五角形で基部は十字の抉り。
9	打製石鏃	CIK SG2	-d	チャート	2.2	1.7	0.4	1.0	特徴的な両側。
10	打製石鏃	CIK II-10		ホルンフェルス	2.3	1.4	0.3	0.6	風化著しく、両側縁が困難。
11	打製石鏃	AIK SE4		ホルンフェルス	3.0	1.8	0.4	1.6	風化著しく石質自体も変化しており、軽量化しているよう。整形は粗い。
12	打製石鏃未製品	AIK SE1	-91	チャート	2.8	2.1	0.9	4.8	左側縁のコブを除けなかったものか。
13	二次加工ある剥片	AIK D10		チャート	2.4	2.3	1.0	4.6	二次加工のみでなく、微細な剥離も確認を中心に見られる。打製石鏃等の未製品の可能性もある。
14	装飾品	AIK SE1	-j	チャート	1.6	1.2	0.3	0.5	チャートをトロトロになるまで磨いたもの。平面三角形であり、石鏃・サメ歯等を意識したもののか。
15	打欠石鏃	DK SE44	-46	砂岩	3.9	5.1	1.1	33.2	小形。
16	剥片	CIK K8		砂岩	8.7	9.7	2.7		ハマグリのような形状の剥片。風化著しく、使用痕等観察困難。剥片石器に好まれる砂岩とは異なり、粗粒石材。
17	磨製石斧	AIK SE1	-31	ホルンフェルス	10.8	4.3	2.8	180.2	研磨の及んでいない範囲には整形に伴う打痕がよく残る。装着に伴うと想定される。側部中央のゆるい凹部から磨して、使い切られた斧身である。刃部には顕著な磨れ・剥離があり、再研磨は実施されていない。
18	磨製石斧	AIK IT-II-II		ホルンフェルス	11.9	4.4	2.7	187.4	基部には2面からなる平坦面あり。両側面は弱い面があり、断面は中や角の楕円形となる。刃部には大きく欠損する。
19	磨製石斧	CIK SG2	-eP6	砂岩	11.1	5.4	4.0	358.8	基部を欠く。刃部は磨れる。

第2表 遺物観察表 (石器・石製品①)



第10図 旧石器時代～弥生時代の石器・石製品実測図 (1/2)

(3) 縄文時代・弥生時代～古墳時代の土器

縄文時代・弥生時代に時期比定できる明確な遺構は確認されていないが、表土・包含層や後世の溝状遺構などの遺構埋土中より出土している。

縄文土器 (第11図20～23)

縄文土器は弥生土器に比較し、出土量が非常に少なく4点のみ掲載した。20～22は縄文後期と考えられ3点ともC区包含層から出土している。20は口縁部が肥厚し内湾気味に立ち上がる。口縁部上端部に工具による平行線状の押圧が施される。21・22は磨消縄文系の土器である。21は口縁部は内湾し波状となる。外面には直線・曲線文がみられ、擬似縄文が一部確認できる。内面はナデ調整。22は皿で波頂部付近で内外面に直線・曲線文が施され、外面には擬似縄文が認められる。23はA区出土で外面が糸痕文、内面はナデ調整。胎土や色調など20～22と異なり縄文時代早期の遺物の可能性がある。B区において縄文時代早期の遺構・遺物が確認されておりそちらとの関連性が考えられる。

弥生土器 (第11図24～58、第12図59～83)

弥生土器の出土した遺構としてはSE1・6・17・21・44、SG1・2があるがその多くは小片である。その中でSE17・21では弥生土器がままとまって出土している。県道下の調査であったため遺構の残存状況は良好ではなかったもののB区で溝状遺構内から多量の土器が出土している状況と類似し、出土土器自体があまり摩耗していないことから流れ込みというよりは遺構内(流路の可能性もある)に土器を廃棄した状況が想定される。包含層ではA・C区を中心に出土している。時間的には後期前半から古墳時代初頭のものがあり、後期後半が最も多く見られる。報告書中では出土遺構毎に図示しているが、一括性に乏しいためここでは時期比定可能で特徴的な遺物について記述していく。

後期前半

壺・甕・高環があるが少量である。壺は64・65は口が大きく開く壺の口縁部で鋤先状を呈し、口唇部に粗い凹線が巡る。

甕は46・68・71が外傾する口縁をもち胴部は張らず口径が最大径となる。口唇部が凹むものもある。60は中溝式系の甕でやや薄手である。底部はやや厚手で上げ底気味となる(77)。

高環は83が小型高環の脚部で裾部端部が明瞭な凹線ではないが凹みを有することから瀬戸内系と推定される。

後期後半～古墳時代初頭

ここでは出土土器すべてが破片で一括性に乏しく時期比定が困難なものが多いためこの時期幅で記述を行う。器種としては壺・甕・高環・鉢があり、色調は「橙」色を基調にしたものが大半を占め、胎土に白色若しくは灰色の粒子を含むものが多い。

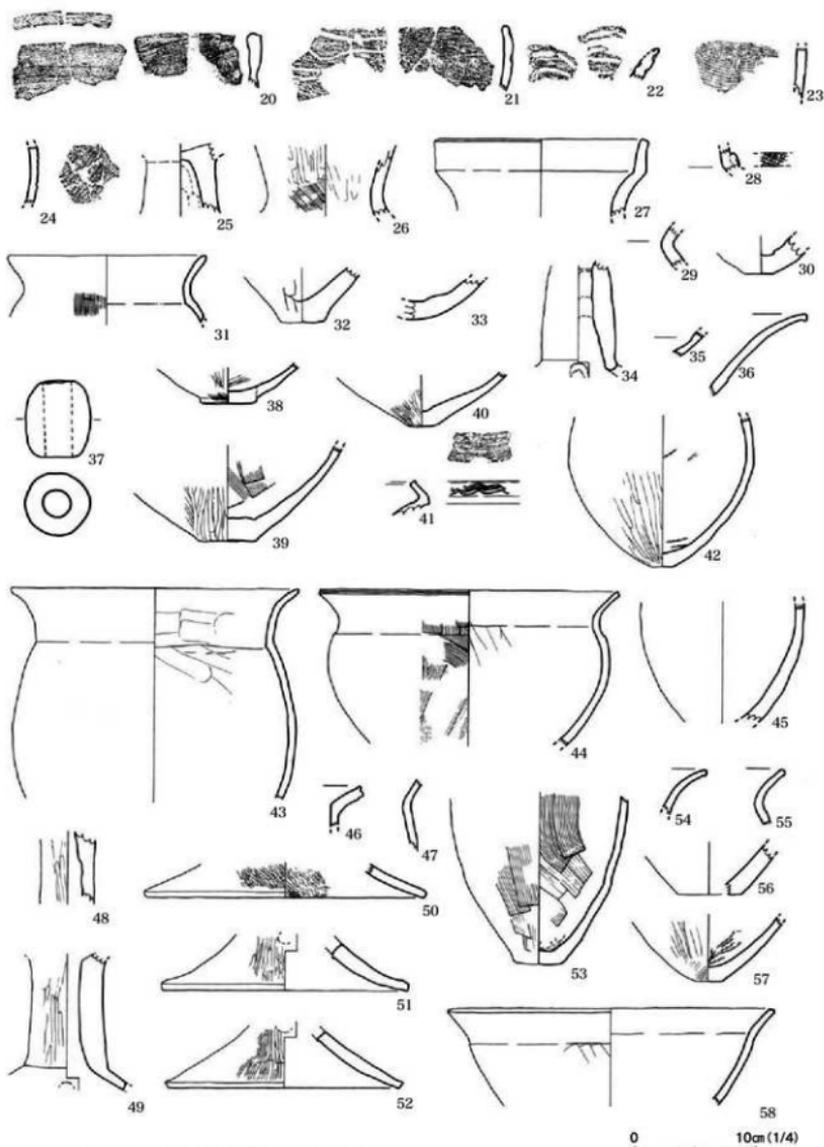
壺は全体形態を確認できる資料はないが、小型壺(38)、複合口縁壺、頸部に幅広の突帯を有するもの(28・61)、卵形になるやや大型のもの(39・40・42・57)がある。複合口縁壺は内傾する(41・66)、やや外傾する(27)の二種ある。また、長頸壺と考えられるもの(26)もみられる。底部はしっかりした平底(30・32・38・39・56)、小さな平底(40・42・57)がある。

甕はくの字に外反する形態で、胴部があまり張らず口径が最大径となるもの(31・44・55・62)や口縁部が長く伸びる端部が丸く、口径と胴部最大径となるもの(43)がある。ほかに外面に横方向のタタキが施されるもの(24)も出土している。これらは胎土・調整においても違いが認められる。

高環は坏部・脚部で数種類に分類可能である。坏部には口縁部が大きく外反し深くなるもの(36)、短く外反し浅いもの(63)がある。脚部はエンタシス状を呈するもの(34)、柱状で屈曲して裾部として開くもの(48・49)、屈曲せず裾部が開くもので端部が開くもの(81・82)と大きく開くもの(50～52)に分かれる。78は裝飾高環の裾部で外面に竹管文が施される。

鉢は口縁部が若干外反し深目になる形態で甕の可能性もある。内外面ともナデ調整を施す。

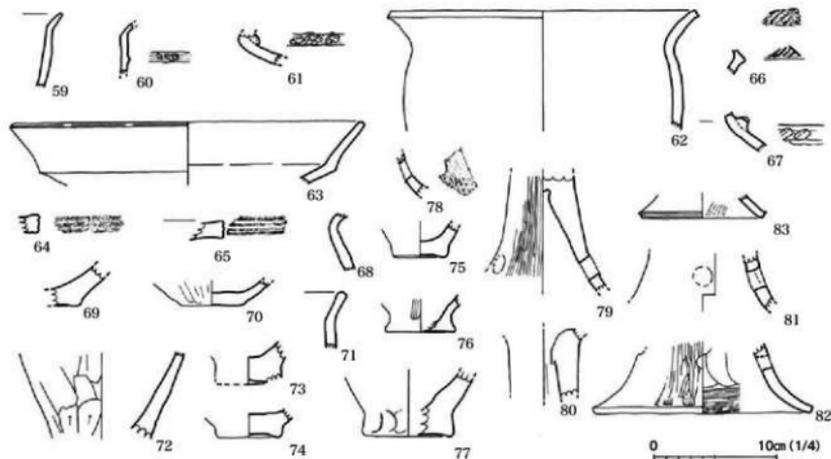
なお、これらの中で古墳時代初頭まで下るものは、壺(27)・甕(43・24)・高環(78・34)である。



20~22: 包含層
38~52: S E 17

23~30: S E 1 31~37: S E 6
53~58: S E 21

第11図 縄文時代・弥生時代~古墳時代の土器実測図① (1/4)



59~60: SE44 61: SE45 62~63: SG1
64~65・73~74・77: SG2 66~72・75~76・78~83: 包含層

第12図 縄文時代・弥生時代~古墳時代の土器実測図② (1/4)

No	調査区	土器名	部位	胎土		色		法量(cm)		外面		内面		特徴
				胎土	胎土	外面	内面	口縁	側面	外面	内面	外面	内面	
20	IC	k-8	深鉢	口縁部	3cm以下の赤茶・灰白色の粒を含む	橙	橙				やや粗い横ナデ	ナデ	口縁部は肥厚し内湾	
21	IC	k-8	深鉢	口縁部	2~5mm程度の青灰・赤茶・灰白色の粒を含む	橙	橙				沈線文による区画	横ナデ	口縁部は鼓状で内湾 磨消縄文	
22	IC	II-13	皿	口縁部	3cm以下の乳白色の粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙				沈線文による区画	ナデ	口縁部鼓状 磨消縄文	
23	IA	SE1	深鉢	胴部	1cm大の黒褐色や透明な粒を含む	にぶい橙	にぶい橙				条痕文?	ナデ?	風化著しい 縄文早期?	
24	IA	SE1	壺	胴部	4cm以下の中ずみ、にぶい赤褐色の粒を多く含む。3cm以下の透明乳白色少量	橙	橙				横方向のタタギ	ナデ	古墳時代	
25	IA	SE1	高坏	胴部	6cm以下の乳白色粒や2cm以下の黒色粒を多く含む	にぶい橙	にぶい橙				風化著しい つげき?	割オサエ	坏と胴部の接合は差込による	
26	IA	SE1	壺	胴部	1cm以下の乳白色・茶褐色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙				口縁部め方向のハケメの横へうミギキ 胴部ハケメ	ヘラミギキ	口縁部は長く外方向にのびる	
27	IA	SE1	壺	口縁部	1cm以下の白色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙	16.6			横ナデ	ナデ	複合口縁で胴部は外傾する	
28	IA	SE1	壺	頸部	1cm以下の白色粒を含む	にぶい橙	橙				ナデ	ナデ	外面幅広く尖帯に格子目状の跡み	
29	IA	SE1	壺	胴部	3cm以下の赤褐色粒を含む	明黄褐色	黄橙				ナデ	ナデ	胴部に幅広く尖帯の可能性あり	
30	IA	SE1	壺	底部	3cm以下の白色粒を含む	にぶい	浅黄		2.3	ナデ	割オサエ	割オサエ	平底の底部 外面に黒黄	
31	IA	SE6	壺	口縁部	1cm以下の白色粒を微量含む	橙	橙	16.2			横ナデ 胴部割オサエ 胴部ハケメ	横ナデ 胴部割オサエ	口縁部厚丸い	
32	IA	SE6	壺	底部	3cm以下の乳白色粒や5mm以下の赤褐色粒を含む	にぶい橙	黄橙		3.5		横ナデ	ナデ	口縁部が長く大きく外反する	
33	IA	SE6	壺	底部	2cm以下の乳白色粒や6mm以下の明黄褐色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙				ていねいなナデ	ナデ	丸底	
34	IA	SE6	高坏	胴部	1cm以下の乳白色・茶褐色粒を含む	にぶい橙	にぶい橙				ミギキと混れるが風化著しい	横ナデ	胴部部に円形の透かし 厚手	
35	IA	SE6	高坏	坏部	微細な透明光沢粒や0.5mm以下の灰白色を含む	橙	にぶい橙				ミギキ	ミギキ	胴部内面に明確な線を有す	
36	IA	SE6	高坏	坏部	微細な透明光沢粒や0.5mm以下の灰白色を含む	にぶい橙	粗灰黄				斜め方向へのうミギキ	ミギキ	口縁部が長く大きく外反する 胴部部に明確な線を有す	
37	IA	SE6	土製品	胴部	微細な透明光沢・茶褐色粒を含む	にぶい橙	粗灰			縦 長さ 孔径 6.45(6.35) 2.3	ナデ		底部部から平らで縦線状が放射状に施される	

第3表 遺物観察表(縄文土器・弥生土器①)

No	調査区	法上	種類	部位	胎土				色				沈積(m)				色				特徴					
					外	内	口縁	脚高	外	内	口縁	脚高	外	内	口縁	脚高	外	内	口縁	脚高						
38	IA	SE17	壺	底部	3cm以下の褐色粒や1mm以下の乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		4.5	ヘラミガキ	底部付込ハケミ	ナデ						平底	短頸部の底部					
39	IA	SE17	壺	底部	3cm以下の白色粒を多く含む 2mm以下の乳白色粒を少量含む	にぶい	濃	にぶい	濃		4.5	削部ヘラミガキ	削部ヘラミガキ	ナデ	指頭微あり						上げ気味	底部外面にワラ状・ 棒状の欠け				
40	IA	SE17	壺	底部	2mm以下の黄褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		2.5	ミガキ										実気味の小さな平底				
41	IA	SE17	鉢	底盤部	2mm以下の赤褐色粒を多く含む	黄褐色	にぶい	濃						ナデ								内積する拡張部外面に線粒状文				
42	IA	SE17	壺	胴・底部	4mm以下の乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		1.7	ミガキ	黒濁あり									小さな平底				
43	IA	SE17	壺	胴・底部	7mm以下の灰褐色粒を含む	明褐色	明褐色	23.8														口縁部外反しながらくのびる 口縁に縦線最大径は同じ程度				
44	IA	SE17	壺	胴・底部	3cm以下の灰褐色粒を多く含む 3mm以下の白色粒を微量含む	にぶい	濃	にぶい	濃	24.5												口縁部微く外押しながらくのびる 口縁に縦線最大径は同じ程度				
45	IA	SE17	壺	胴部	3cm以下の黄褐色粒を含む	にぶい	濃	灰黄褐色														上半部斜め方向のナデ 下半部下方へ向うナデ				
46	IA	SE17	壺	口縁部	3cm以下の黄褐色粒を多く含む	にぶい	濃	にぶい	濃					横ナデ								「く」の字口縁	口縁部凹む			
47	IA	SE17	壺	胴部	3cm以下の橙・乳白色・黒褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃														横を有さず「く」の字に外反			
48	IA	SE17	高杯	胴部	2mm以下の赤褐色粒・灰白色粒を含む	橙	橙																柱状を呈す			
49	IA	SE17	高杯	胴部	3cm以下のにぶい黄褐色・乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃														胴部厚手で屈曲して胴部へ 傾斜部に円形の透かし			
50	IA	SE17	高杯	胴部	2mm以下の橙・乳白色・黒褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		22.9	横方向のナデの後ヘラミガキ											大きく外方に広がる			
51	IA	SE17	高杯	胴部	2mm以下の白色粒を多く含む	にぶい	濃	にぶい	濃		20.0	ヘラミガキ											円形の透かし			
52	IA	SE17	高杯	胴部	2mm以下の灰白色粒を多く含む	にぶい	濃	明黄褐色		19.2													円形の透かし			
53	IA	SE21	壺	胴・底部	1mm以下の灰白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		4.1	ハケメ	スス付着										小型の壺で平底			
54	IA	SE21	壺	口縁部	3mm以下の乳白色粒を多く含む	にぶい	濃	にぶい	濃					横ナデ									「く」の字口縁	上部部が外湾		
55	IA	SE21	壺	口縁部	3mm以下のにぶい褐色粒・2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃					横ナデ									「く」の字口縁			
56	IA	SE21	壺	底部	1mm以下の灰白色粒を含む	にぶい	濃	褐色		5.2													平底	底部内面に炭化物付着		
57	IA	SE21	壺	胴・底部	3mm以下の白色・灰沢のある黒色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		3.1	ケズリ状のナデのあとヘラミガキ											小さな平底			
58	IA	SE21	鉢	胴・底部	4mm以下の乳白色粒・2mm以下のにぶい褐色粒を含む	灰黄褐色	にぶい	濃	26.1														口縁部は胴部がやや傾出して外方にのびる			
59	ID	SE44	壺	胴・底部	3cm以下の透明・茶色粒を微量含む	にぶい	濃	にぶい	濃														口縁部は傾かに外反			
60	ID	SE44	壺	口縁部	3mm以下の褐色粒を多く含む	にぶい	濃	にぶい	濃														胴部下に斜み目突帯	薄手・中溝系		
61	ID	SE45	壺	胴部	3mm以下の乳白色・茶色粒を微量含む	にぶい	濃	にぶい	濃														胴部に縦突帯	斜み目に圧痕		
62	IC	SG1	壺	胴・底部	2mm以下の灰・乳白色粒を多く含む 1mm以下の白粒	濁	にぶい	濃	24.8														口縁が最大径	胴部は傾やかに屈曲 胴部はあまり見えない		
63	IC	SG1	高杯	杯部	3mm以下の灰・乳白色粒・2mm以下の黒褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃	28.2														口縁は屈曲部から大きく開く 胴部は傾かに外反		
64	IC	SG2	壺	口縁部	2mm以下のにぶい褐色粒が多く 1mm以下の乳白色粒を微量含む	にぶい	濃	にぶい	濃															腕先状に開く 口の口縁部で胴部がやや膨ら		
65	IC	SG2	壺	口縁部	2mm以下のにぶい褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃															腕先状に開く 口の口縁部で胴部がやや膨ら		
66	I	Sナテ	壺	拡張部	2mm以下の黄褐色・透明な粒を多く含む	にぶい	濃	灰濁																薄手で拡張部も短い		
67	IA	壺	胴部	2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃																大きな斜み目突帯を有す ハケ形体による斜み		
68	IA	壺	胴部	1mm以下の灰褐色粒を含む	灰黄褐色	にぶい	濃																	「く」の字に屈曲		
69	IT	II-9	壺	底部	4mm以下の乳白色粒を多く含む	にぶい	濃	灰濁																やや上げ気味		
70	IC	壺	底部	2mm以下の乳白色粒を多量に含む	にぶい	濃	にぶい	濃		4.6														平底		
71	IC	I-8	壺	口縁部	2mm以下の乳白色粒・黒褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃															口縁部がやや外積する		
72	IC	壺	胴部	2mm以下の乳白色・黒褐色粒を含む	橙	橙																		腕先状に開く 口の口縁部で胴部がやや膨ら		
73	IC	SG2	壺	底部	2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃															上げ気	一部欠割	
74	IC	SG2	壺	底部	2mm以下の乳白色・にぶい褐色粒を含む	橙	濁灰																		上げ気	一部欠割
75	IC	I-8	壺	底部	5mm以下の灰白色の粒を多く含む	にぶい	濃	橙		3.8																
76	IA	壺	底部	4mm以下の乳白色粒・黒褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		5.5															底部部はやや外方に広がる	
77	IC	SG2	壺	底部	5mm以下の灰色の粒・5mm以下の灰赤色で透明な粒を含む	明黄褐色	灰黄褐色			7.0															底部部はやや外方に広がる やや上げ気	
78	IA	高杯	胴部	2mm以下の乳白色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃																	竹管文上部に円形の透かし 底面高杯・作付高	
79	IE	高杯	胴部	5mm以下の乳白色粒・2mm以下の黒色・茶色粒を微量含む	にぶい	濃	橙																		3箇所に円形透かし 杯部の接合は差し込み	
80	IA	H-11	高杯	胴部	2mm以下の光沢のある乳白色粒を多く含む	にぶい	濃	明濁灰																	杯部との接合は粘土類	
81	IC	H-13	高杯	胴部	2mm以下の光沢のある乳白色粒を多く含む	橙	橙																		円形の透かし	
82	IC	I-8	高杯	胴部	2mm以下の赤褐色・黒褐色粒を含む	にぶい	濃	にぶい	濃		17.5														胴部がツッパ状に開く 円形の透かし	
83	IC	I-8	高杯	胴部	4mm以下の乳白色粒・2mm以下の灰赤色の粒を含む	にぶい	濃	明赤濁		7.7															胴部部が凹む 胴内系?	

第4表 遺物観察表(縄文土器・弥生土器②)

2 中世～近世の遺構と遺物

この時期の遺構及び遺物は、調査区全体に見られる。

遺構として溝状遺構51条、掘立柱建物跡22棟、道路状遺構3条、土坑墓16基、土坑68基、石積遺構1基、その他2000基以上のピットを検出した。遺物は中国からの輸入陶磁器（龍泉窯系青磁、白磁、景德鎮窯系青花など）のほか、土師器・国産陶磁器（備前系・東播系・肥前系など）・銭貨・キセル・石器類（石臼・砥石・火打石など）が出土している。出土遺物全般においても中・近世のものが大部分を占めている。

A区は溝状遺構23条、掘立柱建物跡8棟、近世土坑墓15基、土坑6基、800基以上のピットを検出した。遺物は弥生土器及び土師器・陶磁器類が出土している。

特筆すべきは溝状遺構2条（SE1・3）がその形態から区画的、防衛的な役割を果たしていたと推定できる点である。その区画の中に掘立柱建物が主軸をほぼ同じくして存在し、その他多くのピットも溝に取り囲まれるように検出されている。溝状遺構から出土している龍泉窯系青磁や中国産白磁、備前系摺鉢などの遺物からは、概ね15～16世紀の年代が推定できるほか、中世以前の石籬や弥生土器も多く出土していることから、周辺部に中世以前の遺構が存在する可能性も高い。

また周辺地域における聞き取り調査によると、昭和初期から戦後間もない頃には無緑化した墓だけが存在していたということであった。土坑墓は調査区南東部・北部・西部の3箇所に集中しているが、西部の土坑墓が区画溝（SE3）を切っていることや、周辺では近世遺物の出土を見ないことなどから、近世以後は墓地だけが存在し、集落はこの場所から移動していたのではないかと推察される。

C区は溝状遺構5条、掘立柱建物跡6棟、土坑17基、道路状遺構2条、石積遺構1基、700基以上のピットを検出している。遺物は弥生土器や中・近世及び近・現代の陶磁器類が出土している。この区の特徴は、側溝を伴う丁寧に版築された堅固な造りの道路状遺構（SG1）が、調査区西側において南東

から北西方向に延びていることであるが、この道路状遺構は現代まで使用されていたようである。

また調査区の中央部付近では、この道路状遺構の上に構築された石積遺構が検出されたが、その性格は不明である。さらにSG1と平行するように波板状凹凸面を有する道路状遺構（SG2）が検出された。掘立柱建物跡や多くのピットもこの道路状遺構の東側に沿うように検出された。さらに直径が6mに及ぶ土坑が3基検出されたが、これらの性格も明らかではない。

D区は溝状遺構21条、掘立柱建物跡7棟、土坑30基、中世土坑墓1基、調査区西半北側に波板状凹凸面を有する道路状遺構1条、500基以上のピットを検出した。区画溝と考えられる溝状遺構（SE31）の内側に軸を同じくして掘立柱建物跡3棟を検出し、特にSB14の柱穴からは地鎮の意味と思われる銭貨「寛永通寶」が32枚出土したほか、キセルや毛抜きも出土している。

これらの掘立柱建物跡と同じ区画から主軸がほぼ南北を向く土坑墓1基が検出され、その北西隅から完形の土師器杯1点、小皿2点が出土した。出土遺物から中世墓と推定される。

さらにD区東半には区画溝と考えられる溝状遺構（SE44）があり、掘立柱建物跡も2棟検出した。このSE44には北西隅で南から東へ屈曲する部分に付随する長軸約9m、短軸5mの土坑（SC68）が検出されたが、土坑の性格は不明である。

E区は溝状遺構2条、掘立柱建物跡2棟、土坑12基、ピット400基以上を検出した。SE49・50はD区で検出された区画溝の続きと推定できる。同じくD区の区画溝であるSE31から続く溝を調査区北壁から検出したが、延長部分は削平されて残存しなかった。

遺物については調査直前まで人家があったため、弥生時代から中・近世、近・現代のものまで幅広い時代のものが出土した。

(1) 遺構

①溝状遺構

全体図(第5図) 調査区別図(第6～9図)

SE1(第6・13図)

SE1はA区の中央部を南西から北東に走り、東端で南東に屈曲する。A区西端は調査外へ延びていく可能性が高い。A区南側の掘立柱建物跡やピット群を囲むような形で位置し、確認された溝状遺構の中では最大規模の全長約65mに及ぶ。幅0.6～2.5m、底幅0.6m～1.4m、深さは最大0.9mを測る。溝の断面は逆台形を呈し、立ち上がりはピット群側に面する内側が緩やかで、外側は急である。その形状から防壁的・区画的役割があったと考えられる。そこでこの溝については、「区画溝Ⅰ」ととらえることにする。埋土は黒色・黒褐色土である。

埋土中には炭化物が一部見られたほか、旧石器時代～縄文時代の石器類(第10図2・3・6・7・12・14・17)、縄文土器(第11図23)、弥生時代から古墳時代の土器(第11図24～30)、中世の中国産青磁(第70図87～92)・白磁(第70図93～96)・青白磁(第70図97)、国産陶器(第70図98～101)、土器(第70図102)、茶臼(第81図256)など幅広い時代の遺物が出土している。また近世の磁器碗(第70図103)、銭貨(寛永通寶)も出土しているが、遺物全体の出土状況から中世に掘られた溝状遺構と推定される。

SE2(第6・14図)

SE2はA区のSE1が北東から南東に屈曲する付近に位置し、断面形は小さなU字形を呈する。検出面における幅0.3～0.5m、深さ0.2m、全長4.2mの小さな溝で遺物は出土していない。SE8を切っている。時期は不明である。

SE3(第6・15・16図)

SE3はSE1と比較すると規模は小さいもののSE1と平行して南西から北東に走り、東端で北西に屈曲する。西側は擾乱は受けているものの、西端で北西に屈曲している。全長は約66mに及ぶ。幅0.9～1.8m、底幅0.1～0.8m、深さは最大0.6mを

測り、断面はU字形を呈する。SE3はA区北側の掘立柱建物、ピット群を囲むように位置し、溝の壁面の形態はSE1と同様に建物に面する側が緩やかで、外側が急に立ち上がっている。形状からやはり防壁的・区画的役割があったと考えられるため、「区画溝Ⅱ」ととらえることとする。SE4を切っており、また東側にも浅い溝の形跡が見受けられた。

SE3の埋土中からは中世国産陶器(第71図104)、砥石(第79図243)のほか、土器・陶磁器類などが出土している。この溝状遺構は中世のものと推定される。

SE4(第6・15・18図)

SE4はA区北西から南東に走り、SE1の手前で東向きに屈曲する。全長は約27mに及ぶ。幅0.8～1.2m、底幅0.4～0.8m、深さは最大0.5mを測り、断面はU字形を呈する。SE3に切られる。

埋土中からは縄文時代の石鏃(第10図11)、中世の土器(第71図105～109)などが出土している。遺物の内容・出土状況から中世の遺構と推定される。

SE5(第6・15・17図)

SE5はA区の北部隅に位置し、北西側の調査区境から北東側の調査区境へと延びている。検出部分の全長は約9.5mで、幅1.4～2.0m、底幅0.4～0.8m、深さは最大0.7m、底面は土石流に由来する礫層が露出する。断面は北東壁断面で見ると逆台形を呈する。

出土遺物として中世の国産陶器(第71図112)、土器(第71図110・111)、火打石(第82図260・274)がある。この遺構は中世のものと推定される。

SE6(第6・19図)

SE6はA区東端に位置し、北東の調査区境からカーブを描き、南東の調査区境へと走っている。ただし検出されたのは区画溝の角部にあたると思われる。そのまま調査区外に延びている可能性がある。幅1.8～3.3m、底幅0.7～1.3m、深さは最大0.6mを測り、全長は約15mである。断面は逆台形を呈し、

溝の壁はSE1に面した側の方がやや立ち上がり
緩やかで、反対側がやや急になっている。

出土遺物は弥生時代から古墳時代の土器（第11図
31～37）、中世の中国産青磁（第71図113）・白磁
（第71図114）、国産陶器（第71図116）、土器（第71
図115・117～119）、砥石（第80図250）などがあ
る。遺物の内容・出土状況から中世の遺構と推定さ
れる。

SE7（第6・15・18図）

SE7はA区東側のSE1・3・6の間に位置し、
幅1.1～1.4m、深さ0.1mで、東西約10mの長さ
を測るが、両端は削平されて残存していない。断面形
は箱形を呈する。

遺物は出土せず、時期は不明である。

SE8（第6・14図）

SE8は北端をSE7に切られ、SE1が南に屈
曲する部分を切っている。その南側でやや西側に屈
曲し、SE2に切られて西側に延びている。幅0.4
～1.6m、底幅0.1～0.5m、深さは最大0.3mを測る。
断面はU字形をしており、やや北西壁がなだらかで
南東壁が急になっている。途中でSD5を切ってい
ることから、SD5の時期よりも新しいものと判断
でき、近世の溝と推定される。検出全長は約20mで
あるが、両端とも削平されて残存していない。遺物
も出土していない。

SE9（第6・15・18図）

SE9はSE3が南東から南西へと屈曲するところ
よりやや北側に位置する。全長は約5m、幅1m
で、深さは最大0.2mを測る。くの字状の平面形を
なす小さな溝である。断面はU字形を呈する。両端
とも削平されて残存していない。

遺物は出土せず、時期は不明である。

SE10（第6・15・18図）

SE10はA区西側でSE1とSE3に挟まれたと
ころに位置する小さな溝である。最大幅0.6m、深
さ0.2m、全長3.7mであるが、両端とも削平されて

残存していない。断面はU字形を呈する。

遺物は出土せず、時期は不明である。

SE11（第6・14図）

SE11はA区西側で検出された小さな溝である。
最大幅1.5m、深さ1.4m、検出全長は約3mである
が、南東端をSE1に切られ、もう一端も削平され
て残存していない。断面はU字形を呈している。
遺物は出土せず、時期は不明である。

SE12（第6・15図）

SE12はA区の西側で、SE3から分岐するよう
に短く延びているが、SE3との切り合い関係は不
明である。最大幅0.6m、深さ0.2m、全長は約3m
であり、南西側に延びる先は削平されて残存してい
ない。断面は弓形をなしている。

遺物は出土せず、時期は不明である。

SE13（第6・14図）

SE13はA区の西側に位置し、SE1と並行する
ように延びる小さな溝である。長さ8.7m、最大幅
0.8m、深さ0.2mを測る。断面はU字形を呈する。
両端とも削平されており残存していない。

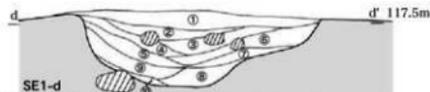
遺物は出土せず、時期は不明である。

SE14（第6・20図）

A区の南側に位置する。現代の土管も重なり元々
の溝が削平された部分が多い。削平を受けていない
部分での状況は、幅2.2～2.5m、最も深い部分で
0.2mを測る。断面はU字形を呈する。西側には掘
立柱建物跡やピット群が集中しているが、この溝を
またぐように掘立柱建物跡1棟とその他のピット群
が検出されていることから考えると、掘立柱建物跡
やピット群より古い時代のものと考えられるが、時
期はそれ以上特定できない。

SE15（第6・20図）

SE15はSE14南端から分岐する溝である。溝埋
土は黒褐色の粘質土で細砂が混じっているところも
見られる。南端部分では溝が4重にも重なりあつて

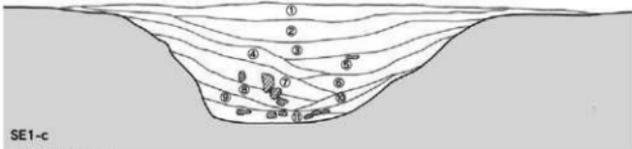


SE1-d

【土層注記】SE1-d

- ① 棕色粘質土 (10YR2/1) 1mm程度のふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、わずかに砂粒を含んでおり、やや粘質があり、やや硬質である。
- ② 棕色粘質土 (10YR2/1) 1mm~3mmのふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、1cm以下の小粒を含み、やや粘質があり、やや硬質である。
- ③ 棕色粘質土 (10YR2/1) 3mm以下のふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、砂粒を含んでおり、やや粘質がある。
- ④ 棕色粘質土 (10YR2/1) 1mm程度の黄褐色 (10YR5/5) の粒を含み、多少粘り、やや粘質があり、やや硬質である。
- ⑤ 棕色粘質土 (10YR4/1) 1mm~3mmのふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、礫を一部含んでいる。やや粘質があり、やや硬質である。
- ⑥ 黄褐色土 (10YR2/2) 3mm~5mmのふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、砂粒を含んでおり、粘質な硬質である。
- ⑦ 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 1mm以下のふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、3mm以下のプロックも含んでいる。やや粘質がありやや硬質である。
- ⑧ 黄褐色粘質土 (10YR2/1) 1mm以下のふい黄褐色 (10YR5/3) の粒を含み、1cm程度の小粒も含んでいる。
- ⑨ 黄褐色土 (10YR2/1) 1cm程度の黄褐色 (10YR5/5) の粒、にふい黄褐色の1cm程度のプロックを含みやや粘質があり、やや硬質である。
- ⑩ 暗褐色粘質土 (10YR3/3) にふい黄褐色土のプロック、黒色土、粗い砂粒を含み、粘質がありやや硬質である。

c



SE1-c

【土層注記】SE1-c

- ① 棕色粘質土 (10YR2/1) 1cm以下の黄褐色の粒を含んでおり、やや粘質があり、やや硬質である。
- ② 棕色粘質土 (10YR2/1) 1mm~3mm程度の黄褐色の粒と1mm以下の灰褐色の粒を含み、やや粘質があり、やや硬質である。
- ③ 棕色粘質土 (10YR2/1) 2mm以下の灰褐色土と3mm以下のふい黄褐色の粒を含み、やや粘質があり、やや硬質である。
- ④ 棕色粘質土 (10YR2/1) 暗褐色土のプロックがところどころあり、1mm~3mm以下のふい黄褐色の粒を含み、やや粘質、やや硬質である。
- ⑤ 棕色粘質土 (10YR2/1) 1cm程度の黄褐色土を含み、3mm以下の灰褐色の粒を含み、やや粘質があり、やや硬質である。
- ⑥ 棕色粘質土 (10YR2/1) にふい黄褐色土をプロック状を含み、やや粘質があり、やや硬質である。
- ⑦ 棕色粘質土 (10YR2/1) 2mm~3mmの黄褐色土を含み、やや粘質があり、軟質である。一部角礫を含んでいる。
- ⑧ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 2mm以下のふい黄褐色土を含み、やや粘質があり、軟質である。一部角礫を含んでいる。
- ⑨ 黄褐色粘質土 (2.5Y 2/1) 2mm以下のふい黄褐色土の粒と砂粒を含んでいる。やや粘質があり、軟質である。
- ⑩ 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 1mm~5mmのふい黄褐色土の粒と1cm程度の褐色土を包み、粘質があり、軟質である。
- ⑪ 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 砂粒を含み、円錐・角錐が程度入っており、粘質はあまりなく、軟質である。

b



SE1-b

【土層注記】SE1-b

- ① 棕色粘質土 (10YR1/2/1) 1mm以下のふい黄褐色の粒が入っており、やや粘質があり、やや硬質である。
- ② 棕色粘質土 (10YR1/2/1) 1mm以下のふい黄褐色の粒と黒褐色のプロックが入っており、やや粘質があり、軟質である。
- ③ 棕色粘質土 (10YR2/1) 暗褐色土のプロックがところどころあり、軟質である。炭化物も一部含んでいる。
- ④ 棕色粘質土 (10YR1/2/1) 1mm程度のふい黄褐色の粒が入っており、粘質がややあり、やや硬質である。
- ⑤ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1) にふい黄褐色の粒と暗褐色のプロックが入っており、やや粘質があり、軟質である。
- ⑥ 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 暗褐色のプロックと褐色のプロックが入っており、やや粘質があり、軟質である。
- ⑦ 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 黒色土と角礫~10cmの礫を含んでいる。
- ⑧ 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 褐色土のプロックを含んでいる。
- ⑨ 黄褐色粘質土 (10YR2/1) 1~5cm程度の小粒と砂粒を含みやや粘質、軟質である。

は全て礫を示す

a



SE1-a

a



SE16-a

【土層注記】SE1-a

- ① 黄褐色粘質土 (10YR2/1.5) 0.3cm程の褐色プロックが散じる。礫砂が散じる。
- ② 黄褐色粘質土 (10YR2/1.5) 0.3cm程の褐色プロックが散じる。礫砂が散じる。
- ③ 黄褐色粘質土 (10YR2/1.5) 0.5cm程の褐色プロックが散じる。シルトが散じる。
- ④ 黄褐色粘質土 (10YR2/1.5) 0.5cm程の褐色プロックが散じる。
- ⑤ 黄褐色粘質土 (10YR2/1.5) 1cm程の角礫が多い。粗砂が散じる。

【土層注記】SE16-a

- ① 黄褐色粘質土 (7.5YR3/1) ややシルトに近い。やや軟質。
- ② 黄褐色粘質土 (7.5YR3/1) 粗砂が多く散じる。やや軟質。
- ③ 黄褐色粘質砂土 (10YR3.5/1) 粗砂が多く散じる。やや軟質。
- ④ 黄褐色粘質砂土 (10YR3/3) 5mm程の黄褐色プロックが散じる。粗砂が多く散じる。
- ⑤ 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 粗砂が散じる。やや粘り・電着。やや軟質。
- ⑥ 黄褐色粘質土 (10YR2/2) 10mm程の暗褐色プロックが散じる。粗砂が散じる。
- ⑦ 黄褐色粘質砂土 (7.5YR3/2) 粗砂が多く散じる。軟質。
- ⑧ 黄褐色粘質土 (7.5YR3/1.5) 1cm程の角礫が散じる (50%以上)。

0

1

2m (1/40)

SE16

0

5

10m (1/200)

第13図 SE1・16実測図 (平面1/200、断面1/40)

いる。断面はそれぞれ浅い皿形を呈する。幅は1.2～1.8mで、最深部で0.2mを測る。

遺物は出土せず、時期は不明である。

SE16 (第6・13図)

SE16はA区の東隅で検出された遺構である。調査区北東壁から南東壁に屈曲して延びており、上層部分が大きく削平されているため検出部分は少ないが、区画溝の角部の可能性がある。また2条に重なりあっている部分が断面で観察できる。断面はU字形を呈する。最大幅1.7m、最深部は0.1m、底面は土石流に由来する礫層が露出する。

時期は不明である。

SE17 (第6・21図)

SE17～SE23を検出した区画は、調査の都合上1日間で調査を行ったため、詳細な記録がとれなかった部分である。また調査以前に水道管が埋設してあったため溝が水道管に切られているところがある。調査区としてはA区に含めている。

SE17は北西の壁から南西の壁に向かって検出された。幅0.9m～1.5m、深さ約0.6mで、長さ約18mを測る。埋土は黒色土で粘性が弱い。北側部分でSE21を切っている。

出土遺物は底面直上より弥生時代から古墳時代の土器が多数出土しているが(第11図38～52)、中・近世の遺構である可能性もある。

SE18 (第6・21図)

SE18は幅0.4m、深さ0.3m、長さは4.6mで、東西に走っており、SE23に切られている。

時期は不明である。

SE19 (第6・21図)

SE19は調査区の南西壁から東に延びているが東端は残存していない。また西壁側は調査区Aに隣接するが、溝が続いている形跡は見あたらない。幅0.5～1.5m、深さ0.3mで、長さは7.7mである。

時期は不明である。

SE20 (第6・21図)

SE20は調査区南西壁から北東壁に向けて走っている。東側延長上には、この溝の続きと思われるC区のSE26・27・40が検出されている。

またSE21とSE23を切っておりこの調査区の中では新しい溝であると考えられる。幅1.4～2.5m、深さ0.2mで、長さは約11mである。

時期は不明である。

SE21 (第6・21図)

SE21は調査区の北西角から東に向かい一度調査区内から見えなくなるが、再び蛇行して南向きに走っている。埋土は黒褐色で細砂や砂粒を多く含んでいる。幅0.7m～1.7m、深さ0.2m、長さ約23mであった。また北西角で調査はできていないが、延長線上にあるA区のSE5に繋がる可能性も否定できない。

南東端付近からは弥生時代から古墳時代にかけての土器(第11図53～58)が出土しているが、中・近世の遺構である可能性もある。

SE22 (第6・21図)

SE22は調査区の北西から南東に延びているが、北西端はSE18に切られている。またSE19・23にも切られている。幅0.4m、深さ0.4m、長さが約4mを測る。

出土遺物として弥生土器が認められたが、中・近世の溝状遺構である可能性もある。

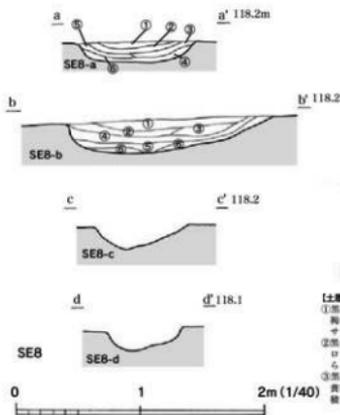
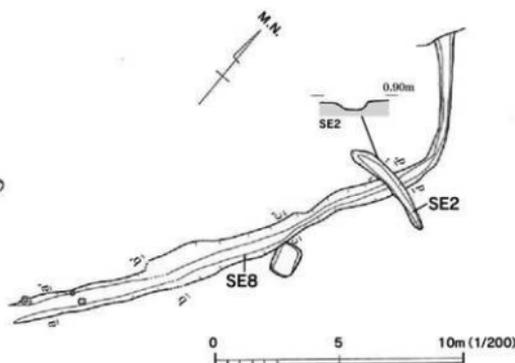
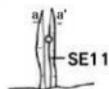
SE23 (第6・21図)

SE23は調査区南端の壁から北側へ延びており、SE19・20に切られSE18・22を切り、さらに北端部ではSE17に切られている。幅0.4～1m、深さ0.4m、長さは約15mを測る。

時期は不明である。

SE24 (第7・22図)

SE24はC区南側でSG1の東に隣接している。北西から南東にかけて走るが、両端とも削平を受けて残存していない。断面はU字形を呈する。長さ



【土層注記】SE8-a
 ①黒褐色土 (10YR-2/2) 1mm程度の暗褐色土が入っており、粘性はなく、しまっている。
 ②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 1mm程度の土にふいぶ黒褐色土を含み、やや粘性があり、しまっている。
 ③黒色粘質土 (10YR-2/1) 1mm以下の土にふいぶ黒褐色土を含み、やや粘性があり、しまっている。
 ④黒色粘質土 (10YR-2/1) 暗褐色土をブロック状に含み、やや粘性があり、しまっている。
 ⑤黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 暗褐色土をブロック状に含み、やや粘性があり、しまっている。
 ⑥黒色粘質土 (10YR-2/1) 1mm以下の土にふいぶ黒褐色土を含み、やや粘性があり、しまっている。

【土層注記】SE8-b
 ①黒褐色土 (10YR-2/2) 1mm以下の暗褐色土が入っており、粘性はなく、しまっているもの層とがロボロと崩れやすい。
 ②黒褐色土 (10YR-2/2) 1mm程度の暗褐色土が入っており、やや粘性があり、しまっている。
 ③黒褐色土 (10YR-2/2) 1cm程度の褐色土がブロック状に入っている。粘性はなく、しまっている。
 ④黒褐色土 (10YR-2/2) 2mm～5mm程度の暗褐色土と1mm以下の黒褐色土が入っており、やや粘性があり、しまっている。
 ⑤黒褐色土 (10YR-2/2) 2cm～5mmの暗褐色土が入っており、やや粘性はあがるが、重質である。
 ⑥黒褐色土 (10YR-2/1) 1cm～3cmの暗褐色土がブロック状に入っている。粘性があり、しまっている。



【土層注記】SE11-a

①黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 5mm～10mmの黒褐色土が塊状に含み、やや粘質。粘性が弱くサナギしている。
 ②黒褐色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 3mm程度の黒褐色土が塊状に含み、やや粘質。粘性が弱くさらさらしている。
 ③黒褐色粘質土 (10YR-2/1.5) 粘質、1mm程度の黒褐色土が塊状に含み、シルトに近い、やや密に堆積している。



【土層注記】SE13-a

①黒褐色粘質土 (10YR-2.5/2) 3mm程度の黒褐色土が塊状に含み、やや粘質。シルトに近い。
 ②黒褐色粘質土 (10YR-2.5/2) ①層に似る。①層に比べてブロックがやや少ない。
 ③黒褐色粘質土 (10YR-3/1.5) 粘質、1mm以下の黒褐色土が塊状に含み、
 ④黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 10mm前後の水平方向に扁平なブロックが塊状に含み、非常に粘質。

第14図 SE2・8・11・13実測図 (平面1/200、断面1/40)

8.5m、最大幅0.7～2m、深さ0.1mを測る。

出土遺物はない。時期は不明である。

SE25 (第7・22図)

SE25はSG1とSE24とに挟まれるように位置する。北西から南東にかけて走るが、両端とも削平を受けて残存していない。断面はU字形を呈する。長さ8.2m、最大幅1.1m、深さ0.1mを測る。

出土遺物はない。時期は不明である。

SE26 (第7・22図)

SE26はC区の南西壁にかかるように検出された。一旦北東に向けて走るが、途中で南向きに屈曲している。先端部は削平を受けて残存しない。SE40に切られているが、A区のSE20に続く可能性がある。長さは約22mで、最大幅は3.1m、深さ0.1mを測る。

出土遺物中に近世後半の陶磁器小片があり、その頃の遺構と推定できる。

SE27 (第7・22図)

SE27はSE26と同様に南西壁にかかって検出された。一旦は北東に向けて走るが、途中で北西側に屈曲している。先端は削平を受けて残存しない。断面は皿形を呈する。この溝もA区にあるSE20に続く可能性がある。長さは約22m、最大幅1.8m、深さ0.1mを測る。

出土遺物はない。時期は不明である。

SE28 (第8・25図)

SE28はD区～C区にかけて北東～南西方向に走って、北端部でわずかに屈曲する。溝の両端は削平されて残存しない。断面はU字形を呈する。長さ4.1m、最大幅0.6m、深さ0.2mを測る。

出土遺物はない。時期も不明である。

SE29 (第8・25図)

SE29はD区の北西壁にかかるように検出された。南東に向かって走るが、先端部は削平されて残存しない。長さは約3m、最大幅0.8m、深さ0.2m

を測る。

陶磁器片が3点出土したが、時期は不明である。

SE30 (第8・23図)

SE30はD区北西壁から南東壁にかけて直線的に横断する溝である。北西寄りの部分でSE33・34・37を切っている。

D区南東側に隣接するE区に延びると推測されたため、E区北西壁の断面で確認したが、削平されており残存していなかった。北東側の立ち上がりは緩やかであるが、南西側はやや急になっている。長さ16.9m、幅1.0～1.7m、深さ0.4m前後を測る。

近代の陶磁器が出土しているため、比較的新しい溝状遺構だと見える。

SE31 (第8・23・24・26図)

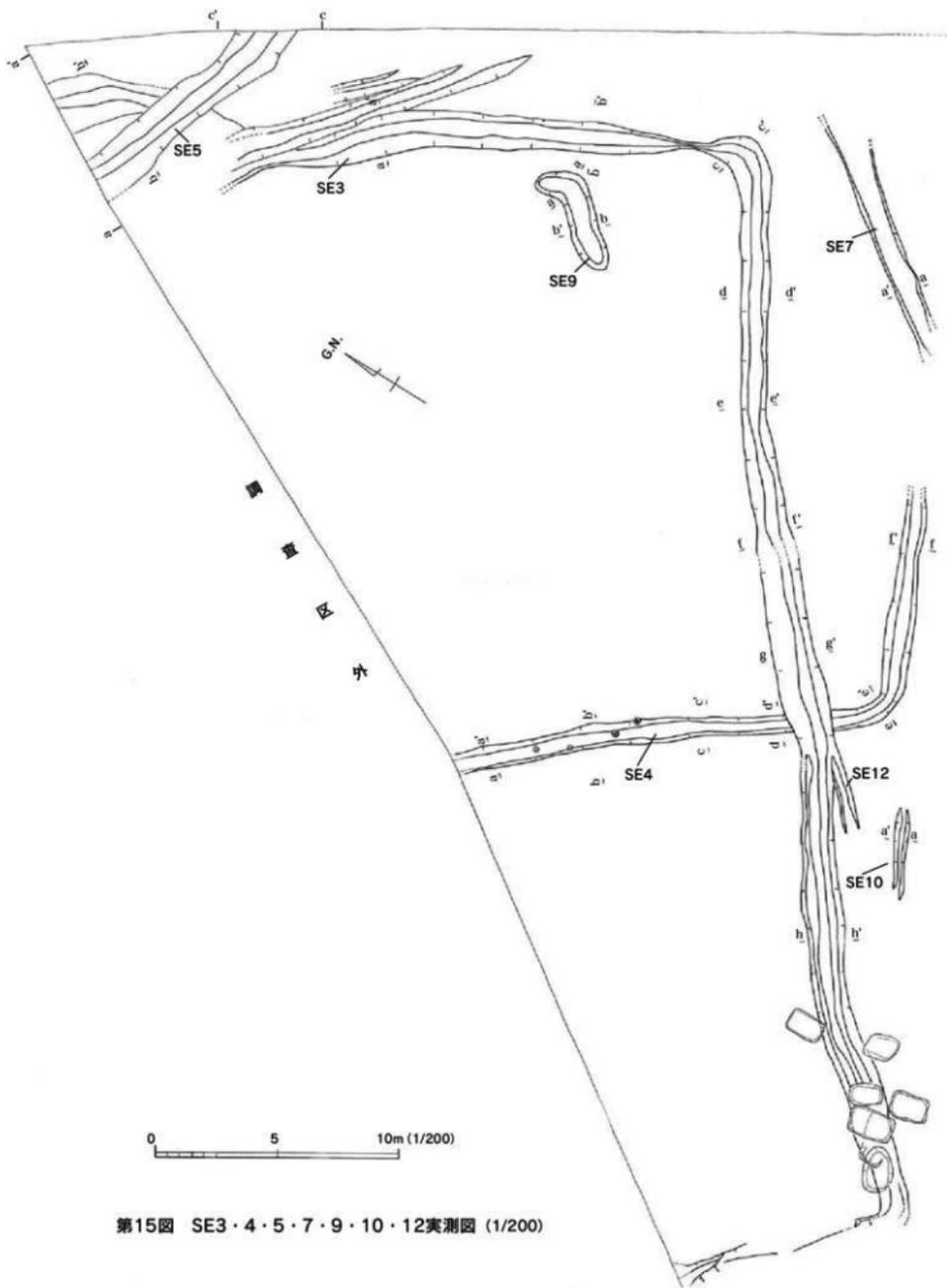
SE31もD区の北西から南東にかけて直線的に走っている。溝の北西側端はSE34に切られている上に、削平されて残存していない(第24図)。南東側はD区に隣接するE区北西壁にSE31の断面が確認できたが、その先は削平されて残存していない。断面形はU字形を呈する。

この溝は南側にある掘立柱建物跡、ピット群を囲むような形で位置しているため、「区画溝Ⅲ」とする。長さ30.9m、幅1.3～2.9m、深さ0.1～0.5mを測る。また南東壁側付近で硬化面を有するSE32・35に切られている。

埋土中からは中国産青磁(第72図120)、国産陶器(第72図121・123)、土器(第72図122)などの中世遺物のほか、近世の陶器片や砥石(第80図246)が出土している。これら出土遺物の内容や掘立柱建物跡と同一の主軸方位をとることから、近世の遺構と推定できる。

SE32・35 (第8・26図)

SE32は南西側からSE31を切って北東方向に緩やかに湾曲し、SC19・20(芋穴)に切れ、再度SE31を切る方向に走るが削平されて残存しない。SE35もSE32に沿うように走り、その先は削平され残存しない。いずれもSB14に切られている。



第15圖 SE3・4・5・7・9・10・12實測圖 (1/200)



a 118.7m

【土層注記】SE3-a

- ① 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 0.3m程の黄褐色・褐色のブロックが散在する。やや軟質
- ② 黒褐色粘質土 (10YR 3/1~2/1) 0.2~0.5cmの褐色のブロックが散在する。やや軟質
- ③ 黒褐色粘質土 (10YR 3/2) 0.1cm~0.5cmの黄褐色・褐色のブロックが散在する。軟質
- ④ 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 0.3~0.5cmの褐色のブロックが散在する。やや軟質。密に堆積
- ⑤ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.3~0.5cmの黄褐色・褐色のブロックが散在する。やや軟質、やや強い堆積
- ⑥ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1~4/1) 0.1cm前後の褐色粒が散在する。0.5cm程の黄褐色ブロックが散在する。軟質、強い堆積
- ⑦ 黒褐色粘質土 (2.5Y 4/1) 0.2mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ⑧ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/2) 0.1~0.5cmの褐色ブロックが散在する。やや軟質、強い堆積
- ⑨ 暗灰黄色粘質土 (5Y 4/1~3/1) 0.5~1cmの褐色のブロックが散在する。やや軟質、やや強い堆積



b 118.5m

【土層注記】SE3-b

- ① 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 1mm程の暗褐色粒・3mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ② 黒褐色粘質土 (10YR 3/1~2/1) 2mm程の褐色のブロック・4mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ③ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 2mm程の褐色・黄褐色 (5%) ブロックが散在する。やや硬質、やや強い堆積
- ④ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 2mm~4mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ⑤ 暗褐色粘質土 (2.5Y 4/2) 2mm~4mm程の褐色ブロックが散在する。軟質、やや強い堆積
- ⑥ 暗褐色粘質土 (2.5Y 4/2~4/3) 2mm~5mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質



c 118.5m

【土層注記】SE3-c

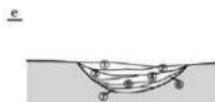
- ① 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 2mm程の褐色粒が散在する。やや軟質
- ② 黒褐色粘質土 (10YR 3/1~2/1) 2mm~3mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ③ 黒褐色粘質土 (10YR 3/2) 1mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ④ 黒褐色粘質土 (10YR 3/2) 1mm程の褐色のブロックが散在する。やや軟質。5mm程の暗褐色ブロックが散在する。
- ⑤ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1~4/1) 2mm程の褐色ブロックが散在する。強い堆積、やや軟質
- ⑥ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/1) 1mm程の褐色粒・暗褐色粒が散在する。2mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質



d 118.5m

【土層注記】SE3-d

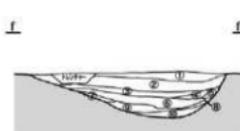
- ① 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 2mm程の暗褐色・黄褐色ブロックが散在する。やや硬質
- ② 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 2mm程の暗褐色・黄褐色ブロックが散在する。5mm程の黒色ブロックが散在する。やや硬質
- ③ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1~2/1) 2mm程の褐色ブロックが散在する。密に堆積、やや軟質
- ④ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/2~3/1) 2mm程の暗褐色ブロックが散在する。密に堆積、軟質
- ⑤ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1~2/1) 2mm程の褐色ブロックが散在する。密に堆積、やや軟質
- ⑥ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 2mm~5mm程の褐色ブロックが散在する。軟質、やや強い堆積
- ⑦ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/2) 3mm程の褐色ブロック・3mm程の黒色ブロックが散在する。上部片を含む。やや硬質、やや強い堆積
- ⑧ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/1~5/2) 1mm以下の褐色粒・3mm程の黒色ブロックが散在する。やや強い堆積、やや軟質



e 118.5m

【土層注記】SE3-e

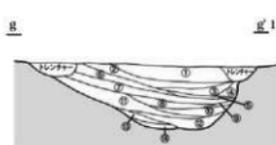
- ① 黒褐色粘質土 (10YR 3/1~2/1) 1mm程の黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ② 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 1mm~5mmの褐色粒が散在する。2mm程の褐色ブロックが散在する。やや硬質
- ③ 黒褐色粘質土 (2.5Y 2/1) 1mm程の黄褐色粒が散在する。軟質
- ④ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 5mm~10mmの褐色粒が散在する。褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ⑤ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 5mm程の暗褐色粒が散在する。褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ⑥ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/2~3/2) 3mm程の暗褐色粒が散在する。褐色ブロックが散在する。やや強い堆積、軟質
- ⑦ 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1~4/1) 5mm程の褐色ブロックが散在する。やや軟質、やや強い堆積、灰状を持つ



f 118.5m

【土層注記】SE3-f

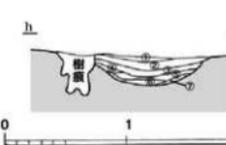
- ① 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 1mm~5mm程の明黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ② 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 2mm前後の明黄褐色粒が散在する。やや軟質。1~5cmの明黄褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ③ 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 3mm~10mm褐色ブロックが散在する。3mmの黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ④ 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 1mmの褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ⑤ 暗褐色粘質土 (10YR 4/4) 暗褐色粘質土が散在する。軟質
- ⑥ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 1mm~5mmの褐色・黄褐色粒が散在する。軟質
- ⑦ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2~3/1) 1mm~5mmの褐色・黄褐色粒が散在する。軟質
- ⑧ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2~3/1) 3mm程の褐色ブロックが散在する。軟質
- ⑨ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/2) 1mm~5mm程の褐色ブロック・3mm程の黒色ブロックが散在する。軟質
- ⑩ オリーブ褐色粘質土 (2.5Y 4/3) 2mm程の褐色・黒色ブロックが散在する。軟質、やや強い堆積



g 118.5m

【土層注記】SE3-g

- ① 黒褐色粘質土 (10YR 3/2) 1mm以上の明黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ② 黒褐色粘質土 (10YR 2/2~1/2/1) 1mm~10mmの明黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ③ 暗褐色粘質土 (2.5Y 4/2) 1mm以下の黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ④ 暗褐色粘質土 (2.5Y 4/2) 1mm以下の黄褐色粒が散在する。軟質
- ⑤ 暗褐色粘質土 (10YR 1/2/2) 1mm以下の明黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ⑥ 暗灰黄色粘質土 (2.5Y 4/2) 1mm~5mmの明黄褐色粒・5mm程の黒色ブロック・炭化物が散在する。やや軟質
- ⑦ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 1mm~5mmの明黄褐色粒・褐色粒が散在する。やや軟質
- ⑧ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 2mm~3mm程の黄褐色粒が散在する。やや軟質
- ⑨ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 1mm~5mmの明黄褐色粒が散在する。軟質
- ⑩ 暗褐色粘質土 (2.5Y 2/1) 1mm~5mmの明黄褐色粒が散在する。
- ⑪ オリーブ褐色粘質土 (2.5Y 3/3) 5mm程の褐色・明黄褐色ブロックが散在する。やや軟質
- ⑫ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 2mm~5mmの褐色ブロックが散在する。軟質
- ⑬ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1~4/1) 3mm~10mmの褐色ブロックが散在する。密に堆積、やや軟質
- ⑭ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1~4/1) 3mm~10mmの褐色ブロック・5mm程の黒色ブロックが散在する。やや硬質

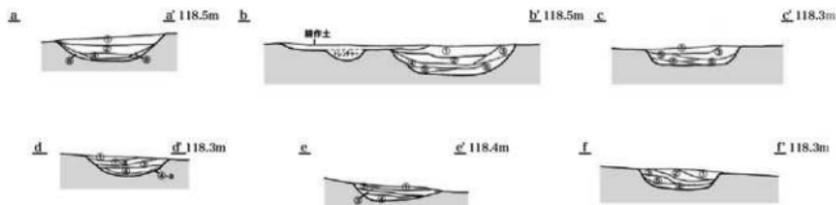


h 118.1m

【土層注記】SE3-h

- ① 暗褐色土 (10YR 2/3) しまり・粘状とともに非常に強い、1~37程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
- ② 暗褐色土 (10YR 2/3) しまり強く、粘状非常に強い、オリーブしている。①の層がややまった感じ、1~27程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
- ③ 暗褐色土 (10YR 2/2) しまり非常に強く、粘状強い、1~37程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
- ④ 暗褐色土 (10YR 2/2) しまり非常に強く、粘状強い、1~37程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
- ⑤ 暗褐色土 (10YR 2/2) しまり非常に強く、粘状強い、1~27程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
- ⑥ 暗褐色土 (10YR 2/2) しまり強く、粘状非常に強い、オリーブしている。1~37程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。
- ⑦ 暗褐色土 (10YR 2/2) しまり強く、粘状とともに非常に強い、1~37程度の明黄褐色の粒が多く含まれる。

第16図 SE3土層断面実測図 (S=1/40)



【土層表記】SE4-a・b・c・d

- ① 黒色粘質土 (10YR-2/1) きめ細かいが若干の砂粒を含む。粘性は低く、しまりも弱く、軟質である。
- ①-a 黒色粘質土 (10YR-2/1) きめ細かいが若干の砂粒を含む。①層と比べて土質が粘性は高い。
- ② 黒色粘質土 (10YR-2/1) ①層より粗い。ややきめの粗く、ボロボロしている。Ah層 (1mm~2mm) をごくわずかに含む。
- ③ 黒色粘質土 (10YR-2/1) きめが細かくサラサラしている。粘性は低く、しまりも弱い。
- ④ 黒色粘質土 (10YR-1.7/2) きめが粗いが、さらさらしている。土色は、やや黄色がかった。黒色 (10YR-2/1) を呈す。
- ⑤ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) Ah層 (1mm~2mm) を少量 (7%) 含む。きめが粗く、粘性は低い。よ、よしまっている。
- ⑥ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) Ah層をわずかに (3%) 含む。ややきめの粗く、粘性は低い。
- ⑦ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) ややきめが粗く、粘性を持つ。しまりは弱い。軟質である。底層と類似。
- ⑧ 黒褐色粘質土 (10YR-3/1) Ah層 (1mm~2mm) を少量 (7%) 含む。ややきめが粗く、粘性は低い。しまりが弱く柔らかい。
- ⑨ 黒褐色粘質土 (10YR-3/1) Ah層 (1mm) をわずかに (3%) 含む。きめは粗く、粘性は低い。

【土層表記】SE4-e

- ① 黒色粘質土 (7.5YR-2/1) やや軟質。シルトに近い。粘性やや強い。
- ② 黒色粘質土 (10YR-2/1) 1mm以下の黄褐色粒が混じる。やや軟質。シルトに近い。粘性やや強い。
- ③ 黒色粘質土 (10YR-4.7/1) 1mm以下の白色粒が混じる。軟質。シルトに近い。粘性やや強い。
- ④ 黒色粘質土 (10YR-4.7/1) ③に類似。やや軟質を帯びる。

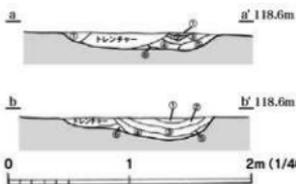
【土層表記】SE4-g

- ① 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 2mm以下の暗褐色の粒が入っており、一部泥状物が混ざっている。軟質である。
- ② 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 2mm以下の暗褐色土と黄褐色の粒が入っており、粘性がなく、きめが粗く軟質である。
- ③ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 2mm程度の暗褐色土と黄褐色の粒が入っており、粘性がなく、ややしまりがある。
- ④ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 1mm~7mm程度の黄褐色の粒が入っており、粘性がなく、しまりがある。
- ⑤ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 暗褐色土の土粒・黄褐色の粒が入っており、粘性があり、しまりがある。



【土層表記】SE7

- ① 黒色土 (10YR-2/1) きめが粗く粘性は低くしまりも弱く、硬さとボロボロと割れてしまう。
- ② 黒色土 (10YR-2/1) 1mm以下に黄褐色の土の粒が混ざっている。粘性は低く粒状が入っており、硬さとボロボロと割れてしまう。
- ③ 黒色土 (10YR-2/1) ①に黄褐色の土のブロックが少量混ざっている。硬さとボロボロと割れてしまう。
- ④ 黒色土 (10YR-2/1) 1mm程度以下の黄褐色土が混ざっている。



【土層表記】SE9-a

- ① 黒色粘質土 (10YR-2/1) 2cm程度の黄褐色土のブロックと暗褐色粒を含む。やや粘性があり、しまっている。
- ② 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 2mm~5mm程度の暗褐色粒を含む。やや粘性があり、しまっている。
- ③ 黒色粘質土 (10YR-2/1) 2mm程度の暗褐色粒を含む。粘性があり、軟質である。
- ④ 暗褐色粘質土 (2.5Y-2/1) 暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があるが、軟質である。
- ⑤ 黒色粘質土 (10YR-2/1) 2mm程度の暗褐色粒を含む。やや粘性があり、しまっている。
- ⑥ 黒色粘質土 (10YR-2/1) ①に黄褐色粒を含む。やや粘性があり、しまっている。

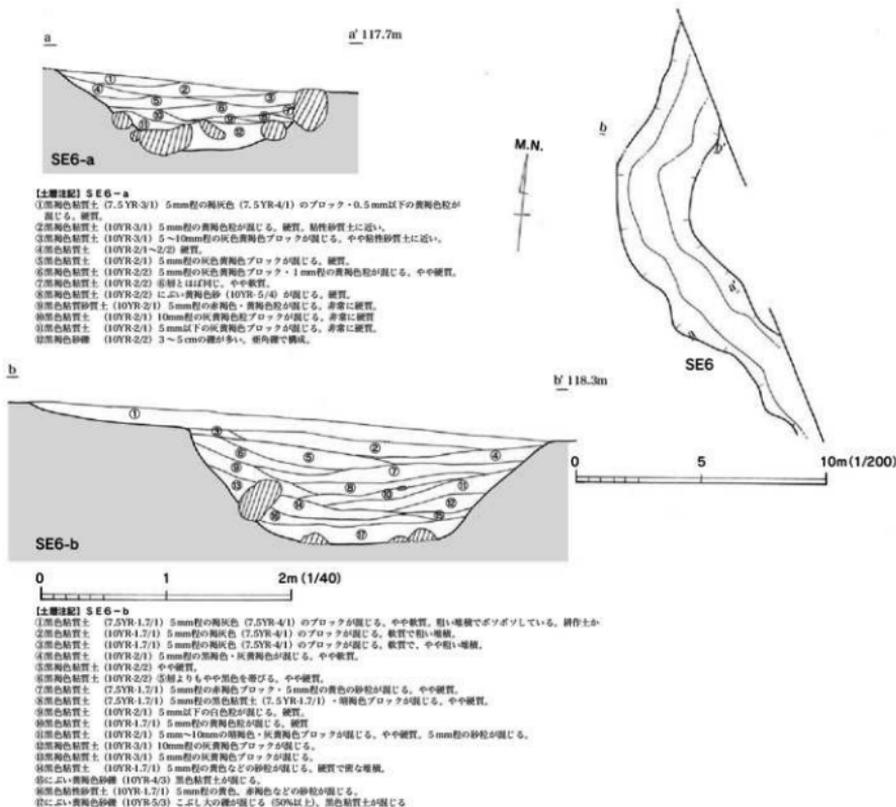
【土層表記】SE9-b

- ① 黒色粘質土 (10YR-2/1) 2mm程度の暗褐色粒を含む。やや粘性があり、しまっている。
- ② 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 2mm以下の暗褐色粒に黄褐色の粒を含む。粘性があり、よ、よしまっている。
- ③ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 2mm程度の暗褐色粒を含む。粘性があり、きめが粗く軟質である。
- ④ 黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があり、しまっている。
- ⑤ 暗褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があるが、軟質である。
- ⑥ 暗褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 暗褐色のブロックが含まれ、やや粘性があり、よ、よしまっている。

【土層表記】SE10

- ① 黒色粘質土 (2.5Y-2/1) 5mmの黄褐色ブロックが混じる。粘性が低くサラサラしている。やや軟質。
- ② 黒色粘質土 (2.5Y-2/1) ①層に類似。ややブロックが少ない。
- ③ 黒色粘質土 (2.5Y-2/1) 1mm以下の黄褐色粒が混じる。5mmの黄褐色ブロックが混じる。やや軟質。粘性が低く、サラサラしている。
- ④ 黒色粘質土 (2.5Y-2/1) ③層に類似。黄褐色粒が③層より多く、ブロックもやや多い。

第18図 SE4・7・9・10土層断面実測図 (S=1/40)



第19図 SE6実測図 (平面1/200、断面1/40)

S E 32には硬化面が認められ、非常に硬質で細砂が混じり多少ざらざらした感がある。道路状遺構の可能性もあると考えられる。第26図d-d'の図にあるように断面形はU字形を呈する。同図における①・②層はS E 32の埋土とも考えられるが、平面上で方向性が多少異なり硬化面を途中で分断した感があるため、S E 32とS E 35は別々の遺構と判断した。長さは約22mで、幅0.1m～0.3m、深さは最大で0.3mを測る。時期は不明である。

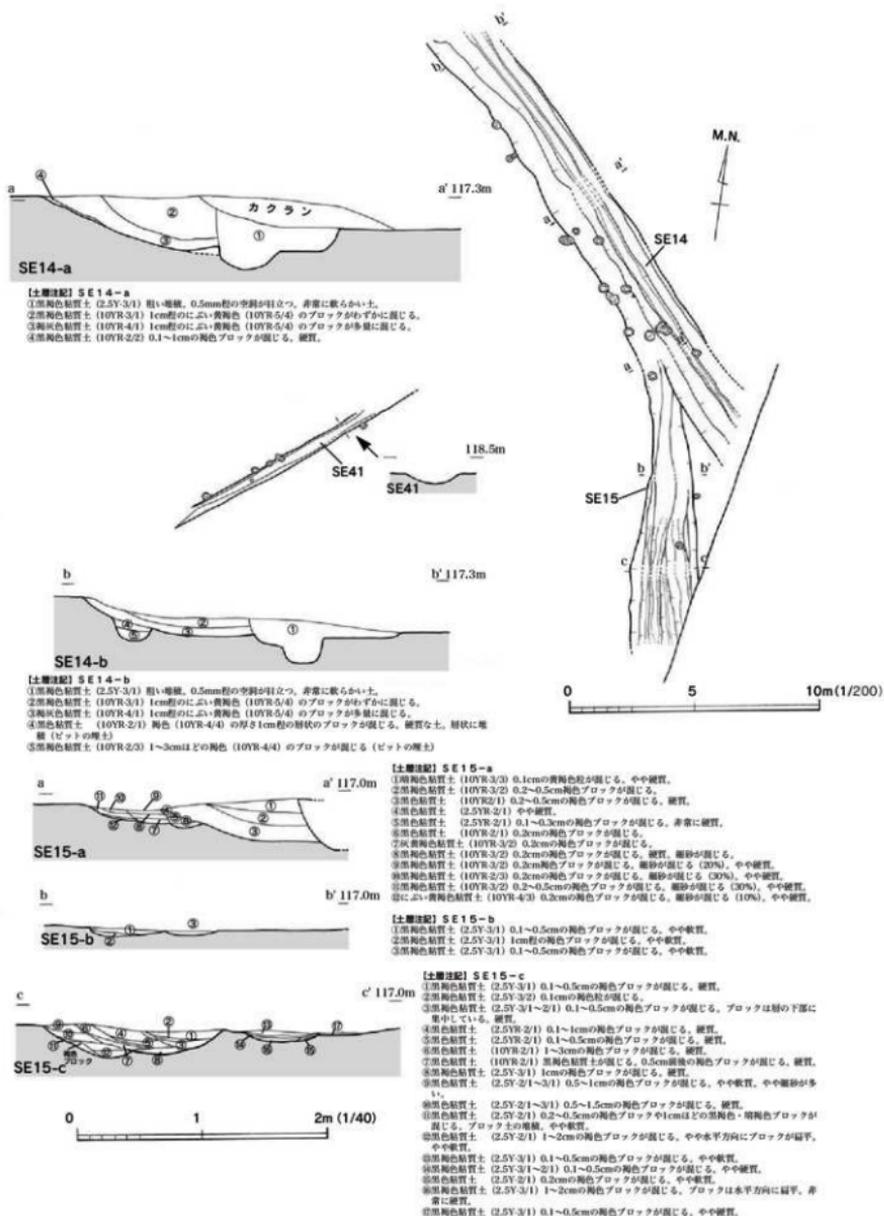
S E 33 (第8・23・25図)

S E 33はD区西半を北東から南西にかけて走って

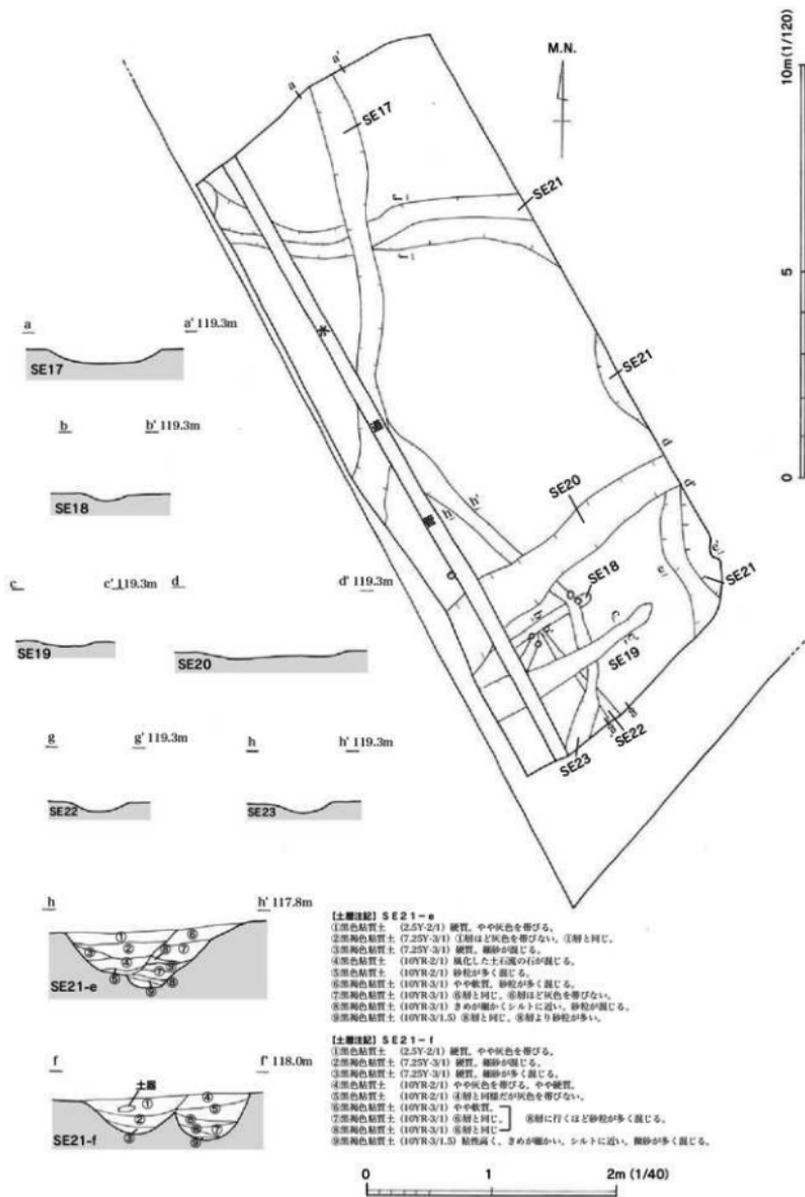
おり、北東端で南東方向に屈曲するが、その先は削平されて残存していない。長さは17.2m、最大幅1.1m、深さ0.4m、断面形はU字形を呈する。S C 25、S H36に切れ、S C 26・27・28を切っている。

さらに第25図に示したように硬化面を検出した。硬化面は長さ5.8m、最大幅0.4m、厚さは約3cmであった。道路状遺構の可能性がある。

時期を特定できる遺物は出土していない



第20図 SE14・15・41実測図 (平面1/200、断面1/40)



第21図 SE17・18・19・20・21・22・23実測図 (平面1/120、断面1/40)



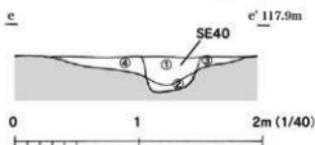
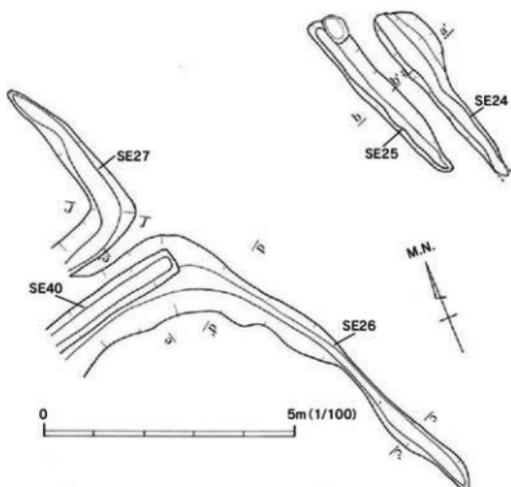
【土層表記】SE24

- ①黒色粘質土 (10YR-2/1) 黒色土の中に17以下の黄褐色 (10YR-5/6) の粒子を含み、やや粘性があり、しまりがある。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 黒褐色土の中に37以下の黄褐色 (10YR-5/6) のプロックを含み、やや粘性があり、しまりがある。
- ③黒褐色土 黒褐色土の中に黄褐色の粒子を含み、粘性なくやわらかい。



【土層表記】SE25

- ①黒色粘質土 (10YR-2/1) 黒色土の中に1mm以下の黄褐色 (10YR-5/6) の粒子を含み、やや粘性があり、しまりがある。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 黒色土の中に黄褐色のプロックと暗褐色土を含み、やや粘性があり、しまりがある。
- ③黒褐色土 (10YR-2/2) 黒褐色土の中に1mmの黄褐色の粒子を含み、やや粘性があり、しまりがある。



【土層表記】SE26・SE40

- ①黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 硬質で光沢がある。陶砂が少量混入する。
- ②黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.5~1cmの褐色 (10YR-4/6) プロックが混入。硬質で光沢がある。
- ③黒褐色粘質土 (2.5Y-3.5/1) 非常に硬質。0.5cm程度の褐色 (10YR-4/6) プロックが混入。酸化層に近い。硬質で光沢がある。
- ④黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1.5) 0.3~1cmの褐色 (10YR-4/6) プロックが混入。0.3cm程度の炭化物が少量混入。硬質で光沢がある。

【土層表記】SE27

- ①黒褐色粘質土 (2.5Y-3/2.5) 1~2cmの褐色 (10YR-4/6)・暗褐色 (10YR-3/4) のプロックが混入。硬質で光沢をもつ。
- ②黄褐色土 (2.5Y-3.5/1) 非常に硬質で酸化層に近い。まがらわかくシトに近い。

第22図 SE24・25・26・27・40実測図(平面1/100、断面1/40)

S E34・37 (第8・23・24図)

S E34・37はS E33に並行するように走っており、北東端はS E31を切っているがその先は削平されて残存していない。南西端はS E30に切られているほか、S C32・33(芋穴)にも切られている。またS E34はS E37に切られている。

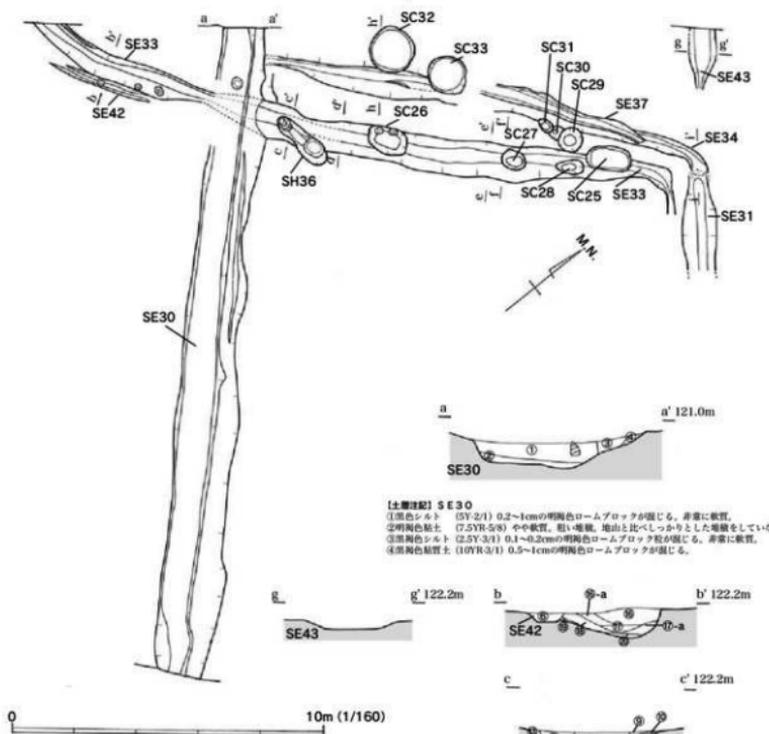
S E37の断面形は箱形を呈している。S E34は長さ約10m、最大幅0.9m、深さは0.1mを測り、一方のS E37は長さ6.3m、最大幅0.4m、深さは0.1mである。

S E37から近世後半の陶磁器類が出土した。近世の遺構と推定される。

S E40 (第7・22図)

S E40はS E26と同様にC区南西壁にかかるように検出されたが、S E26を切っている。北東方向に走るが、壁から長さ5.5mで取束している。最大幅1.3m、深さは0.1mを測る。

A区のS E20に続く可能性もある。



【土層記載】 SE30

- ① オリーブ黒色土 (2.5Y 3/1) 0.2~0.5cmの暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。粘性弱く、バラバラしている。硬質。若い堆積。
- ② 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 0.1~0.3cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性強い、やや硬質。
- ③ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.2~1cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質、粘性弱く、バラバラしている。若いロームブロックの堆積。
- ④ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1~0.5cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質、粘性強い、やや若い堆積。
- ⑤ 暗褐色粘質土 (2.5Y 4/1) 0.1~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質、粘性やや弱い。
- ⑥ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。粘性強い、硬質。
- ⑦ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 0.1~0.2cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性弱く、バラバラしている。やや硬質。腐葉が多く混じり、ザラザラしている。
- ⑧ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1.5) 0.2~1cmの暗褐色ロームブロックが混じる。やや軟質、粘性やや弱い。
- ⑨ 暗褐色粘質土 (1.25Y 3/2) 0.2cm程度の暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。腐葉が多く混じり、ザラザラしている。
- ⑩ 暗褐色粘質土 (10YR 3.5/2) 0.1~0.2cmの暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。厚さ0.2cmの腐葉が面状に堆積(腐葉代) 腐葉が非常に多く混じり、ジャリジャリしている。砂質土に近い。
- ⑪ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3.5/2) 0.2~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。硬質、粘性強い、やや若い堆積。
- ⑫ 暗褐色粘質土 (10YR 2/2) 0.2~0.4cmの暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。
- ⑬ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1.5) 0.1~0.5cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い、腐葉が多く混じり、ザラザラしている。
- ⑭ 赤褐色粘質土 (2.5Y 2.5/1) 0.1~0.3cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性強い、硬質。きのの腐葉がシトに近い。
- ⑮ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3.5/2) 0.3~1cmの明褐色ロームブロックが混じる。0.5cm程度の黒色土ブロックが混じる。やや硬質、粘性強い。
- ⑯ 赤褐色粘質土 (2.5Y 2.5/1) 0.1~0.3cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。
- ⑰ 赤褐色粘質土 (2.5Y 2.5/1) 赤土比ブロックの腐葉が多い。
- ⑱ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1~0.3cmの暗褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。腐葉がやや多く混じる。
- ⑳ a 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 腐葉に比べやや赤色を帯びる。
- ㉑ 赤褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 0.1~0.2cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。
- ㉒ 赤褐色粘質土 (2.5Y 4/1) 0.2~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性高い。
- ㉓ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3.5/2) 0.2~0.5cmの暗褐色ロームブロックが混じる。0.5cm以上の黒色土ブロックが混じる。やや硬質、粘性強い。

【土層記載】 SE33

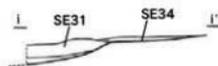
- ① オリーブ黒色土 (2.5Y 3/1) 0.2~0.5cmの暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。粘性弱く、バラバラしている。硬質。若い堆積。
- ② 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 0.1~0.3cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性強い、やや硬質。
- ③ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.2~1cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質、粘性弱く、バラバラしている。若いロームブロックの堆積。
- ④ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1~0.5cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質、粘性強い、やや若い堆積。
- ⑤ 暗褐色粘質土 (2.5Y 4/1) 0.1~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質、粘性やや弱い。
- ⑥ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。粘性強い、硬質。
- ⑦ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 0.1~0.2cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性弱く、バラバラしている。やや硬質。腐葉が多く混じり、ザラザラしている。
- ⑧ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1.5) 0.2~1cmの暗褐色ロームブロックが混じる。やや軟質、粘性やや弱い。
- ⑨ 暗褐色粘質土 (1.25Y 3/2) 0.2cm程度の暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。腐葉が多く混じり、ザラザラしている。
- ⑩ 暗褐色粘質土 (10YR 3.5/2) 0.1~0.2cmの暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。厚さ0.2cmの腐葉が面状に堆積(腐葉代) 腐葉が非常に多く混じり、ジャリジャリしている。砂質土に近い。
- ⑪ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3.5/2) 0.2~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。硬質、粘性強い、やや若い堆積。
- ⑫ 暗褐色粘質土 (10YR 2/2) 0.2~0.4cmの暗褐色~明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。
- ⑬ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1.5) 0.1~0.5cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い、腐葉が多く混じり、ザラザラしている。
- ⑭ 赤褐色粘質土 (2.5Y 2.5/1) 0.1~0.3cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性強い、硬質。きのの腐葉がシトに近い。
- ⑮ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3.5/2) 0.3~1cmの明褐色ロームブロックが混じる。0.5cm程度の黒色土ブロックが混じる。やや硬質、粘性強い。
- ⑯ 赤褐色粘質土 (2.5Y 2.5/1) 0.1~0.3cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。
- ⑰ 赤褐色粘質土 (2.5Y 2.5/1) 赤土比ブロックの腐葉が多い。
- ⑱ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1~0.3cmの暗褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。腐葉がやや多く混じる。
- ⑳ a 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 腐葉に比べやや赤色を帯びる。
- ㉑ 赤褐色粘質土 (2.5Y 3/2) 0.1~0.2cmの暗褐色ローム~明褐色ロームブロックが混じる。粘性やや弱い。
- ㉒ 赤褐色粘質土 (2.5Y 4/1) 0.2~0.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性高い。
- ㉓ 暗褐色粘質土 (2.5Y 3.5/2) 0.2~0.5cmの暗褐色ロームブロックが混じる。0.5cm以上の黒色土ブロックが混じる。やや硬質、粘性強い。

第23図 SE30・31・33・36・37・42・43実測図①(平面1/160、断面1/40)



【土層注記】SE34・37、S C32の切り出し

- ①黒褐色粘質土 (2.5Y-3.5/1) 0.2m程の明褐色ロームブロックが混じる。やや軟質、粘性強い、やや灰色がかり灰色を帯びる。
- ②黒褐色粘質土 (2.5Y-3/2) 0.1cmの明褐色ロームが混じる。やや軟質、やや粗く層状し、ボロボロしている。
- ③黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1) 0.1cm程の明褐色ロームブロックが混じる。きめがやや細かい。やや軟質。
- ④黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 0.1~1.5cmの明褐色ロームブロックが混じる。軟質。

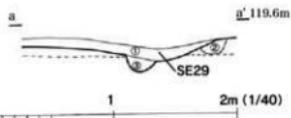
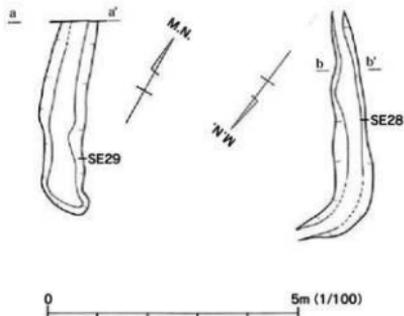
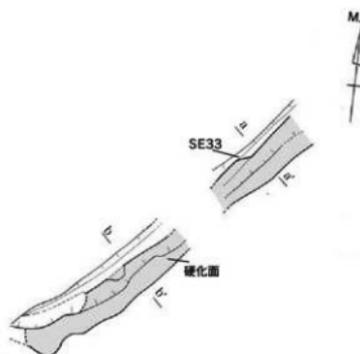


【土層注記】SE31・34の切り出し

- ①黒褐色粘質土 (10YR-3/2.5) 0.2~0.3mの明褐色ロームブロックが混じる。硬質。
- ②黒褐色粘質土 (10SYR-2/2) 0.2~0.3cmの明褐色ローム・アカネヤブブロックが混じる。硬質。裏な体積。
- ③明褐色粘質土 (10SYR-3/4) 0.2~0.3cmの明褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。やや粘性が高い。



第24図 SE30・31・33・36・37・42・43実測図② (1/40)



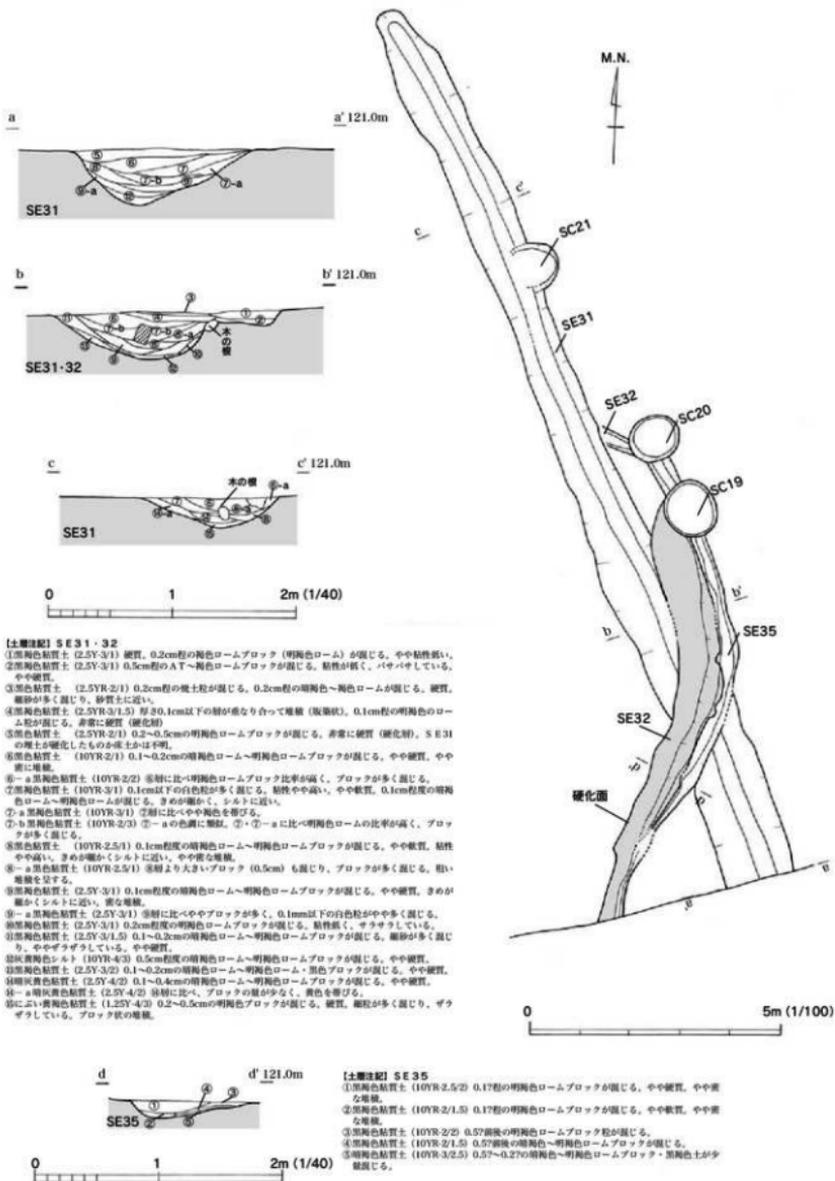
【土層注記】SE28

- ①黒褐色粘質土 (2.5Y-2/1) 0.2程のアカネヤブブロックが混じる。硬質。やや粘性強い、やや灰色を帯びる。

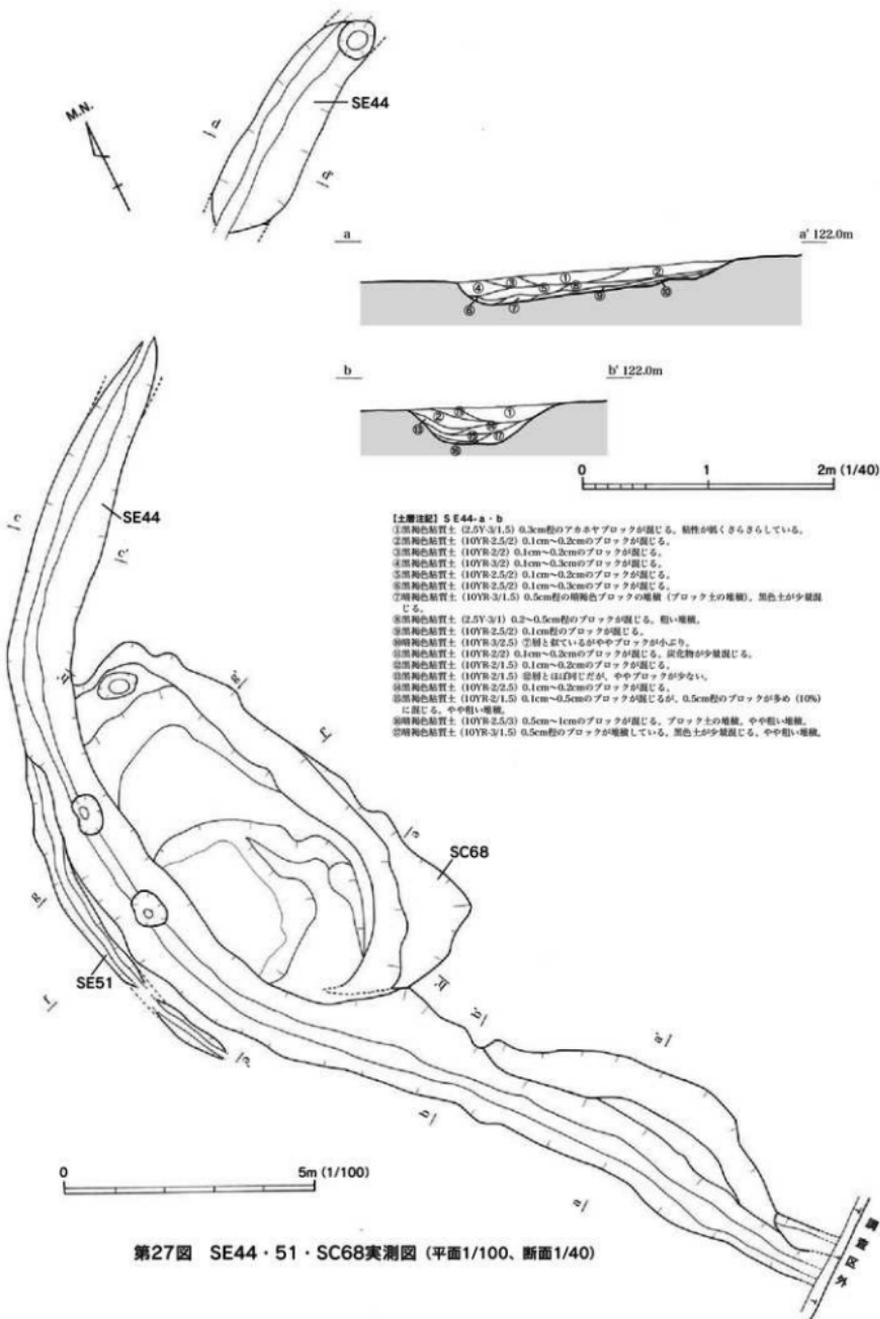
【土層注記】SE29

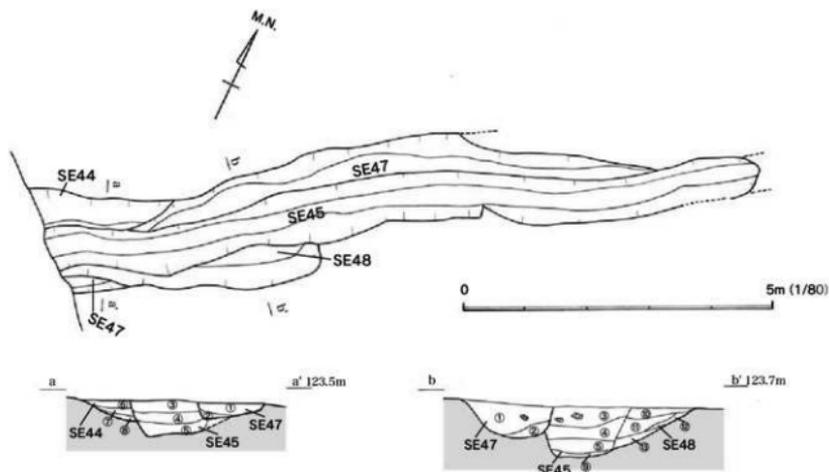
- ①黒褐色粘質土 (2.5Y-3/1.5) 粘性強く、バラバラしている。やや硬質。0.5cm程のアカネヤブブロックが混じる。
- ②黒褐色粘質土 (2.5Y-2/1) 粘性強く、バラバラしている。やや軟質。0.1~0.5cm程のアカネヤブブロックが混じる。
- ③黒褐色粘質土 (10YR-2/1) やや硬質。やや粗い塊。M30に記しているが、ややボロボロした感がある。

第25図 SE33硬化面・SE28・29実測図 (平面1/100、断面1/40)



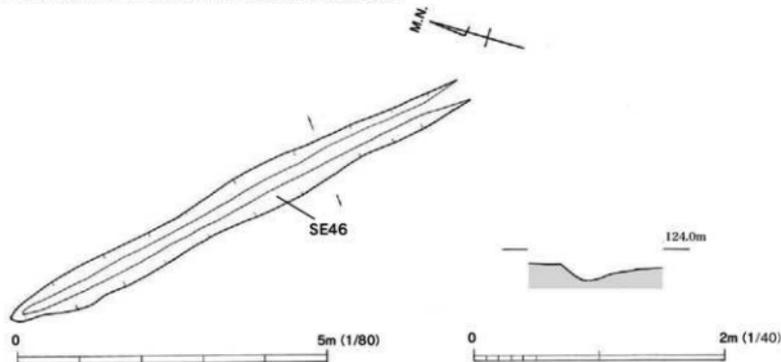
第26図 SE31・32・35実測図 (平面1/100、断面1/40)





【土質注記】 S E44・45・47・48

- ①黒褐色粘質土 (1.25Y 3/1) 0.1~0.3cmのブロックが散在。サラサラした土。
- ②黒褐色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.2~0.3cmのブロックが散在。軟質。ややきめが細かい土。
- ③黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1.5) 0.2~0.5cmのブロックが散在。ゴツゴツした土。やや強い塊状。
- ④黒褐色粘質土 (10YR 2.5/2) 0.3~1 cmのブロックが散在。
- ⑤黒褐色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.1~0.2cmのブロックが散在。ややきめが細かく、やや粘性が高い。
- ⑥黒褐色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.1~0.2cmのブロックが散在。
- ⑦黒褐色粘質土 (10YR 3.5/2) 0.2~0.5cmのブロックが散在。やや軟質。
- ⑧黒褐色粘質土 (10YR 3.5/2) 0.2~0.3cmのブロックが散在。やや軟質。やや強い塊状。
- ※に濃い黄褐色粘質土 (10YR 4/3) 1 cm程度のA Yブロックが散在 (30%)。細粒であるA Yが黒色と混ざりかた
ような土。
- ※黒褐色粘質土 (1.25Y 3/1) 0.1~0.3cmのブロックが散在。やや硬質。
- ※黒褐色粘質土 (10YR 2/2) 0.1~0.2cmのブロックが散在。
- ※黒褐色粘質土 (10YR 2.1/2) 0.1cm程度のブロックが散在。
- ※灰黄褐色粘質土 (10YR 3.5/2) 0.1cm以下のA Yなどの泥が多量に混在。サラサラした土。
- ※暗オリーブ褐色粘質土 (2.5Y 3/3) 底に泥が溜ったようなものが塊状。薪木の炭を取り残し。近現代のものである。



第28図 SE44・45・46・47・48実測図 (平面1/80、断面1/40)

c 122.3m



d 122.0m



〔土質調査〕 S.E44-c

- ① 深部砂質土： (10YR 2.5/1) 0.2~0.5mmのフロックが混じる。細粒、やや粘り強い。硬塊。
- ② 深部粘質土： (10YR 2.5/1) 0.2~0.3mmのフロックが混じる。
- ③ 深部粘質土： (10YR 2/3) 0.2~0.3mmのフロックが混じる。
- ④ 深部粘質土： (10YR 2/3) 0.2~0.3mmのフロックが混じる。やや粘り強い。硬塊。
- ⑤ 深部粘質土： (10YR 2/1) 0.2~0.5mmのフロックが混じる。
- ⑥ 深部粘質土： (2.5Y 3/1.5) 0.2~1mmのフロックが混じる。やや粘り強い。硬塊。
- ⑦ 深部粘質土： (2.5Y 3/1.5) 0.2~1mmのフロックが混じる。やや粘り強い。硬塊。
- ⑧ 深部粘質土： (2.5Y 3/2.5) 0.2~0.5mmのフロックが混じる。やや粘り強い。硬塊。

〔土質調査〕 S.E44-d

- ① 深部粘質土： (10YR 2/1) 0.2~0.5mmのフロックが混じる。粘りが強く、やや粘り強い。硬塊。
- ② 深部粘質土： (10YR 2/1.5) 0.1~0.3mmのフロックが混じる。硬塊が多く混じる。
- ③ 深部粘質土： (10YR 2/2.5) 0.1~0.3mmのフロックが混じる。
- ④ 深部粘質土： (2.5Y 3/2) 0.2~0.3mmのフロックが混じる。
- ⑤ 深部粘質土： (10YR 2.5/2) 0.2~0.3mmのフロックが混じる。
- ⑥ 深部粘質土： (10YR 3.5/2) 粗粒も混入しているが、強粘土のフロックが少量混入している。

e 122.0m



f



g



0 2m (1/40)

第29図 SE44・SC68土層断面実測図 (1/40)

SE41 (第6・20図)

SE41はA区の南東隅に広がる掘立柱建物跡、ピット群の中央部に位置している。長さは約11mで北東から南西に走っているが、両端とも削平されて残存しない。最大幅は0.6m、深さは0.1mの小さな溝である。ただしSB7の南辺に平行していることから、何らかの関係があるとも考えられる。

時期は不明である。

SE42 (第8・23図)

D区西縁のSE33が調査区北西壁にかかる付近に並行して走る溝状遺構で、SE33をわずかに切っており。断面はU字形を呈し、両端は削平されて残存していない。長さが3.5m、最大幅0.3m、深さ0.1mである。

出土遺物はない。時期は不明である。

SE43 (第8・23図)

D区の北西壁から南東に向かって検出された。断面は浅い皿形を呈し、長さは1.6m、最大幅0.6m、深さ0.3mを測る。位置関係から見てSE31と同一遺構の可能性もあったが、埋土の状況が異なっておりつながらないと思われる。

出土遺物はない。時期は不明である。

SE44 (第8・27・28・29図)

D区南西壁から北西に向けて走り、壁から約12mのところから緩やかに北東方向に曲がり、途中2箇所の削平を受けて途切れてはいるが北東方向に延びている。D区北東端付近では大きく削平を受けるとともにSE45に切られて消滅するが、一部削平されている部分も含めると検出全長は約48mにおよぶ。北東部分で削平を受けていなければ、さらに延びて区画的な様相を呈していたのではないかと推定できるため、「区画溝IV」としておく。

南東方向へは、町道を挟んでE区のSE50に続く可能性もあり、さらに区画的な意味合いがある溝の可能性が高まる。

また北西から北東方向に曲がる付近にSE44に付随したのではないかと考えられる土坑(SC68)が

ある。

SE44からは、旧石器時代の剥片(第10図5)、縄文時代の石錘(第10図15)、弥生時代から古墳時代の土器(第12図59・60)、中世の中国産青磁(第72図124)、国産陶器(第72図125・126)、土器(第72図127～129)のほか、銭貨「皇宋通寶」(第76図199)、砥石(第79図238・240)、茶臼(第81図255)、火打石(第82図263・268・275・278・280)など多数の遺物が出土している。

出土遺物の内容や出土状況から中世の遺構と推定される。

SE45 (第8・28図)

SE45はSE44・48を切りSE47に切られる。長さは12.5m、深さは0.4m、幅は切り合いにより不明である。断面はU字形を呈する。

弥生土器(第12図61)、磨石(第78図233)、砥石(第79図245)が出土しているが、時期は不明である。

SE46 (第8・28図)

D区東半の北東寄りに位置している。北西から南東に向けて走っており、断面は皿形を呈する。両端は削平されて残存しない。長さは8.2m、最大幅0.8m、深さ0.1mである。

近世後半の陶磁器が出土しており、近世の遺構ではないかと推定される。

SE47(第8・28図)

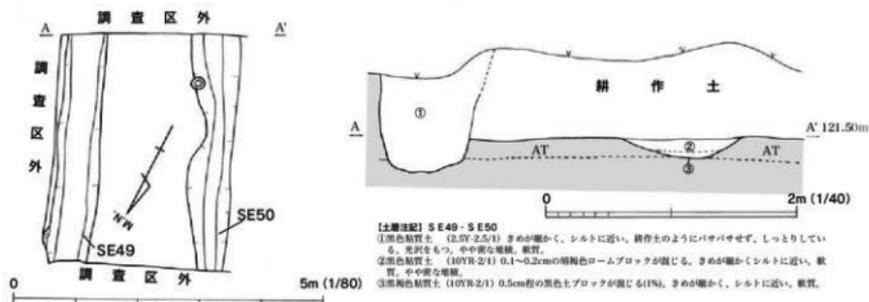
D区北東部に位置し、長さ9.8m、深さ0.4m、幅は切り合い関係により不明である。断面はU字形を呈する。

中世の土器(第72図130)が出土しているが、時期は不明である。

SE48(第8・28図)

D区北東部に位置し、長さは4.2m、深さは0.3m幅および断面形は不明瞭である。

時期は不明である。



第31図 SE49・50実測図 (平面1/80、断面1/40)

S E 49 (第9・31図)

E区の北東隅にわずかにかかる。北西から南東に向けて走っており、位置的に見てD区のS E 44に続く可能性がある。断面はU字形を呈する。長さ3.6m、最大幅0.7m、深さ0.3mを測る。

遺物は中世の中国産青磁と近世後半の磁器片が出土しているが、S E 44との関連から中世の溝という可能性もある。

S E 50 (第9・31図)

E区の北東隅に位置し、S E 49と並行するように北西から南東に走る。位置的に見てD区のS E 44に続く可能性がS E 49よりも高い。断面はU字形を呈する。長さ3.8m、最大幅0.8m、深さ0.2mを測る。

出土遺物はないが、S E 44との関係を考慮すると中世の溝状遺構の可能性が高い。

S E 51 (第8・27図)

S E 51はS E 44が北西から北東方向へと緩やかに曲がる所に沿うように検出された。南東側は削平されて残存しない。北東方向はS E 44と重なっているが、切り合い関係は明らかではない。長さは7.3m、最大幅は0.5m、深さは0.1mを測る。

出土遺物はない。S E 44との関連性を考慮すると中世の溝状遺構の可能性がある。

なおS E 36・38・39は欠番である。

②掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は22棟検出した。平面図については、実際に切り合う遺構や土坑については表現せずに、掘立柱建物跡を構成する柱穴のみ図化している。

各建物は主軸方位が西に23°～50°振れる一群と、東に32°～60°振れる一群とに大別される。

つまりほとんどの建物の主軸が、北から東ないし西へ45°近く斜行していることになるが、本文中の記述では便宜的に「北東」を基準として「東西棟」・「南北棟」の区別を行っている。

柱穴からは土師器や陶磁器の小片・銭貨・毛抜きなど、中世から近世にかけての遺物が出土しており、建物の帰属時期は中世以降と考えられる。溝状遺構との関連で見ると、区画溝によって囲まれた中に位置するものが多い。

遺構の計測値などについては別表（第5表）にまとめている。なお本文中の計測値には平均値で示したものがあ

SB1（第6・32図）

A区北部で検出した建物跡で、区画溝Ⅱ（SE3）内の北東側に位置している。梁間1間（3.0m）、桁行3間（6.1m）の東西棟で、梁間柱間は3.0m、桁行柱間は1.5～2.4mである。

柱穴掘方は長径平均39cm、短径平均32cmの楕円形を呈している。9基の柱穴で柱痕跡が確認できたが、その直径は10～12cm、柱痕跡による心々距離は2.1～3.0mであった。

主軸はN-23°-Wで、身舎面積は18.8㎡を測る。区画溝Ⅱとほぼ同一の主軸方位をとるため、中世後期の建物ではないかと思われる。

中世土師器皿(第73図144)がP1（ビット・以下同じ）から出土した。

SB2（第6・33図）

A区北西部にSB2・3・4が重複して検出された。その中でもSB2が最大で、区画溝Ⅱに並行して建つ南北棟である。梁間2間（4.0m）、桁行3間（7.0m）である。梁間柱間は1.8～2.2m、桁行柱間は1.9～3.2mである。

柱穴掘方は長径平均46cm、短径平均38cmの楕円形を呈しているものが多い。

主軸はN-50°-Eで、身舎面積は28.4㎡を測り区画溝Ⅱの中では最大のものである。

ビットから中国産青磁片が出土している。中世後期の建物と推定される。

SB3（第6・34図）

A区北西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅱ内の西側に位置している。梁間2間（3.0m）、桁行2間（4.3m）の東西棟である。梁間柱間は2.0～3.2m、桁行柱間は2.1～2.2mである。柱穴掘方は長径平均27cm、短径平均23cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-34°-Wで、身舎の面積は12.9㎡を測る。SB2・4と重複している。

時期は不明である。

SB4（第6・35図）

A区北西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅱ内の西側に位置している。梁間1間（3.3m）、桁行2間（3.5m）を検出したが、さらに北西へ延びる可能性がある。梁行柱間は3.3m、桁行柱間は1.7～1.8mである。柱穴掘方は長径28cm、短径平均24cmでほぼ円形を呈している。

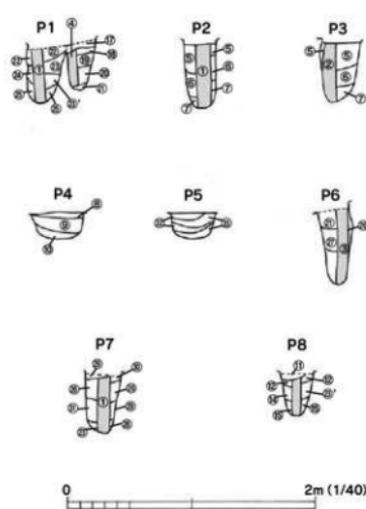
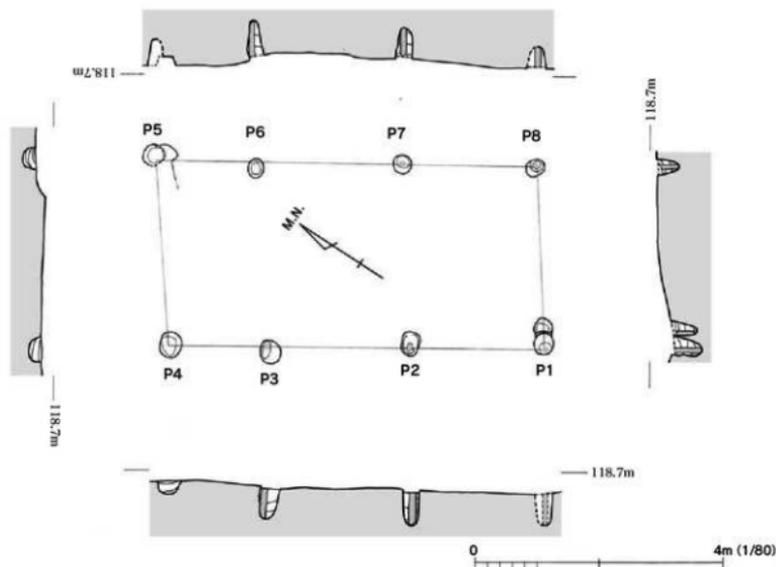
主軸はN-36°-Wで、身舎の面積は検出部分で17.2㎡を測る。SB2・3と重複する。

出土した土師器片をみると、SB4が新しいのではないと思われる。

SB5（第6・36図）

A区南部で検出した建物跡で、区画溝Ⅰ（SE1）内の南西寄りに位置している。梁間1間（1.5m）、桁行3間（6.3m）の南北棟である。梁間柱間は1.4～1.5m、桁行柱間は2.0～2.2mである。柱穴掘方は長径平均33cm、短径平均28cmのほぼ円形を呈している。

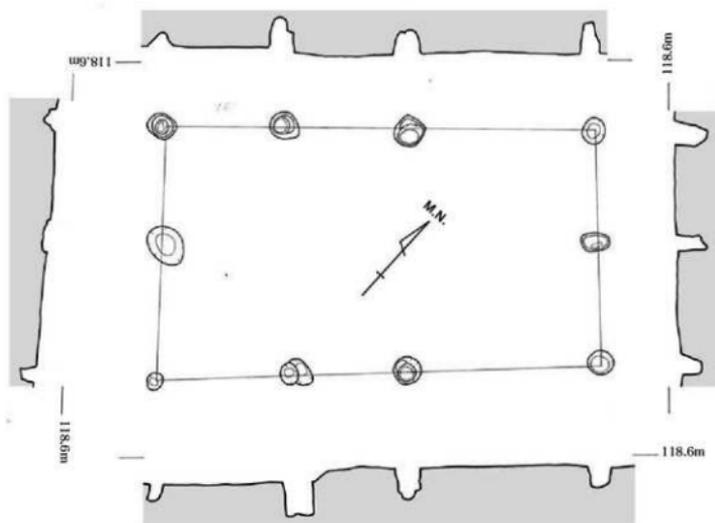
主軸はN-57°-Eで、身舎面積は9.1㎡を測る。時期は不明である。



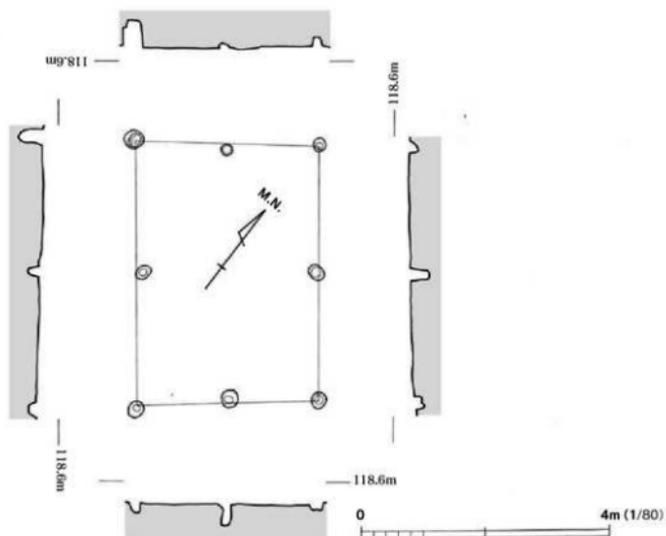
〔土層記号〕 SB1

- ① 黒色粘質土 (10YR 2/1) 0.2cm前後の明褐色ブロックや1cm前後の褐色ブロックが散じる。非常に軟質。ブロックは柱状によって量の多少あり。
- ② 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1~2/1) 0.5cm前後の褐色・黒灰色ブロックが散じる。やや軟質。
- ③ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1~2/1) 0.5cm前後の褐色・黒灰色ブロックが散じる。やや軟質。
- ④ 黒色粘質土 (10YR 2/1~3/1) 1cm前後の褐色・明褐色ブロックが散じる。軟質。やや粘り強い。
- ⑤ 黒色粘質土 (10YR 2/1) 1cm~5cmの褐色・明褐色ブロックが散じる (50%以上)。
- ⑥ 黒褐色粘質土 (10YR 3/1) 1cm前後の褐色ブロックが散じる。やや硬質。
- ⑦ 黒色粘質土 (10YR 2/2) 0.5cm前後の褐色ブロックが散じる。やや硬質。
- ⑧ 黒褐色粘質土 (10YR 3/2~3/1) 0.5cm前後の褐色・黄褐色・黒灰色ブロックが散じる。やや硬質。
- ⑨ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1) 0.5cm~1cmの褐色・黄褐色ブロックが散じる。やや硬質。
- ⑩ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1) 1cm前後の褐色ブロックが散じる (50%以上)。やや硬質。ブロック状に堆積。
- ⑪ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.2cm前後の褐色・黒灰色ブロックが散じる。硬質。
- ⑫ 黄褐色粘質土 (10YR 3/2) 0.2cm~0.5cmの褐色ブロックが散じる。硬質。
- ⑬ 黄褐色粘質土 (10YR 3/2) 母粒とはほぼ同じ。ブロックがやや多い。
- ⑭ 黄褐色粘質土 (10YR 3/2~3/1) 1cm前後の褐色ブロックが散じる (30%)。0.5cm前後の褐色ブロックが散じる (20%)。0.5cm前後の黄褐色ブロックが散じる。やや硬質。
- ⑮ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1~2/1) 0.5cm以下の褐色ブロックが散じる。やや硬質。
- ⑯ 黄褐色粘質土 (10YR 2/2) 1~2cmの褐色・黒灰色ブロックが散じる (40%)。やや硬質。
- ⑰ 黄褐色粘質土 (10YR 3/2~2/2) 1cm前後の褐色ブロックが散じる。やや硬質に堆積。やや軟質。
- ⑱ 黄褐色粘質土 (10YR 3/2~2/2) 常に堆積。やや硬質。
- ⑲ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1) 1cm前後の褐色ブロックが散じる。
- ⑳ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1) 0.1cm前後の黄褐色・黄褐色が散じる。
- ㉑ 黄褐色粘質土 (10YR 2/2~2/1) 0.1cm前後の黄褐色が散じる。1cm前後の褐色ブロックが散じる。軟質。やや粘り強い。
- ㉒ 黄褐色粘質土 (10Y 3/1~3/2) 0.5cm前後の黄褐色・黄褐色ブロックが散じる。やや硬質。
- ㉓ ブロックが23より少ない (10%)。
- ㉔ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1~3/2) 2cm~3cmの褐色ブロックが散じる (40%)。やや硬質。
- ㉕ 黒色粘質土 (10YR 2/1) 0.5cm~1cmの褐色・黄褐色のブロックが散じる。やや硬質。やや粘り強い。
- ㉖ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1~2/1) 0.5cm~1cmの褐色・黄褐色のブロックが散じる。やや硬質。
- ㉗ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1) 0.5cm~2cmの褐色・黄褐色のブロックが散じる。やや粘り強い。
- ㉘ 黄褐色粘質土 (10YR 2/1~3/1) 0.5cm前後の褐色がブロックが散じる。やや硬質。
- ㉙ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1~2/1) 0.2~0.4cm程度の褐色・黒灰色ブロックが散じる。やや軟質。やや粘り強い。
- ㉚ 黄褐色粘質土 (10YR 3/1~2/1) 1cm程度の褐色・黒灰色ブロックが散じる (30%)。軟質。
- ㉛ 黒色粘質土 (10YR 2/1~3/1) 0.5cm程度の褐色・黒灰色ブロックが散じる。やや硬質。
- ㉜ 黄褐色粘質土 (2.5Y 3/1~4/1) 1cm程度の褐色・黒灰色ブロックが散じる (50%以上)。やや硬質。
- ㉝ 黒色粘質土 (10YR 2/1) 0.5~1cmの褐色ブロックが散じる。やや硬質。やや粘り強い。

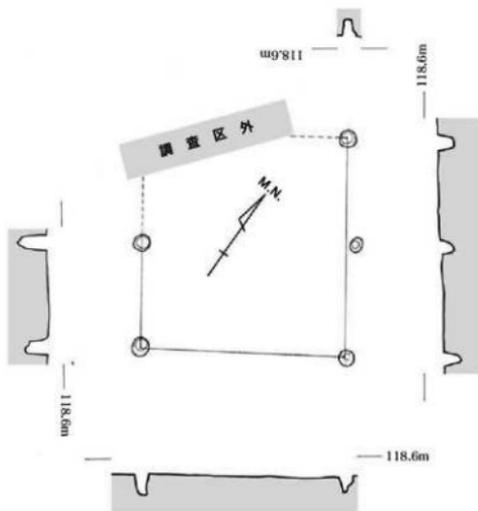
第32図 SB1実測図 (1/80) 及び柱状土層断面図 (1/40)



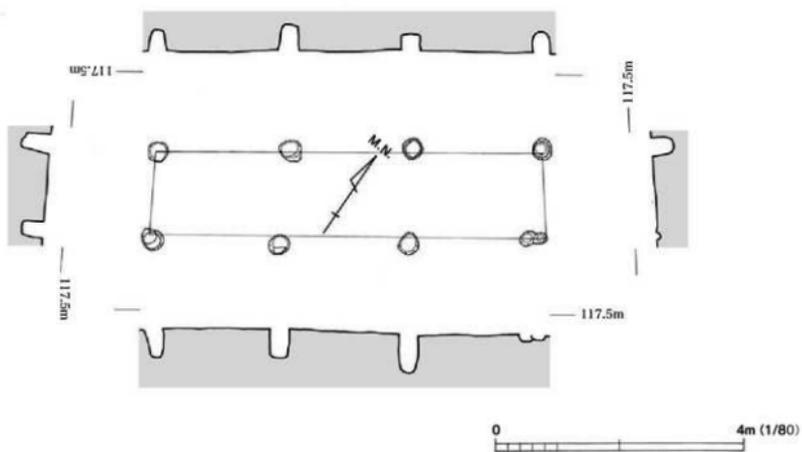
第33图 SB2实测图 (平面·断面1/80)



第34图 SB3实测图 (平面·断面1/80)



第35図 SB4実測図 (平面・断面1/80)



第36図 SB5実測図 (平面・断面1/80)

SB6 (第6・37図)

A区南部で検出した建物跡で、区画溝I内の南西側に位置している。梁間2間(4.0m)、桁行3間(6.0m)の南北棟である。梁間柱間は2.0~4.0m、桁行柱間は1.9~2.1mである。柱穴掘方は長径平均34cm、短径平均30cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-60°-E、身舎面積は24.0㎡を測る。

現代の偶溝やSE14との切り合い関係の中で検出できなかった柱穴があるものと思われる。

時期は不明である。

SB7 (第6・38図)

A区南部で検出した建物跡で、区画溝I内の南西側に位置している。梁間3間(5.0m)、桁行4間(6.0m)の東西棟である。梁間柱間は0.9~2.0m、桁行柱間は2.0mである。柱穴掘方は長径平均36cm、短径平均30cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られ、その直径は15~20cm、柱痕跡による心々距離は1.5~2.1mであった。

主軸はN-28°-Wで、身舎面積は30.0㎡を測る。

区画溝I内の掘立柱建物跡では最大である。

出土遺物から近世の建物と思われる。

SB8 (第7・39図)

C区南部で検出した建物跡で、調査区の南端に位置している。梁間2間(4.2m)、桁行1間+ α (2.0m+ α)の建物跡であるが、調査区外の道路下に延びていると思われる。梁間柱間2.0~2.2mで、柱穴掘方は長径平均42cm、短径平均39cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-86°-Eで、身舎面積は8.4㎡を測る。時期は不明である。

SB9 (第7・40図)

C区南西部で検出した建物跡である。梁間1間(4.0m)、桁行3間(7.3m)の南北棟である。梁間柱間は3.8~4.2m、桁行柱間は2.0~2.6mである。柱穴掘方は長径平均33cm、短径平均29cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-41°-Eで、身舎面積は29.0㎡を測る。

近世の道路状遺構(SG1)の東側に接するように位置している。

土師器の口縁部片がP5とP7からそれぞれ1点出土している。

SB10 (第7・41図)

C区中央部で検出した建物跡で、梁間1間(2.5m)、桁行2間(3.2m)の南北棟である。梁行柱間は2.5m、桁行柱間は1.5~1.7mである。柱穴掘方は長径平均31cm、短径平均26cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-52°-Eで、身舎面積は7.9㎡と小規模である。

SB11 (第7・42図)

C区中央部で検出した建物跡で、SG1・2の東側に位置している。梁間1間(5.3m)、桁行4間(8.2m)の東西棟である。梁間柱間は5.3m、桁行柱間は2.0~2.1mである。柱穴掘方は長径平均37cm、短径平均32cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-41°Wで、身舎面積は43.2㎡を測り、C区最大の建物跡である。SB12と重複しているが新旧関係・時期ともに不明である。

SB12 (第7・43図)

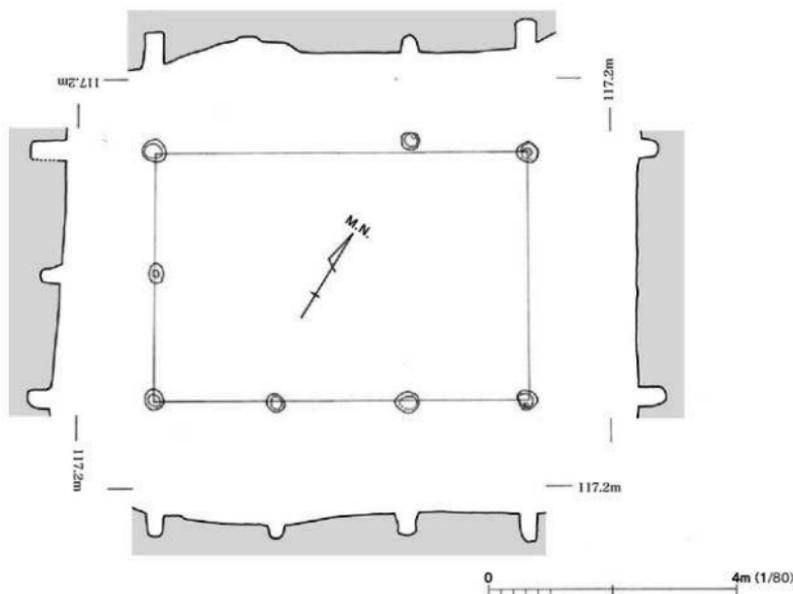
C区中央部で検出した建物跡で、SB11と重なりあい、SG1・2の東側に位置している。梁間1間(3.8m)、桁行2間(3.8m)の南北棟である。梁間柱間は1.9m、桁行柱間は3.8~3.9mである。柱穴掘方は長径平均32cm、短径平均30cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-40°-Wで、身舎面積は14.6㎡を測る。時期は不明である。

SB13 (第7・44図)

C区北部で検出した建物跡で、土坑(SC65)を一部切る場所に位置する。検出当初は調査区外に延びる可能性も想定していたが、四次調査の結果延びないことが判明した。

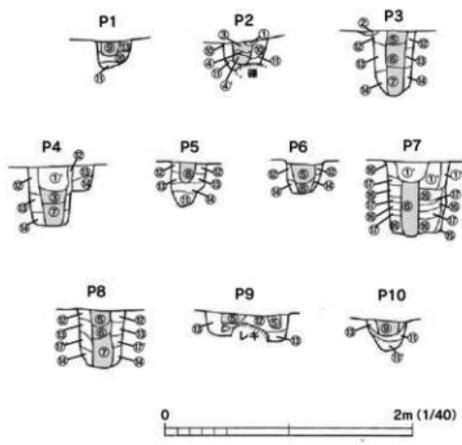
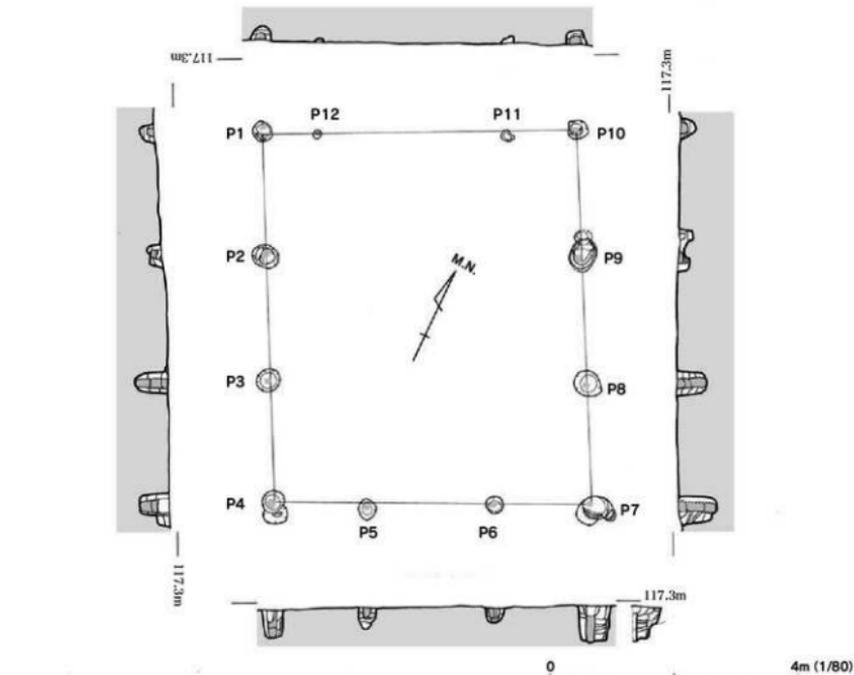
梁間1間(3.1m)、桁行2間(3.8m)の南北棟で、



第37図 SB6実測図(平面・断面1/80)

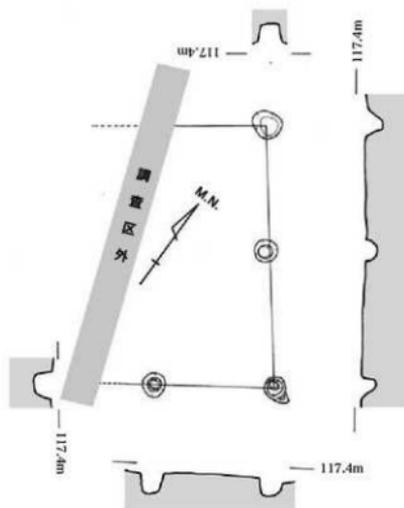
遺構名	区	主軸方位	建物の種別	規模	桁行実長 (m)	桁行柱間 (m)	梁間実長 (m)	梁間柱間 (m)	柱穴径 (cm)	柱穴深 (cm)	床面積 (㎡)
SB 1	A区	N23°W	側柱建物	3間×1間	6~6.2	1.5~2.4	3.0~3.1	3.0	28~55	10~48	18.8
SB 2	A区	N50°E	側柱建物	3間×2間	7.0~7.2	1.9~3.2	3.9~4.1	1.8~2.2	24~70	22~52	28.4
SB 3	A区	N34°W	側柱建物	2間×2間	4.2~4.4	2.1~2.2	3.0	2.0~3.2	20~32	12~40	12.9
SB 4	A区	N36°W	側柱建物	2間+α×1間	1.7~3.5	1.7~1.8	3.3	3.3	24~30	20~45	17.2+α
SB 5	A区	N57°E	側柱建物	3間×1間	6.2~6.4	2.0~2.2	1.4~1.5	1.4~1.5	18~38	8~64	9.1
SB 6	A区	N60°E	側柱建物	3間×2間	6.0	1.9~2.1	4.0	2.0~4.0	22~40	22~58	24.0
SB 7	A区	N28°W	側柱建物	4間×3間	6.0	2.0	4.9~5.1	0.9~2.0	12~54	10~60	30.0
SB 8	C区	N86°E	側柱建物	1間+α×2間	2.0+α	2.0	4.2	2.0~2.2	34~50	20~33	8.4+α
SB 9	C区	N41°E	側柱建物	3間×1間	7.2~7.3	2.0~2.6	3.8~4.2	2.4~4.0	24~40	20~80	29.0
SB 10	C区	N52°E	側柱建物	2間×1間	3.1~3.2	1.5~1.7	2.5	2.5	20~34	20~50	7.9
SB 11	C区	N41°W	側柱建物	4間×1間	8.1~8.2	2.0~2.1	5.3	5.3	30~48	36~52	43.2
SB 12	C区	N40°W	側柱建物	2間×1間	3.8	3.8~3.9	3.8	1.9	24~36	27~48	14.6
SB 13	C区	N50°E	側柱建物	2間×1間	3.7~3.8	1.8~1.9	3.1	3.1	23~50	4~51	11.6
SB 14	D区	N45°W	側柱建物	4間×2間	7.3	1.1~2.1	5~5.2	2.5~2.6	24~60	42~92	37.2
SB 15	D区	N43°E	側柱建物	2間×1間	6.5~6.7	3.5~3.6	3.6	3.6	34~36	50~82	23.8
SB 16	D区	N45°W	側柱建物	1間+α×1間	2.1+α	1.9~2.1	5.2	5.2	40~60	40~64	10.9+α
SB 17	D区	N55°E	側柱建物	3間×1間	6.1	1.9~2.1	4.9	4.9	30~50	33~48	23.8
SB 18	D区	N53°E	側柱建物	2間×1間	4.1~4.2	2.0~2.1	2.6~2.7	2.6~2.7	28~40	18~72	11.0
SB 19	E区	N45°W	側柱建物	3間×2間	7.2	2.3~2.5	4.0	1.7~2.3	30~50	47~99	28.8
SB 20	E区	N32°E	側柱建物	2間×1間	4.0~4.1	1.6~2.4	2.2	2.2	20~34	30~99	9.1
SB 21	E区	N50°W	側柱建物	2間×2間	5.9~6.0	2.0~3.9	5.0~5.1	2.0~3.1	32~60	60~99	30.0
SB 22	A区	N30°W	側柱建物	3間×1間	3.0	0.9~1.2	1.7~1.9	1.7~1.9	10~14	11~32	5.4

第5表 掘立柱建物跡一覧表

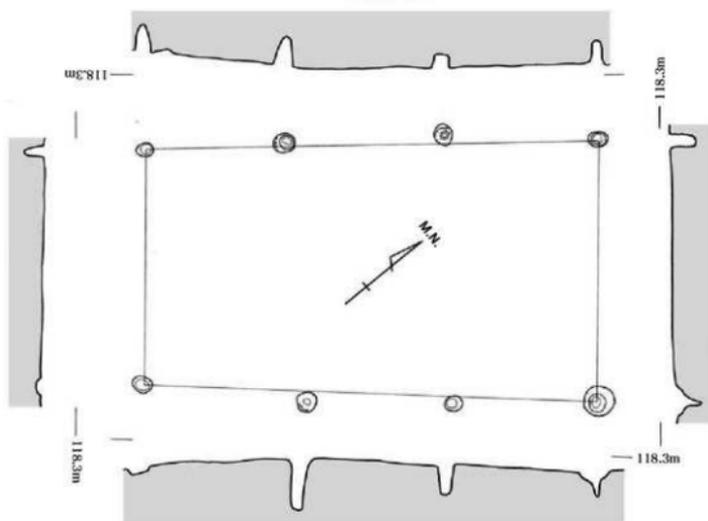


- 【土層追記】SB7**
- ① 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 中や厚色がかる。Ah段 (5mm以下) にぶい黄褐色土の粒を少量含む。しまっているが粘粒は多く入りやすくシャリシャリしている。
 - ② 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) ①とはほぼ同じだが、Ah中地の粒は含まないがごくわずかである。
 - ③ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) ~ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) を含む。Ah・Eにぶい黄褐色土粒 (2mm~3mm) をわずかに含む。まめ細かくしまっている。粘性は低くサラサラしている。
 - ④ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) ~ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) ③粒と同様・Ah粒などをより多く含む。中や粘性をもつがしまりはなく柔らかい。若干砂粒を含み中やまめが細かい。
 - ⑤ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) ~ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) ③粒よりさらに柔らかい。また、Ah粒などの含みは少ない。
 - ⑥ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 黒褐色土を呈し、褐色ブロック (1mm~2mm) を少量含む。まめが細かく、中や粘性をもつ。比較的しまっている。
 - ⑦ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 黒色土に褐色ブロック (3mm~4mm) を含む。中やまめが粗く、粘性がありしまっている。
 - ⑧ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) ~ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) を含む。中や粘性をもつがしまりがなく、まめが粗くしまっている。中やまめが粗い。
 - ⑨ 黒褐色粘質土 (10YR-2/3) 黒褐色にAh中褐色ブロック (1cm~3cm) を多く含む。中やまめが粗く、粘性が強いが比較的柔らかくしまっている。
 - ⑩ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 黒色を呈す。ブロックの含みは全くなく、まめが粗く、粘性が高い。上部は比較的しまっているが下部は柔らかい。
 - ⑪ 黒褐色粘質土 (10YR-2/3) 黒褐色にAh粒 (2cm以下) や褐色粒、黒色土粒 (2mm) などを含む。中やまめが粗く、粘性は高い。比較的しまっている。
 - ⑫ 黒褐色粘質土 (10YR-2/3) 黒褐色に暗褐色粘質土を含む。粘性が強く、粘性もさらさらしている。黄褐色粘質土 (10YR-2/1) 黒褐色土を呈し、褐色の粒 (1mm~2mm) を少量含む。まめが粗く、粘性が低くしまっている。シャリシャリ感あり。
 - ⑬ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 黒色を呈す。粘粒よりも褐色粒が少なく、また柔らかい。シャリシャリ感なし。
 - ⑭ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 黒色を呈す。まめが粗く、柔らかい。中や粘性をもつ。
 - ⑮ 黒褐色粘質土 (10YR-2/3~2) 黒褐色を呈す。黒褐色に油の土 (ぶい黄褐色~褐色) が混ざり込んだような土である。まめは中や粗く、粘性があり柔らかくぼろぼろしている。
 - ⑯ 黒褐色粘質土 (10YR-4/4) 褐色を呈す。まめが粗く粘性があり、よくしまっており、硬い。
 - ⑰ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 黒褐色を呈す。粘粒と同様にAh粒などを含む。粘性もさらさらしている。
 - ⑱ 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 黒褐色にAhブロックを多く含む。まめが粗く、中や粘性をもつ。中やまめが粗い。

第38図 SB7実測図 (1/80) 及び 柱穴土層断面図 (1/40)

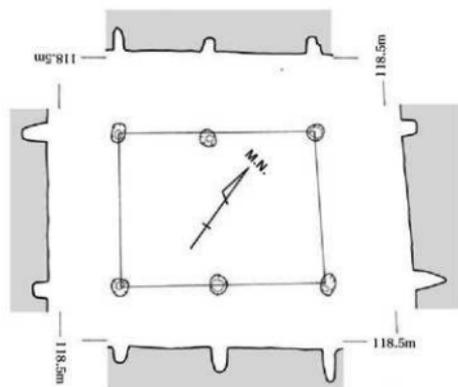


第39图 SB8実測図 (平面・断面1/80)

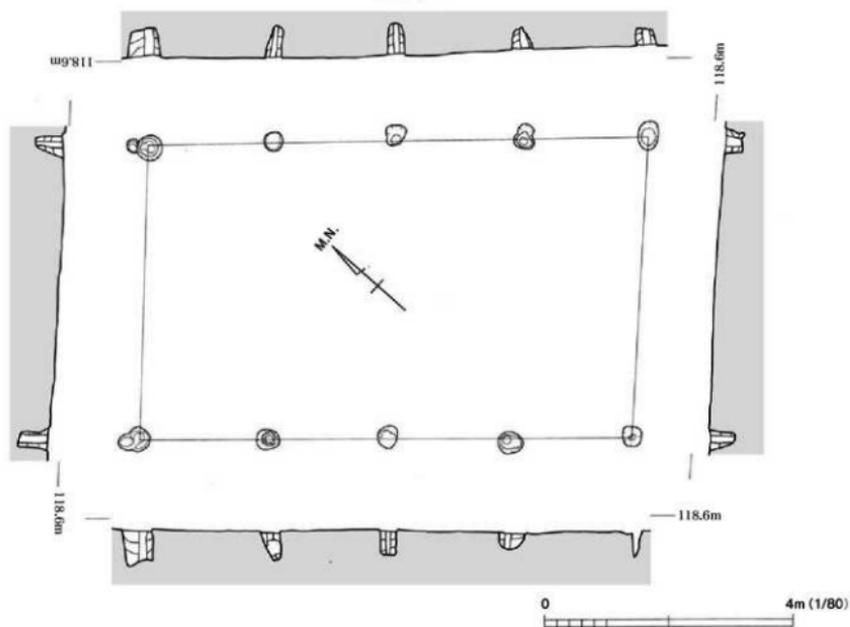


第40图 SB9実測図 (平面・断面1/80)

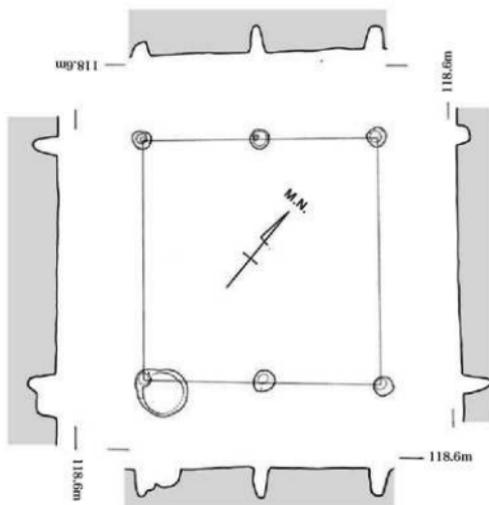




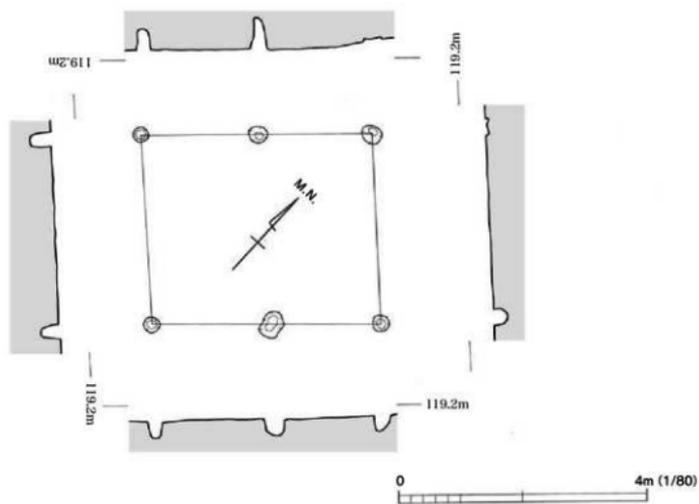
第41图 SB10实测图 (平面·断面1/80)



第42图 SB11实测图 (平面·断面1/80)



第43図 SB12実測図 (平面・断面1/80)



第44図 SB13実測図 (平面・断面1/80)

梁間柱間は3.1m、桁行柱間は1.8～1.9mである。柱穴掘方は長径平均32cm、短径平均27cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-50°-Eで、身舎面積は11.6㎡を測る。時期は不明である。

SB14 (第8・45図)

D区南西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅲ(SE31)内の北東縁に位置し、柱穴の一つがSE32・35を切っている。

梁間2間(5.1m)、桁行4間(7.3m)の東西棟で、梁間柱間は2.5～2.6m、桁行柱間は1.1～2.1mである。柱穴掘方は長径平均43cm、短径平均35cmの楕円形を呈している。柱痕跡がはっきり残っている柱穴が多い。柱痕跡の直径は15～29cmで、その心々距離は2.4～3.5mであった。また柱の根元部分を粘土等で固めた形跡を土層断面から伺うことができる。

主軸はN-45°-Wで、身舎面積は37.2㎡を測り、D区の中では最大である。

P1からは石臼の破片が2点(第81図258・259)と近世後半の陶器片1点、P2からは「寛永通寶」1枚(第76図194)とキセルの吸口1点(第76図203)、P3からは「寛永通寶」2枚(第76図195ほか)・キセルの吸口1点(第76図204)・近世後半の磁器片1点、P4からは27枚もの「寛永通寶」(第76図196～198、第77図212～218ほか)、P8から「寛永通寶」1枚と陶器片1点が出土した。この銭貨は地鎮の意味合いが濃いのではないと思われる。

近世後半の建物跡と判断される。

SB15 (第8・46図)

D区南西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅲ内の北西隅に位置している。梁間1間(3.6m)、桁行2間(6.6m)の南北棟で、梁間柱間は3.6m、桁行柱間は3.5～3.6mである。柱穴掘方は長径平均50cm、短径平均44cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られたが、その直径は12～20cm、心々距離は2.1～3.0mであった。SB14同様柱が腐りやすい部

分に粘土を巻いて立てたのではないと思われる。

主軸はN-43°-Eで、身舎面積は23.8㎡を測る。P2から鉄片1点、近世後半の陶器片1点、P5から鉄片2点が出土している。

SB16 (第8・47図)

D区南西部で検出した建物跡で、区画溝Ⅲ内の東側に位置している。梁間1間(5.2m)、桁行1間(2.1m)を検出したが、さらに南西方向へ延びる可能性が高い。梁間柱間は5.2m、桁行柱間は1.9～2.1mである。柱穴掘方は長径平均50cm、短径平均44cmのほぼ円形を呈し、柱痕跡が見られた。

主軸はN-45°-Wで、身舎面積は10.9㎡を測る。P2から近世陶器1点(第73図143)、毛抜き1点(第76図205)などが出土した。近世の建物跡と考えられる。

SB17 (第8・48図)

D区中央部で検出した建物跡で、区画溝Ⅳ(SE44)内の南西側に位置している。梁間1間(4.9m)、桁行3間(6.1m)の南北棟である。梁間柱間は4.9m、桁行柱間は1.9～2.1mである。柱穴掘方は長径平均39cm、短径平均36cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られたが、その直径は16～18cmで、心々距離は1.9～4.8mであった。

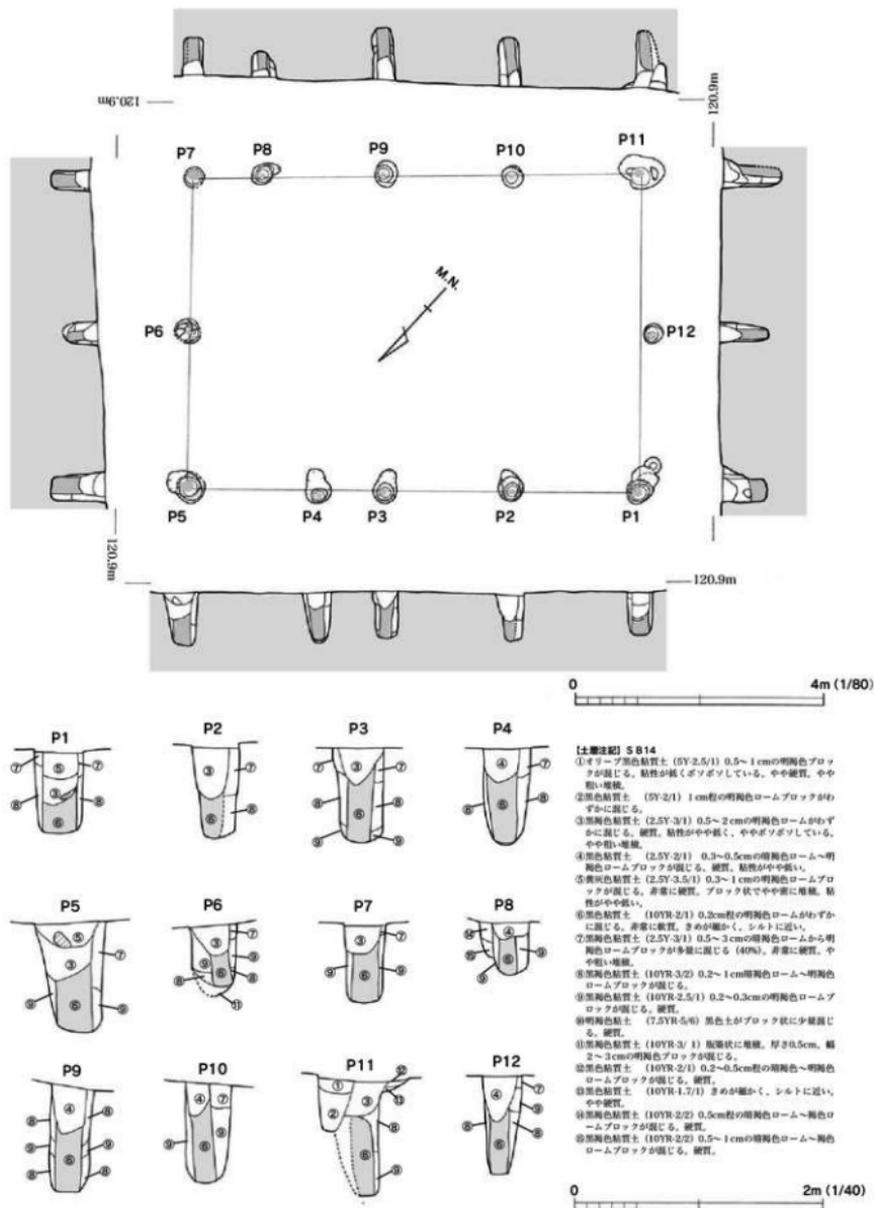
主軸はN-55°-Eで、身舎面積は23.8㎡を測る。SB18と重複する。

SB18 (第8・49図)

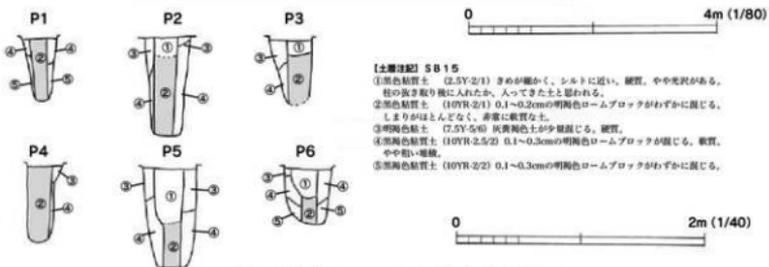
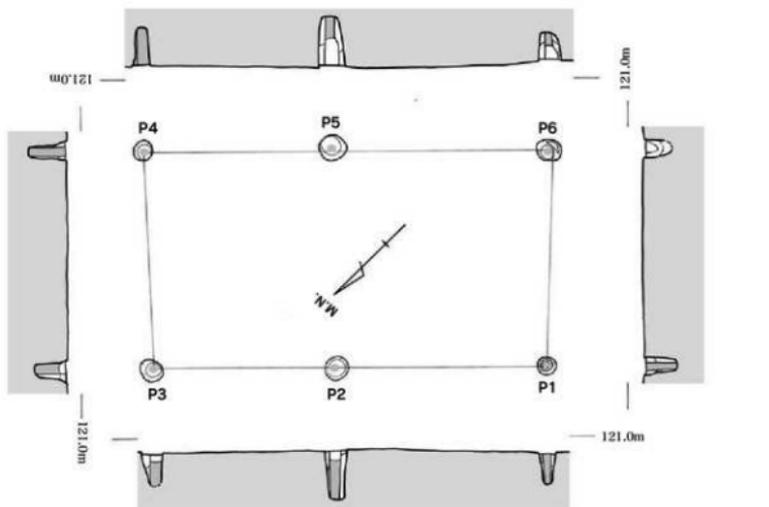
D区中央部で検出した建物跡で、区画溝Ⅳ内の南西側に位置している。梁間1間(2.7m)、桁行2間(4.2m)の南北棟である。梁間柱間は2.6～2.7m、桁行柱間は2.0～2.1mである。柱穴掘方は長径平均36cm、短径平均32cmのほぼ円形を呈している。柱痕跡が見られたが、その直径は11～15cmで、心々距離は2.0～2.8mであった。

主軸はN-53°-Eで、身舎面積は11.0㎡を測る。SB17と重複する。

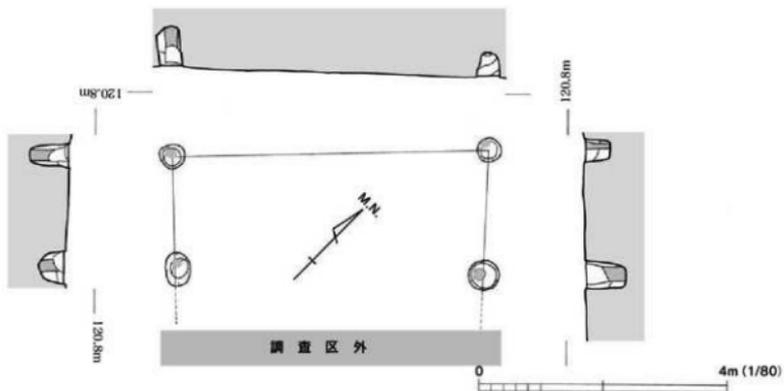
P4からチャート製の火打石(第82図272)、P3から鉄片1点が出土している。



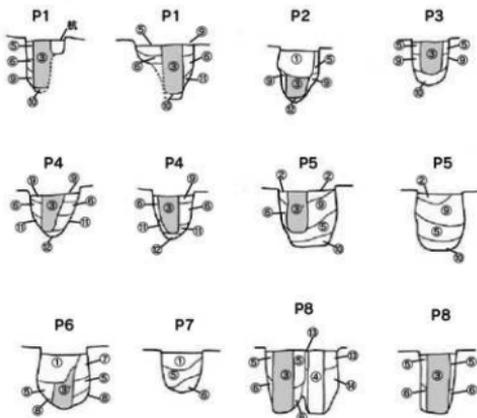
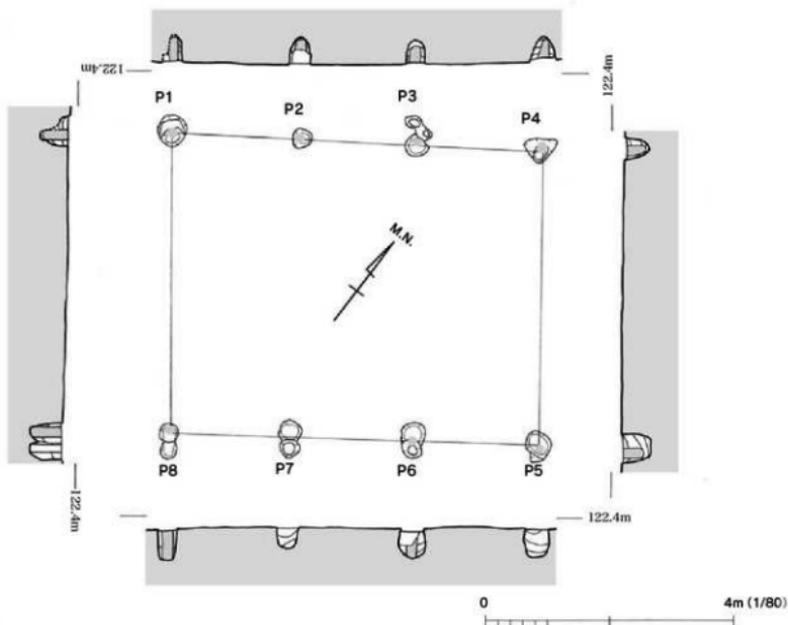
第45図 SB14実測図 (1/80) 及び 柱穴土層断面図 (1/40)



第46図 SB15実測図 (1/80) 及び 柱穴土層断面図 (1/40)



第47図 SB16実測図 (1/80)

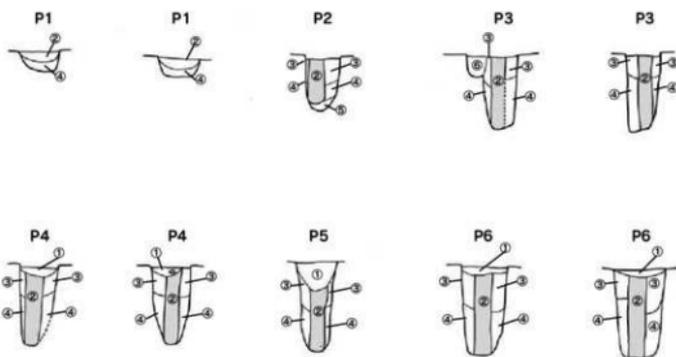
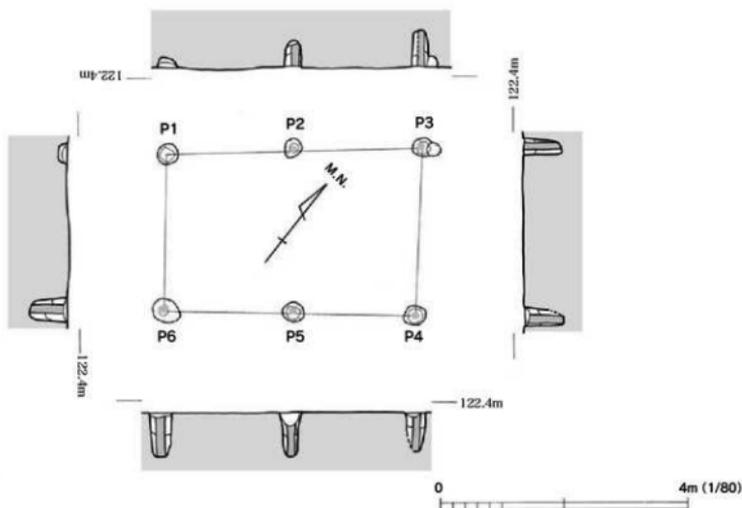


【土層記号】SB17

- ① 黒色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.5~1cmのアカサヤから褐色ロームブロックが混じる。硬質、やや強い層状。
- ② 黒色粘質土 (10YR 2/1) 0.1cm程の褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。
- ③ 黒色粘質土 (10YR 1.7/1) 0.5~0.3cmのアカサヤから暗褐色ロームブロックが混じる。非常に軟質、柱状断。
- ④ 黒色粘質土 (10YR 1.7/1) 0.5~0.3cmのアカサヤから暗褐色ロームブロックが混じる。
- ⑤ 黒色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.5~1cmのアカサヤから暗褐色ロームブロックが混じる。非常に軟質、粘性が強くサラサラしている。柱状断。
- ⑥ 黒色粘質土 (10YR 2/1) 0.2~1.5cmのアカサヤから暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。
- ⑦ 黒色粘質土 (10YR 2/1) 1cm程の暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。
- ⑧ 褐色粘質土 (10YR 4/4) 0.3cmのアカサヤブロックが混じる。軟質。
- ⑨ 褐色粘質土 (10YR 4/4) 1cm程の黒色土が混じる。やや硬質。ブロック土の塊状。断面より色がくすんでいる。
- ⑩ 暗褐色粘質土 (10YR 4/4) 1cm色の褐色ロームブロックが混じる。硬質。ブロック土の塊状。やや強い層状。
- ⑪ 黒色粘質土 (10YR 2/1) アカサヤ~暗褐色ロームブロックが厚さ0.5~1cm、幅3cmなどの扁平な状態になっている (板状)。非常に硬質。
- ⑫ 褐色粘質土 (10YR 4/4) 断面に強い黒色土が混ざらない。
- ⑬ 灰黄褐色粘質土 (10YR 4/2) 0.2~1cmの褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質が断面に比べて柔らかい。
- ⑭ 暗褐色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.5~1cmのアカサヤから暗褐色ロームブロックが混じる。やや硬質。粘性が強くサラサラしている。
- ⑮ 暗褐色粘質土 (10YR 2.5/1) 0.5~3cmのアカサヤから暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。粘性が強くサラサラしている。

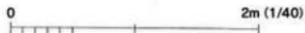


第48図 SB17実測図 (1/80) 及び柱穴土層断面図 (1/40)

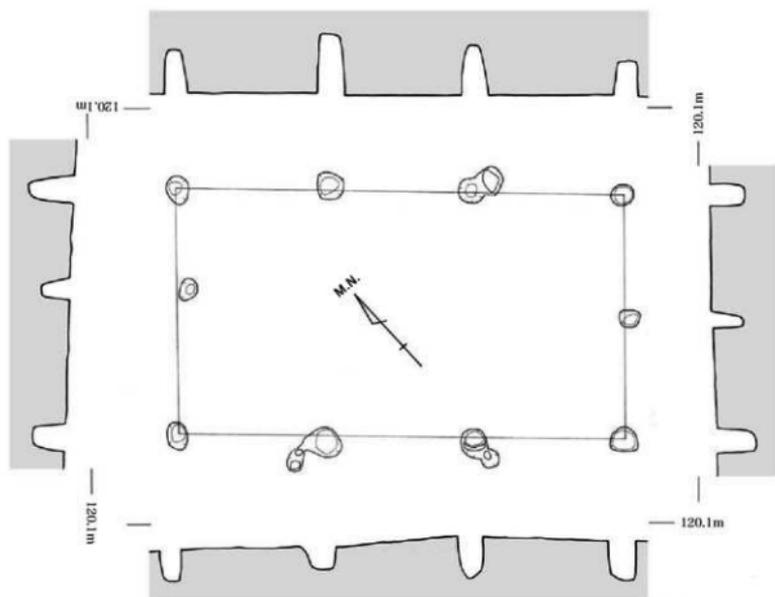


土層法記 S918

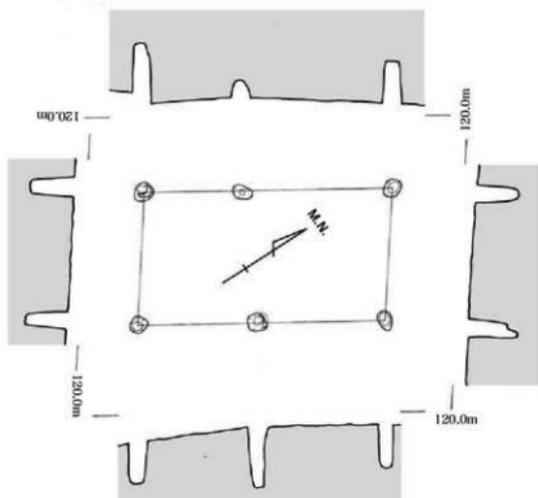
- ① 黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 0.2~1cmのアカネヤから褐色ロームブロックが混じる。硬質。
- ② 黒色粘質土 (10YR-1/1) 0.3cm~0.3cmの暗褐色ローム~褐色ロームブロックが混じる。軟質。
- ③ 黒色粘質土 (10YR-2/1.5) 0.5cm程の暗褐色ロームブロックが混じる。軟質。
- ④ 黒色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.5~1.5cmの暗褐色ロームブロックが混じる。
- ⑤ 黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 非常に硬質。
- ⑥ 黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 0.3~0.5cmの暗褐色ロームブロックが混じる。硬質。



第49図 SB18実測図 (1/80) 及び 柱穴土層断面図 (1/40)



第50図 SB19実測図 (1/80)



第51図 SB20実測図 (1/80)

S B 19 (第9・50図)

E区北東部で検出した建物跡である。梁間2間(4.0m)、桁行3間(7.2m)の東西棟である。梁間柱間は1.7~2.3m、桁行柱間は2.3~2.5mである。柱穴掘方は長径平均41cm、短径平均36cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-45°-Wで、身舎の面積は28.8㎡を測る。
S B 20と一部重複する。

S B 20 (第9・51図)

E区北東部で検出した建物跡である。梁間1間(2.2m)、桁行2間(4.1m)の南北棟である。梁間柱間は2.2m、桁行柱間は1.6~2.4mである。柱穴掘方は長径平均34cm、短径平均26cmの楕円形を呈している。

主軸はN-32°-Eで、身舎の面積は9.1㎡である。
S B 19と一部重複する。

S B 21 (第9・52図)

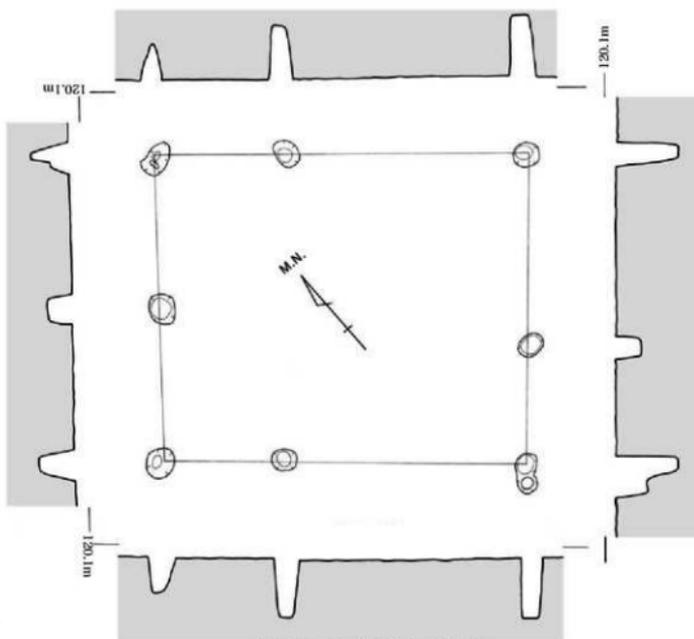
E区北東部で検出した建物跡で、S B 19の北東側に位置している。梁間2間(5.1m)、桁行2間(6m)の南北棟である。梁間柱間は2.0~3.1m、桁行柱間は2.0~3.9mである。柱穴掘方は長径平均46cm、短径平均37cmの楕円形を呈している。

主軸はN-50°-Wで、身舎面積は30.0㎡を測る。

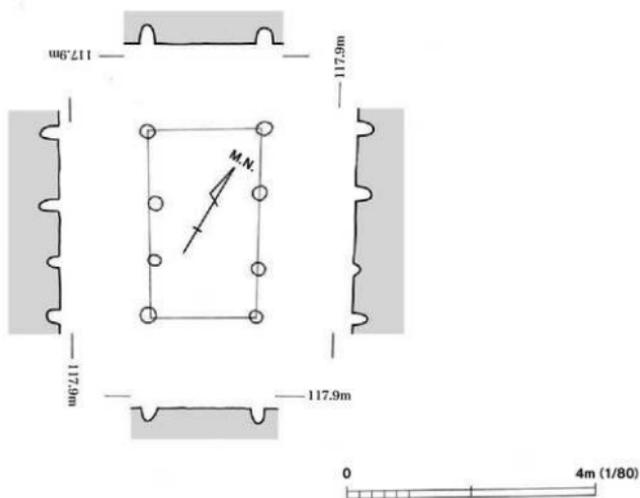
S B 22 (第6・53図)

A区の東側に位置し、複数の溝状遺構に囲まれた状態で検出した建物跡である。梁間1間(1.8m)、桁行3間(3.0m)の東西棟である。梁間柱間は1.7~1.9m、桁行柱間は0.9~1.2mである。柱穴掘方は長径平均12cm、短径平均11cmのほぼ円形を呈している。

主軸はN-30°-Wで、身舎面積は5.4㎡を測る。



第52図 SB21実測図 (1/80)



第53図 SB22実測図 (1/80)

③土坑

土坑は用途の確定できない掘り込みのことを指す。検出した土坑は68基を数え、大きさおよび形状はバラエティーに富んでいる。ここでは遺物が出土しているものや特色のあるものについて説明するが、その他土坑の詳細については一覧表を参照されたい(第6表)。

SC2 (第6・54図)

SC2はA区F-9グリッドにあり、A区北側の近世土坑墓群に近い位置から検出されたため土坑墓の可能性もあるが、棺の形跡や人骨等の遺存がなかったため、土坑墓とは認定しなかった。

SC3 (第6・54図)

SC3はA区E-11グリッドにあり、A区北西部の近世土坑墓群に近い位置にある。土坑の中央はピットに切られている。これも土坑墓の可能性はあるが、深さが10cmと浅い。埋土の状況は土坑墓に近いが、断定はできなかった。棺の形跡や人骨等も遺存せず、土坑墓とは認定しなかった。

SC4 (第6・54図)

SC4はA区D-11グリッドにあり、北西部の土坑墓群に最も近い。土坑内には6点程の礫が検出されたが、埋土状況や棺の形跡や人骨等も遺存しなかったことから土坑墓とは認定しなかった。

SC6 (第6・54図)

SC6はA区G-15グリッドにあり、周辺部の多くの柱穴やピットに囲まれた所に位置する。これも土坑墓の可能性もあるが、棺の形跡や人骨等も遺存しなかったため土坑墓とは認定しなかった。

SC8 (第7・54図)

SC8はC区I-6グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。出土遺物はない。

SC10 (第7・54図)

SC10はC区J-8グリッドにあり、周辺部には多

くの柱穴やピットがある。出土遺物はない。近くにある掘立柱建物跡との関連も否定できない。

SC13 (第7・55図)

SC13はC区J-8グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。出土遺物はないが、近くにある掘立柱建物跡との関連も否定できない。

SC14 (第7・55図)

SC14はC区K-9グリッドにあり、周辺部には多くの柱穴やピットがある。きめが細かくシルトに近いやや硬化した埋土で、ピットに切られている。

SC26 (第8・55図)

SC26はD区J-2グリッドにあり、長軸2.5m、短軸1.7m、深さが1.3mの方形土坑である。遺物はなく、性格も確定的ではないが陥穴ではないかと考えられる。底面施設の痕跡はなかった。中世の溝状遺構と思われるSE33に切られている。

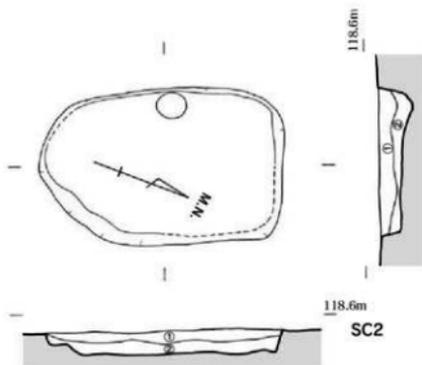
SC49 (第8・55図)

SC49はD区P-^{ワタ}1グリッドにあり、長軸は0.9m、短軸は0.8mのほぼ正方形を呈する。深さは1.0mである。調査区の北東端で検出したが、やはり陥穴ではないかと考えられる。遺物はない。

SC65 (第7・56図)

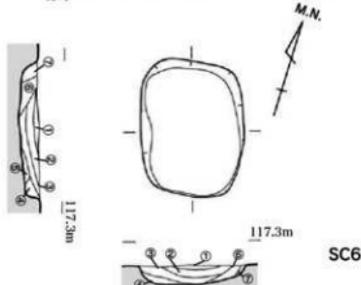
C区の北側に位置し、検出面における長軸6.8m、短軸5.4m、最深度で0.5mを測り、楕円形を呈する。断面は皿形を呈している。北東部にはSE28が直結することから一時的な水溜のような印象を受けるが、底面は水が溜まる土層ではない。使用目的は不明である。

遺物として土師器片88点が出土したが、いずれも小片で摩耗しており接合できない。その他、中世の中国産青磁や国産陶器なども出土している。出土遺物の内容からすると、中世の遺構ではないかと推定される。



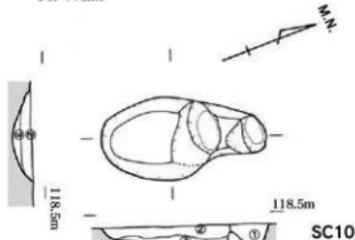
【土層注記】SC2

- ①黒褐色粘質土 (10YR-2/3) Ahプロックを少量含む。きのこ層が、比較的とまっている。粘性は弱く、やや中である。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) きのこ層が、①層よりもしまりもよい。粘性は高い。



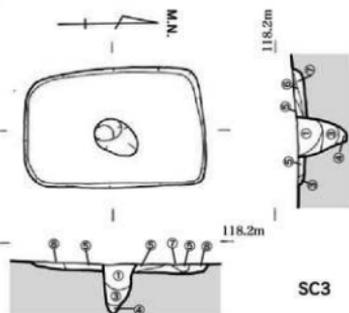
【土層注記】SC6

- ①黒褐色粘質土 (10YR-2/3) 1cm前後の黒褐色 (10YR-5/6) ・灰黄褐色 (10YR-4/2) のプロックが散らる。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 1~3cm程の黄褐色 (10YR-5/6) ・灰黄褐色 (10YR-4/2) のプロックが散らる。やや軟質。
- ③黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 1cm前後の黒褐色 (10YR-2/3) ・黄褐色 (10YR-5/6) ・灰黄褐色 (10YR-4/2) のプロックが散らる。
- ④黒褐色粘質土 (2.5Y-3/2) 0.5~3cmの黒褐色 (10YR-2/3) ・黄褐色 (10YR-5/6) ・灰黄褐色 (10YR-4/2) のプロックが散らる。
- ⑤暗灰黄色粘質土 (2.5Y-4/2) 1~3cmの黒褐色 (10YR-2/3) ・黄褐色 (10YR-5/6) のプロックが散らる。
- ⑥黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.3~0.5cmの褐色プロック・1cm程の黄褐色プロックが散らる。硬質。
- ⑦黒褐色粘質土 (10YR-2/1) 0.5cm程の褐色 (10YR-2/1) ・黄褐色 (10YR-5/6) のプロックが少量散らる。粒子の粗い土。軟質。
- ⑧黒褐色粘質土 (10YR-4/3) 1~3cmの褐色 (10YR-2/1) のプロックが散らる。やや軟質。



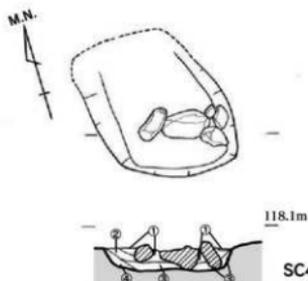
【土層注記】SC10

- ①黒褐色粘土 (10YR-2.5/1) 0.3cm程のアカネヤプロックが散らる。やや軟質。きのこ層が、ほとんどない。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-1.7/1) 0.2cm程のアカネヤプロックが散らる。きのこ層が、ほとんどない。
- ③黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.3cm程のアカネヤ粒・0.4cm程のアカネヤプロックが散らる。軟質で粗い塊層。



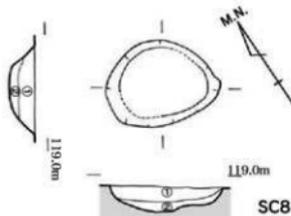
【土層注記】SC3

- ①黒褐色粘質土 (10YR-3/2.5) 0.3~0.5cmの褐色プロックが散らる。光沢があり、やや灰色を帯びる。やや軟質。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 0.3~1cmの褐色プロックが散らる。光沢があり、やや灰色を帯びる。やや軟質。
- ③黒褐色粘質土 (10YR-2.5/2) 0.5~1cmの褐色プロックが散らる。やや軟質。
- ④黒褐色粘質土 (10YR-3.5/1) 0.5cmの褐色プロックが散らる。やや軟質。
- ⑤黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.3~0.5cmの褐色プロックが散らる。硬質。
- ⑥黒褐色粘質土 (10YR-2.5/1) 0.3~0.5cmの褐色プロック・1cm程の黄褐色プロックが散らる。硬質。
- ⑦黒褐色粘質土 (10YR-2/2) 褐色粘質土が散らる (50%以上)。ややプロック状に塊層。硬質。
- ⑧黒褐色粘質土 (10YR-3/2) 0.5~3cmの褐色プロックが散らる。大きいプロックが特に多い。硬質。



【土層注記】SC4

- ①黒褐色粘質土 (10YR-3.5/1) 0.5cm程の褐色プロックが散らる。非常に軟質。粗い塊層がみられる。
- ②黒褐色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 0.5~1cmの褐色プロックが散らる。やや軟質。やや粗い塊層。
- ③黒褐色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 0.3~0.5cmの褐色プロックが散らる。やや軟質。
- ④黒褐色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 0.5cmの褐色プロックが散らる。やや軟質。わずかに炭化物が散らる。



【土層注記】SC8

- ①黒褐色粘質土 (10YR-2/1.5) 0.3cm程のアカネヤプロックが散らる。やや軟質で、粘性は低い。
- ②黒褐色粘質土 (10YR-2/1.5) 0.1cm以下のアカネヤ粒が散らる。やや軟質で、粘性は低い。



第54図 SC2・3・4・6・8・10実測図 (1/40)

No.	出土位置	主軸	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	備考
1	A-G-11	N54°E	190	135	8	槽円形	
2	A-F-9	N22°W	190	120	20	不整長方形	
3	A-E-11	N 2°W	140	95	10	隅丸長方形	
4	A-D-11	N 8°W	130	114	20	不整長方形	
5	A-D-12	N64°W	190	121	10	槽円形	
6	A-G-15	N25°W	110	80	15	長方形	
7	C-I-6	N39°W	186	112	10	槽円形	
8	C-I-6	N61°W	91	60	18	円形	
9	C-J-8	N51°W	76	70	49	円形	
10	C-J-8	N24°E	132	58	55	不整長方形	
11	C-J-8	N53°W	112	105	12	不整円形	
12	C-J-8	N42°W	192	55	22	長槽円形	
13	C-J-8	N60°E	86	72	24	不整方形	
14	C-K-9	N24°W	148	82	34	槽円形	
15	C-J-10	N16°W	168	164	19	円形	
16	C-I-7	N40°W	84	50	36	半槽円形	
17	C-K-9	N 3°W	73	53	31	槽円形	
18	C-I-8	N72°E	104	57	16	槽円形	
19	D-L-3	N33°W	116	106	20	円形	
20	D-L-2	N55°E	100	90	22	円形	
21	D-L-2	N46°E	11	100	16	円形	
22	D-K-1	N 8°W	90	80	14	円形	
23	D-K-2	N45°W	86	74	13	半槽円形	
24	D-K-2	N 1°E	90	90	8	円形	
25	D-K-2	N48°E	140	94	15	隅丸長方形	
26	D-I-2	N61°E	250	170	132	槽円形	漏し穴?
27	D-K-2	N50°E	84	80	27	円形	
28	D-K-2	N43°E	88	50	23	不整槽円形	
29	D-K-2	N22°W	80	70	9	円形	
30	D-K-2	N22°W	40	30	3	円形	
31	D-K-2	N72°E	48	32	3	円形	
32	D-J-2	N44°E	146	146	8	円形	
33	D-J-2	N50°E	124	120	13	円形	
34	D-O-0	N48°W	92	64	18	長方形	
35	D-O-0	N42°W	61	60	15	円形	
36	D-O-0	N44°E	80	68	22	長方形	
37	D-N-1	N45°E	78	76	25	正方形	
38							不詳
39	D-O-0	N36°E	114	78	27	不整長方形	
40	D-N-2	N46°E	68	64	16	正方形	
41	D-O-2	N47°W	74	74	34	正方形	
42	D-O-2	N45°E	64	62	6	正方形	
43	D-O-1	N46°E	72	72	20	正方形	
44	D-N-1	N32°W	79	67	30	不整長方形	
45	D-O-1	N47°W	56	44	16	長方形	
46	D-N-1	N57°E	90	60	14	長方形	
47	D-N-2	N46°E	80	70	51	正方形	
48	D-N-2	N30°E	70	62	24	不整正方形	
49	D-P-1	N 6°W	86	84	100	正方形	漏し穴?
50	D-N-1	N90°E	107	95	26	円形	
51	E-L-6	N25°W	120	60	10	長方形	
52	E-L-6	N58°W	114	102	6	円形	
53	E-K-6	N35°W	275	120	42	不整長方形	
54	E-K-6	N42°W	120	24	48	不整長方形	
55	E-K-6	N52°E	156	64	74	不整長方形	
56	E-M-6	N40°W	80	16	30	槽円形	
57	E-L-5	N60°E	84	81	41	円形	
58	E-M-6	N25°W	84	82	15	正方形	
59	E-K-5	N50°W	183	160	6	正方形	
60	E-L-6	N43°W	104	60	55	不整形	
61	E-L-6	N52°W	140	60	77	不整槽円形	
62	E-K-6	N 3°W	104	80	30	長方形	
63	C-J-4	N77°W	140	85	5	槽円形	
64	C-I-8	N70°E	265	160	15	槽円形	
65	C-I-5	N34°W	680	540	50	槽円形	
66	C-J-5	全面検出していないため測定不能					
67	C-K-6	N40°W	510	440	25	不整槽円形	
68	D-M-2	N25°W	900	530	70	不整槽円形	

第6表 土坑一覧表

SC66 (第7・57図)

C区北側の壁際にある。調査区外へと広がっており、全体は調査できなかった。検出面の調査区壁側での長径は5.6m、最深部は0.6mである。底面はやや起伏があるが、皿形を呈している。SC65同様一時的な水溜りのような印象を受ける水が溜まる土層ではない。使用目的は不明である。

ただしSC65とやや異なるのは、実測図の中にもあるように、土層注記④層の中心部でやや硬化している面が確認されたことである。

遺物としては中世の中国産青磁・白磁(第73図145)や国産陶器(第73図146)、土師器片47点、近世後半の陶磁器、火打石(第82図261・271)が出土している。

SC67 (第7・58図)

C区とE区にまたがって検出した。SC65・66と同様、使用目的が不明の土坑である。長軸5.1m、短軸4.4m、最深部0.3mで、断面は皿形を呈する。

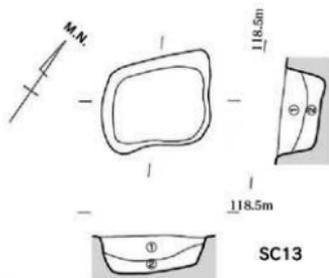
中世の中国産白磁(第73図147)、土師器皿(第73図148)などが出土している。

SC68 (第8・27・29・30図)

SC68はD区M-2周辺で検出された。長軸9.0m、短軸5.3m、深さ0.5m～0.7mで、底面は起伏があるが概ね皿形を呈する。また土坑の北東側には階段状の硬化面が見られた。

このSC68はSE44に付随した遺構ではないかと考えられるが、詳細は明らかではない。

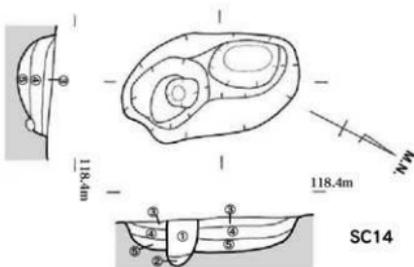
出土遺物のほとんどはSE44と一緒に取り上げた(第72図参照)。その他弥生から中世までの土器小片や鉄滓・炭化物なども出土している。



SC13

【土量注記】SC13

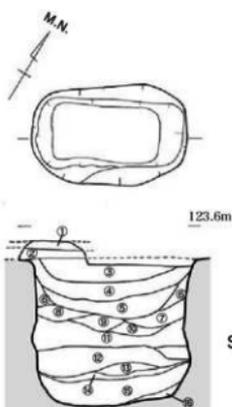
①黒色粘質土 (10YR-1.7/1) 0.5mm程度のアカネヤブロックが混じる。粘質、硬く、ややきめが細かい。軟質。
②黒色粘質土 (10YR-1.7/1) ①層に類似。①層よりも灰色を帯びる。



SC14

【土量注記】SC14

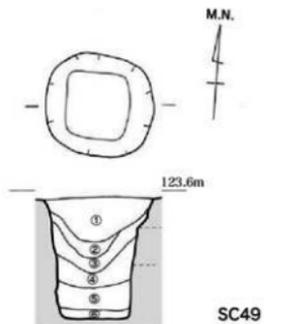
①黒色粘質土 (10YR-2/1) 中や硬質、0.5cm程度の暗褐色 (10YR-3/3) ブロック・アカネヤが混じる。ややきめが細かい。
②褐色粘質土 (10YR-2.5/2) やや軟質。きめが細かい。シルトに近い。
③黒色粘質土 (10YR-1.7/1) やや硬質。ややきめが細かい。
④黒色粘質土 (10YR-1.7/1) 硬質。きめが細かい。シルトに近い。硬に堆積。2cm程度の暗褐色 (10YR-3/3) ブロック・アカネヤが混じる。
⑤黒色粘質土 (10YR-1.7/1) 2~4cm程度の暗褐色 (10YR-3/3) ブロック・アカネヤが混じる。硬質。きめが細かい。シルトに近い。硬に堆積。



SC26

【土量注記】SC26

①灰黄褐色粘質土 (10YR-4/2) 1mm厚で層状に堆積 (板状状)。非常に硬質。1mm程度の暗褐色ロームブロックが混じる。
②黒色粘質土 (10YR-2/2) 粘質が強い。硬砂が多く混じり。砂質土に近い。2mm程度の暗褐色ロームブロックが混じる。
③灰黄褐色粘質土 (10YR-4/1.5) 硬質。2cm程度のATブロックが混じる。
④灰黄褐色粘質土 (10YR-4/1.5) 3cm程度のATブロックの堆積。3cm程度のATブロックが混じる。硬質。
⑤黒色粘質土 (10YR-3/1) 3cm程度のブロック土の堆積 (ブラックパンフ)。2cm程度の褐色ロームATブロックが混じる。
⑥赤褐色粘質土 (7.5YR-5/6) 暗褐色ロームよりも粗く堆積し、軟質。黒褐色土が混じる。
⑦褐色粘質土 (7.5YR-4/3) やや粘り・堆積。2cm程度のブラックバンドブロックが混じる。やや軟質。
⑧灰褐色粘質土 (7.5YR-4/2) 2cm程度の暗褐色ロームブロックが混じる。やや軟質。
⑨黒色粘質土 (10YR-2/2) 暗褐色土が混じる。やや軟質。
⑩黒色粘質土 (10YR-3/2) 3cm程度のブラックパンフブロックの堆積。1cm程度のATブロックが混じる。やや粘り・堆積。やや軟質。
⑪褐色粘土 (7.5YR-5/6) 粗い堆積でスカスカしている。非常に軟質。硬明褐色粘土 (7.5YR-5/6) ブロック状に堆積しているように思われる。硬質。
⑫褐色粘土 (7.5YR-4/3) 粗い堆積でスカスカしている。軟質。0.1cm以下の暗褐色ロームブロックが混じる。
⑬灰褐色粘土 (7.5YR-3/1) 粗い堆積でスカスカしている。やや硬質。硬いブロックのような部分もある。
⑭赤い・灰色粘土 (7.5YR-6/5) ブロック状に堆積しているように思われる。硬質。
⑮黒褐色粘土 (7.5YR-3/1) やや軟質。



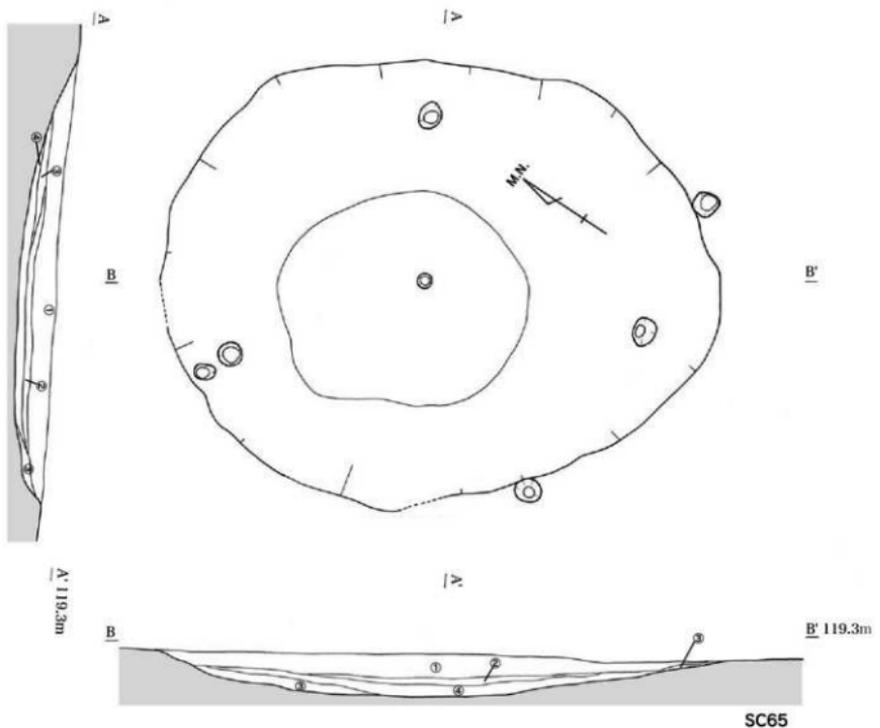
SC49

【土量注記】SC49

①黒色粘質土 (2.5Y-2.5/1) 0.05cmの白色粒やAT粒などが混じる。
②褐色粘質土 (2.5Y-3/1.5) 0.05~0.2cmの白色粒やAT粒などが混じる。
③褐色シルト (10YR-2/2) 0.05~0.2cmの白色粒やAT粒などが混じり。2~4cmのATブロックが土層の中央部に混じる。
④褐色シルト (10YR-2/1.5) 0.05~0.2cmのATブロックや2~3cmのATブロックが土層の中央部に混じる。やや軟質。
⑤黒色シルト (10YR-1.7/1) 0.1~0.2cmのATブロックが混じる。軟質。
⑥褐色粘土 (11.5YR-4/1) 1cm程度のブロック土の堆積。黒色土も混じる。軟質。やや粘り・堆積。



第55図 SC13・14・26・49実測図 (1/40)

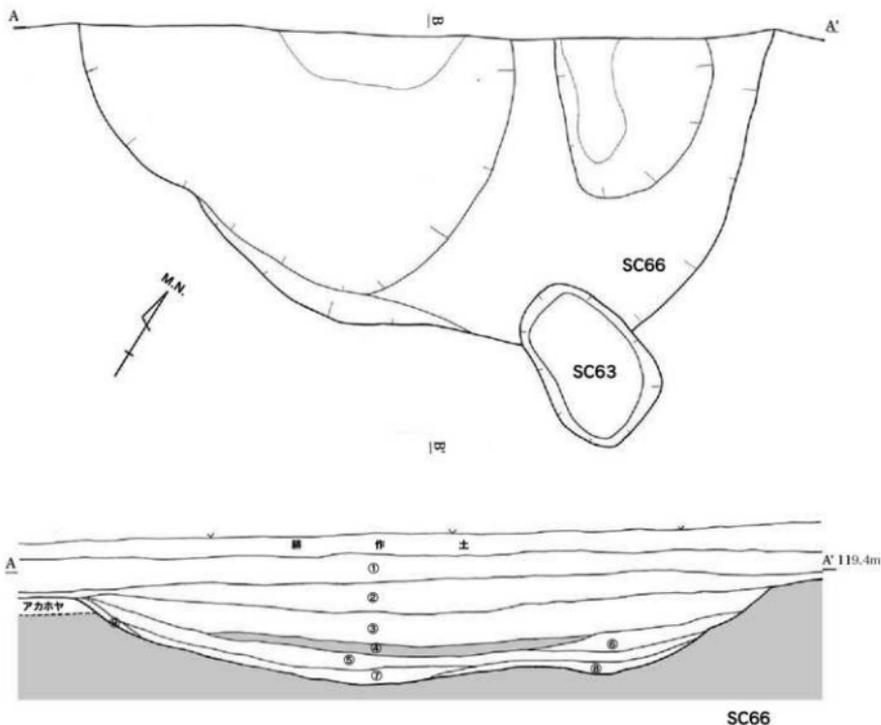


【土層表記】SC65

- ①黒色粘質土 (8.75YR 2/1) 3mm~5mmのアカネヤブブロックが混じる (2%)。非常に硬質。やや粘性が高い。実質をもちわずかに灰色を帯びる。裏下面に厚さ5mm程度の酸化層が層分的にある。
- ②黒色粘質土 (10YR 2/1) 3mm~1cmのアカネヤブブロックが混じる (10%)。5mm程度の赤褐色がわずかに混じる。粘性が高い。やや硬質。
- ③黒色粘質土 (10YR 2/1.5) 1mm程度のアカネヤブブロックが混じる (10%)。きめが細かくシルトに近い。やや硬質。やや粘性が高い。
- ④赤黒色粘質土 (10YR 2/2) 5mm程度のアカネヤブブロックが混じる (1%)。粘性が高い。きめが細かくシルトに近い。やや軟質。
- ⑤赤褐色粘質土 (10YR 2/2) 3mm~1cmのアカネヤブブロックが混じる (5%)。粘性が高い。きめが細かく、シルトに近い。やや軟質。やや黄色を帯びる。

0 3m (1/60)

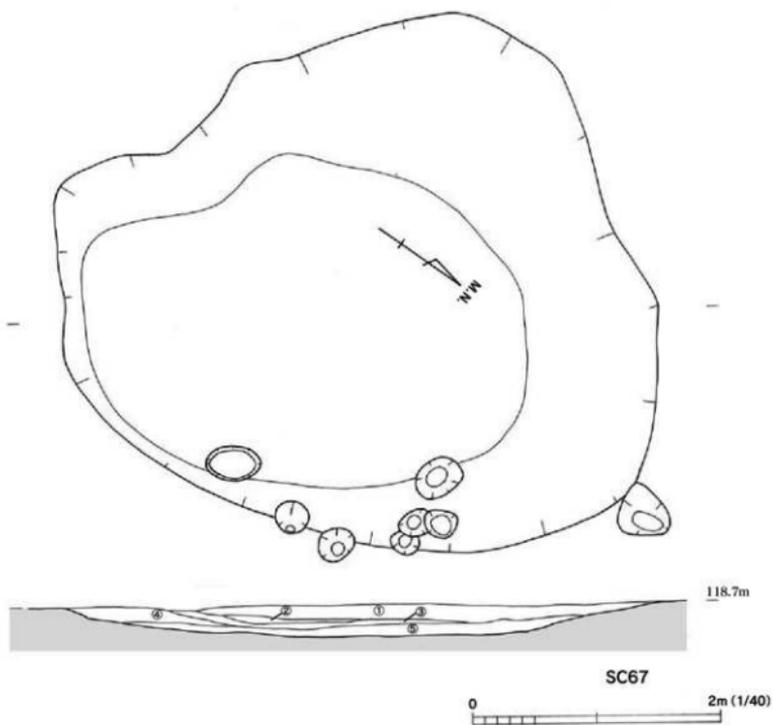
第56図 SC65実測図 (1/60)



【土層説明】 SC66

- ① 黒褐色粘質土 (10YR 2/2) 白色粒が混じる。粘性が高い。腐砂が多く混じる。硬質。やや灰色を帯びる。3mm粒の炭化物が混じる。
- ② 黒褐色粘質土 (10YR 2/2.5) 白色粒が混じる。粘性がやや低い。きめが細かくシルトに近い。非常に軟質。やや灰色を帯びる。腐砂をわずかに含む。5mm粒の炭化物が少量混じる。
- ③ 黒褐色粘質土 (10YR 2/2.5) 1mm粒の赤褐色粒が混じる (1%)。5mm粒の炭化物が少量混じる。きめが細かくシルトに近い。粘性が高い。やや軟質。やや灰色を帯びる。
- ④ 黒褐色粘質土 (10YR 2/2.5) 硬質部分が2mm粒の黄褐色ブロックが混じる (2%)。灰灰をもつ。中心部分には非常に硬くしっとりとした硬質層を形成しているが、外側になるほど硬度がやや落ち、不明瞭になっていく。
- ⑤ 黒褐色粘質土 (10YR 2/2) やや軟質。粘性が高い。腐砂が混じる。きめが細かくシルトに近い。
- ⑥ 赤色粘質土 (10YR 2/1) やや硬質。7mm前後の黄褐色。暗褐色ブロックが混じる (10%)。粘性が低く、きめはやや粗い。
- ⑦ 赤色粘質土 (10YR 2/1) 5割がやや硬化したもの。
- ⑧ 黒色粘質土 (10YR 2/1.5) 3mm粒の黄褐色。暗褐色ブロックが混じる (10%)。きめが細かくシルトに近い。粘性が非常に高い。腐砂がやや多く混じる。やや硬質。
- ⑨ 黒色シルト (10YR 2/1) 腐砂が少量混じる。やや軟質。
- ⑩ 黒褐色粘質土 (10YR 2/1.5) やや軟質。粘性が高い。1mm以下のアホヤ粒が混じる (5%)。
- ⑪ 黒褐色粘質土 (10YR 2/2.5) やや軟質。きめが細かくシルトに近い。3mm粒の赤褐色 (2%) 黄褐色 (1%) ブロックが混じる。層の境界にやや白色粒の多い層が見られる。

第57図 SC66実測図 (1/40)



【土層注記】SC67

- ①黒褐色粘質土 (10YR 2.5/2) やや硬質。まめが腐かくシルトに近い。1mm粒の黄褐色粒が混じる。
- ②黒褐色粘質土 (10YR 2.5/2) 1cm粒の暗黄褐色ブロックが混じる (7%)。まめが腐かくシルトに近い。やや粘性が高い。やや硬質。
- ③黒褐色粘質土 (10YR 2.5/2) ②層に類似。ブロックがほとんどなく、②層に比べやや褐色を帯びる。
- ④黒褐色粘質土 (10YR 2.5/2) ②層に類似。
- ⑤黒色粘質土 (10YR 1.7/1) まめが腐かくシルトに近い。粘性が高い。硬質。1mm粒の黄褐色粒が混じる (3%)。やや充積をもつ。細砂が混じる。

第58図 SC67実測図 (1/40)

④土坑墓

土坑墓はA区の中央部東寄り（6基：SD1～6）・北部（4基：SD7～10）・中央部西寄り（5基：SD11～15）に分布している。出土した「寛永通寶」や棺の形跡等からほとんどが近世のものと考えられる。また遺跡周辺の住民の話では、戦後も無縁仏が存在していたとのことである。

D区西半からは1基（SD16）だけ検出されたが、これは中世のものと考えられる。以下でそれぞれの土坑墓について説明するが、一覧表も参照されたい（第7表）。

SD1（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面175×115cm、底面103×73cm、深さ45cmで、主軸方位はN-25°-Wである。底面はやや平坦で、壁は北側と南側が緩やかで、東側と西側ではやや緩やかに立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していないが、土師器片が出土し、棺の形跡が確認できた。

SD2（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面145×105cm、底面123×95cm、深さ55cmで、主軸方位はN-38°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していない。鉄釘4点（第77図219～222）、「寛永通寶」3枚（第76図187ほか）が出土した。棺の形跡が確認できた。

SD3（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面155×110cm、底面129×97cm、深さ44cmで、主軸方位はN-8°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していない。鉄釘1点（第77図223）、「寛永通寶」8枚（第76図188、第77図206）のほか、埋土下層で小さな銅製の棒が出土した（第76図202）。棺の形跡が確認できた。

SD4（第6・59図）

平面形は長方形を呈し、上面155×123cm、底面145×112cm、深さ44cmで、主軸方位N-25°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

SE8に北西隅角をわずかに切られている。墓内に人骨は遺存していない。土器片2点のほか、埋土下層で小さな銅製の棒が出土した（第76図201）。棺の形跡が確認できた。

SD5（第6・60図）

平面形は長方形を呈し、上面125×95cm、底面115×70cm、深さ65cmで、主軸方位は真北である。底面は平坦で、壁の立ち上がりは四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していない。金属片1点、「寛永通寶」7枚が出土したが、うち2枚が鉄銭であった（第76図189～193）。また銅銭1枚（193）には布片が付着していた。棺の形跡が確認できた。鉄銭の存在から近世後半の墓と考えられる。

SD6（第6・60図）

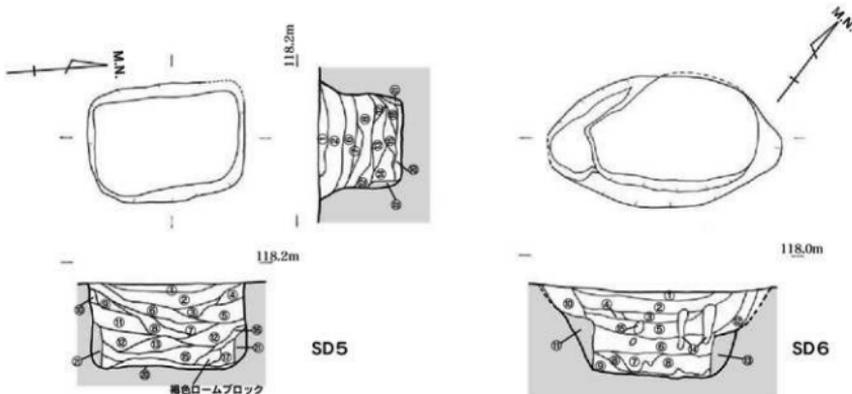
平面形は長楕円形を呈し、上面185×105cm、底面131×82cm、深さ70cm、主軸方位はN-50°-Eである。底面はやや平坦で、周囲の壁は北がややオーバーハングしており、西が緩やかで、東・南はやや緩やかに立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していない。棺の形跡が確認できた。

SD7（第6・60図）

平面形は長楕円形を呈し、上面145×100cm、底面132×82cm、深さ60cm、主軸方位はN-18°-Wである。底面はやや平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。

墓内には人骨は遺存していない。棺の形跡が確認できた。

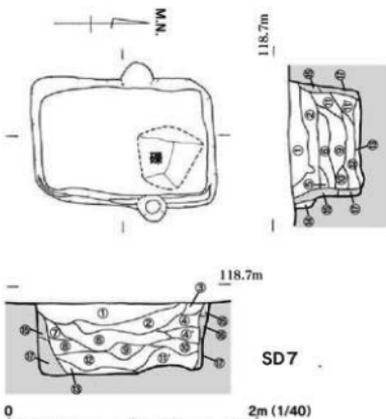


【土層表記】SD5

- ① 黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm~5mmの褐色ブロックが混じる(10%)、やや軟質。
- ② 黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm~5mmの褐色ブロックが混じる(7%)、やや軟質、1層より灰色を帯びる。
- ③ 黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm~5mmの褐色・黄褐色ブロックが混じる(3%)、軟質。
- ④ 黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm~5mmの褐色・黄褐色ブロックが混じる(40%)、やや軟質、やや強い塊状。
- ⑤ 黒褐色粘質土(2.5Y-3/2)1mm~10mmの褐色(10%)・黄褐色ブロックが混じる(1%)混じる、やや軟質。
- ⑥ 黒褐色粘質土(10YR-3/2)2mm~10mmの褐色(7%)黄褐色(2%)ブロックが混じる、やや軟質。
- ⑦ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm程の褐色(2%)、軟質。
- ⑧ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm~3cmの褐色ブロックが混じる(10%)、2mm程の黄褐色ブロックが混じる(2%)、軟質、やや強い塊状。
- ⑨ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm~1cmの褐色ブロックが混じる(5%)、やや軟質。
- ⑩ 黒褐色粘質土(10YR-3/1)5mm程の褐色ブロックが混じる(2%)、やや軟質。
- ⑪ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm~1cmの褐色ブロックが混じる(40%)、軟質、やや強い塊状。
- ⑫ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm~1cmの褐色ブロックが混じる(10%)、軟質。
- ⑬ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)2mm~1cmの褐色ブロックが混じる(5%)、軟質。
- ⑭ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)2mm~1cmの褐色ブロックが混じる(30%)、やや軟質、やや強い塊状。
- ⑮ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)5mm~1cmの褐色ブロックが混じる(10%)、2mm程の黄褐色ブロックが混じる(1%)、やや軟質。
- ⑯ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm~5mmの褐色ブロックが混じる(2%)、やや軟質。
- ⑰ 黒褐色粘質土(10YR-3/1)1mm~5mmの褐色ブロックが混じる(10%)、軟質、やや強い塊状。
- ⑱ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm~5mm(2%)・3cm(1%)の褐色ブロックが混じる、やや軟質。
- ⑲ 黒褐色粘質土(10YR-4/2)粘性が弱く、シトに近い、やや強い塊状、1cm程の褐色ブロックが混じる(1%)、上層から風が出た、粘土の土まじりも多少。
- ⑳ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)5mm前後の褐色(10%)・黄褐色ブロックが混じる(2%)、
- ㉑ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)2層とほぼ同じだが1cm前後の褐色ブロックが混じる(10%)、

【土層表記】SD6

- ① 黒褐色粘質土(10YR-3/2)若干灰色土が混ざり、粘性はあまりなく、まがが細かい。
- ② 黒褐色粘質土(10YR-2/2)2層と比べると黒褐色の割合が弱く、粘性はあまりなく、まがが細かい。
- ③ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)砂粒を含み、固くシャリシャリ感が有り、やや硬く、
- ④ 黒褐色粘質土(10YR-1/2)柔らかくばらばらしてしまし、1cm~2cmの暗褐色土がブロック状に混ざっている。
- ⑤ 黒褐色粘質土(10YR-1/2)粘性はあまりなく、固く柔らかくサラサラした感じである。
- ⑥ 黒褐色粘質土(10YR-1/2)Ah層を含み、若干砂粒を含み、細かい。
- ⑦ 黒褐色粘質土(10YR-1/2)Ah層を含み、やや粘性がありしまっている。
- ⑧ 黒褐色粘質土(10YR-1/2)黄褐色の1cm~5cmのAhブロックを含み、典型的には柔らかい。
- ⑨ 黒褐色粘質土(10YR-1/2)暗褐色土を多く含む非常にまがが細かい、粘性も高い。
- ⑩ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1cm~3cmの暗褐色土を含み、粘性は少なく、柔らかい。
- ⑪ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)2mm~5mmの褐色の塊おおまか混ざり、まがが細かい(比較的よくしまっている)。
- ⑫ 黒褐色粘質土(10YR-3/2)3mm~5mmのAh層をわずかに含んでいる、まがが細かい。
- ⑬ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)にふい黄褐色粒やブロックを含んでいる、粘性は少なく、よくしまっている。
- ⑭ 黒褐色粘質土(10YR-3/2)3mm~5mmのAh層を含み、やや粘性があり、柔らかい。



【土層表記】SD7

- ① 黒褐色粘質土(10YR-2/2)3mm~5mmのAhブロックや2mm程の粒をわずかに含むやや軟質で若干まがが粗く、粘性は弱く、ばらばらしている。
- ② 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm~2mmの粒状のAhを少量含み、ふい黄褐色の粒を多く含む、まがが細かい・粘性が中程度、やや軟質。
- ③ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)にふい黄褐色土を粒状に含む、2層と類似しているが、比較的硬くしまっている。
- ④ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)に黄褐色土とわずかに黒褐色土を含む、まがが細かいがしまりがなく、軟質である、粘性は強い。
- ⑤ 暗褐色粘質土(10YR-3/2)2層よりも褐色が強く、また、ブロックが混ざってきた感じ、しまりが粗くまがが粗い。
- ⑥ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm~2mmの黄褐色土の粒を含むのみ、粘はほとんど感じがない、まがが細くて粘性は弱く、シャリシャリ感がある、しまりが軟質である。
- ⑦ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm~2mm程のふい黄褐色土の粒を少量含む、キメは細かい・粘性は弱い、2層と類似しているが比較的、しまっている。
- ⑧ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm程のふい黄褐色中暗褐色の粒を少量含む、また、それと混じりあったような黄褐色が強く混ざっている、キメが粗く粘性が弱くしまりがなく軟質である。
- ⑨ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)黄褐色土粒をこぼす程度、若干砂粒を含むのキメが粗く粘性も高い、やや軟質。
- ⑩ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)1mm~2mmの黄褐色土粒を含む非常にキメが粗くよくしまっている、粘性は弱く(シャリシャリ感がある)。
- ⑪ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)5mm~7mm身のAhや2mm~3mmの黄褐色土を少量含む、キメが粗く、しまっている、粘性は強い。
- ⑫ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)5mm程のAhをわずかに、1mm~2mmの黄褐色土を粒状に多く含んでいる、キメが粗く粘性も高い、比較的よくしまっている。
- ⑬ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)2層に類似しているがしまりが粗くばらばらしている、また、ブロックが粗く混ざりも少ない。
- ⑭ 黒褐色粘質土をこぼす程度に含む、ほとんど感じがない、キメが粗く、非常に粘性が弱く、比較的よくしまっている。
- ⑮ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm~10mm黄褐色土のブロックを少量含む、キメが粗いが、しまりが軟質である、粘性は強い。
- ⑯ 黒褐色粘質土(10YR-2/1)を混じりがない、キメが粗く粘性は高い、よくしまっている。
- ⑰ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)5mm~2mmをこぼすか含む、キメが粗く、粘性は強い、よくしまっている。
- ⑱ 黒褐色粘質土(10YR-3/2)にふい黄褐色土を含み、2層や3層に類似、キメが粗く、しまっている粘性は強い。
- ⑲ 黒褐色粘質土(10YR-2/2)黄褐色土のブロックまたは粒を多く含む、キメが粗く粘性が高い、あまりしまりがなく軟質である。

第60図 SD5・6・7実測図 (1/40)

SD8 (第6・61図)

平面形は長方形を呈し、上面160×110cm、底面150×113cm、深さ70cmで、主軸方向はN-25°-Wである。底面はやや平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。SD9・10を切っている。

墓内に人骨は遺存していない。「寛永通寶」1枚、土器片5点が出土している。棺の形跡が確認できた。

SD9 (第6・61図)

平面形は長方形を呈し、上面153×120cm、底面145×105cm、深さ50cmで、主軸方向はN-19°-Wである。底面は平坦で、壁は四面ともほぼ垂直に立ち上がる。SD8に切られているが、SD10との先後関係は明らかではない。

墓内に人骨は遺存していないが、土師器片が出土した。棺の形跡が確認できた。

SD10 (第6・61図)

平面形は長方形を呈し、上面150+ α ×105cm、底面150+ α ×100cm、深さ65cmで、主軸方向はN-24°-Wである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは四面ともほぼ垂直に立ち上がる。SD8に切られている。墓内に人骨は遺存していない。土器片5点、中国産青花片1点が出土した。棺の形跡が確認できた。

SD11 (第6・62図)

平面形は長方形を呈し、上面153×105cm、底面135×93cm、深さ50cmで、主軸方向はN-13°-Wである。底面は平坦で、壁の立ち上がりは四面ともやや急である。墓内に人骨は遺存していない。陶磁器片2点、土器片6点、「寛永通寶」1枚が出土している。棺の形跡が確認できた。

SD12 (第6・62図)

平面形は正方形を呈し、上面105×105cm、底面103×95cm、深さ50cmで、主軸方位はN-10°-Wである。墓内に人骨は遺存していない。磁器片1点、土器片4点、「寛永通寶」2枚が出土している。棺の形跡が確認できた。

SD13 (第61図)

SD12に切られるため、平面形は不明。上面70+ α ×120cm、底面70+ α ×107cm、深さ55cmで、主軸方位はN-10°-Wである。

墓内に人骨は遺存しない。棺の形跡が確認できた。

SD14 (第6・62・63図)

平面形は長方形を呈し、上面140×90cm、底面120×69cm、深さ45cmで、主軸方位はN-24°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は北・西側は比較的緩やかで、南・東側はやや急に立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していない。土器片6点、「寛永通寶」11枚が出土したが、うち5枚が鉄銭であった(第77図207～209)。また陶器片1点が出土している。棺の形跡が確認できた。鉄銭から近世後半の土坑墓と考えられる。

SD15 (第6・62・63図)

SC5・SE3との切り合いで平面形は明らかにしがたいが、およそ正方形を呈し、上面100×90?cm、底面80×80?cm、深さ30cmで、主軸方位はN-90°-Eである。墓内に人骨は遺存していない。「寛永通寶」6枚(第77図210)、土器小片3点が出土している。棺の形跡が確認できた。

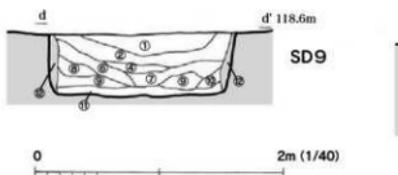
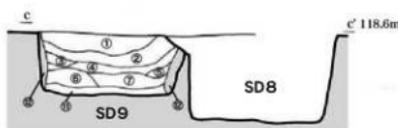
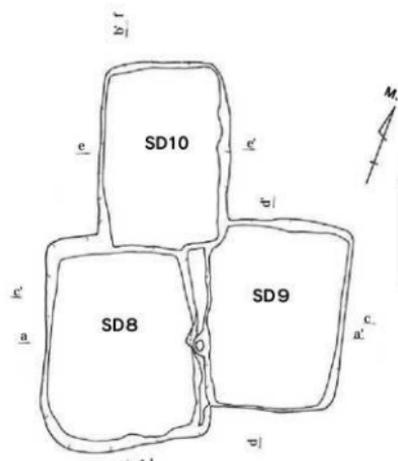
SD16 (第8・64図)

平面形は隅丸方形を呈し、上面135×65cm、底面78×50cm、深さ30cmで、主軸はN-26°-Wをとる。底面は平坦で、壁は四面とも緩やかだが、南側が特に緩やかに立ち上がる。

墓内に人骨は遺存していないが、北西隅に床面からやや浮いた状態で土師器が3点出土した。出土状況から埋葬時に棺上へ置いたものと考えられる。

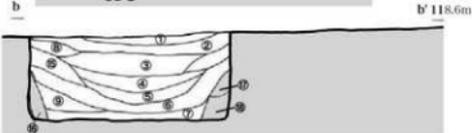
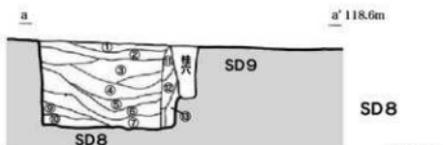
84は杯で体部内外面に顕著な調整痕が認められ、底部は右回転ヘラ切り痕と工具によるハケメ状の調整痕を残している。

他の2点は小皿で法量がほぼ等しい。底部は85が右回転ヘラ切り痕とハケメ状の調整痕が確認でき、86はヘラ切りではあるが器面の剥落などにより詳細不明。86にはタール状の油煙が付着する。



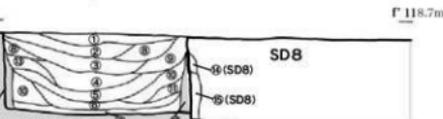
【はなは記】SD9

- ①Abや5mm程のLに、黄褐色のブロックを少量含む。キメが細かくザラザラしており、粘性は弱く、よくしぼっている。
- ②黒褐色粘質土(HOYR-2/2)1mm~5mm角のAbや中に、黄褐色のブロックを含む(20%)。①層よりキメが細かいがしりよりはな。
- ③黒褐色粘質土(HOYR-2/1)5mm程のAbを少量含む(7%)。キメが細かく、やや粘性があり、よくしぼっている。
- ④黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abや2mm~3mmのLに、黄褐色をわずかに含む(3%)。キメが細かく、やや粘性があり、しぼりやすい。
- ⑤黒褐色粘質土(HOYR-2/1)Abや中に、黄褐色のAbや2mm~3mm、1cm~2cmを少量含む。ややキメが粗く、ザラザラしており粘性をもつ。しりよりは弱く粘質である。
- ⑥黒褐色粘質土(HOYR-2/2)1mm~2mmのLに、黄褐色の細かい粒を含む(40%)。ややキメが粗く、また粘性が高い。しりよりは弱く、軟質である。
- ⑦黒褐色粘質土(HOYR-2/1)Abや2mm~3mmのLに、黄褐色を少量含む(5%)。キメが細かく、やや粘性をもつ。しりよりは弱く、軟質である。
- ⑧黒褐色粘質土(HOYR-2/1)1mm~2mmの少量含む(15%)。キメはやや粗く、粘性は高い。しりよりは弱く、軟質である。
- ⑨非黒褐色粘質土(HOYR-2/2)5mm角のAbや1mm~2mmの粒かたに、黄褐色を少量含む(25%)。キメが粗く、粘性が弱い。比較的よくしぼっている。
- ⑩黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abや1mm~2mmのLに、黄褐色粒をわずかに含む(5%)。キメが細かい、粘性が高いが、ボロボロした感がある。しりよりは弱く、軟質である。



【はなは記】SD8

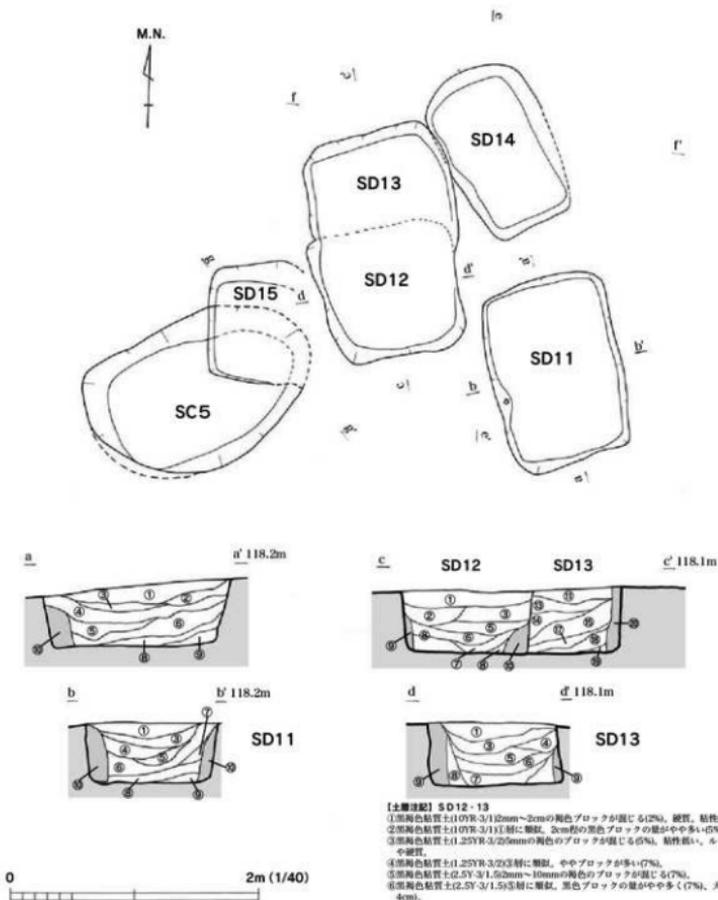
- ①黒褐色粘質土(HOYR-2/2)2mm程のLに、黄褐色の粒をわずかに含む。よくしぼっている。
- ②黒褐色粘質土(HOYR-2/2)3mm程のAbを含む。Lに、黄褐色のブロックをまばらに含むことで、キメが細かい。
- ③黒褐色粘質土(HOYR-2/3)1mm~2mmのLに、黄褐色を粒状に含む。黒色のブロックをわずかに含む粘性が弱く柔らかい。
- ④黒褐色粘質土(HOYR-2/2)1mm程のAbやLに、黄褐色を粒状に含む。黒色のブロックをわずかに含む粘性が弱く柔らかい。
- ⑤黒褐色粘質土(HOYR-2/2)5mm程のAbブロックをわずかに含む。Lに、黄褐色を多く含むことで、やや粘性があるが、柔らかい。
- ⑥黒褐色粘質土(HOYR-2/1)1cm程の黄褐色土のブロックとLに、黄褐色を多く含む。粘性があるが、柔らかい。
- ⑦黒褐色粘質土(HOYR-2/1)Abのブロックと粒を多く含む。粘性のあるLに、黄褐色土が混ざっており粘性があるがしりよりはな。
- ⑧黒褐色粘質土(HOYR-2/2)3mm程のAbブロックの粒を多く含む粘性は高く、キメが細かい。
- ⑨黒褐色粘質土(HOYR-2/1)黒色の土のブロックAbブロック。粘性のある黄褐色土が入り混ざった状態であり、柔らかい。
- ⑩黒褐色粘質土(HOYR-2/2)黒色の土の中に、黒褐色土とAbが入り混ざった状態であり、粘性がややある柔らかい。
- ⑪黒褐色粘質土(HOYR-2/2)柔らかい、黄褐色土の中に、1cm~5cmに、黄褐色土の粒を含んでいる。やや粘性があり、柔らかい。
- ⑫黒褐色粘質土(HOYR-2/2)粘性のあるLに、黄褐色を多く含む。全体の粘性がありしぼりやすい。
- ⑬黒褐色粘質土(HOYR-2/2)粘性のある黄褐色土の中に、黒褐色土がブロック状に入っており、粘性がありしぼりやすい。
- ⑭黒褐色粘質土(HOYR-2/2)柔らかい、黄褐色土の中に、キメが粗くよくしぼっている。
- ⑮黒褐色粘質土(HOYR-2/2)1cm~2cmのLに、黄褐色のブロックと黒色のブロックを含む。やや粘性がある柔らかい。
- ⑯黒褐色粘質土(HOYR-2/2)3cmのAbブロックと5mm程のLに、黄褐色の粒を含んでおり、粘性があまりない。
- ⑰黒褐色粘質土(HOYR-2/2)よくしぼっている黒色の土の中に、Abの粒と3cm程のLに、黄褐色のブロックを含んでおり、やや粘性がありしぼりやすい。



【はなは記】SD10

- ①黒褐色粘質土(HOYR-2/2)5mm以下のLに、黄褐色土を粒状にわずかに含む。やや粘性があり、よくしぼっている。
- ②黒褐色粘質土(HOYR-2/2)1cm~3cmのAbブロックと5mm以下のLに、黄褐色を粒状に、①層よりも多く含む。キメが細かいがしりよりはな。
- ③黒褐色粘質土(HOYR-2/3)Abと1cm以下のLに、黄褐色を多く含む。また、1cm~2cmの黒色土をわずかに含む。やや粘性はあるが柔らかい。
- ④黒褐色粘質土(HOYR-2/3)1cm以下のAbブロックと1cm~5cmのLに、黄褐色土のブロックを多く含む。黒色の土のブロックが多く入り、粘性が少なく柔らかい。
- ⑤黒褐色粘質土(HOYR-2/2)3cm~5cmの黒色の土のブロックが混ざり、黄褐色土と黒色土と多く混ざり、粘性はあまりない(ボロボロと柔らかい)。
- ⑥黒褐色粘質土(HOYR-2/2)5層とLとの間に、黒褐色土のAbのブロックの粒、大きさと少なくなる。Abに、黄褐色土の粒をわずかに含む。やや粘性があり、しりよりはな。
- ⑦黒褐色粘質土(HOYR-2/2)粘性のあるLに、黄褐色のブロックを含む。全体の粘性がありしぼりやすい。
- ⑧黒褐色粘質土(HOYR-2/2)1cm~5cmや中々大のLに、黄褐色土のブロックを非常に多く含む。やや粘性があり、よくしぼっている。
- ⑨黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abと5mm以下のLに、黄褐色土を含みやや粘性はあるが、柔らかい。
- ⑩黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abの粒とLに、黄褐色土を1cm~5cmの黒色土を多く含むことで、やや粘性があり、しぼりやすい。
- ⑪黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abのブロックを多く含む。3cm~5cmの黒色土のブロックを含んでおり、粘性があり、しぼりやすい。
- ⑫黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abの粒とLに、黄褐色土、Abや黒色土が入り混ざっている状態が粘性がありよくしぼっている。
- ⑬黒褐色粘質土(HOYR-2/2)黄褐色土の中に、黄褐色土のブロックと黒色土を多く含む。粘性があり、しぼりやすい。
- ⑭黒褐色粘質土(HOYR-2/2)Abの粒とLに、黄褐色土をわずかに含む。粘性は弱くよくしぼっている。
- ⑮黒褐色粘質土(HOYR-2/2)AbとLに、黄褐色土と黒色土のブロック、Abやキメが入り混ざって、粘性がありよくしぼっている。

第61図 SD8・9・10実測図 (1/40)



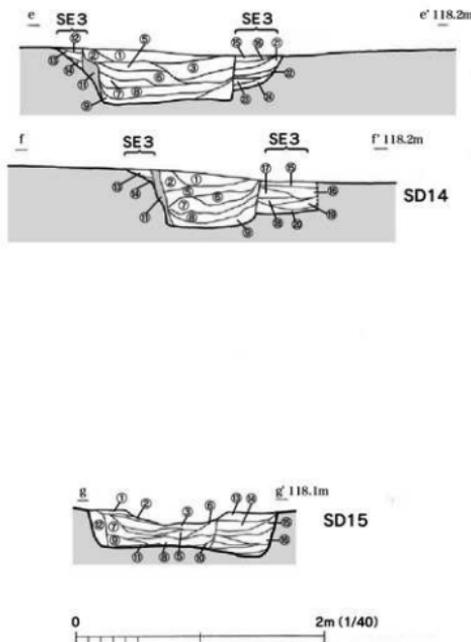
【土層記載】SD11

- ①黒褐色粘質土(10YR 3.5/1)2mm~10mmの褐色のブロックが散在する。粘性が強い、やや硬質。
- ②黒褐色粘質土(10YR 3.5/1)1層に埋設。やや褐色ブロックが多い。(5%)
- ③黒褐色粘質土(10YR 3.5/1)1層に埋設。やや褐色を帯びる。
- ④黒色粘質土(10YR 2/1.5)2mm~2cmの褐色の塊(1%)・黄褐色(2%)のブロックが散在する。大きいブロックが斜めに。密に層積。シルトに近い。
- ⑤黒色粘質土(10YR 2/1.5)3層に埋設。ブロックがやや少ない、やや褐色を帯びる
- ⑥黒色粘質土(10YR 2/1)1mm~2mm(15%)・1cm~2cm(5%)の褐色のブロックが散在する。軟質、やや密に層積。
- ⑦黒褐色粘質土(10YR 3/1)5層に埋設。ブロックが少ない。(5%)
- ⑧黒褐色粘質土(10YR 3/1.5)5mm~10mmの褐色ブロックが散在する(7%)。2cm程度の褐色ブロックが散在する(3%)。シルトに近い、やや密に層積
- ⑨黒褐色粘質土(10YR 3/1)1mm~5mm程度のブロックが散在する。(25%)2cm程度の褐色ブロックが散在する。軟質、ブロック状に層積。
- ⑩黒色粘質土(10YR 2.5/1)1cm~4cmの褐色、黄褐色、黒色ブロックが散在する(50%)。ブロック上の堆積。硬質で密に層積。

【土層記載】SD12・13

- ①黒褐色粘質土(10YR 3/1)2mm~2cmの褐色ブロックが散在する(2%)。硬質、粘性強い。
- ②黒褐色粘質土(10YR 3/1)1層に埋設。2cm程度の褐色ブロックの量がやや多い(5%)。
- ③黒褐色粘質土(1.25YR 3/2)5mmの褐色のブロックが散在する(5%)。粘性強い、シルトに近い、やや硬質。
- ④黒褐色粘質土(1.25YR 3/2)3層に埋設。ややブロックが多い(7%)。
- ⑤黒褐色粘質土(2.5Y 3/1.5)2mm~10mmの褐色のブロックが散在する(7%)。
- ⑥黒褐色粘質土(2.5Y 3/1.5)3層に埋設。黒色ブロックの量がやや多く(7%)。大きい(2cm~4cm)。
- ⑦黒色粘質土(10YR 2/1.5)5mm程度の褐色ブロックが散在する(3%)。シルトに近い。密に層積。やや硬質。
- ⑧赤褐色粘質土(10YR 2.5/1)1cm~3cmの褐色、黒色、暗褐色ブロックが散在する(50%以上)。ブロック上の堆積。やや硬質。強粘の層積したものか。
- ⑨黒褐色粘質土(10YR 2.5/1)3層に埋設。密層よりも硬質。
- ⑩黒褐色粘質土(10YR 3/1.5)2mm~5mmの褐色ブロックが散在する(7%)。硬質。シルトに近い。
- ⑪黒色粘質土(2.5Y 2.5/1)5mm~10mmの褐色ブロックが散在する(12%)。やや灰色を帯びる。粘性が強い、やや硬質。光沢をもつ。
- ⑫黒褐色粘質土(1.25Y 2.5/1)5mm~3cmの褐色ブロックが散在する(4%)。硬質。
- ⑬黒褐色粘質土(10YR 3/2)5mmの褐色ブロックが散在する(3%)。やや灰色を帯びる、やや軟質。
- ⑭黒褐色粘質土(10YR 3/2)3層に埋設。やや褐色を帯びる。
- ⑮黒褐色粘質土(10YR 2.5/1)3mm~2cmの褐色ブロックが散在する(50%以上)。1cm程度の褐色ブロックが散在する(5%)。ブロック上の堆積。硬質
- ⑯赤褐色粘質土(10YR 2.5/1)3層に埋設。やや褐色を帯びる。
- ⑰黒褐色粘質土(10YR 3/1)2mm~5mmの褐色ブロックが散在する(3%)。シルトに近い。軟質。密に層積。
- ⑱黒褐色粘質土(10YR 2/1)1cm~3cmの褐色ブロックが散在する(30%)。1cm程度の褐色ブロックが散在する。ブロック上の堆積。硬質。
- ⑳黒褐色粘質土(10YR 1.7/1)褐色のブロックが散在する(5%)。硬質、粘性高い、シルトに近い。有機質の層。
- ㉑黒褐色粘質土(1.25Y 3/2)1~2cmの褐色、黒色、暗褐色ブロックが散在する(50%以上)。ブロック上の堆積。硬質。

第62図 SC5・SD11・12・13・14・15実測図(1/40)



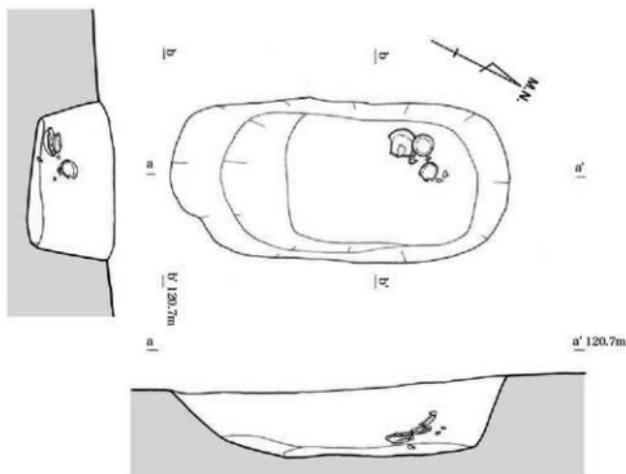
第63図 SD14・15実測図② (1/40)

- 【土層表記】SD14**
 ①赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)20mm~10mm程の褐色ブロッカが混じる(10%)、中硬質。
 ②赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)1層に凝結。ブロッカが少い。(20%)
 ③赤褐色粘質土(2.5V-3/1)20mm~5mm程の褐色ブロッカが混じる。(10%)軟質。
 ④赤褐色粘質土(2.5V-3/1)3層に凝結。ブロッカがやや多い(15%)。軟質。
 ⑤赤褐色粘質土(10YR-2.5/1)2mm~5mm程の褐色ブロッカが混じる(5%)、やや硬質、やや中硬質。
 ⑥赤褐色粘質土(10YR-3/1)3層に凝結。ブロッカがやや多い。(25%)、中硬質、やや硬質に凝結。
 ⑦赤褐色粘質土(2.5V-3/1.5)2mm~5mm程の褐色ブロッカが混じる(10%)、やや軟質、やや中硬質に凝結。
 ⑧赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)7層にやや凝結。やや軟質、やや中硬質に凝結。
 ⑨赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)3mm~5mm程の褐色ブロッカが混じる(10%)、やや硬質、3cm程の褐色ブロッカが混じる(5/10%)。
 ⑩赤褐色粘質土(3.75V-3/1)1mm~3mm程のブロッカが混じる(10%)、やや硬質。
 ⑪赤褐色粘質土(10YR-2.5/1)5mm程の褐色ブロッカが混じる(5/20%)、やや硬質。
 S R 3部分
 ⑫赤褐色粘質土(2.5V-3.5/1)1cm程の褐色ブロッカが混じる(20%)、やや硬質。|
 ⑬赤褐色粘質土(2.5V-3.5/1)5mm程の褐色ブロッカが混じる(20%)、やや軟質、やや中硬質に凝結。
 ⑭赤褐色粘質土(2.5V-3/1)2mm~1cm程の褐色ブロッカが混じる。(30%)やや硬質、やや中硬質に凝結。
 ⑮赤褐色粘質土(1.25V-2.5/2)3mm程の褐色(2%)、黄褐色(1%)のブロッカが混じる。粘性が高い。
 ⑯赤褐色粘質土(1.25V-2.5/2)6層に凝結。やや黄色を帯びる。やや硬質。粘性が高い。
 ⑰赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)2mm~5mm程の褐色のブロッカが混じる(7%)、やや硬質。粘性が高い。
 ⑱赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)3層に凝結。ややブロッカが多い(10%)、やや硬質。粘性が高い。
 ⑳赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)3層に凝結。やや黄色を帯びる。やや硬質。粘性が高い。
 ㉑赤褐色粘質土(2.5V-3/1.5)2mm~5mm程の褐色のブロッカが混じる。やや硬質。粘性が高い。
 ㉒黄色粘質土(10YR-2.5/1)1mm~3mm程の褐色(1%)、黄褐色(1%)のブロッカが混じる。粘性高く、シルトに多い。やや硬質。
 ㉓赤褐色粘質土(10YR-2.5/1)2層に凝結。やや灰色を帯びる。
 ㉔赤褐色粘質土(10YR-2.5/1)2層に凝結。やや灰色を帯びる。
 ㉕赤褐色粘質土(10YR-2.5/1)2mm~3mm程の褐色ブロッカが混じる(20%)、やや軟質。粘性高く、シルトに多い。
 ㉖赤褐色粘質土(10YR-2.5/1)23層に凝結。ややブロッカが多い(25%)。

- 【土層表記】SD15**
 ①赤褐色粘質土(2.5V-3/2)1mm~5mm程の褐色ブロッカが混じる。(3%)。黄褐色、滑りに凝結。
 ②赤褐色粘質土(2.5V-3/2)20mm程の褐色ブロッカが混じる。(7%)。凝質。
 ③赤褐色粘質土(2.5V-3/2)2層に凝結。5mm程のブロッカが混じる。(1%)
 ④赤褐色粘質土(2.5V-3/1)5mm程の褐色ブロッカが混じる(10%)、やや軟質。シルトに近い。やや中硬質。
 ⑤赤褐色粘質土(2.5V-3/2.5)5mm程の褐色ブロッカが混じる(15%)、やや中硬質に凝結、やや硬質。
 ⑥赤褐色粘質土(10YR-2.5/2)5mm程の黄褐色ブロッカが混じる(10%)、やや中硬質に凝結、やや軟質。
 ⑦赤褐色粘質土(2.5V-3/1.5)2mm~5mm程の褐色ブロッカが混じる(10%)、やや軟質。
 ⑧赤褐色粘質土(2.5V-3/1.5)7層に凝結。ややブロッカが多い(7%)。
 ⑨赤褐色粘質土(10YR-2.5/2)0.5mm程の褐色ブロッカが混じる(5%)。
 ⑩純褐色ブロッカ土
 ⑪赤褐色粘質土(10YR-2.5/2)5層に凝結。やや中硬質より黄色を帯びる。
 ⑫赤褐色粘質土(1.25V-3/1)3mm程の褐色ブロッカが混じる(5%)。非常に硬質
 S R 3部分
 ⑬赤褐色粘質土(1.25V-2/1)1mm程の褐色ブロッカが混じる(5%)、やや軟質。シルトに近い。やや中硬質をもち。
 ⑭赤褐色粘質土(1.25V-2/1)3層に凝結。やや黄色を帯びる。
 ⑮赤褐色粘質土(2.5V-3/1)2mm程の褐色ブロッカが混じる(20%)。軟質。
 ⑯赤褐色粘質土(10YR-2/1)2mm~4mm程の褐色ブロッカが混じる(7%)、やや軟質。
 ⑰赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)1mm以下の褐色ブロッカが混じる(50%)、やや軟質。
 ⑱赤褐色粘質土(2.5V-2.5/1)3層に凝結。ややブロッカが多い(25%)。
 ⑲赤褐色粘質土(2.5V-3/1)1mm~3mm程の褐色ブロッカが混じる(10%)、やや硬質。わずかに凝結が混じる。シルトに多い。
 ㉑赤褐色粘質土(2.5V-3/1)3層に凝結。ややブロッカが多い。

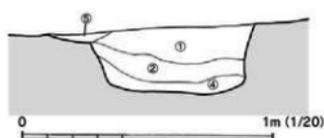
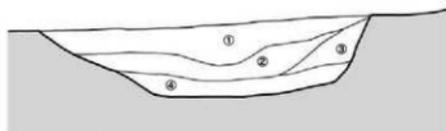
番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	平面形	棺の痕跡	出土遺物
1	175	115	45	長方形	近世	有	土器片2点
2	145	105	55	長方形	近世	有	鉄釘4点、寛永通寶3枚。
3	155	110	44	長方形	近世	有	寛永通寶8枚、鉄釘1点、銅製棒1点
4	155	123	44	長方形	近世	有	土器片2点、銅製棒1点
5	125	95	65	長方形	近世	有	金属片1点、寛永通寶7枚(内鉄銭2枚)
6	185	105	70	長楕円形	近世	有	なし
7	145	100	60	長方形	近世	有	なし
8	160	110	70	長方形	近世	有	寛永通寶1枚、土器片5点
9	153	120	50	長方形	近世	有	土器片
10	150+α	105	65	長方形	近世	有	中国産青花1点、土器片5点
11	153	105	50	長方形	近世	有	陶磁器片2点、土器片6点、寛永通寶1枚
12	105	105	50	正方形	近世	有	磁器片1点、土器片4点、寛永通寶2枚
13	70+α	120	55	正方形	近世	有	なし
14	140	90	45	長方形	近世	有	土器片6点、寛永通寶11枚(内5枚鉄銭)、陶器片1点
15	100	90?	30	正方形	近世	有	寛永通寶6枚、土器片3点
16	135	65	30	隅丸方形	中世	無	土師器杯1点・小皿2点

第7表 土坑墓一覽表



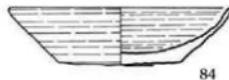
SD16

a' 120.9m b' 120.9m



【土層構成】SD16

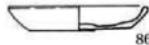
- ①黒色粘質土(10YR-2/1.50mm程の暗褐色がブロックが混じる(5%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。全面片が混じる。
- ②黒褐色粘質土(10YR-2.5/1.50mm程の暗褐色がブロックが混じる(1%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。
- ③黒褐色粘質土(10YR-2.5/1.50mm程の暗褐色がブロックが混じる(1%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。
- ④黒褐色粘質土(10YR-2.5/1.50mm程の暗褐色がブロックが混じる(3%)、やや硬質で密に堆積。キメが細かく、シルトに近い。
- ⑤黒色粘質土(10YR-2/2)1mm程の暗褐色がブロックが混じる。



84



85



86



0 10cm (1/3)

第64図 SD16実測図 (1/20)・出土遺物実測図 (1/3)

⑤道路状遺構

SG1 (第7・65・66図)

C区西側で検出した側溝と明瞭な硬化層を有する道路状遺構である。地山を掘り下げて構築されており、調査区南東から緩やかに蛇行して北西方向の調査区外へ延びていた。路面は北西から南東へわずかに下る。長さは調査区内だけでも約60mを測る。戦後も土地改良が行われる昭和38年までは使用されていたという(地元古老談)。南東方向へ続く道は現在も住民の生活道として使用されている。

東側には側溝があり、西側にも浅い側溝らしき形跡が見られた。道の幅員は2.0~2.4m、掘込みの深さは0.3m前後であった。東側の側溝を含めると、3m前後の幅になる。側溝の幅は約0.8mで、掘込みは路面のレベルよりも0.3~0.4m深い。断面で見ると、道路部分は箱形だが側溝はU字形を呈している。礫混じりの土を幾重にも突き固めた堅固な造りで、路面は部分的に凹凸があるものの良好な状態を保っており、轍の痕跡がわずかに見られた。

遺物は中世の中国産青磁(第73図131)・白磁(第73図132)、国産陶器(第73図133・134)、近世の陶磁器(第73図135・136)などが出土している。遺物はこの他にも中・近世の陶磁器類が400点以上、近・現代の陶磁器類も300点以上出土していることなどから、中世から現代に至るまで使用されていたと推察される。

さらに、C区中央部I-8グリッドに位置している石積遺構がSG1の路面上に造られている。

SG2 (第7・65・66・67図)

C区の西側を南東から北西にかけて走っている。南東端は削平されて残存していないが、北西方向はC区の調査区境までSG1と並行する。路面は北西から南東へわずかに下る。道路状遺構と思われるが、30cm大の礫から数cm大の小礫までが敷き詰められた路面は平坦ではない。一部で攪乱により削られているが約30mにわたり敷かれていた。幅員は1.1~1.5mを測る。これらの礫を取り除くと硬化面が現れ、その下からは直径約30~50cm程度の円形や楕円形をしたビットが切り合った状態で170基以上検

出された。いわゆる波板状凹凸面と判断される。埋土は黒褐色で硬くしまっており、小礫や土器の小片が多量に混じっていた。これらを完掘すると深さ0.1m程度の薄い皿状のビットとなった。

出土遺物として磨製石斧(第10図19)、弥生時代から古墳時代の土器(第12図64~65・73~74・77)、中世の中国産白磁(第73図137)、国産陶器(第73図138)や、近世陶磁器(第73図140・141)、磨石(第78図231)・砥石(第79図244・第80図249)火打石(第82図262・264・270)がある。

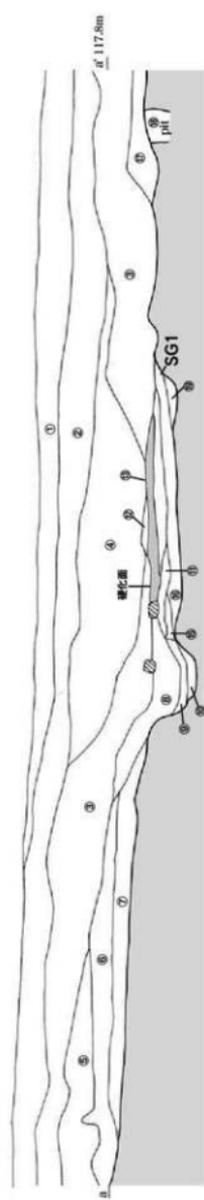
SG2はビット内の遺物から判断すると、SG1に先立つ道路状遺構と推察される。またビットの状況からは2~3条の切り合いも想定できるが、個々の判別がつかない。波板状凹凸面の評価については諸説があるが、ここでは道路の舗装部分を安定させるために人為的に穴を掘り、路床部分を入念に填圧したものと考えておきたい。

SG3 (第8・68図)

D区西縁の壁に沿い北東から南西に走っている。波板状凹凸面を有する道路状遺構である。検出部分の長さは16.5mで、北東部分は削平され残存しない。南西方向は調査区外へと延びている可能性がある。SE30に切られた南西端には硬化層が見られた。ビットは80基以上検出され、形状は円・楕円・瓢箪形など様々である。最大のビットは長径1.4m、短径0.4m、深さ0.3mで瓢箪形を呈する。埋土は明褐色ロームブロックが混じり、硬質で細砂が多く小礫も含む。C区で検出したSG2ではビットの中に土器小片が混じるものがあつたが、SG3では見られなかった。深さも0.1m以上のものが多い。やはりビットの状況から2~3条の切り合いがあると思われるが、明確には判別できない。

この遺構の波板状凹凸面はC区SG2で見られたものの形成過程とはやや異なり、牛馬や人々の往来によってできた凹凸を補修するため人為的に土砂を充填したものと推察される。

遺物としては中国産青磁(第73図142)・白磁、国産陶器片などが出土していることから、中世の遺構と推定される。



【土層剖記】SG1-a

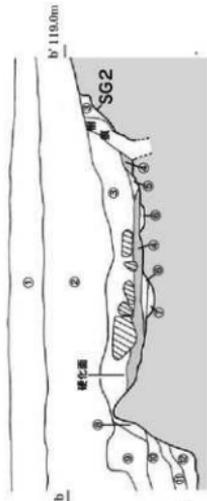
① 腐植土
 ② 腐植土
 ③ 腐植土
 ④ 腐植土
 ⑤ 腐植土
 ⑥ 腐植土
 ⑦ 腐植土
 ⑧ 腐植土
 ⑨ 腐植土
 ⑩ 腐植土
 ⑪ 腐植土

【土層剖記】SG1-b

① 腐植土
 ② 腐植土
 ③ 腐植土
 ④ 腐植土
 ⑤ 腐植土
 ⑥ 腐植土
 ⑦ 腐植土
 ⑧ 腐植土
 ⑨ 腐植土
 ⑩ 腐植土
 ⑪ 腐植土

【土層剖記】SG1-c

① 腐植土
 ② 腐植土
 ③ 腐植土
 ④ 腐植土
 ⑤ 腐植土
 ⑥ 腐植土
 ⑦ 腐植土
 ⑧ 腐植土
 ⑨ 腐植土
 ⑩ 腐植土
 ⑪ 腐植土



5



【土層剖記】SG1-b

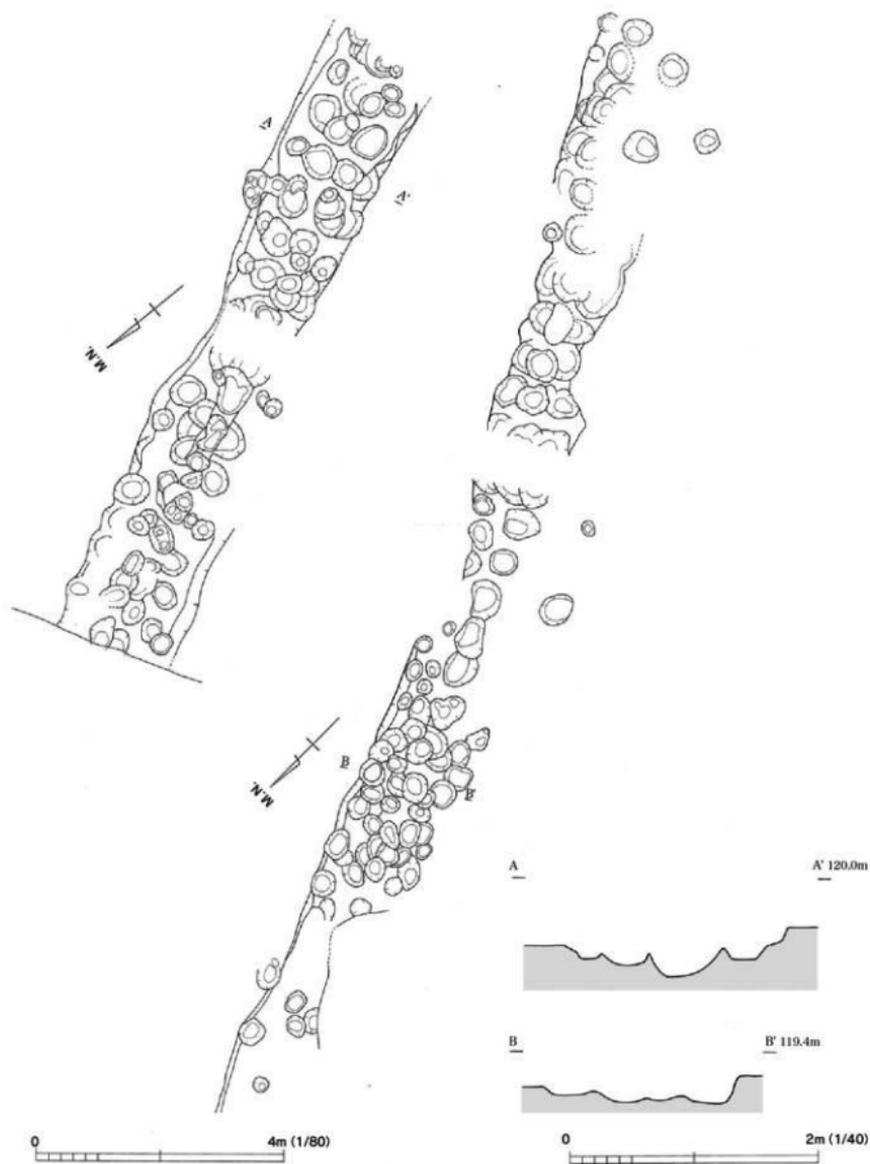
① 腐植土
 ② 腐植土
 ③ 腐植土
 ④ 腐植土
 ⑤ 腐植土
 ⑥ 腐植土
 ⑦ 腐植土
 ⑧ 腐植土
 ⑨ 腐植土
 ⑩ 腐植土
 ⑪ 腐植土

【土層剖記】SG1-c

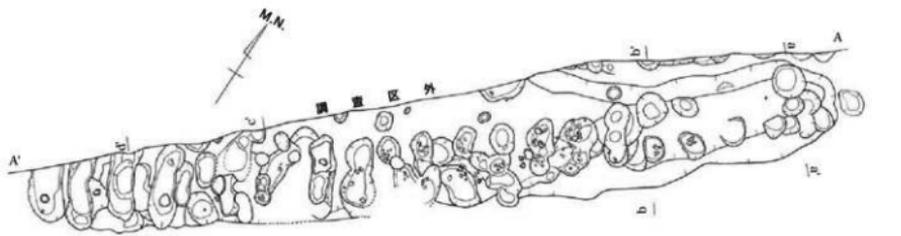
① 腐植土
 ② 腐植土
 ③ 腐植土
 ④ 腐植土
 ⑤ 腐植土
 ⑥ 腐植土
 ⑦ 腐植土
 ⑧ 腐植土
 ⑨ 腐植土
 ⑩ 腐植土
 ⑪ 腐植土



第66図 SG1・土層断面実測図 (1/40)



第67图 SG2(波状凹凸面) 实测图 (平面1/80、断面1/40)



【土層注記】調査区北端土層及びSG3波板状凹凸面

①耕作土（牧草栽培地）

②粘土（埋田時）

③耕作土

④黄色粘質土2.5YR 2/10.1-1.0mの明褐色ローム・黄土?ブロック・炭化物が混じる。非常に硬質。粘性中弱い。

⑤黄褐色粘質土2.5YR 3/10.1~1mの明褐色ローム・褐色ローム・黄土?ブロックが混じる。炭化物が混じる。硬質。粘性中弱い。

⑥黄褐色粘質土2.5YR 2/10.1-1.0mの明褐色ローム・褐色ロームが混じる。炭化物が混じる。クラカクした土。

⑦黄褐色粘質土10YR 2/10.1~1mの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かい。シルトに近い。やや粘性。やや密に堆積。

⑧黄褐色粘質土2.5YR 2/10.1~0.5mの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性。きめが細かい。シルトに近い。やや粘性弱い。

⑨黄褐色粘質土10YR 2/10.1~0.3mの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性。きめが細かい。シルトに近い。

⑩黄褐色粘質土10YR 2/10.1~0.5mの明褐色ローム・暗褐色ブロックが混じる。硬砂が多く混じり、ザラザラしている。非常に硬質（硬化層）。厚さ0.5cmの層が重なっているように見える。

⑪黄褐色粘質土10YR 3/10.5~3mの明褐色ローム・暗褐色ブロックが混じる。硬砂が多く混じり、ザラザラしている。非常に硬質（硬化層）。厚さ0.5cmの層が重なっているように見える。

⑫黄褐色粘質土10YR 4/20.5mの明褐色ローム・暗褐色・黒色ブロックが混じる。非常に硬質（硬化層）。硬砂がやや多く混じり、ザラザラしている。

⑬黄褐色粘質土10YR 4/10.2~1mの明褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。

⑭黄褐色粘質土10YR 4/10.1~1.5mの暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。硬砂が多く混じり、ザラザラしている。硬化した部分があるところに見られる。

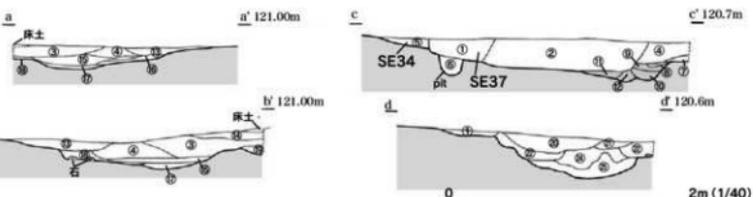
⑮黄褐色粘質土10YR 2/10.1-1.0mの暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。

⑯黄褐色粘質土10YR 2/10.1-1.0mの暗褐色ローム・明褐色ローム・黒色土ブロックが混じる。

⑰黄褐色粘質土10YR 3/10.5~1mの明褐色ローム・暗褐色ロームブロックが混じる。

⑱黄褐色粘質土10YR 4/20.1~1.5mの暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。

⑲黄褐色粘質土10YR 4/20.5~1mの暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。



【土層注記】調査区凹凸面

①黄色粘質土2.5YR 2/10.2~0.5mの明褐色ロームブロックが混じる。やや粘性弱い。ややきめが細かい。軟質。

②黄褐色粘質土2.5YR 2/10.2~5cm程度まで10.2~1mの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かいシルトに近い。やや粘性弱い。軟質。

③黄褐色粘質土2.5YR 2/10.2~1mの明褐色ローム・褐色土2.5YR 4-6のブロックが混じる。0.5%ほどの赤褐色(2.5YR 4-6)（黄土）のブロックが混じる。きめが中程度。やや硬質。

④黄色粘質土2.5YR 2/10.1-1.0mの明褐色ローム・明褐色ローム・黄土が混じる。やや粘性弱い。やや中程度。軟質。

⑤土E34・27の凹凸面に相当する。

⑥黄褐色粘質土10YR 4/1.50.1~0.2mの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かい。シルトに近い。やや粘性弱い。軟質。弱い堆積。

⑦黄褐色粘質土10YR 4/1.50.1~1mの明褐色ロームブロックが混じる。硬砂が少混じる。粘性弱い。やや粘性。

⑧黄褐色粘質土10YR 2/1.50.0m程度明褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。硬砂が多く混じり、ザラザラする。きめが細かいシルトに近い。

⑨黄褐色粘質土10YR 3/10.1~0.5mの明褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かいシルトに近い。硬砂が混じる。

⑩黄褐色粘質土10YR 4/20.5~1mの黄褐色・暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かいシルトに近い。硬砂が混じる。

⑪黄褐色粘質土10YR 4/20.1~0.2mの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かい。シルトに近い。硬砂が混じる。

⑫黄褐色粘質土10YR 3.5/10.1~0.5mの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かい。シルトに近い。硬砂が混じる。

⑬黄褐色粘質土2.5YR 3/10.1~0.37mの暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。ややきめが細かい。硬質。やや粘性弱い。

⑭調査区北端土層部に相当する。

⑮黄褐色粘質土10YR 1/7.1)きめが細かい。シルトに近い。やや粘性。密に堆積。0.2~0.5mの暗褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。

⑯黄褐色粘質土10YR 2/1.50.2~1mの明褐色ロームブロックが混じる。きめが細かい。シルトに近い。やや粘性弱い。やや粘性。

⑰黄褐色粘質土10YR 4/20.5~1mの明褐色ローム・暗褐色ロームブロックが混じる。やや粘性。硬砂が多く混じり、ザラザラしている。

⑱調査区北端土層部に相当する。

⑲黄褐色粘質土10YR 3/10.1~0.2mの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。硬砂が多く混じり、ザラザラする。

⑳黄褐色粘質土10YR 3/10.1~0.2mの明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。硬砂が多く混じり、ザラザラする。

㉑黄褐色粘質土2.5YR 4/10.2~0.5mの明褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる。非常に硬質。硬砂・白色粘が多く混じりザラザラする。

㉒黄褐色粘質土2.5YR 4/20.5~3mの明褐色ローム・明褐色ロームブロックが混じる(50%)。非常に硬質。硬砂・白色粘が多く混じりザラザラする。

㉓調査区北端土層部に相当する。

第68図 SG3（波板状凹凸面）実測図（平面1/100、断面1/100・1/40）

⑥石積遺構

1号石積遺構（第7・69図）

調査区中央部C区1-8グリッドに位置し、遺構の西側は、県道川南尾鈴停車場線に接する。本遺構は掘り込みをもたず、礎を「組む」というより「積む」要素が強いことから石積遺構として取り扱う。

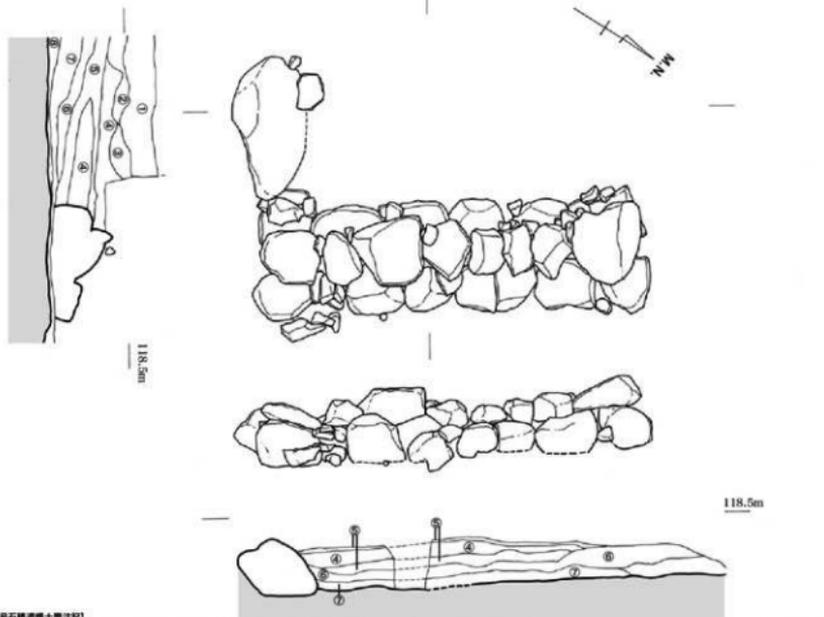
遺構の構築時期を特定する遺物としては、近世後半の陶磁器片9点が出土したが、昭和38年まで里道として利用されていたSG1の硬化面上に直接積み重ねられていることからSG1と同時期以降のものと推察される。

第①層で礎上面を検出し、礎下面是SG1である。主軸はN-31°-Wで、平面プランはL字状を呈し、長径3.3m、短径2.2mである。石積の構成礎は砂岩の

角礫で接地面から1～2段積み上げて構築している。根石は平らな面を下に向けて積んでいるが、南北軸の根石は30～50cm程の礎をほぼ対峙するように2列据え、四ツ目となった中心に1番石を配石している。

L字構造をとる石積の内側と外側では埋土の堆積状況が異なっていることから、石積を構築した後に内側へ土を充填した可能性は高い。また礎間には拳大の小礎を裏込め石状に詰めており、その傾向は内側に高いことから本来の平面プランは方形であった可能性が高いが、遺構の西側辺や北側辺に石積を検出することはできなかった。

埋土は硬化層と軟質層が互層をなしている。長軸においてはほぼ平行に堆積している。



【1号石積遺構土層注記】

- ①黒土 (10YR 5/2) 黄褐色のバミスを30%含む。非常に硬く押し固められた形跡があり、石積みの上層だけに覆られている。
- ②黒褐色土 (10YR 3/1) 黄褐色土を1%含む。軟質であり粘性は低い。
- ③黒褐色土 (10Y 3/1) 暗褐色のブロックを30%含む。きめ細かく軟質で粘性は低い。
- ④黒色粘質土 (10YR 2/1) 粒径1cm程度の暗褐色土を10%含む。きめ細かく中硬くしまっている。
- ⑤黒色粘質土 (10YR 2/1) 暗褐色土を2%含む。きめ細かく、粘り強い土層に属している。
- ⑥黒色粘質土 (10YR 1.7/1) 暗褐色土を10%含む。きめ細かく、軟質である。
- ⑦黒褐色粘質土 (10YR 2/1) 軟質だが中硬粘性があり一部硬を含んでいる。
- ⑧黒色粘質土 (10YR 1.7/1) 非常に硬くしまっており、硬化している。
- ⑨黒色硬化面直下の層でありSG1の表層である。
- ⑩黒色粘質土 (10YR 1.7/1) 非常に硬くしまっており硬化している。

第69図 1号石積遺構実測図 (1/40)

(2) 遺物

①土器・陶磁器類

SE 1 出土遺物 (第70図87~103)

87~92は中国産青磁である。

87は碗で体部外面に線描の細蓮弁文、内底面に線描の花文とその中央に「太」のスタンプを施す。釉薬は薄く、緑灰~オリーブ色を呈し、細かな貫入が器表全面に見られる。釉薬は高台内側途中で止まり、外底面は露胎で茶褐色に発色している。上田分類のB-IV-a類にあたる。

88は碗で体部外面に片切彫の蓮弁文、内底面に菊花文のスタンプを施す。釉薬はやや厚めで暗緑色を呈する。全面施釉後に外底面の釉を輪状に掻き取り、露胎部は茶褐色に発色する。上部が残存しないため判然としない部分があるが、蓮弁のカーブから雷文帯を有する可能性が高い。上田分類のC-II-b類にあたると思われる。

89は碗で内底面に花文のスタンプを施す。釉調や施釉方法などは88に類似する。

90は碗で体部外面に片切彫の蓮弁文、内底面にへら描きの圓線を施す。釉調や施釉方法などは88に類似し、上田B-II-b類にあたる。

91は上部が残存しないが、高台の形状から皿の可能性が高いと判断する。内底面に双鱼文と卍文のスタンプを施す。釉調や施釉方法などは88に類似する。

92は綾花皿で内底面にへら描きの花文?を施すほか、体部内面にも形状が判然としない草花文?が見られる。釉調や施釉方法などは88に類似する。

93~96は中国産白磁である。

93は八角杯で挾入高台を有し、内底面にはそれに対応する目跡が残る。焼成は甘い。森田分類D群、新垣・瀬戸分類D類Iにあたる。

94は皿で体部中位で屈曲し、内底面に蛇ノ目釉剥ぎを施す。器壁が薄いので完全に一致するとは言いがたいが、新垣・瀬戸分類F類に似るか。割れ面に漆が付着しており、漆継ぎによる補修と判断される。

95は皿で挾入高台を有する。焼成は甘い。位置付けは93に準ずる。

96は皿で内底面および体部外面下半から外底面にかけて露胎となる。焼成は甘い。新垣・瀬戸分類の

E類IIIにあたる。

97は中国産青白磁の合子蓋である。体部上半と口縁端部が露胎となり、やや褐色がかかる。内面は施釉される。造形は全体的に粗い。170とセットをなす可能性が高い。

98~101は国産陶器である。

98・99は備前焼の搦鉢で、98には一単位8条の、99には10条の搦目が施される。口縁部の形状は99が肥厚化の進行しつつある段階で、98は上方への拡張が顕著になっている。98は乗岡編年による中世5b期、99が中世3b期にあたると思われる。99は胎土に小石を含み、焼成も甘い。

100は備前焼の甕で、口縁部が縦に長い玉縁状を呈している。その形態から乗岡編年の中世4b~5a期頃にあたると思われる。

101は壺である。胎土などの特徴は備前のものにも似るが、形態が合致せず確定には至らなかった。

102は土師器羽釜である。口縁部直下に低い突帯を巡らせるほか、体部外面に斜位の平行タキ痕が残る。内面はナデ調整である。

103は肥前系染付碗でいわゆるくらわんか碗である。外面に雪輪草花文を施し、裏銘に崩れて判読不能の「大明年製」が書かれる。18世紀後半頃の製品と判断される。

SE 3 出土遺物 (第71図104)

104は備前焼の搦鉢である。口縁部の上方への拡張が進行しており、乗岡編年の中世5a期にあたる。胎土は夾雑物を含み粗い。

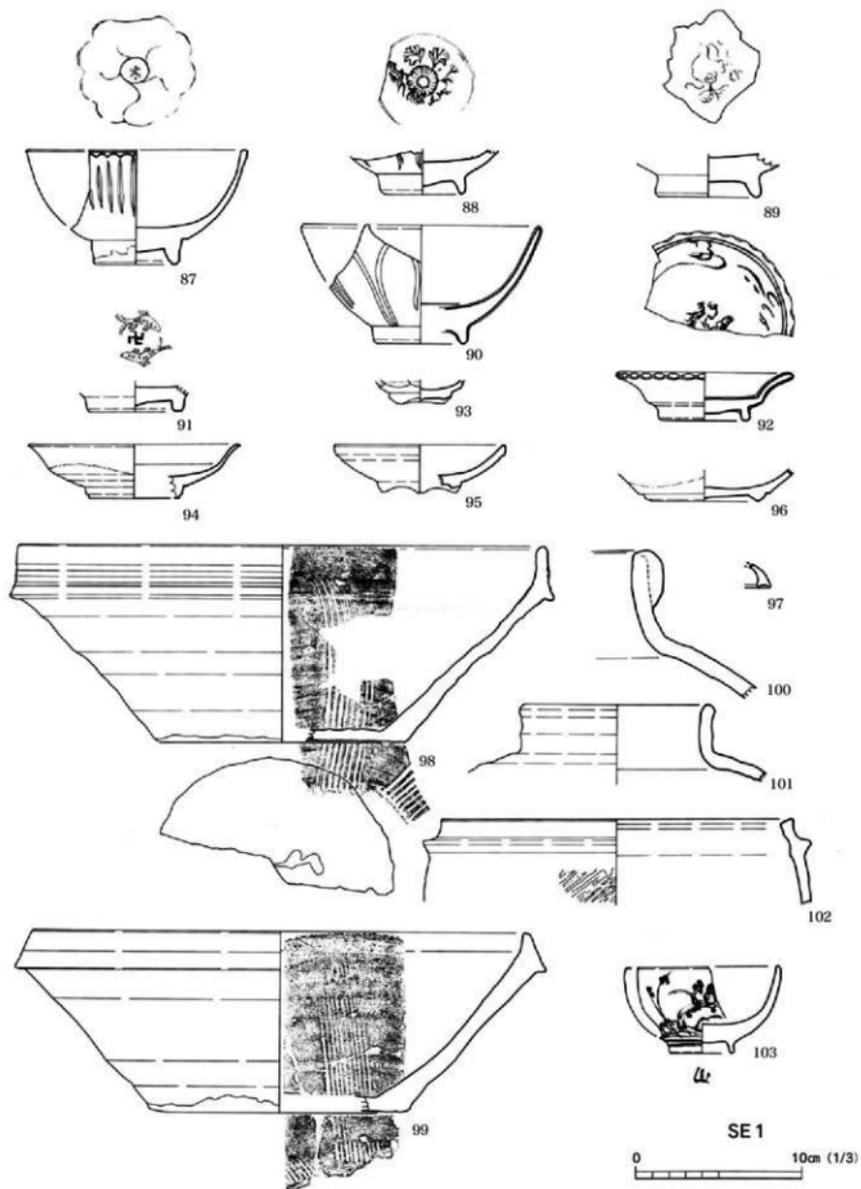
SE 4 出土遺物 (第71図105~109)

いずれも土師器で105~108が杯、109のみ小皿である。

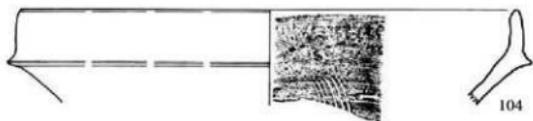
105は摩滅により不明瞭だが、底部にへら切り痕を残すようである。

106は底部に右回転へら切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

107は底部に回転へら切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。

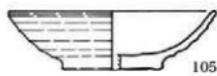


第70圖 中・近世土器・陶磁器類実測図① (1/3)



104

SE3



105



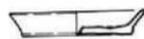
106



107



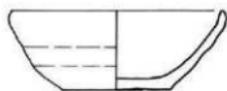
108



109



SE4



110



111



112

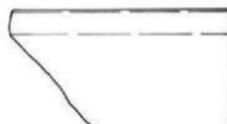


113



114

SE5



115



116



117



118



119

0 10cm (1/3)



SE6

第71圖 中・近世土器・陶磁器類実測図② (1/3)

108は底部に右回転系切り痕を残し、その後に調整は加えられていない。胎土はややざらつき、器表に指を滑らせると引っかかる感じがある。

109は底部に右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

SE5出土遺物(第71図110~112)

110は土師器杯で、底部に右回転系切り痕を残し、その後の調整は加えない。胎土はややざらつき。一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

111は土師器鍋で外面に煤が付着しており、火にかけられたことが明白である。体部外面はごく一部に縦位のハケメの様な擦痕が観察できるが、指頭圧痕が顕著で凹凸があるため、器面調整を行ったとは考えづらい。内面は横位のハケメ調整が施される。

112は須恵器壺だが、詳細は明らかにしない。

SE6出土遺物(第71図113~119)

113は中国産青磁碗で、体部外面に片切彫の鍋蓮弁文(間弁有り)を施す。軸葉は緑灰色を呈する。大宰府分類I-5-b類、上田分類B-1類にあたる。

114は中国産白磁碗である。口縁部へ体部しか残存しないが、胎土や釉調から第73図137と同種であると判断され、森田分類C群、田中J類、新垣・瀬戸分類B類碗Ⅲにあたる。

115は須恵器鉢である。形態的特徴は東播系須恵器鉢に類似するが、全体的に作りが粗雑で焼成も甘い。東播系は重ね焼きの結果、口縁部外面が黒色を呈するものが多いが、そうした色調の変化も確認できない。内面には横位・斜位のハケメが施される。

116は備前焼播鉢である。口縁部の肥厚化が進行しつつあり、乗岡編年の中世3b期にあたる。

117~119は土師器杯である。

117は底部の残存状態が悪く、詳細不明。

118は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

119は摩擦が著しいが、回転系切り痕が確認でき

る。胎土はややざらつき。

SE31出土遺物(第72図120~123)

120は中国産青磁碗で内底面にスタンプ(意匠不明)を施す。軸葉はやや薄く、細かな貫入が器表全面に見られる。全面施釉後に外底面の軸を輪状に掻き取り、露胎部は茶褐色に発色する。

121は古瀬戸の卸皿で内底面に格子状の卸目を施すほか、上半部には灰釉がかかけられている。底部には右回転系切り痕が残る。藤沢編年の後IV期頃に相当すると思われる。

129は東播系須恵器鉢である。口縁端部の上下が尖っており比定しづらいが、森田編年の第III期第2段階、荻野編年のIV期にあたると思われる。

130は備前焼壺ないし甕の底部である。

SE44出土遺物(第72図124~129)

124は中国産青磁碗で体部外面は雷文帯の下に片切彫の蓮弁文、内面にも線描きの文様を施す。青緑色の軸葉が厚くかかり、文様が不鮮明になっている。上田分類C-II類にあたる。

125は古瀬戸の壺か水注の可能性があろう。表面に菊花文のスタンプを施す。軸葉は黄褐色を呈するが、文様の凹部に入り込んだ軸葉は本来の淡緑色を呈しており、器表に熱を受けたことによる変色と考えられる。

126は備前焼の甕で、口縁部が玉緑状を呈するが、作りが比較的シャープである。その形態から乗岡編年の中世3期頃にあたると思われる。

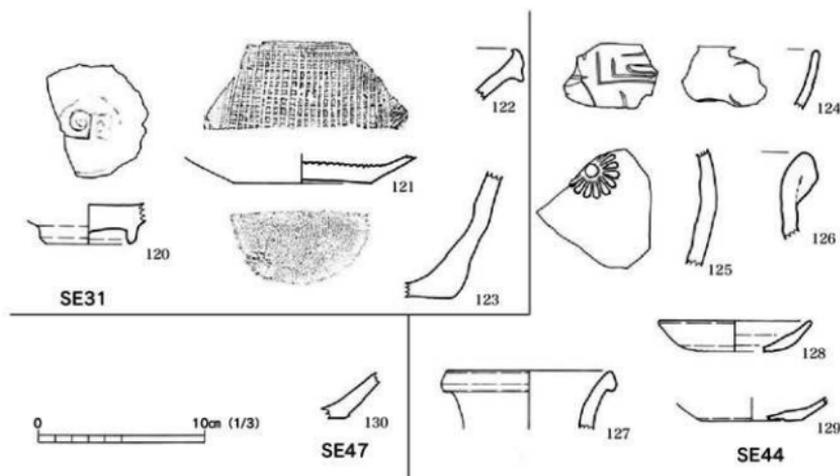
127は須恵器の壺であるが、詳細不明である。

128は土師器小皿で、底部に回転ヘラ切り痕を残す。一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

129は土師器杯と思われる。底部は回転ヘラ切り痕の上から工具によるハケメ状の調整が施される。

SE47出土遺物(第72図130)

130は東播系須恵器鉢の底部である。



第72図 中・近世 土器・陶磁器類実測図③ (1/3)

SG 1 出土遺物 (第73図131~136)

131は中国産青磁碗で、体部に比して底部が厚い。残存部で観察する限り、体部外面下半および内底面に文様は施されない。釉葉はやや厚く、オリーブ色を呈する。全面施釉後に外底面の軸を輪状に掻き取り、露胎部は茶褐色に発色する。上田分類のD類ないしE類に相当する可能性がある。

132は中国産白磁で、高台内の削り方にみえる特徴から田中分類G類にあたり、皿か浅い碗になると思われる。外底面に朱墨のような痕跡があるが、残存状態が悪いため詳細を明らかにしえない。

133は備前焼擂鉢で、口縁部の上下端が拡張・突出しており、乗岡編年の中世3b期にあたる。

134は備前焼の甕で、口縁部が縦に長い玉緑状を呈している。その形態から乗岡編年の中世4b~5a期頃にあたると思われる。

135・136は近世後半期の陶磁器類である。

135は堺・明石系擂鉢で、口縁部の形状から白神分類のⅢ型式にあたり、19世紀代の製品と判断される。

136は肥前系の染付鉢である。内底面に蛇ノ目軸

剥ぎとコンニャク印判の五弁花を施す。18世紀後半頃のものか。

SG 2 出土遺物 (第73図137~141)

137は中国産白磁で、高台内の削りが浅く底部の厚い碗である。内底面に圈線と花文のスタンプを施す。釉葉は灰色がかかる。森田分類C群、田中J類、新垣・瀬戸分類B類碗Ⅲにあたる。

138は備前焼の擂鉢で、口縁部の肥厚化が始まっていることから、乗岡編年の中世3a期にあたる。

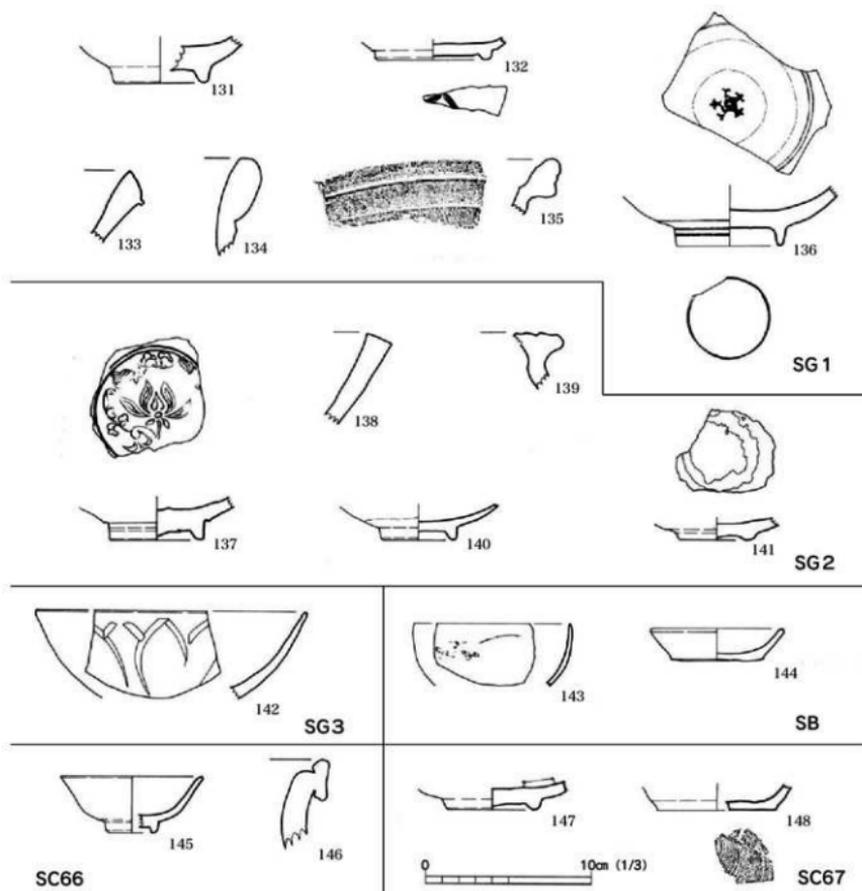
139は壺ないし甕の口縁部と思われるが、詳細は不明である。

140は肥前系陶器皿で内面に銅緑軸、外面に透明をかけつけている。内底面には蛇ノ目軸剥ぎを施す。

141も肥前系陶器皿だが、削り出し高台を有し、内底面に砂目が残る。17世紀初頭頃の所産である。

SG 3 出土遺物 (第73図142)

142は中国産青磁碗で体部外面に片切彫の錦蓮弁文(間弁有り)を施す。釉葉はオリーブ色を呈する。大宰府分類I-5-b類、上田分類B-1類。



第73図 中・近世土器・陶磁器類実測図④ (1/3)

S B出土遺物 (第73図143・144)

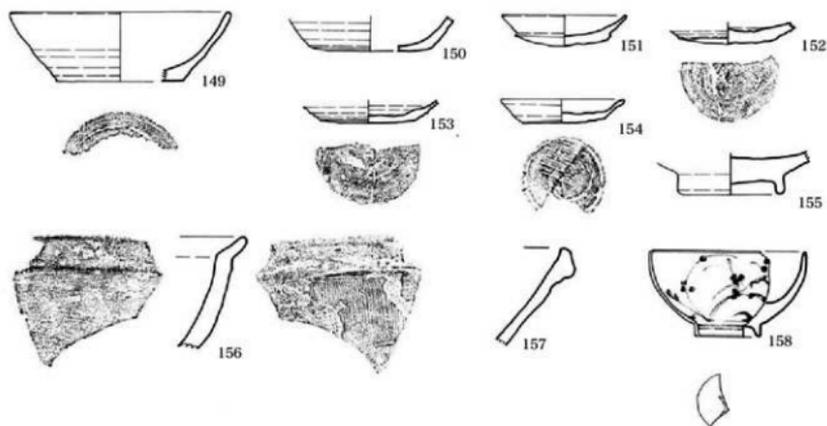
143はS B16のP2から出土した陶器碗である。丸碗で外面に呉須と鉄絵で草花文?を描く。京・信楽系の可能性がある。

144はS B1のP1から出土した土師器皿である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

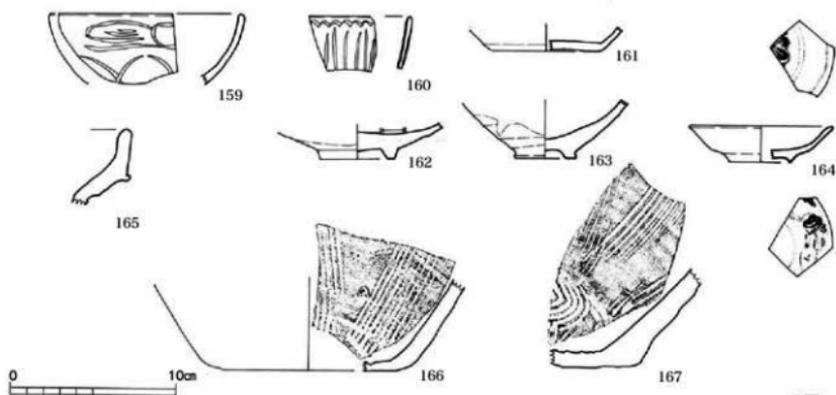
S C66出土遺物 (第73図145・146)

145は中国産白磁杯である。胎土はやや粗いが、釉薬は白色を呈する。新垣・瀬戸分類のD類杯Ⅱに相当するか。

146は常滑焼の甕である。口縁部がN字状を呈しているが、緑帯は3cm以下にとどまる。中野編年の6a型式に相当する。



SH



A区

第74図 中・近世 土器・陶磁器類実測図⑤ (1/3)

SC67出土遺物 (第73図147・148)

147は中国産白磁で、高台内の削り方にみえる特徴から田中分類G類にあたり、皿が浅い碗になると思われる。

148は土師器杯で、底部に糸切り痕が残る。

SH出土遺物 (第74図149~158)

149はSH119から出土した土師器杯である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によ

るハケメ状の調整が施される。

150はSH65から出土した土師器杯である。底部は回転ヘラ切り痕があり、一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

151はSH19から出土した土師器皿である。底部は右回転ヘラ切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

152はS H 115から出土した土師器杯である。底部は右回転へら切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

153はS H 116から出土した土師器皿である。底部は右回転へら切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

154はS H 93から出土した土師器皿である。底部は右回転へら切り痕があり、その上から工具によるハケメ状の調整が施される。内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

155はS H 91から出土した中国産青磁碗である。残存部を観察からは文様を確認できない。軸葉は薄く、オリーブ色を呈している。全面施釉後に外底面の軸葉を輪状に挿ぎ取っている。

156はS H 107から出土した土師器鍋である。焼きは甘く、胎土はへら切りの土師器に類似するようである。口縁部はヨコナデを、体部は外面が縦位の、内面が横位・斜位のハケメを施している。外面に煤が付着するほか、被熱によると思われる器表の剥離も認められ、火にかけられたことが明白である。

157はS H 101から出土した東播系須恵器鉢である。口縁部が肥厚しているが、上方・外方への拡張があまり強くないため、森田編年の第Ⅱ期第2段階、荻野編年のⅢ期にあたると思われる。

158はS H 90から出土した肥前系染付碗で、いわゆるくらわんか碗である。外面に雪輪草花文を描くが、雪輪が崩れてその上部が耳状に突出していることから19世紀代の所産と思われる。残存状態が悪いが、裏銘に崩れた「大明年製」が書かれるようである。

A区出土遺物（第74図159～167）

159・160は中国産青磁碗である。

159は体部外面に雷文帯が巡り、その下には幅の広い蓮弁文を施す。オリーブ色がかった軸葉が厚くかけられ、文様が不鮮明になっている。上田分類C-II類にあたる。

160は体部外面に線描の細蓮弁文を施すが、もは

や蓮弁の形をなしていない。軸葉はやや厚く、暗緑色を呈する。上田B-IV'類にあたる。

161は中国産白磁である。底部しか残存しないが、口縁端部が無軸のいわゆる口禿皿である。大宰府分類IX類、森田分類のA群にあたる。

162は白磁皿であるが、詳細は不明である。近世の所産である可能性も高い。内底面に蛇ノ目軸剥ぎを施し、体部外面下半から外底面を露胎とする。

163は胎土の特徴から、中国産の天目茶碗と思われる。

164は中国産青花皿である。端反の小皿で内面は圏線と花文？を、体部外面は宝相華唐草文を描く。小野分類B I群にあたる。

165～167は備前焼の擂鉢である。

165は口縁部の特徴から乗岡編年の中世5 a～5 b期頃に相当すると思われる。緻密で粘性の高そうな胎土であり、田土を用いている可能性がある。

166は胎土や色調から165と同一個体と判断される。一単位9条の擂目を施している。

167は底部～底部片で、体部内面に一単位8条の擂目を施すほか、底部にも擂目が見られる。

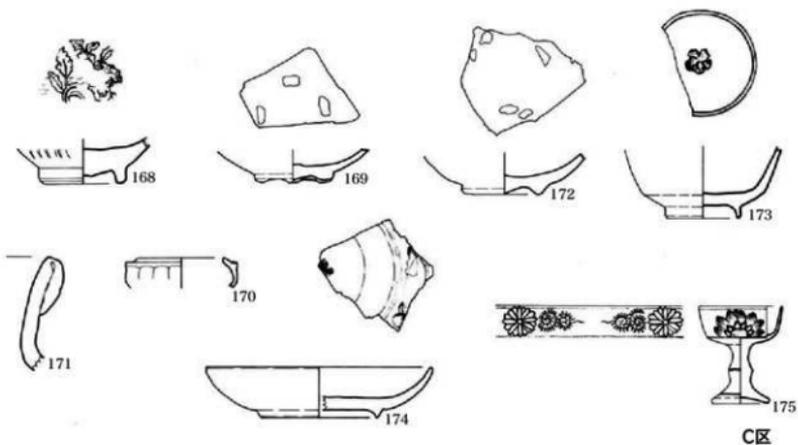
C区出土遺物（第75図168～175）

168は中国産青磁碗で体部外面に線描の細蓮弁文を、内底面に花文のスタンプを施す。軸葉はやや厚く緑灰色を呈するが、細かな貫入が器表全面に見られる。軸葉は高台内側途中で止まり、外底面は露胎で茶褐色に発色している。上田分類のB-IV類にあたる。

169は中国産白磁皿で挾入高台を有し、内底面にはそれに対応する目跡が残る。焼成は甘い。森田分類D群、新垣・瀬戸分類D類杯Iにあたる。

170は中国産青白磁合子で、外面には型に押し込んだ際の縮縮状のシワが認められる。受け部と外面下半は露胎で褐色がかっている。内面は下半から軸がかかるようである。全体的に作りは粗い。第70図97とセットをなす可能性がある。

171は備前焼の甕で、口縁部が縦に長い玉緑状を呈している。その形態から乗岡編年の中世4 b～5 a期頃にあたると思われる。



C区

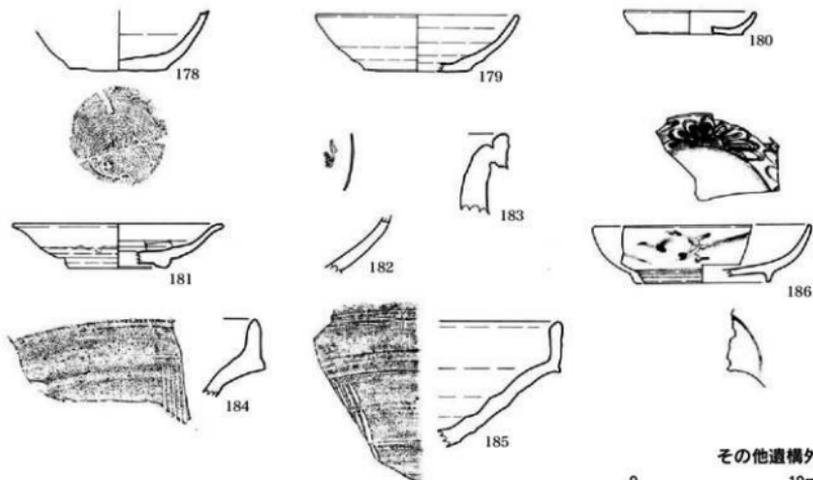


176



177

D区



その他遺構外

0 10cm (1/3)

第75図 中・近世土器・陶磁器類実測図⑥ (1/3)

172は肥前系陶器皿で削り出し高台を有し、内底面には胎土目が残る。16世紀末～17世紀初頭頃の所産である。

173～175は近世後半期の陶磁器である。

173は肥前系青磁染付の朝顔形碗で、内底面に二重圏線とコンニャク印判の五弁花を染め付ける。18世紀後半頃の製品である。

174は肥前系染付皿で口径がやや小さいが、いわゆる五寸皿の範疇で捉えられよう。内面に唐草文？とコンニャク印判五弁花を染め付け、内底面に蛇ノ目軸剥ぎを施す。18世紀後半～19世紀初頭頃の所産か。

175は肥前系磁器で赤絵の仏飯器である。体部外面に菊花や蛸唐草文を描き、脚部は竹節状を呈する。19世紀代の所産か。

D区出土遺物（第75図176・177）

176は肥前系染付碗でいわゆるくらわんか碗である。外面に梅樹文を描く。18世紀後半頃の製品と判断される。

177も肥前系染付碗で腰張りの丸碗である。外面に草花文を描く。やはり18世紀後半頃の製品であろうか。

その他遺構外出土の遺物（第75図178～186）

178は土師器杯で底部に右回転系切り痕を残し、その後の調整は加えない。胎土はややざらつく。

179も土師器杯で底部は回転へら切り痕を残し、内底面には指頭による横位のナデが確認できる。

180は土師器小皿で底部は回転へら切り痕を残す。一部にタール状の油煙が付着することから、灯明皿として使用された可能性がある。

181は中国産白磁皿で体部中位に屈曲があり、口縁部は外反する。内底面は蛇ノ目軸剥ぎを施し、体部外面下半から外底面は露胎である。新垣・瀬戸分類のF類に相当するか。

182は中国産白磁である。体部のみの破片であるが、胎土や軸調から第73図137と同種であると判断され、森田分類C群、田中J類、新垣・瀬戸分類B類碗Ⅲにあたる。内面に文様が確認できるが、残存

状態が悪く詳細は不明である。

183は常滑焼の甕である。口縁部がN字状を呈しているが、縁帯は3cm以下にとどまると思われる。中野編年の6a型式に相当する。

184・185は備前焼の罌鉢である。

184は口縁部の上方への拡張が顕著であり端部は尖ることから、乗岡編年の中世4b期にあたると思われる。

185は口縁部の拡張が184より進行しており、乗岡編年の中世5b期にあたると思われる。胎土は緻密で田土を用いているようである。

186は肥前系染付皿で口径がやや小さいが、174と同様に五寸皿の範疇で捉えられよう。18世紀代の所産か。

本項では最後に遺物の出土状況にみられる一つの問題点について触れておきたい。

SE（溝状遺構）出土の陶磁器類は大半が中世の所産であるにもかかわらず、その中に近世遺物が無視できない分量で含まれており、遺構の時期比定において大きな障害となっている。実のところこうした現象は本遺跡にとどまらず、宮崎平野部で最近似たような事例が増加中である。

こうした現象の起こる要因および各遺構の位置付けについては第VI章で詳述することとする。

No	種別	器種	出土位置	法量 (cm)			調整・文様など		焼成	色調	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面			
84	土師器	杯	ID SD16	13.1	7.5	3.6	右回転へう切り痕	明瞭な調整痕	良好	褐色	1mm以下の褐色粒子を含む
85	土師器	小皿	ID SD16	8.2	6.3	1.4	右回転へう切り痕		良好	褐色	1mm以下の褐色粒子を少量含む
86	土師器	小皿	ID SD16	8.2	6.1	1.4	へう切り痕か		良好	褐色	1mm以下の褐色粒子を含む
87	青磁	碗	IA SE1 (13.1)	4.8	6.9		細蓮弁文	花文・「太」	良好	黄灰	釉薬は緑灰へオリーブ色、中国産
88	青磁	碗	IA SE1	4.7			蓮弁文・雷文帯?	菊花文	良好	灰白	釉薬は暗緑色、中国産
89	青磁	碗	IA SE1		5.9			花文	良好	灰白	釉薬は暗緑色、中国産
90	青磁	碗	IA SE1	14.3	5.3	7.2	蓮弁文	纏線	良好	灰白	釉薬は暗緑色、中国産
91	青磁	皿	IA SE1		5.4			双魚文・止文	良好	灰白	釉薬は暗緑色、中国産
92	青磁	皿	IA SE1 (10.2)	(5.2)	2.9			花文?・草花文?	良好	灰白	釉薬は暗緑色、中国産
93	白磁	杯	IA SE1		2.9		扶入高台	目跡	良好	灰白	釉薬は灰白、中国産
94	白磁	皿	IA SE1 (12.6)	(5.4)	3.4			蛇ノ目輪割ぎ	良好	灰白	釉薬は透明、中国産、漆跡の痕跡あり
95	白磁	皿	IA SE1 (10.2)	(4.5)	2.9		扶入高台		良好	灰白	釉薬は灰白、中国産
96	白磁	皿	IA SE1		6.3				良好	灰白	釉薬は灰白、中国産
97	青白磁	合子蓋	IA SE1					陽刻の縁文	良好	灰白	釉薬は青味がかった白色、中国産
98	陶器	擂鉢	IA SE1 (31.6)	(14.7)	12.2			擂目	良好	褐色	露前焼
99	陶器	擂鉢	IA SE1 (29.6)	(15.5)	11.1			擂目	良好	褐色	露前焼
100	陶器	壺	IA SE1						良好	暗褐色	露前焼
101	陶器	壺	IA SE1 (11.2)						良好	灰褐色	
102	土師器	羽釜	IA SE1 (21.1)				平行タタキ	ナデ	良好	灰白	にぶい褐色
103	染付	羽釜	IA SE1	9.2	5.3	3.7	雪輪草花文・大明年装か		良好	灰白	肥前系
104	陶器	擂鉢	IA SE3 (29.8)					擂目	良好	にぶい赤褐色	露前焼
105	土師器	杯	IA SE4-1 (12.4)	(5.8)	3.6		へう切り痕か		良好	浅黄橙	1mm以下の明赤褐色粒子を僅かに含む
106	土師器	杯	IA SE4-19-20 (12.5)		7.2	4.6	右回転へう切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	1mm以下の褐色粒子を多量、3mm以下の白色粒子をごく少量含む
107	土師器	杯	IA SE4-2	11.8	6.7	4.3	回転へう切り痕		良好	褐色	1mm以下の明赤褐色粒子を僅かに含む
108	土師器	杯	IA SE4-13-23		6.8		右回転赤切り痕		良好	灰黄褐	2mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
109	土師器	小皿	IA SE4-25 (8.1)	(6.6)	1.5		右回転へう切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	2mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
110	土師器	杯	IA SE5-1 (12.7)	6.2	5.0		右回転赤切り痕		良好	褐色	微細な透明粒子を多量、1mm以下の白色粒子をごく僅かに含む
111	土師器	鍋	IA SE5-3				指頭圧痕・ハケメ?	ハケメ	良好	浅黄橙	1mm以下の乳白色粒子・にぶい褐色粒子を含む
112	須恵器	壺	IA SE5						良好	灰黄色	
113	青磁	碗	IA SE6				細蓮弁文 (開弁有り)		良好	灰白	釉薬は緑灰色、中国産
114	白磁	碗	IA SE6						良好	灰色	釉薬は灰色、中国産
115	須恵器	鉢	IA SE6 (26.0)					ハケメ	良好	灰	東播系に類似
116	陶器	擂鉢	IA SE6					擂目	良好	赤褐色	露前焼
117	土師器	杯	IA SE6 (13.0)	(6.6)	4.3				良好	浅黄橙	微細な黒色粒子・透明粒子をごく僅かに含む
118	土師器	杯	IA SE6 (7.0)				右回転へう切り痕	指頭によるナデ	良好	浅黄橙	2mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
119	土師器	杯	IA SE6 (7.0)				回転赤切り痕		良好	浅黄橙	微細な暗赤褐色粒子を含む
120	青磁	碗	SE31		5.0			スタンプ	良好	灰白	釉薬は緑灰色、中国産
121	陶器	卸皿	SE31		8.3		右回転赤切り痕	卸目	良好	灰黄色	釉薬は浅灰色、古瀬戸
122	須恵器	鉢	SE31						良好	黄灰	東播系
123	陶器	壺か壺	SE31						良好	灰褐色	露前焼
124	青磁	碗	SE44				雷文帯・蓮弁文	線描の文様	良好	灰色	釉薬は青緑色、中国産
125	陶器	壺か水注	SE44				菊花文		良好	灰白	釉薬は淡緑色か、古瀬戸
126	陶器	壺	SE44						良好	灰褐色	露前焼
127	須恵器	壺	SE44 (9.8)						良好	灰	
128	土師器	小皿	ID SE44-78 (9.0)	(6.7)	1.9		回転へう切り痕		良好	浅黄橙	微細な褐色粒子をごく僅かに含む
129	土師器	杯か ID	SE44-80 (8.2)				回転へう切り痕		良好	灰黄褐	微細な黒色粒子をごく僅かに含む
130	須恵器	鉢	SE47				回転赤切り痕か		良好	灰色	東播系
131	青磁	鉢	SG1		5.5				良好	黄灰	釉薬はオリーブ色、中国産
132	白磁	皿か浅鉢	SG1 (6.6)					蛇ノ目輪割ぎ	良好	灰色	釉薬は透明、中国産
133	陶器	擂鉢	SG1						良好	灰赤	露前焼
134	陶器	壺	SG1						良好	赤褐色	露前焼
135	陶器	擂鉢	SG1					擂目	良好	灰赤	霏・明石系
136	染付	鉢	SG1	6.4			蛇ノ目輪割ぎ・コンシヤブ印判五弁花		良好	灰白	肥前系
137	白磁	碗	SG2	5.7			花文		良好	灰色	釉薬は灰色、中国産

第8表 遺物観察表 (土器・陶磁器類①)

				口径	底径	器高	外 面	内 面				
138	陶器	擂鉢	SG2						良好	灰青褐色	備前焼	
139	陶器	香か爨	SG2						良好	灰白色		
140	陶器	皿	SG2		4.4			蛇ノ目軸割ぎ	良好	灰白	内面が刷緑軸・外面が透明釉、肥前系	
141	陶器	皿	SG2		4.5		削り出し高台	砂目	良好	にぶい 黄褐色	釉薬は黄褐色、肥前系	
142	青磁	碗	SG3	(16.2)			細蓮弁文(間 有り)		良好	灰白	釉薬はオリーブ色、中国産	
143	陶器	碗	SB16-P2	(9.3)			草花文?		良好	灰白	京・信濃系か	
144	土師器	小皿	IA	SBI-PI	(7.7)	(5.5)	2.0	右回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	褐色	微細な乳白色粒子をごく僅かに含む
145	白磁	杯	SC66	(8.5)	(3.5)	2.7			良好	灰白	釉薬は灰白、中国産	
146	陶器	壺	SC66						良好	暗灰黄 へ赤褐色	常滑焼	
147	白磁	皿か浅 碗	SC67		(5.6)			蛇ノ目軸割ぎ	良好	灰白色	釉薬は灰色、中国産	
148	土師器	杯	IC	SC67-2	(7.2)		糸切り痕		良好	灰黄褐色	微細な黒色粒子をごく僅かに含む	
149	土師器	杯	IE	SH119	(13.0)	(7.6)	4.2	右回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	浅黄褐色	微細な黒色粒子・透明粒子をごく僅かに含む
150	土師器	杯	IC	SH65		(7.3)		回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	にぶい 黄褐色	3mm以下の褐色粒子を多く含む
151	土師器	小皿	IA	SH19-1	7.4	5.7	1.9	右回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	褐色	1mm以下の赤褐色粒子を僅かに含む
152	土師器	杯	IE	SH115		5.8		右回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	浅黄褐色	微細な黒色粒子を少量含む
153	土師器	小皿	IE	SH116		(5.8)		右回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	浅黄褐色	微細な明赤褐色粒子をごく僅かに含む
154	土師器	小皿	ID	SH93	7.3	5.0	1.5	右回転へう切り 痕	指頭によるナ デ	良好	褐色	微細な赤褐色粒子を少量含む
155	青磁	碗	SH91		6.3				良好	灰白	釉薬はオリーブ色、中国産	
156	土師器	盥	IE	SH107				ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	甘い	浅黄褐色	3mm以下の暗赤褐色粒子をごく僅かに含む
157	須恵器	鉢	SH101						良好	灰白色	東播系	
158	染付	碗		SH90-1	(9.3)	(3.9)	5.2	雪輪草花文・ 大明年製か		良好	灰白	肥前系
159	青磁	碗	IA		(11.4)			雷文帯・蓮弁文		良好	灰白	釉薬はオリーブ色、中国産
160	青磁	碗	IA					細蓮弁文		良好	灰白	釉薬は暗緑色、中国産
161	白磁	皿	IA		(6.5)				良好	灰白	釉薬は白色、中国産	
162	白磁	皿	IA		4.5			蛇ノ目軸割ぎ	良好	灰白		
163	陶器	碗	IA		3.6				良好	黄灰	釉薬は黒褐色、天目茶碗、中国産	
164	青花	皿	IA	F-7	(8.4)	(3.8)	2.3	宝相華唐草文	花文?・團縁	良好	灰白	中国産
165	陶器	擂鉢	IA	F-8					良好	灰白色	備前焼、167と同一個体か	
166	陶器	擂鉢	IA	F-8		(10.4)			良好	灰白色	備前焼、166と同一個体か	
167	陶器	擂鉢	IA		(16.0)			楯目	良好	にぶい 赤褐色	備前焼	
168	青磁	碗	IC		4.7			細蓮弁文	花文	良好	灰白色	釉薬は緑灰色、中国産
169	白磁	皿	IC		4.4			挾入高台	目録	甘い	灰白	釉薬は灰白、中国産
170	青白磁	合子身	IC		(5.2)			隔別の編文		良好	灰白	釉薬は青味がかつた白色、中国産
171	陶器	盥	IC	I-8					良好	赤褐色	備前焼	
172	陶器	皿	IC	I-8		4.8		削り出し高台	胎土目	良好	にぶい 赤褐色	釉薬は灰色、肥前系
173	染付	碗	IC		4.4		青磁軸	コンニャク印 判五弁花	良好	灰白	青磁染付、肥前系	
174	染付	皿	IC		(13.6)	(7.0)	3.1	唐草文?・コ ンニャク印判 五弁花・蛇ノ 目軸割ぎ	良好	灰白	肥前系	
175	赤絵	仏飯器	IC		5.0	3.4	5.9	菊花・蛸唐草 文など		良好	白色	肥前系
176	染付	碗	ID		(10.8)	(4.4)	4.7	梅樹文		良好	灰白	肥前系
177	染付	碗	ID		(9.0)	(3.5)	5.5	草花文		良好	灰白	肥前系
178	土師器	杯	I	確認調査		5.8		右回転糸切り 痕		良好	褐色	1mm以下の褐色粒子・白色粒子をごく少量含む
179	土師器	杯	I	確認調査	(11.8)	(6.4)	3.5	回転へう切り痕	指頭によるナ デ	良好	浅黄褐色	2mm以下の赤褐色粒子を僅かに含む
180	土師器	小皿	I	確認調査	(7.8)	(6.4)	1.4	回転へう切り痕	指頭によるナ デ	良好	にぶい 褐色	3mm以下の赤褐色粒子を多く含む
181	白磁	皿			(12.6)	(6.2)	2.7		蛇ノ目軸割ぎ	良好	にぶい 黄褐色	釉薬は透明、中国産
182	白磁	碗						文様	良好	灰白色	釉薬は灰色、中国産	
183	陶器	壺							良好	褐灰色	常滑焼	
184	陶器	擂鉢						楯目	良好	にぶい 赤褐色	備前焼	
185	陶器	擂鉢						楯目	良好	にぶい 赤褐色	備前焼	
186	染付	皿			(12.9)	(8.2)	3.5	唐草文	花文	良好	灰白	肥前系

第9表 遺物観察表(土器・陶磁器類②)

②金属製品類

銭貨（第76図187～200、第77図206～218）

16基の土坑墓中8基から39枚が出土した。

SD2からは3枚出土した。いずれも銅銭で、うち1枚が文銭である（第76図187）。

SD3からは8枚出土したが、7枚は錆着している（第77図206）。

SD5からは7枚出土した。そのうち2枚は鉄銭であった（第76図189～193）。

SD8・11からは1枚のみ、SD12からは2枚が出土した。

SD14からは最も多い11枚が出土した。そのうち5枚が鉄銭であった（第77図207～209）。

SD15からは6枚錆着して出土した（第77図210）。

以上は土坑墓から出土したもので、六銅銭の可能性が高い。その枚数も様々であり、多い方から11枚・8枚・7枚・6枚・3枚・2枚・1枚となる。

また掘立柱建物跡の柱穴からも銭貨が出土している。SB14ではP2・P8からそれぞれ1枚、P3からは2枚、P4からは実に29枚の銭貨が出土している（第76図194～198、第77図212～218）。地鎮の意味が込められていると思われ、注目される資料

である。

その他にはSE44から出土した皇宋通寶が中世銭として重要である（第76図199）。またE区表塚として2点の富士5銭アルミ貨が出土した（第76図200）。

釘（第77図219～225）

土坑墓2基から5点出土している。木片が付着しており、棺に使用された釘と推察できる（第77図219～223）。またSB15のP5からも2点出土した（第77図224・225）。いずれも角釘である。

その他の金属製品（第76図201～205、第77図226）

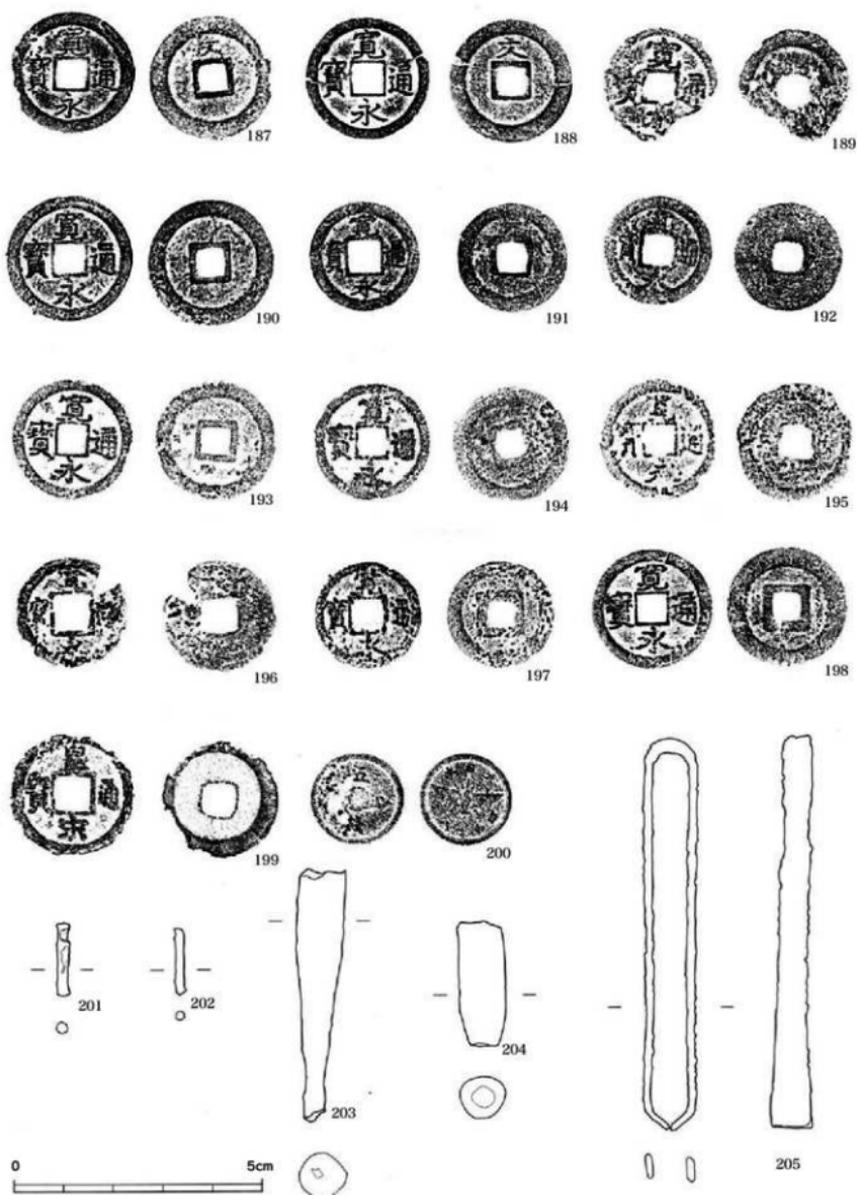
201・202は銅製の小さな棒でSD3・4から出土したが、その性格は明らかにしえない。

203・204はキセルの吸口で、SB14のP2とP3から出土した。明瞭な肩がつかず、近世後期のものと考えられる。

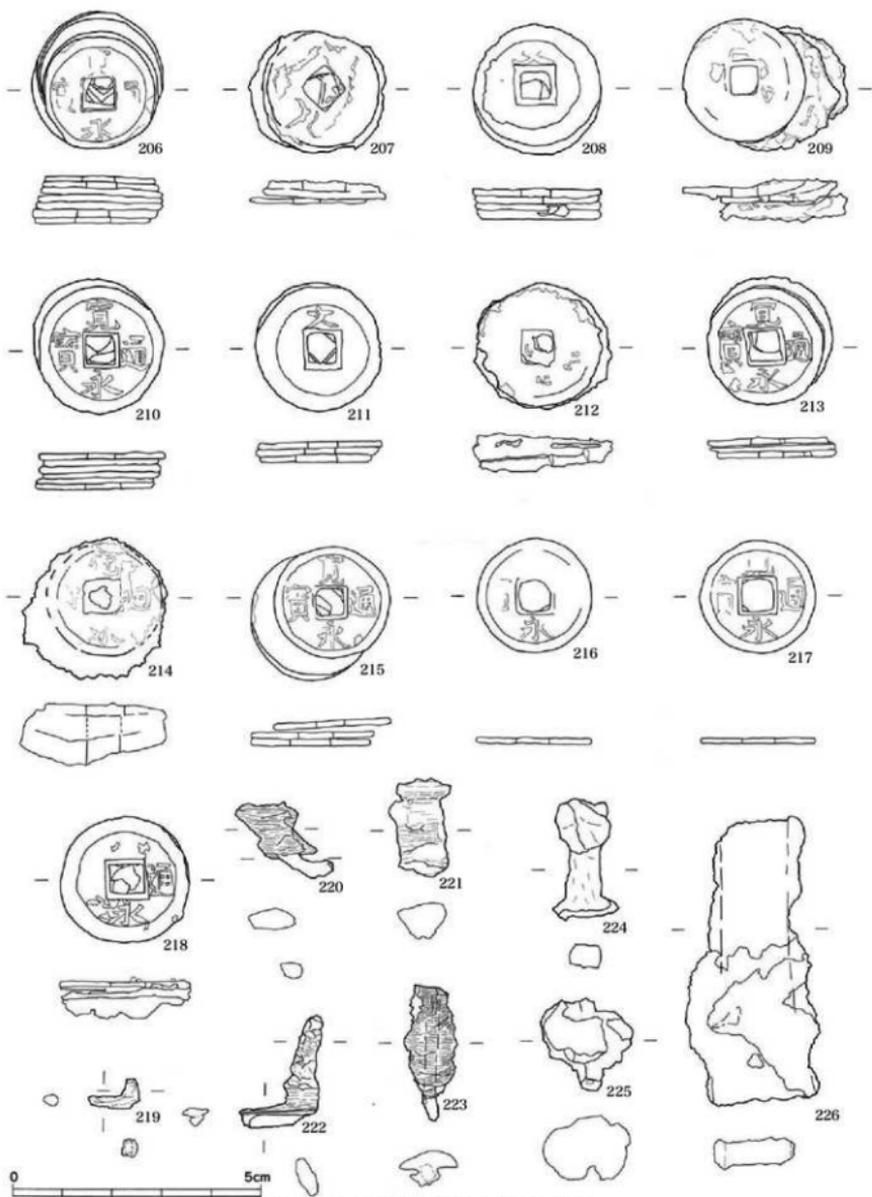
305はSB16のP2から出土した銅製の毛抜きである。遺存状態がよく、形は現代のものと同ほど変わらない。SH118から出土した226は刀子の一部ではないかと思われる。

No.	出土地点		品名	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	材質	備考
	グリッド	遺構						
219	G-12	SD2	釘	10.0	6.0	3.0	鉄	
220	G-12	SD2	釘	15.5	19.5	4.0	鉄	木質付着。棺釘か。
221	G-12	SD2	釘	20.0	12.0	7.0	鉄	木質付着。棺釘か。
222	G-12	SD2	釘	24.0	15.5	8.0	鉄	木質付着。棺釘か。
202	G-12	SD3	金属棒	13.5	2.0	2.0	銅	
223	G-12	SD3	釘	26.5	11.0	8.0	鉄	木質付着。棺釘か。
201	G-12	SD4	金属棒	1.5	2.5	2.0	銅	
203	K-4	SB14-P2	キセル	52.0	10.0	9.0	銅	吸口。両端欠損。
204	K-4	SB14-P3	キセル	25.0	9.0	9.0	銅	吸口。両端欠損。
224	K-2	SB15-P5	鉄釘	24.5	13.5	5.0	鉄	
225	K-2	SB15-P5	鉄釘	19.0	18.5	13.0	鉄	
205	K-4	SB16-P2	毛抜き	79.0	11.0	8.0	銅	
226	M-6	SH118	金属(小刀)	57.0	28.0	6.0	鉄	

第10表 遺物観察表（金属製品類①）



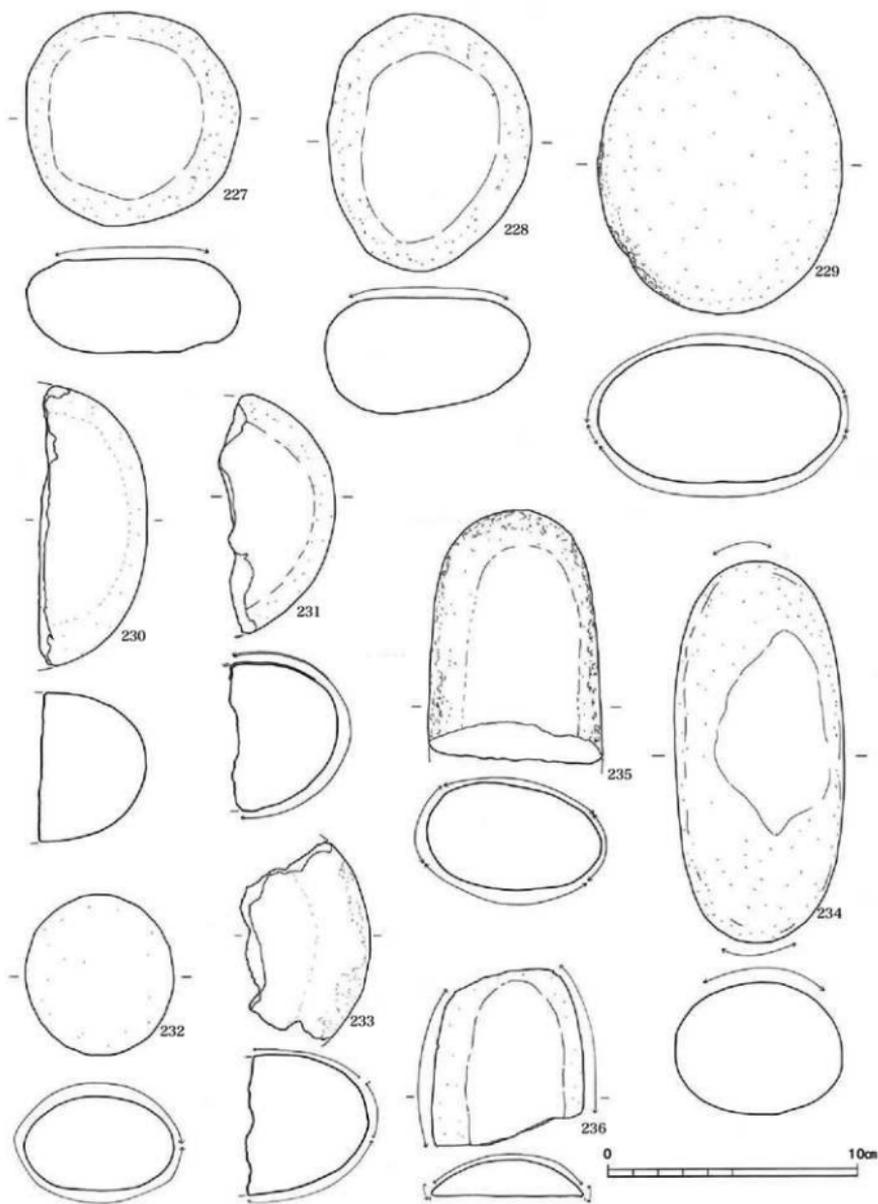
第76圖 中・近世 金屬製品実測図① (1/1)



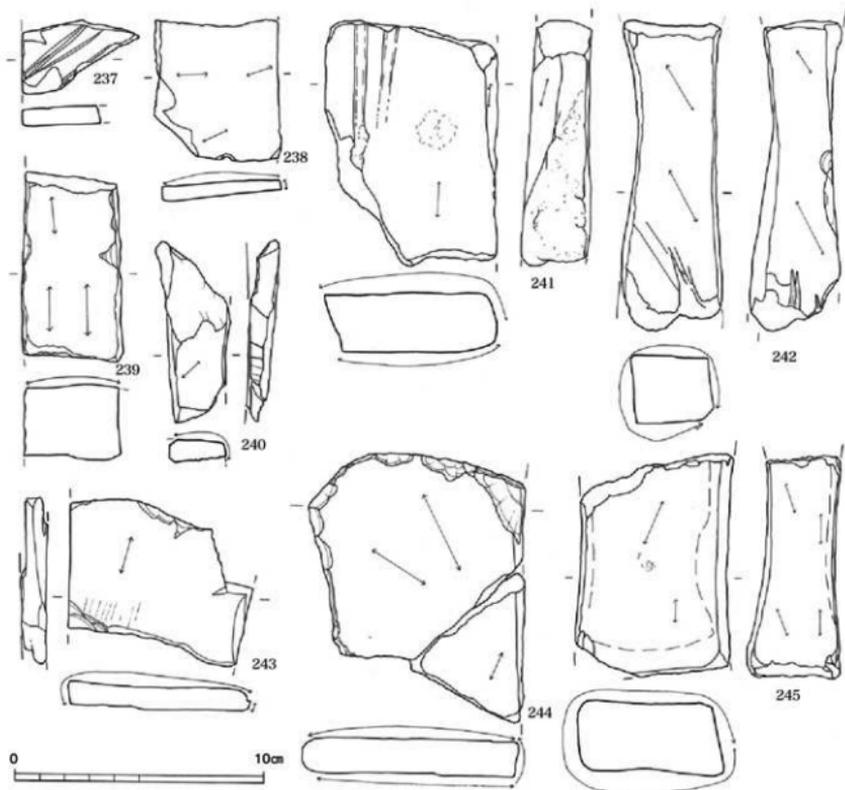
第77图 中·近世金属制品实例图② (1/1)

No	出土地点		銭名	初鋳年		銭径 (mm)	孔径 (mm)	厚さ (mm)	材質	備考		
	グリップ	遺構		元号	西暦					備	考	
187	G-12	S D 2	寛永通寶	寛文8年	1668	22.5	5.5	1.2	銅	1枚	文銭	
	G-12	S D 2	寛永通寶						銅	1枚		
	G-12	S D 2	寛永通寶						銅	1枚		
188	G-12	S D 3	寛永通寶	寛文8年	1668	25.5	6.1	1.2	銅	1枚	文銭	
	206	G-12	S D 3	寛永通寶					銅	7枚錆着		
189	G-12	S D 5	寛永通寶	寛永13年	1636	23.5	6.1	1.1	銅	1枚	古寛永	
190	G-12	S D 5	寛永通寶	元禄10年	1697	26.0	6.0	1.2	銅	1枚		
191	G-12	S D 5	寛永通寶	元禄10年	1697	22.0	6.5	1.0	銅	1枚		
192	G-12	S D 5	寛永通寶	元禄10年	1697	23.0	6.0	1.0	銅	1枚		
	G-12	S D 5	寛永通寶(鉄四文銭)	明和5年	1768				鉄	1枚	測定不能、布付着。	
	G-12	S D 5	寛永通寶(鉄一文銭)	元文4年	1739				鉄	1枚	測定不能	
193	G-12	S D 5	寛永通寶	寛永13年	1636	24.5	6.2	1.0	銅	1枚	古寛永	
		F-9	S D 8	寛永通寶	寛文8年	1668	25.1	6.1	1.1	銅	1枚	新寛永
		D-12	S D 1 1	寛永通寶					銅	1枚	測定不能	
	D-12	S D 1 2	寛永通寶					銅	1枚	測定不能		
	D-12	S D 1 2	寛永通寶					銅	1枚	測定不能		
207	D-12	S D 1 4	寛永通寶						銅-鉄	銅2枚・鉄1枚		
208	D-12	S D 1 4	寛永通寶	寛文3年	1668				銅	4枚錆着	うち1枚は文銭	
209	D-12	S D 1 4	寛永通寶						鉄	3枚錆着		
	D-12	S D 1 4	寛永通寶(鉄四文銭)						鉄			
210	D-12	S D 1 5	寛永通寶	元禄10年	1697				銅	6枚錆着	うち1枚は新寛永	
	E区	表採	富士5銭アルミ貨	昭和18年	1943	20.0		1.5	アルミ	1枚		
200	E区	表採	富士5銭アルミ貨	昭和18年	1943	20.0		1.5	アルミ	1枚		
211	G-12	表採	寛永通寶	寛文3年	1668				銅	3枚錆着	S D 5直上	
	H-II	S E 1	寛永通寶						銅	1枚		
	4次確認	表採	洪武通寶						銅	1枚		
194	K-4	SB14-P2	寛永通寶	元禄10年	1697	24.5	5.5	1.2	銅	1枚	新寛永	
195	K-4	SB14-P3	寛永通寶	元禄10年	1697	25.0	6.0	1.2	銅	1枚	新寛永	
	K-4	SB14-P3	寛永通寶						銅	1枚	測定不能	
196	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	22.5	6.5	1.1	銅	1枚	新寛永	
197	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.5	7.0	1.2	銅	1枚	新寛永	
198	K-4	SB14-P4	寛永通寶	寛永13年	1636	25.0	6.5	1.1	銅	1枚	古寛永	
212	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697				銅-鉄	3枚錆着	銅銭2枚・鉄銭1枚	
213	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697				銅	3枚錆着	うち1枚は新寛永	
214	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅-鉄	3枚錆着	銅銭2枚・鉄銭1枚	
215	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697				銅	3枚錆着	うち1枚は新寛永	
216	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.5	6.0	1.0	銅	1枚	新寛永	
217	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.5	7.0	1.0	銅	1枚	新寛永	
218	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅-鉄	2枚錆着	銅銭1枚・鉄銭1枚	
	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	25.5	6.5		銅-鉄	3枚錆着	銅銭2枚・鉄銭1枚	
	K-4	SB14-P4	寛永通寶	元禄10年	1697	23.0	7.0	1.2	銅	1枚	新寛永	
	K-4	SB14-P4	寛永通寶						鉄	鉄4枚		
	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅	銅1枚	測定不能	
	K-4	SB14-P4	寛永通寶						銅	銅1枚	測定不能	
	K-4	SB14-P8	寛永通寶						鉄	鉄1枚	測定不能	
		L-4	SH86	寛永通寶						鉄	1枚	測定不能
199	L-0	SE44	皇宋通寶	寶元元年	1038	25.0		7.0	銅	2枚錆着		

第11表 遺物観察表(金属製品類②)



第78圖 中・近世石器・石製品実測図① (1/2)



第79図 中・近世石器・石製品実測図② (1/2)

③石器・石製品

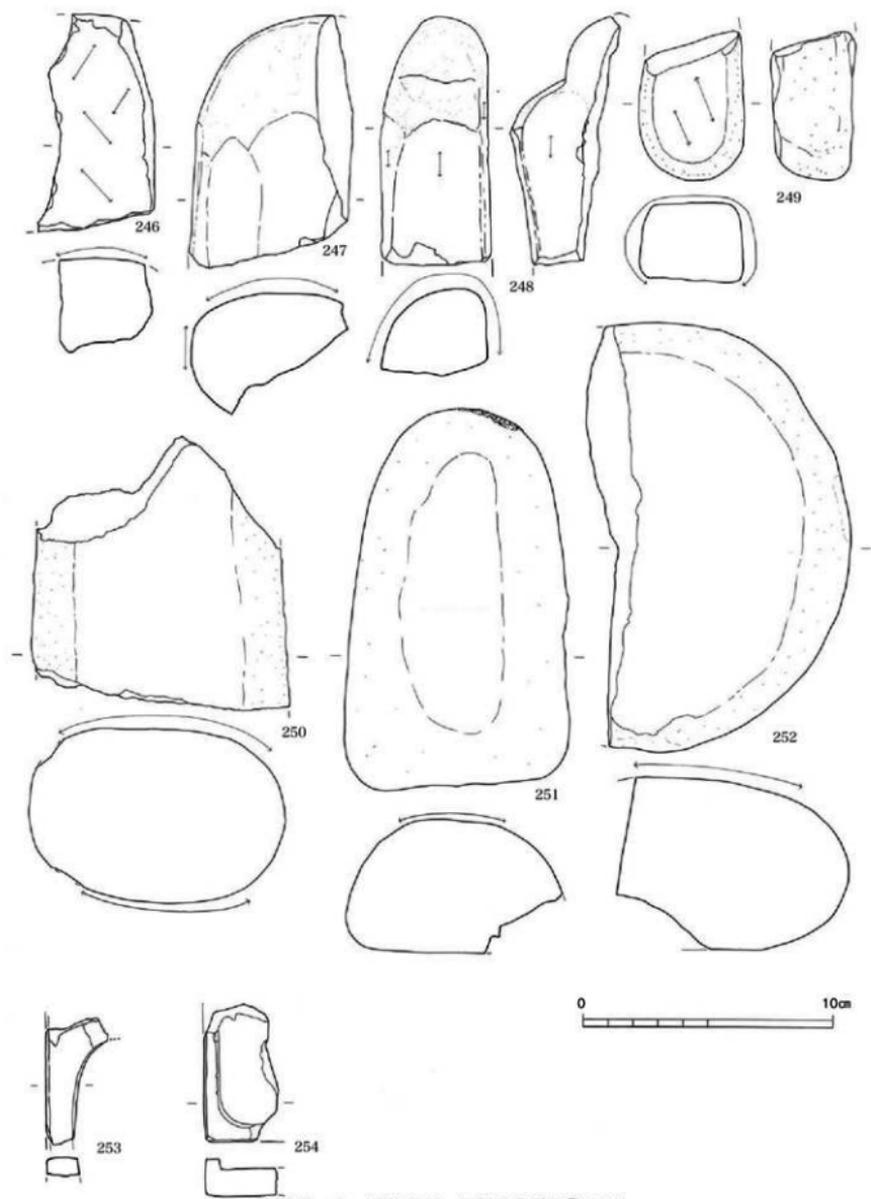
敲石・磨石類 (第78図227~236)

敲石・磨石類は9点出土し、すべて尾鈴山酸性岩類製である。尾鈴山酸性岩類製敲石・磨石類は旧石器～中近世まで広い時期幅での使用があるため、個別資料の時期比定には困難がともなう。

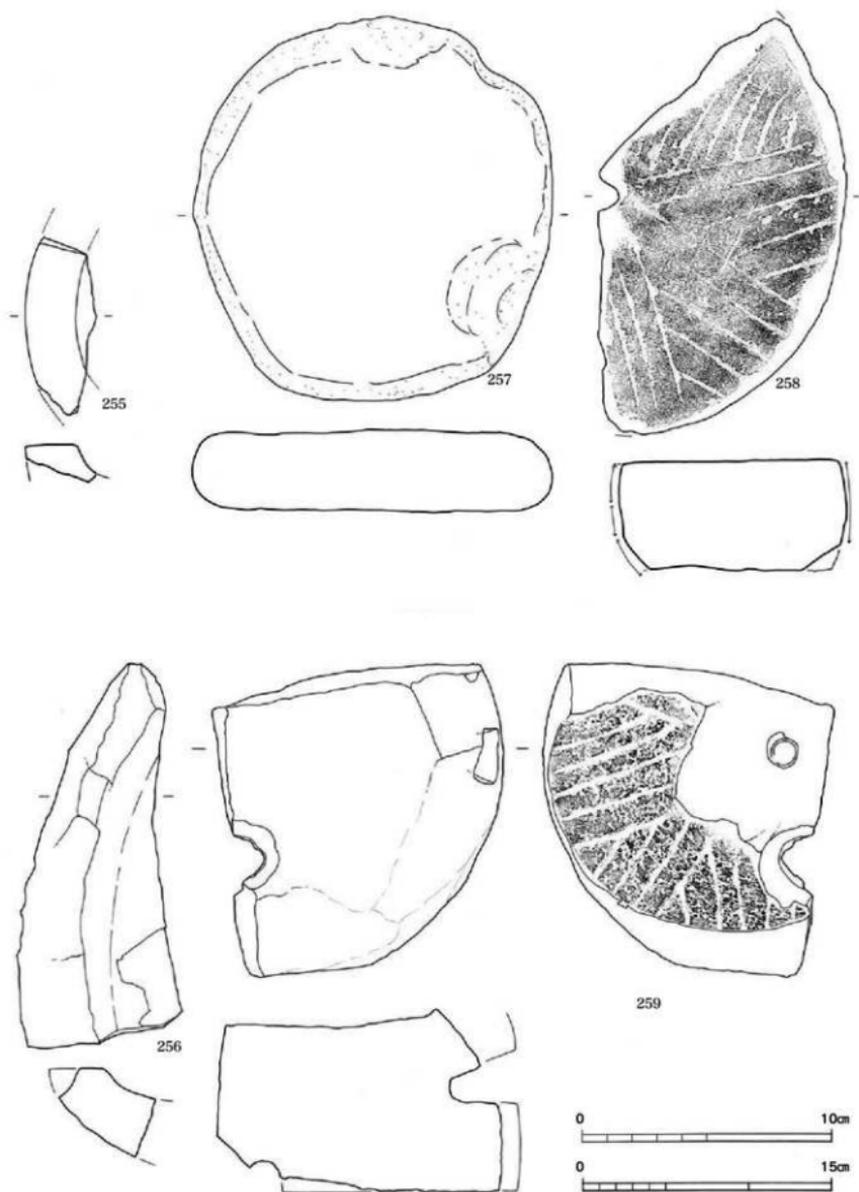
そのような中、素材礫の形状に注目すると、本遺跡の資料には餅状の円礫7点・筒状の棒礫1点が磨

石に、やや扁平な楕円礫1点が敲石として利用されている。餅状の円礫素材の磨石には顕著な磨面のあるもの・表面がややすべらかになった程度のものの2者がある。筒状の棒礫素材の磨石は胴部に部分的に磨面が残される。

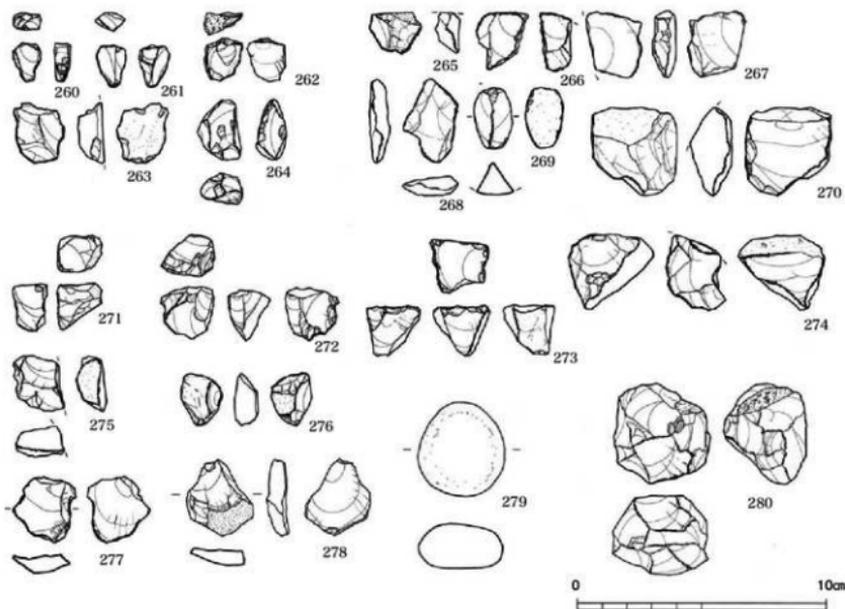
敲石は両側面から端部にかけて面的かつ顕著な敲打痕が残される。



第80図 中・近世石器・石製品実測図③ (1/2)



第81圖 中・近世石器・石製品実測図④ (255~257:1/2, 258・259:1/3)



第82図 中・近世石器・石製品実測図⑤ (1/2)

砥石 (第79図237~245・第80図246~252)

砥石は16点あり、その石質(目の細かさ等)と砥面構成・最終形態とに一定の相関がある。

すなわちより目の細かい石質のものは小さくなるまでよく使い込まれており、全面が砥面(角柱状・薄板状)のものもある。一方、目の粗い石質のものは、河原石としての形状をそのまま残すものが多く、砥面も不規則に残される。砥面は、凹面をなすものから元の礫面形状をゆるく残すもの、深浅の直線的な傷を残すもの等、砥石ごとに各種みられる。

なお、砥石石材は砂岩等、遺跡周辺でも容易に獲得可能な堆積岩で占められる。

硯 (第80図253・254)

硯は2点とも破損が著しい。外側面が直線的に立ち上がる形態的特徴から近世後半の所産であろう。

石臼 (第81図255・256・258・259)

石臼には茶臼と挽き臼とがある。石材利用が明確に異なり、前者は硬砂岩、後者は砂岩となる。

茶臼は白下の受け皿部分のみの破片2点であり、石質の特徴から2個体分であろう。

挽き臼は上臼・下臼各1点が1/4~2/3程度に割れたもので、SB14のP1中より重なって出土した。上臼・下臼は、白の目がともに8分画であり、また復元される直径も約15cmと近いことから、1セットの石臼であった可能性がある。

台石（第81図257）

台石は1点あり、尾鈴山酸性岩類の扁平礫の表裏面がゆるく摩滅している。

なお、小片のため未図化であるが、曲面を持つ凝灰岩片がSE22より出土している。五輪塔や石臼の破片の可能性が考えられる。

火打石およびその原料等（第82図）

遺構内外より計18点出土し、いずれも稜がよく潰れている。一部には火打金への打ち付けによる鉄錆の付着するものもみられる。

石材別にみると、玉髓4点・石英（砂岩質のものを含む）6点・チャート8点であり、川南町前ノ田村上第1遺跡の石材構成と類似している。重量は最少で玉髓製1.3gから最大チャート製58.4gまであり、大半は10.0g以下に収まる。石材別に重量の傾向をみると、相対的に玉髓が軽くチャートが重い傾向があり、換言すると玉髓は小さくなるまでよく使い込まれたと解釈できる。

チャート製火打石のいくつかには礫面の残るものがあり、その観察からは、ピンポン玉大の円礫が原材となったと推定される。同様の礫は、遺跡周辺の河原あるいは段丘礫層等から採取されたものと推測され、火打石の原材獲得をうかがう重要な資料となった。

このほか、チャート製火打石原材、分割された剥片あるいは火打石使用により生じた剥片も出土している。チャート製火打石が円礫状態で持ち込まれた可能性等が想起され、火打石の履歴を知る重要な資料となった。

No	器種	Gr	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考	
227	磨石	AIK SE1	e	尾跡山酸性岩類	8.7	8.6	3.9	467.5	表面のみ磨面あり。磨面は一般的な磨石と異なり、凹凹面がそのままこまごまこしたような状態である。
228	磨石	AIK SE1	e	尾跡山酸性岩類	10.4	8.2	4.7	576.7	やや歪な円礫素材。表面に顕著な磨面あり。
229	磨石	AIK SE1	h	尾跡山酸性岩類	12.0	9.8	5.5	952.3	餅状の楕円礫素材。風化が進む。表面面とも磨面あり。
230	磨石	AIK SE1	e	尾跡山酸性岩類	11.3	4.3	6.0	427.1	1/2以上欠損する。風化著しい。
231	磨石	CIK SG2	f	尾跡山酸性岩類	9.6	4.7	5.9	306.2	1/2以上欠損する。磨面は顕著でない。
232	磨石	AIK SE1	e	尾跡山酸性岩類	6.4	6.0	3.8	208.9	餅状の楕円礫素材。磨面はあまり顕著でない。
233	磨石	DIK SE45	g	尾跡山酸性岩類	7.9	5.7	269.3	1/2以上欠損する。磨面は顕著でない。	
234	磨石	AIK SE1	f	尾跡山酸性岩類	15.4	6.8	5.3	869.2	棒状で、割面に顕著な磨面あり。上下両面に鋭い縦打痕あり。
235	磨石	CIK II-4		尾跡山酸性岩類	10.3	7.0	4.3	442.5	楕円礫素材で、端部から両側面にかけて顕著な縦打痕あり。表面は磨面であり、裏面には高ターム状の付着物あり。
236	摩耗ある石磨	AIK I-9T		砂岩	7.1	6.1	1.5	91.0	石材は茶白のそれに近い。磨面を取り込んだうすい礫片素材で、両長辺の縁は磨面に磨滅している。
237	磨石	CIK SH78		砂岩	3.0	4.7	0.7	14.3	板状のもので、磨面は平滑。磨面には深い直線のなごみ多数ある。
238	磨石	DIK SE44	-35	砂岩	5.8	5.0	0.7	33.7	板状のもので、磨面はゆるい凹面となる。表面は磨面により潤滑。
239	磨石	AIK SE1	i	砂岩	7.6	4.1	3.0	164.8	分厚い帯状のもの。顕著な磨面あり。全体が熱片を受け、緑灰色に変色している。
240	磨石	DIK SE44	-84	頁岩	7.3	3.0	1.3	21.6	破損著しい。磨面はゆるい凹面。
241	磨石	AIK IA		砂岩	9.9	7.0	2.8	296.6	表面全面・側面の一部が砥面。断面管状の砥面が表面に2条ある。
242	磨石	DIK SH94		凝灰質砂岩	12.5	4.0	3.6	218.8	四角柱状のもので、全面砥面。砥面は凹面となる。
243	磨石	AIK SE3	-2,3,45	砂岩	6.6	7.4	1.1	53.9	板状のもので、磨面は浅い凹面。砥面には縁状の溝が多くある。
244	磨石	CIK SG2	-j	砂岩	10.7	8.8	1.5	226.1	板状のもの。砥面は1面で平滑。
245	磨石	DIK SE45	-5	砂岩	9.0	6.2	3.7	314.5	立方体のもので、全面砥面。砥面は凹面となる。
246	磨石	DIK SE31	-i	砂岩	8.7	4.6	3.8	214.4	破損著しく、全面が剥落する。
247	磨石	AIK SE1	-f	砂岩	10.2	6.6	5.4	423.0	2~3cm幅の帯状の砥面が正面から側面にかけて連続する。
248	磨石	AIK SE1		砂岩	10.5	4.4	4.4	190.9	砥面は3面。裏縁は大きく欠損。
249	磨石	CIK SG2	-i	砂岩	6.0	4.2	3.2	130.3	棒状礫素材で、1面の砥面。
250	磨石	AIK SE6	-21	砂岩	11.0	10.4	7.0	1189.8	分厚い楕円礫素材。表面面ともに礫カーブに沿った鋭い砥面がある。
251	磨石	AIK F8		砂岩	15.6	9.1	5.4	1142.0	表面頂部を中心に顕著な砥面あり。
252	磨石	AIK SE6	-15	砂岩	17.0	10.7	6.9	1723.4	半割れている。表面面ともに礫カーブに沿った鋭い砥面がある。
253	靨	AIK SE1	-h	黒色頁岩	-	-	-	8.9	欠損著しい。
254	靨	CIK SG1	-9	砂岩	5.6	3.0	1.5	35.0	欠損著しい。
255	茶白受け	DIK SE44	-3	硬砂岩	-	-	-	31.6	破損著しい。
256	茶白受け	AIK SE1	-49	硬砂岩	-	-	-	334.3	割れている。内外は整形に伴う工具痕が残る。白外面・割れ口の一部に加熱による黒変がある。
257	白石	AIK SE1	-h	尾跡山酸性岩類	16.5	14.4	3.3	1273.3	表面に顕著な磨面あり。
258	焼き白下	DIK SB14	-3-P1	砂岩	-	-	-	3837.5	輪受けを中心約2/3のみ残る。白の日は8分目。復元される直径約15cm。断面・割れ面が酸化あるいは黒くけており、破砕痕跡からの熱変を受けている可能性がある。
259	焼き白上	DIK SB14	-3-P1	砂岩	-	-	-	5215.3	全体に破損著しいもの。奥木の口や軸受、もの入れが残る熱片で全体の約4/5が残る。白の日は8分目。復元される直径約15cm。割れ面の1つが突部を中心にした増らかになっており、臼縁部、砥石等に転用されたかあるいは別製因で結果的に増らかになったかが考えられる。
260	火打石	AIK SE5		玉髓	1.5	1.1	5.5	1.3	手で持ちにくいほど小さくなるまで使用される。縁が割れる。
261	火打石	CIK SC66	-3	玉髓	1.7	1.3	0.9	1.4	縁が割れる。
262	火打石	CIK SG2	-i	玉髓	1.8	1.6	1.0	2.0	使用に伴い割られた火打石片。
263	火打石	DIK SE44	-e	玉髓	2.5	2.1	1.2	5.0	縁が割れる。
264	火打石	CIK SG2	-i	玉髓	2.5	1.8	1.2	5.5	石核様。縁が割れる。
265	火打石	AIK IA		石英	1.7	2.1	0.9	3.1	水品に近い。縁が割れる。
266	火打石	AIK SE1		石英	2.8	2.1	1.3	6.2	円礫素材。縁が割れる。
267	火打石	CIK IC		石英	2.3	2.2	1.0	7.3	円礫素材。縁が割れる。
268	火打石	DIK SE44	-e	硬砂岩	3.5	2.4	0.9	5.7	石英に近い頁岩。縁が割れる。
269	火打石	AIK IA		石英	2.5	1.5	1.6	4.7	ピンポン玉大の円礫素材。縁が割れる。
270	火打石	CIK SG2	-e	石英	3.6	3.4	2.2	23.8	円礫素材。縁が割れる。
271	火打石	CIK SC66	-4	チャート	2.0	1.9	1.5	5.6	灰黒色のチャート。石核様。縁が割れる。
272	火打石	DIK SB18	-P4	チャート	2.2	2.2	1.7	6.3	良質かつ灰色のチャート。石核様。縁が割れる。
273	火打石	AIK IA		チャート	2.5	2.2	2.2	9.1	良質かつ灰黒色のチャート。石核様。縁が割れる。
274	火打石	AIK SE5		チャート	3.0	3.5	2.2	22.5	良質かつ灰緑色のチャート。円礫素材。縁が割れる。
275	火打石	DIK SE44	-e	チャート	2.2	1.9	1.4	6.3	淡緑色のチャート。縁が割れる。
276	火打石	CIK SG1	-h	チャート	2.1	1.7	9.5	3.2	良質かつ灰色のチャート。円礫素材。縁が割れる。
277	火打石	AIK SE1	-h	チャート	2.5	1.8	2.1	4.7	淡緑色のチャート。薄片様。縁が割れる。
278	薄片	DIK SE44	-e	チャート	3.1	2.7	0.9	5.7	不定形薄片。縁は非常に鋭く、印象として旧石器～新石器時代の薄片石器でない。頁岩等の類似から、可能性として火打石の素材薄片とも言える。
279	火打石原石	AIK SE1		チャート	3.8	3.5	1.8	35.2	火打石の石材・断面の特徴と比較して、火打石の原石である可能性が高い。非常によく転磨された円礫。
280	火打石	DIK SE44	-f	チャート	4.2	4.0	3.3	58.4	灰白色のチャート。石核様。縁が割れ、一部には鉄錆の付着も見られる。

第12表 遺物観察表 (石器・石製品)

第V章 三次調査の記録

第1節 調査の概要

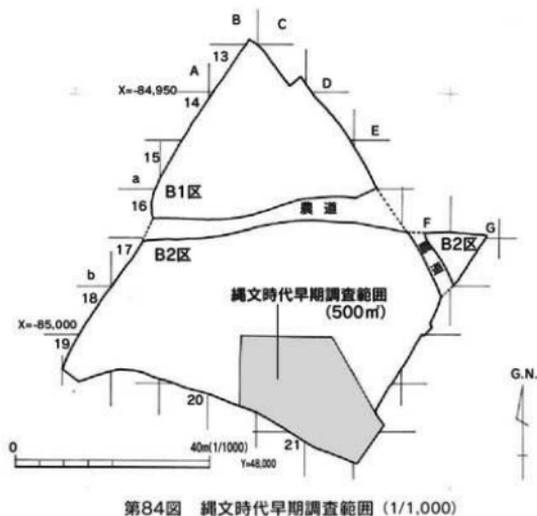
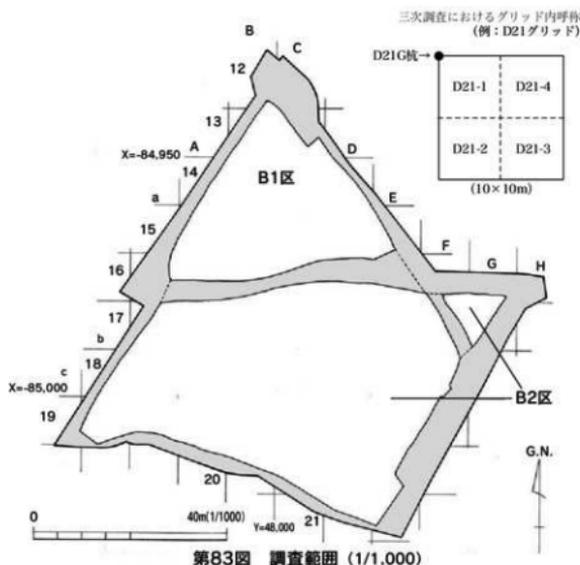
三次調査の対象面積は約4,900㎡である。そのうち、調査区に接する田畑の境界線より調査区側一部及び地域住民の生活道路ともなっている農道部分を除き調査を進めた。調査区は調査の都合上、調査区を南北に分ける農道を挟んで便宜的に北部をB1区、南部をB2区(第83図)とした。

調査は表土を除去した後、鍵層であるアカホヤ火山灰(K-Ah)降灰前(縄文時代早期)と降灰後に分けて調査を行った。

1 縄文時代早期の調査

縄文時代早期の調査は平成15年2月5日から3月5日まで実施した。確認調査の結果、縄文時代早期層を良好に残すB2区南部の約500㎡に絞って調査を進めた(第84図)。土層確認用の先行トレンチ内から検出された集石遺構の周辺区である。

調査の結果、遺構として集石遺構が8基確認された。遺物としては石器(石鏃4点、剥片13点)、縄文土器片等が出土した。詳細は第3節に記述する。



2 アカホヤ火山灰 (K-Ah)降灰後の調査

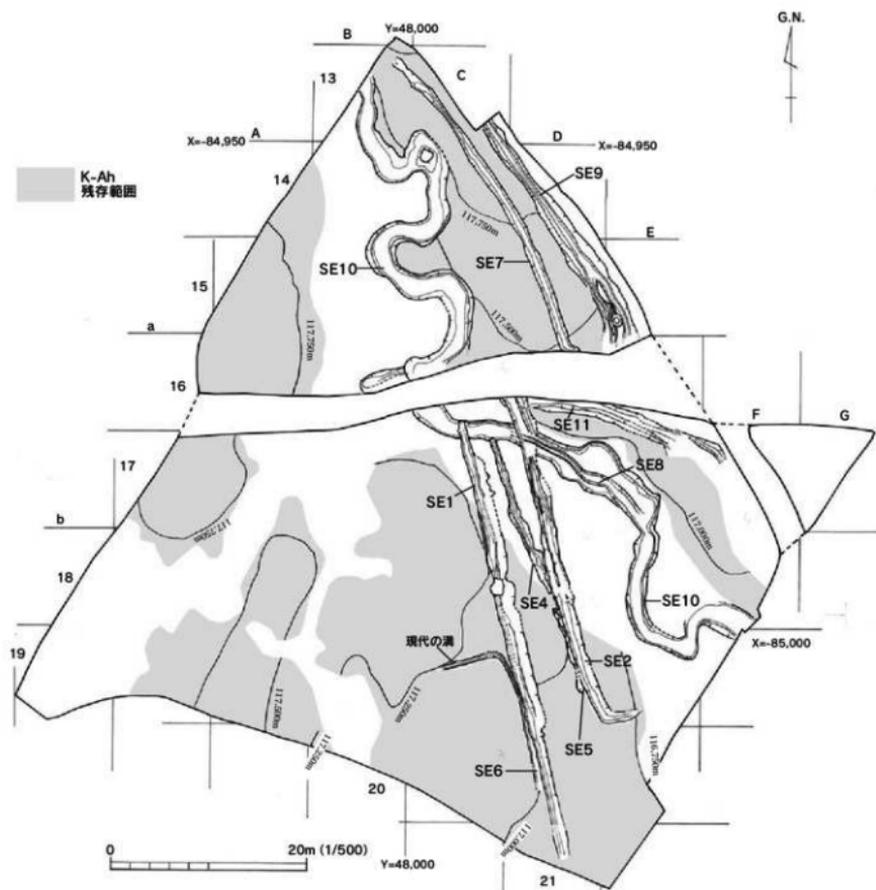
アカホヤ火山灰 (K-Ah)降灰後の調査は平成14年12月10日から平成15年2月12日まで実施した。

まず表土をK-Ah上面にそろえて重機で剥いだ。その結果K-Ahを切る11条の溝状遺構を検出した(第85図)。

11条の溝状遺構のうち、9条(SE1～SE9)は傾向として直線的な溝である。埋土からは石器、土器、陶磁器等の遺物が出土した。遺構埋土の状況及び遺

物出土の状況、遺構同士の切り合い関係等から中世以降の溝状遺構と判断した。詳細は第5節に記述する。

またS字状ないし緩やかに屈曲する溝状遺構(SE10・SE11)を検出した。SE10からは、弥生時代後期の土器または土器片が多数出土した。SE11からは遺物は認められなかった。詳細は第4節及び第6節に記述する。



第85図 溝状遺構分布図 (1/500)

第2節 基本層序

1 基本層序 (第13表)

三次調査においては、先行トレンチを調査区南西部に2箇所(第86図)設定し、[a-a']・[b-b']の土層を図化した(第87図)。

2箇所の先行トレンチの土層断面と遺構・遺物の出土状況等を検討し基本土層を第13表の層序とした。

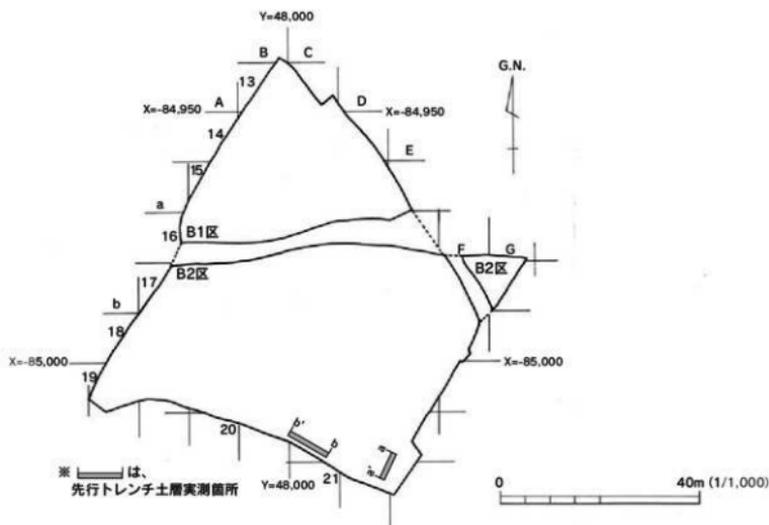
VI層以下は水分を多量に含む明褐色土層であり、巨礫を含む層である。

鍵層として、鬼界アカホヤ火山灰[K-Ah](約6,400年前)を含む層が認められたが、小林軽石[Kr-kb]を含む層は認められなかった。III層(黒色土)・IV層(黒褐色土)は縄文時代早期の文化層である。

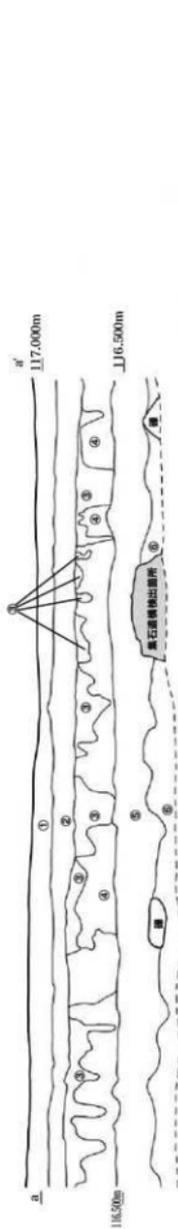
- ・ I a 層…表土① [耕作土]
- ・ I b 層…表土② [褐鉄鉱を含む耕作土]
- ・ II a 層…黄褐色土 [鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)層 a]
- ・ II b 層…明黄褐色土 [鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)層 b]
- ・ II c 層…黒褐色土 [鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah)層 c]
- ・ III層 …黒色土
- ・ IV層 …黒褐色土
- ・ V a 層…暗褐色土※粘性を有する。
- ・ V b 層…暗褐色土※褐鉄鉱を含む。
- ・ VI層 …明褐色土

※III層・IV層を縄文時代早期層とした。

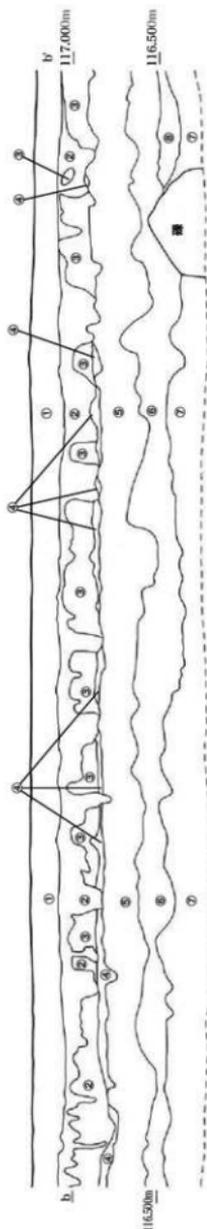
第13表 基本層序



第86図 先行トレンチ土層実測箇所 (1/1,000)



【土層】(1~7)
 ① 赤土層(耕作土)
 ② 赤土層(耕作土)
 ③ 赤土層(耕作土)
 ④ 赤土層(耕作土)
 ⑤ 赤土層(耕作土)
 ⑥ 赤土層(耕作土)
 ⑦ 赤土層(耕作土)



【土層】(1~7)
 ① 赤土層(耕作土)
 ② 赤土層(耕作土)
 ③ 赤土層(耕作土)
 ④ 赤土層(耕作土)
 ⑤ 赤土層(耕作土)
 ⑥ 赤土層(耕作土)
 ⑦ 赤土層(耕作土)



第87図 先行トレンチ土層実測図 (1/30)

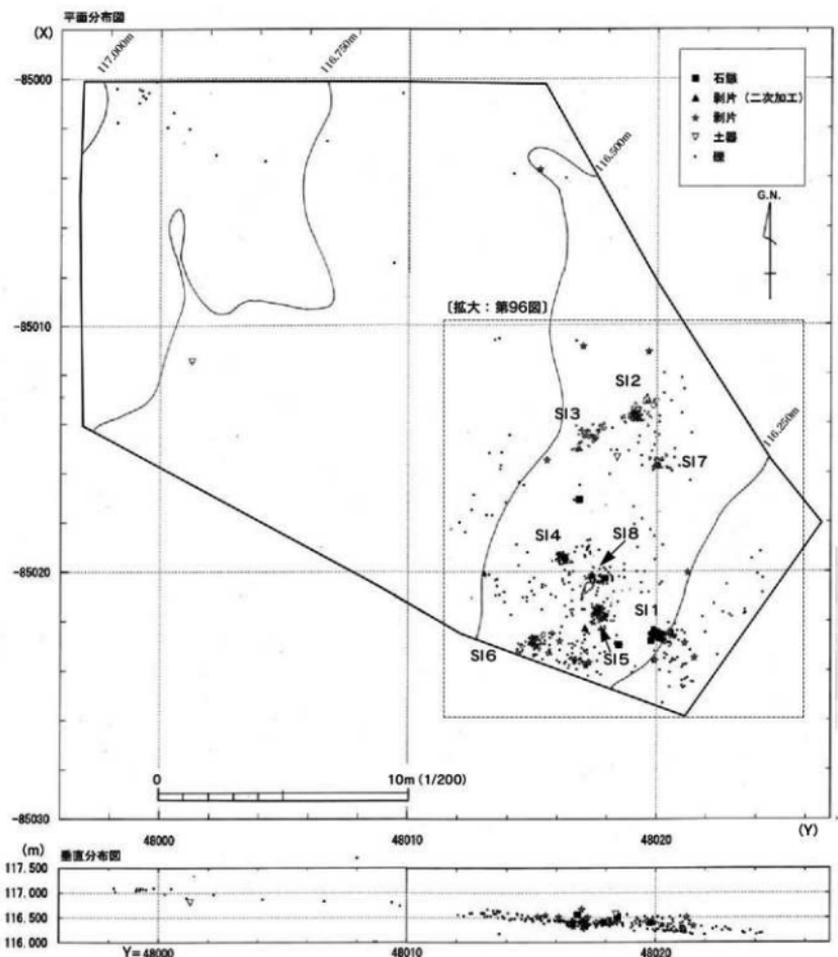
第3節 縄文時代早期の遺構と遺物

1 縄文時代早期の概要

縄文時代早期の層はⅢ層及びⅣ層に相当する。

遺跡南西部の先行トレンチ内から集石遺構が1基検出された。また3箇所トレンチを設定し、層の残

存状況及び遺構・遺物の有無を確認したところ、第84図に示す範囲に縄文時代早期の層が良好に残存していることが確認できた。その結果、約500mを縄文時代早期の調査対象範囲として調査を開始した。



第88図 縄文時代早期遺構・遺物・礫分布図 (1/200)

調査の結果、本層では遺物として17点の石器（石鏃4点、剥片13点）、縄文土器片2点、磁器片1点が出土し、遺構として集石遺構を8基検出した。磁器片はクラックもしくは植物根痕等の影響による落ち込みの遺物である。

以下、遺構と遺物について詳細を記す。

2 遺構と遺物

(1) 遺構（集石遺構）

縄文時代早期の遺構として、集石遺構8基が検出された。すべての集石遺構において、掘込みや配石は認められず、石材としては尾鈴山酸性岩類の礫のみで構成されていた。

S I 1（第89図）

Ⅲ層上層、標高約116.35m～116.50mの地点、D21～E21で検出された。長径約115cm×短径75cmを測る。175点の礫で構成され、密な状態である。掘込みや配石はない。ただし、礫が積み上げられた幾重にも重なった状態で検出され、熱効率が平積みとの遺構に比して高いことが想定される。

構成礫の平均重量は約160.0gを測り、長径10cm以上の礫を4個含む。礫の90%以上に赤化が認められ、被熱によるものと考えられる。またほとんどの礫が破砕していた。

礫の接合関係を調べた結果、遺構内において18個体の礫が接合したが、周辺の散礫との接合は1個体にとどまった。

平面図における右下部分の礫は、何らかの影響でS I 1本体から移動したのと考えられる。

S I 2（第89図）

Ⅲ層上層、標高約116.50m～116.60mの地点、D20で検出された。約165cm×160cmを測る。遺構中心部に礫が密集し、周辺の礫は何らかの影響で本体から移動したか、もしくは、構成礫自体が消失した可能性が考えられる。102点の礫で構成される。掘込みや配石はない。

礫の平均重量は190.0gを量る。礫の約95%が赤化している。最大径約5mm程度の炭化物が検出され

た。赤化は被熱によるものと考えられる。礫のほとんどが破砕している。第89図の平面図には自然堆積の礫3点も掲載している。

遺構内において礫の接合関係を調べた結果、4個体の礫が接合した。

S I 3（第90図）

Ⅲ層上層、標高約116.50m～116.60mの地点、D20で検出された。約170cm×105cmを測る。37点の礫で構成され、礫の密度は疎である。

礫の平均重量は600.0gを量る。径15cm～20cm大の大型礫を含み、小型でも10cm内外の長径を測る礫で構成される。礫の約85%が赤化しており、礫が部分的に破砕しているものがほとんどである。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、1個体の礫が接合した。また周辺の散礫との接合も認められた。

S I 4（第90図）

Ⅲ層、標高約116.45m～116.57mの地点、D20で検出された。約100cm×75cmを測る。73点の礫で構成される。掘込みは認められない。

礫の平均重量は190.0gを量る。礫の約80%が被熱による赤化が認められ、礫はほとんどが破砕している。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、3個体の接合を確認できた。また周辺の散礫との接合も認められた。さらにはS I 8との接合を確認した。

S I 5（第91図）

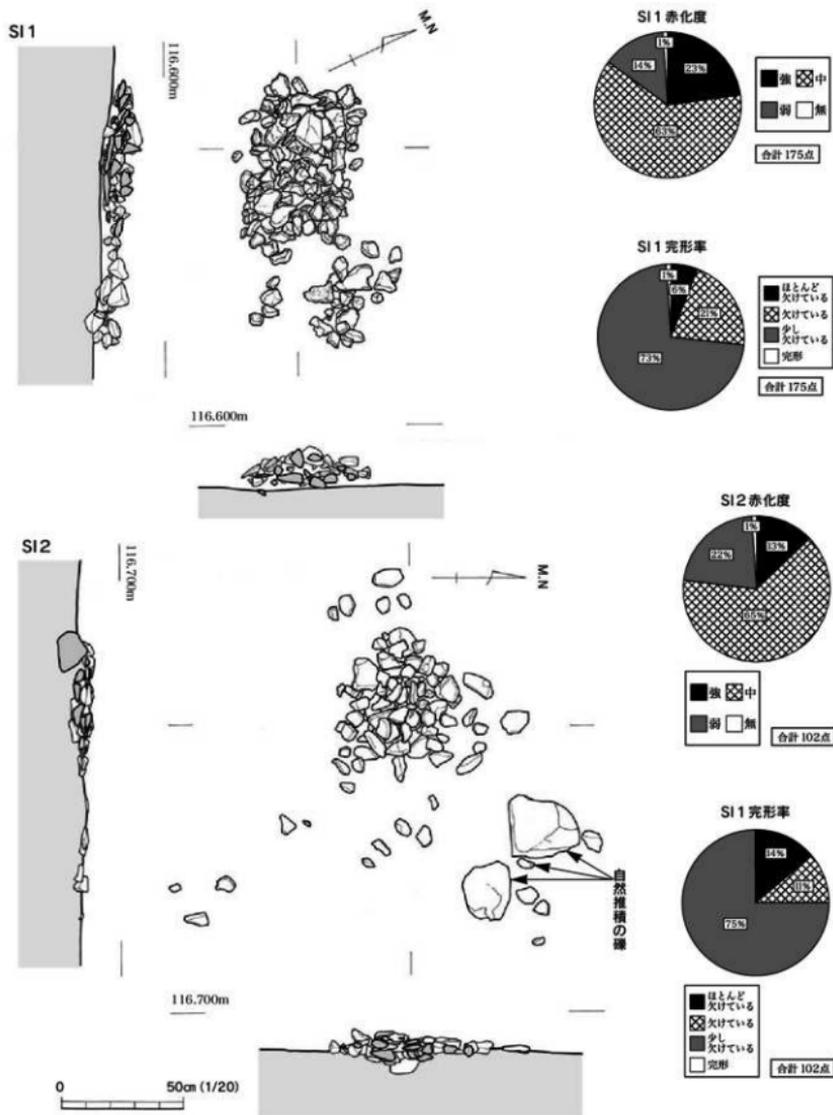
Ⅲ層、標高約116.35m～116.53mの地点、D21で検出された。約85cm×85cmを測る。97点の礫で構成されている。掘込みは認められない。

礫の平均重量は320.0gを測り、他の集石遺構に比べると礫が大きいのが特徴である。礫の約75%で赤化が認められる。

礫の接合関係を調べた結果、8個体の接合を確認できた。

S I 6（第91図）

標高約116.40m～116.57mの地点、D21で確認



第89図 縄文時代早期集石遺構実測図① (1/20)

できた。約180cm×105cmを測る。83点の礫で構成される。遺構中心部は密に礫があるものの周辺部に礫が散在している。何らかの影響で礫が移動したか、構成礫自体が消失したものと考えられる。20cm程度の出土レベルの差があるが、掘込みや配石はない。遺構中心部の埋土から径1mm程度の炭化物をまばらに検出した。

礫の平均重量は290.0gを量る。礫の約60%に赤化が認められ、ほとんどの礫が破碎していた。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、8個体の礫の接合が確認できた。

S17 (第92図)

Ⅲ層下層、標高約116.58m～116.59mの地点、D20・E20で検出された。約130cm×80cmを測る。28点の礫で構成される。径約10cm以上の礫がほとんどである。周辺部は礫構成が疎であるため、何らかの影響を受け礫が移動したか、構成していた礫

自体が何らかの理由で消失したものと考えられる。掘込みや配石は認められない。

礫の平均重量は240.0gを量る。約65%が赤化しており、またほとんどの礫が一部分で破碎している。

遺構内の礫の接合関係を調べた結果、1個体の礫が接合した。

S18 (第92図)

標高約116.75m～116.85mの地点、D20・D21で検出された。約95cm×80cmを測る。38点の礫で構成される。やや疎な礫構成のため、一部の礫が消失したか、礫自体が移動した可能性がある。掘込みや配石は認められない。

礫の平均重量は220.0gを量る。礫のほとんど約92%に被熱によると考えられる赤化が認められる。また、ほとんどの礫が破碎していた。

遺構内礫の接合関係を調べた結果、5個体の礫が接合した。

【表の見方】 測定形率：A=ほとんど欠けない(0%～) B=欠けている(40%～) C=少し欠けている(80%～) K=完全崩壊(100%)
赤化率：第1=赤化していない 第2=部分赤化している 中=全体的に赤化している 第3=非赤化している
炭化物付着の有無：1=有 2=無 (炭化物付着の有無は、炭化物ペーストの付着量や炭化物の付着を付与した器具の表面の黒色変色を目視によって確認した。)
注) 番号は原則の順上。便宜的に行った任意の番号である。接合状況欄の「数」(番号)は、炭化時代別期の「数」(番号)と一致しない場合がある。

S17の構成礫						
番号	径 [g]	形状率	赤化率	炭化物付着の有無	接合状況	備考
1	885	B	無	1		
2	345	C	中	2		
3	850	C	中	1		
4	100	C	中	1		
5	320	C	中	1		
6	410	B	中	1		
7	47	C	中	1	図	礫石内接合
8	220	C	中	1		
9	185	B	中	2		
10	103	C	中	1		
11	345	C	中	1		
12	106	C	無	2	図 30 46 59 64 124 17	礫石内接合
13	70	C	無	2		
14	120	C	中	2		
15	120	C	中	2		
16	234	C	無	1		
17	90	C	無	2		
18	40	C	中	2		
19	83	C	無	2	図 30 46 59 64 124 17	礫石内接合
20	71	C	無	2	49	礫石内接合
21	241	A	中	1		
22	115	C	無	2		
23	260	B	中	2		
24	220	C	無	2		
25	985	B	中	1		
26	350	C	無	2		
27	134	B	中	2	図	礫石内接合
28	150	B	中	2		
29	336	C	無	2		
30	171	C	無	2	49	礫石内接合
31	130	A	中	2		
32	265	C	中	2		
33	103	K	中	2		
34	121	C	無	2		
35	90	C	中	2		
36	32	C	中	1	図 30 46 59 64 124 17	礫石内接合
37	67	C	無	1	50 73 81	礫石内接合
38	70	C	中	2	無	礫石内接合
39	82	B	中	2	無	礫石内接合
40	935	C	無	2		
41	120	C	無	2		

S18の構成礫						
番号	径 [g]	形状率	赤化率	炭化物付着の有無	接合状況	備考
42	90	C	無	1		
43	75	C	無	2	図 30	礫石内接合
44	60	C	無	2	14 22 71 88 109	礫石内接合
45	95	C	中	2	126	礫石内接合
46	100	C	中	2	図 30 39 46 59 124 17	礫石内接合
47	75	A	中	2		
48	305	C	中	2		
49	120	C	中	2	20	礫石内接合
50	60	B	無	2		
51	30	C	中	2	11	礫石内接合
52	19	C	中	2		
53	30	C	無	2	79 87	礫石内接合
54	19	C	中	2	44 72 71 88 109	礫石内接合
55	28	C	中	2	171	礫石内接合
56	20	C	無	2		
57	22	C	中	2		
58	25	C	中	2		
59	23	C	中	2	図 30 39 46 59 124 17	礫石内接合
60	20	C	中	1	17 73 81	礫石内接合
61	15	C	中	2	39 76	礫石内接合
62	20	C	中	2		
63	20	C	中	2	78 84 140	礫石内接合
64	21	C	無	2	図 30 39 46 59 124 17	礫石内接合
65	21	B	中	2		
66	17	B	中	2		
67	11	C	中	2		
68	25	C	中	2		
69	11	C	中	2	20	礫石内接合
70	9	C	中	2		
71	9	C	中	2	51	礫石内接合
72	13	C	中	2	44 54 71 88 109	礫石内接合
73	13	C	中	2	77 80 81	礫石内接合
74	6	C	中	2		
75	5	C	中	2		
76	4	C	中	2	39 81	礫石内接合
77	10	C	中	2	44 54 71 88 109	礫石内接合
78	3	C	無	2	51 84 140	礫石内接合
79	9	C	中	2	13 87	礫石内接合
80	44	C	無	2		
81	40	C	中	2		
82	79	C	中	2		

第14表 集石遺構構成礫観察表①

【調査方針】 測定箇所：A＝ほとんど欠けている(0％～) B＝欠けている(40％～) C＝少し欠けている(80％～) K＝欠陥無し(100％)
 原色化度：無＝非色化していない 弱＝部分的に非色化している 中＝全体的に非色化している 強＝非常に非色化している
 黒色食物付着の有無：1＝有 2＝無 (黒色食物付着の有無は、炭化物・入土の付着や融染色等の影響を受けたと思われる観察面の黒色食物を目視によって確認した。)
 (注) 番号は観察の都合上、部位に付けた任意の番号である。接合状況欄の「数」(番号) は観測位置が写真記録(第38頁)を指す。

5.1-1の構成欄					5.1-2の構成欄						
番号	原色度(%)	測定箇所	黒色食物付着の有無	接合状況	備考	番号	原色度(%)	測定箇所	黒色食物付着の有無	接合状況	備考
83	12.5	C	無			127	31	C	中	82	
84	17.5	C	中	107	黒石内接合	128	51	C	中		
85	2.0	C	中	2		129	39	C	中	2	
86	88.5	C	中	2		130	199	C	無	1	
87	76.5	C	無	2	53 79	131	150	C	中	2	
88	207	B	中	1	89 166	132	199	C	中	2	
89	103.5	A	中	1		133	200	C	中	1	
90	15.0	C	中	2		134	54.5	C	無	2	285
91	150	C	弱	2	37 60 73	135	112	B	無	2	
92	25.5	C	無	2	43 159	136	38.5	C	中	1	
93	110	C	弱	2		137	298	B	無	2	
94	16.5	C	中	2		138	2.5	C	弱	2	
95	12.5	B	中	2		139	14.5	A	中	2	
96	98	B	中	2		140	51	C	中	1	
97	110	B	中	2		141	257	C	中	2	
98	11.5	B	中	2		142	136	C	中	2	
99	7.5	C	中	2	88 166	143	28.5	C	中	2	
100	158	B	中	1		144	5.2	C	弱	2	
101	19.5	C	無	1		145	21.5	B	中	1	
102	14.5	C	中	1	7	146	30	C	中	2	
103	19.5	A	中	2		147	70	C	中	2	84
104	7.3	C	中	2		148	11.3	C	中	2	
105	10.5	C	無	2		149	81	C	中	2	63 78 84
106	270	C	弱	2		150	210	C	中	2	
107	5.5	C	弱	2		151	146	B	無	2	
108	20.3	B	中	2		152	231	C	弱	1	
109	134	B	中	2		153	186	B	無	2	
110	14.5	A	中	2		154	190	B	無	2	
111	16.5	A	中	2		155	30.5	B	中	1	
112	5.0	B	中	2	28	156	23.5	B	無	1	
113	110	C	中	2		157	26.5	C	無	2	
114	31	C	中	2	63 78 169	158	44.0	A	中	2	
115	7.0	B	中	2		159	4.5	C	中	1	43 92
116	110	C	中	1		160	110	B	中	1	
117	130	B	中	2		161	121	C	中	2	
118	154	B	中	2	38	162	150	C	弱	2	34
119	89	B	中	2		163	148	B	無	2	
120	81	C	中	2		164	13.5	C	中	2	
121	380	C	無	2		165	101	C	弱	2	
122	140	C	中	2		166	170	C	中	2	88 89
123	320	A	中	1		167	100	C	中	2	
124	210	C	無	2	12 39 36 46 59 64 170	168	30	C	無	2	44 55 72 77 89
125	126	B	無	1		169	13.5	C	中	2	44 54 72 77 88
126	90	C	中	2		170	47	C	無	2	12 39 36 46 59 64 124
127	51	C	中	2	82	171	51	C	中	2	82
128	91	C	中	2		172	39	C	中	2	
129	39	C	中	2		173	199	C	無	1	
130	199	C	無	1		174	130	C	中	2	
131	130	C	中	2		175	199	C	中	2	
132	199	C	中	2		176	200	C	中	1	
133	200	C	中	1		177	30	C	中	2	
134	54.5	C	無	2	285	134	54.5	C	無	2	285
135	112	B	無	2		135	112	B	無	2	
136	38.5	C	中	1		136	38.5	C	中	1	
137	298	B	無	2		137	298	B	無	2	
138	2.5	C	弱	2		138	2.5	C	弱	2	
139	14.5	A	中	2		139	14.5	A	中	2	
140	51	C	中	1		140	51	C	中	1	
141	257	C	中	2		141	257	C	中	2	
142	136	C	中	2		142	136	C	中	2	
143	28.5	C	中	2		143	28.5	C	中	2	
144	5.2	C	弱	2		144	5.2	C	弱	2	
145	21.5	B	中	1		145	21.5	B	中	1	
146	30	C	中	2		146	30	C	中	2	
147	70	C	中	2	84	147	70	C	中	2	84
148	11.3	C	中	2		148	11.3	C	中	2	
149	81	C	中	2	63 78 84	149	81	C	中	2	63 78 84
150	210	C	中	2		150	210	C	中	2	
151	146	B	無	2		151	146	B	無	2	
152	231	C	弱	1		152	231	C	弱	1	
153	186	B	無	2		153	186	B	無	2	
154	190	B	無	2		154	190	B	無	2	
155	30.5	B	中	1		155	30.5	B	中	1	
156	23.5	B	無	1		156	23.5	B	無	1	
157	26.5	C	無	2		157	26.5	C	無	2	
158	44.0	A	中	2		158	44.0	A	中	2	
159	4.5	C	中	1	43 92	159	4.5	C	中	1	43 92
160	110	B	中	1		160	110	B	中	1	
161	121	C	中	2		161	121	C	中	2	
162	150	C	弱	2	34	162	150	C	弱	2	34
163	148	B	無	2		163	148	B	無	2	
164	13.5	C	中	2		164	13.5	C	中	2	
165	101	C	弱	2		165	101	C	弱	2	
166	170	C	中	2	88 89	166	170	C	中	2	88 89
167	100	C	中	2		167	100	C	中	2	
168	30	C	無	2	44 55 72 77 89	168	30	C	無	2	44 55 72 77 89
169	13.5	C	中	2	44 54 72 77 88	169	13.5	C	中	2	44 54 72 77 88
170	47	C	無	2	12 39 36 46 59 64 124	170	47	C	無	2	12 39 36 46 59 64 124
171	51	C	中	2	82	171	51	C	中	2	82
172	39	C	中	2		172	39	C	中	2	
173	199	C	無	1		173	199	C	無	1	
174	130	C	中	2		174	130	C	中	2	
175	199	C	中	2		175	199	C	中	2	
176	200	C	中	1		176	200	C	中	1	
177	30	C	中	2		177	30	C	中	2	
178	91	C	中	2		178	91	C	中	2	
179	13.5	C	中	2		179	13.5	C	中	2	
180	14.5	A	中	2		180	14.5	A	中	2	
181	70	C	中	2		181	70	C	中	2	
182	11.3	C	中	2		182	11.3	C	中	2	
183	81	C	中	2	63 78 84	183	81	C	中	2	63 78 84
184	210	C	中	2		184	210	C	中	2	
185	146	B	無	2		185	146	B	無	2	
186	231	C	弱	1		186	231	C	弱	1	
187	186	B	無	2		187	186	B	無	2	
188	190	B	無	2		188	190	B	無	2	
189	30.5	B	中	1		189	30.5	B	中	1	
190	23.5	B	無	1		190	23.5	B	無	1	
191	26.5	C	無	2		191	26.5	C	無	2	
192	44.0	A	中	2		192	44.0	A	中	2	
193	4.5	C	中	1	43 92	193	4.5	C	中	1	43 92
194	110	B	中	1		194	110	B	中	1	
195	121	C	中	2		195	121	C	中	2	
196	150	C	弱	2	34	196	150	C	弱	2	34
197	148	B	無	2		197	148	B	無	2	
198	13.5	C	中	2		198	13.5	C	中	2	
199	101	C	弱	2		199	101	C	弱	2	
200	170	C	中	2	88 89	200	170	C	中	2	88 89
201	100	C	中	2		201	100	C	中	2	
202	30	C	無	2	44 55 72 77 89	202	30	C	無	2	44 55 72 77 89
203	13.5	C	中	2	44 54 72 77 88	203	13.5	C	中	2	44 54 72 77 88
204	47	C	無	2	12 39 36 46 59 64 124	204	47	C	無	2	12 39 36 46 59 64 124
205	51	C	中	2	82	205	51	C	中	2	82
206	39	C	中	2		206	39	C	中	2	
207	199	C	無	1		207	199	C	無	1	
208	130	C	中	2		208	130	C	中	2	
209	199	C	中	2		209	199	C	中	2	
210	200	C	中	1		210	200	C	中	1	
211	30	C	中	2		211	30	C	中	2	
212	91	C	中	2		212	91	C	中	2	
213	13.5	C	中	2		213	13.5	C	中	2	
214	14.5	A	中	2		214	14.5	A	中	2	
215	70	C	中	2		215	70	C	中	2	
216	11.3	C	中	2		216	11.3	C	中	2	
217	81	C	中	2	63 78 84	217	81	C	中	2	63 78 84
218	210	C	中	2		218	210	C	中	2	
219	146	B	無	2		219	146	B	無	2	
220	231	C	弱	1		220	231	C	弱	1	
221	186	B	無	2		221	186	B	無	2	
222	190	B	無	2		222	190	B	無	2	
223	30.5	B	中	1		223	30.5	B	中	1	
224	23.5	B	無	1		224	23.5	B	無	1	
225	26.5	C	無	2		225	26.5	C	無	2	
226	44.0	A	中	2		226	44.0	A	中	2	
227	4.5	C	中	1	4						

【表の読み方】 赤化状態： A→ほとんど赤けている(0%～) B→赤けている(40%～) C→少し赤けている(80%～) E→完赤(100%)
 赤化状態： 無→赤化していない 赤→部分的に赤化している 赤→全身的に赤化している 赤→赤化が赤化している
 黒色物付着の有無： 1=有 2=無 (黒色物付着の有無は、黒化時・ススの付着や腐食等の影響を受けたと思われる露出面の黒色或等を目視によって確認した。) (注) 番号は整理の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。接合状況欄の「無」(番号)は異文時代以前面の欄(第88頁)を参照。

5-1の構成

番号	径 (g)	完赤率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
171	55	C	中	1	55	黒石内接合
172	330	C	中	1		
173	190	C	無	2		
174	140	C	中	2		
175	32	C	無	2		
168	30	C	無	2	44 54 72 77 89	黒石内接合
169	155	C	中	2	44 54 72 77 89	黒石内接合
170	47	C	無	2	42 51 36 46 59 64 124	黒石内接合
171	55	C	中	1	55	黒石内接合
172	330	C	中	1		
173	190	C	無	2		
174	140	C	中	2		
175	32	C	無	2		

5-2の構成

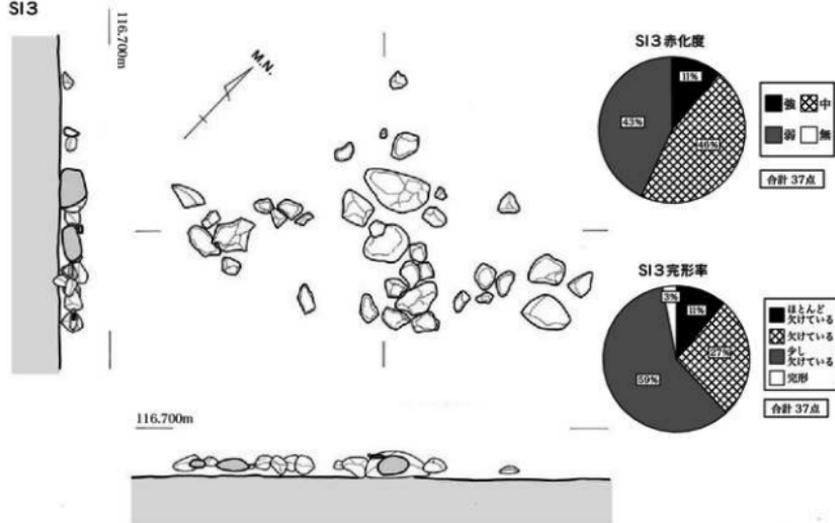
番号	径 (g)	完赤率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
34	190	C	中	1		
35	225	C	無	2		
36	300	C	無	2		
37	135	C	中	2		
38	300	C	無	1		
39	150	C	無	2		
40	235	B	中	1		
41	335	C	中	1		
42	75	C	中	2		
43	120	C	中	2		
44	220	C	中	1		
45	295	C	無	2		
46	185	C	中	2		
47	35	C	中	2		
48	80	C	中	2		
49	225	A	無	2		
50	10	C	中	2		
51	130	B	中	2	73	黒石内接合
52	73	C	中	2		
53	130	C	中	2		
54	196	C	中	2	5	黒石内接合
55	240	C	中	2		
56	130	C	無	2		
57	125	C	中	1		
58	125	C	中	1		
59	458	C	無	2		
60	135	A	無	2		
61	155	A	中	1		
62	65	C	中	1		
63	75	C	中	2		
64	125	C	中	2		
65	65	C	無	2		
66	115	C	中	1		
67	55	C	中	2		
68	20	B	中	2		
69	15	C	無	2	70 82	黒石内接合
70	10	C	無	2	69 82	黒石内接合
71	7	C	無	2		
72	10	C	無	2		
73	30	C	中	2	51	黒石内接合
74	28	C	無	2		
75	113	A	中	1		
76	505	C	無	2		
77	175	C	無	2		
78	100	C	中	2		
79	70	C	中	1		
80	55	C	無	2		
81	60	C	無	2		
82	50	C	中	2	69 70	黒石内接合
83	90	C	中	2		
84	73	A	中	2		
85	70	C	中	2	12	黒石内接合
86	90	A	無	2		
87	90	A	中	1		
88	150	A	中	1		
89	110	C	無	2		
90	83	C	無	2		
91	95	A	中	2		
92	157	C	無	2		
93	138	C	無	2		
94	100	C	中	1		
95	112	C	無	2		
96	125	C	中	2		
97	95	C	無	2		
98	55	C	中	1		
99	55	C	無	2		
100	120	C	中	2		
101	120	C	無	2		
102	3670	C	無	2		

5-12の構成

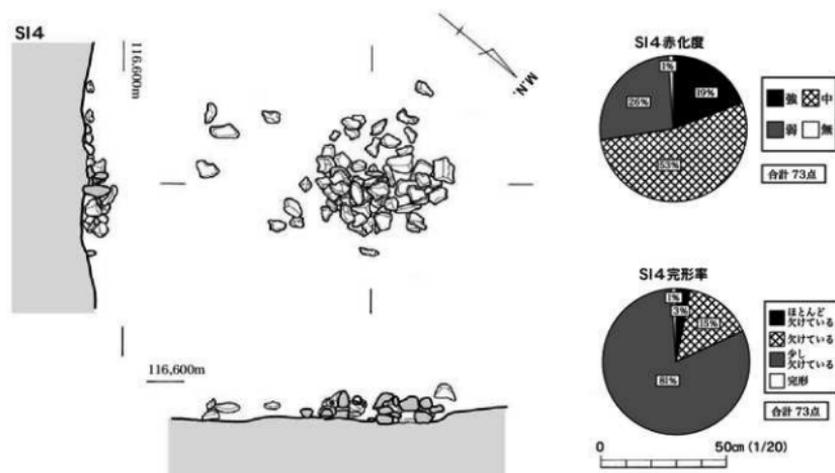
番号	径 (g)	完赤率	赤化度	黒色物付着の有無	接合状況	備考
1	245	C	中	2		
2	236	C	中	2		
3	280	C	無	2		
4	190	B	無	2		
5	180	B	中	2	14	黒石内接合
6	310	A	中	2		
7	250	A	中	1		
8	340	C	中	2		
9	317	C	中	1		
10	90	C	中	2		
11	140	B	中	2		
12	220	C	中	1		
13	170	B	無	2		
14	305	C	中	1		
15	220	B	中	1		
16	255	A	中	2		
17	400	C	中	1		
18	393	C	無	2		
19	398	B	無	2		
20	865	C	中	1		
21	170	B	中	1		
22	110	C	中	1		
23	125	C	中	2		
24	100	C	中	2		
25	415	C	中	2		
26	300	C	中	2		
27	165	A	中	1		
28	125	B	無	1		
29	115	C	無	2		
30	270	C	中	2		
31	175	C	中	1		
32	50	C	中	2	85	黒石内接合
33	230	A	中	1		
10	90	C	中	2		
11	140	B	中	2		
12	220	C	中	1		
13	170	B	無	2		
14	305	C	中	1		
15	220	B	中	1		
16	255	A	中	2		
17	400	C	中	1		
18	393	C	無	2		
19	398	B	無	2		
20	865	C	中	1		
21	170	B	中	1		
22	110	C	中	1		
23	125	C	中	2		
24	100	C	中	2		
25	415	C	中	2		
26	300	C	中	2		
27	165	A	中	1		
28	125	B	無	1		
29	115	C	無	2		
30	270	C	中	2		
31	175	C	中	1		
32	50	C	中	2	85	黒石内接合
33	230	A	中	1		

第16表 集石遺構構成確認観察表③

SI3



SI4



第90図 縄文時代早期集石遺構実測図② (1/20)

【調査の質】

完成形率：A＝ほとんど欠けていない(0%～)、B＝欠けている(40%～)、C＝少し欠けている(80%～)、K＝完成形(100%)

着色状況：無＝着色していない 部＝部分的に着色している 中＝全体的に着色している 無＝着色していない

着色物付着の有無：1＝有 2＝無 (着色物付着の有無は、反応熱・スチの付着や酸化等の影響を受けたと思われる露表面の黒色変色を目視によって確認した。) (注)番号は露部の割合上、便宜的に行けた任意の番号である。露合状況欄の「部」(番号)は露文時代別露部の番号(第38頁)を参照。

S13の露部

番号	質量(g)	完成形率	着色状況	着色物付着の有無	露合状況	備考
1	745	B	中	2		
2	1000	B	中	1		
3	265	C	中	1		
4	300	C	中	2		
5	430	K	部	2		
6	430	C	部	1		
7	120	C	中	2		
8	140	C	部	2		
9	317	C	中	2		
10	230	A	部	1		
11	365	B	中	2		
12	1225	C	部	2		
13	220	B	部	2		
14	255	A	部	2		
15	85	C	部	1		
16	170	B	中	1		
17	370	B	部	2		
18	540	B	中	2		
19	505	B	部	2		
20	60	B	部	2		
21	230	C	中	2		
22	436	C	部	2		
23	380	B	中	1		
24	100	C	中	2		
25	180	C	部	2		
26	165	C	中	2		
27	360	A	中	2		
28	130	C	中	2	30 31 37	露石内露合
30	8	C	部	2	29 31 37	露石内露合
31	5	C	部	2	29 31 37	露石内露合
32	295	C	部	1		
33	395	C	部	2		
34	325	C	部	2		
35	1315	C	部	2		
36	3740	A	部	2		
37	6000	C	部	2	29 30 31	露石内露合

S14の露部

番号	質量(g)	完成形率	着色状況	着色物付着の有無	露合状況	備考
1	1275	B	中	中	4 18 22 31	露石と露部の露合
2	1500	A	部	2		
3	370	C	部	2	32 33 39 40 41 42	露石内露合
4	815	B	中	2	1 18 22 31	露石と露部の露合
5	240	C	部	2		
6	70	C	部	2	7	露石内露合
7	90	C	部	2	6	露石内露合
8	108	C	部	2		
9	108	C	部	1		
10	160	B	部	2		
11	112	C	中	2		
12	60	C	中	2		
13	115	C	部	2		
14	140	C	中	2	70	露石内露合
15	120	C	中	2		
16	115	B	中	2		
17	250	B	中	2		
18	110	C	中	2	14 22 31	露石と露部の露合
19	90	C	中	2	28	露石内露合
20	70	部	2			
21	55	C	部	2	39 40	露石内露合
22	40	C	中	2	14 22 31	露石と露部の露合
23	50	C	部	2	28	露石内露合
24	50	C	中	2		
25	52	C	中	2		
26	170	C	中	2	23	露石内露合
27	170	C	中	2	24	露石内露合
28	230	C	中	2	39 41	露石内露合
29	75	C	中	2	43	露石内露合
30	95	C	部	2		
31	115	C	部	2	50 51	露石内露合
32	40	C	部	2	1 5 10 19 31 37	露石内露合
33	60	C	部	2		
34	115	C	部	2		
35	90	C	部	2	36 35 38	露石内露合
36	175	C	部	2	35 35 38	露石内露合
37	140	B	部	2		
38	98	C	部	2		

S15の露部

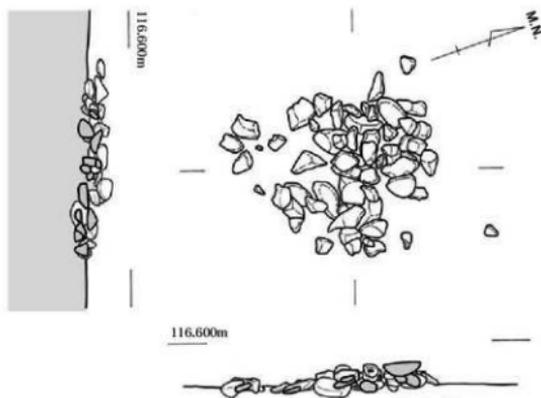
番号	質量(g)	完成形率	着色状況	着色物付着の有無	露合状況	備考
1	290	C	中	1	18	露石内露合
2	560	C	部	2		
3	485	C	中	2		
4	585	C	部	2		
5	375	A	部	2		
6	375	B	中	2		
7	230	C	中	1		
8	230	B	中	2		
9	120	C	中	1		
10	275	C	中	2		
11	1185	B	部	2		
12	98	C	中	2	28	露石内露合
13	212	C	部	2	25	露石内露合
14	265	C	中	2		
15	565	B	部	2		
16	250	C	部	2		
17	520	B	中	2		
18	445	C	中	2	1	露石内露合
19	260	C	中	2		
20	305	C	中	2		
21	190	C	中	2		
22	170	C	中	2	35 37	露石内露合
23	200	C	中	2		
24	165	C	中	2		
25	370	C	部	1	11	露石内露合
26	120	C	中	2		
27	375	C	中	2		
28	55	C	中	2	12	露石内露合
29	760	B	中	2		
30	215	C	部	2		
31	115	C	中	2	69 66	露石内露合
32	470	A	中	2		
33	300	C	部	2		
34	170	A	部	1		
35	480	C	中	2		
36	170	C	中	2		
37	58	C	部	1		
38	263	B	中	2		
39	75	C	中	2	69 67 65	露石内露合
40	520	A	中	2		
41	645	K	部	1		
42	32	C	部	2		
43	155	C	中	2		
44	285	C	中	2	33	露石内露合
45	125	C	中	2	36 37	露石内露合
46	520	C	部	2		
47	185	C	中	2		
48	155	C	中	2		
49	70	C	中	2		
50	108	C	中	1		

S15の露部

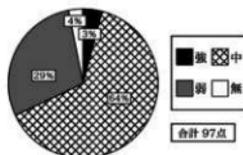
番号	質量(g)	完成形率	着色状況	着色物付着の有無	露合状況	備考
1	295	A	部	1		
2	290	C	中	2		
3	205	C	中	2	44	露石内露合
4	230	C	中	2		
5	465	C	中	2	22 38	露石内露合
6	30	C	中	2	45 47	露石内露合
7	103	C	中	2	45 36	露石内露合
8	115	C	中	2		
9	250	C	中	2		
10	290	C	中	2	39 47 55	露石内露合
11	28	C	部	2		
12	80	C	部	2		
13	280	C	中	1		
14	448	C	中	2		
15	1225	C	部	2		
16	460	C	部	2		
17	285	C	部	2		
18	110	C	中	2		
19	65	C	中	2	31 36	露石内露合
20	70	C	中	2		
21	675	C	部	2		
22	1200	A	中	2		
23	730	C	部	1		
24	865	C	部	2		
25	1500	K	中	2		
26	440	K	部	2		
27	740	B	中	1		
28	350	B	中	2		
29	470	C	中	2		
30	110	A	中	2		
31	840	C	中	2		
32	145	C	中	2		
33	590	C	中	2		
34	255	C	部	1		
35	240	C	中	2		
36	148	C	部	2	31 40	露石内露合
37	40	C	中	2	39 40 35	露石内露合
38	70	C	中	2	22 25	露石内露合
39	60	C	中	2		
40	73	B	部	2		
41	140	A	部	2		
42	78	部	2			
43	665	C	中	1		
44	755	C	部	2		
45	15	C	中	2	39 40 37	露石内露合
46	20	C	部	2		
47	32	K	中	2		

第17表 集石遺構構成確認観察表④

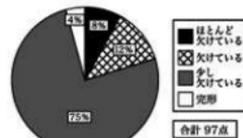
S15



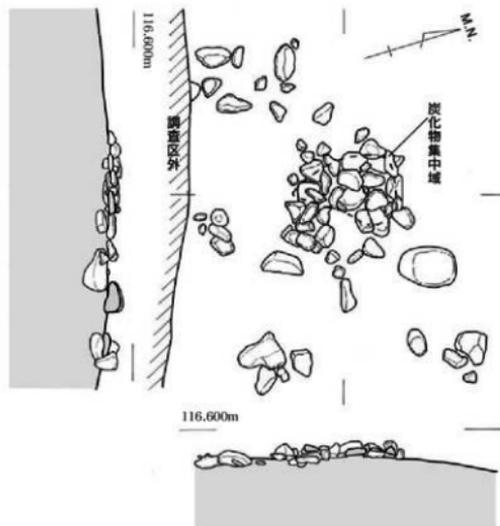
S15赤化度



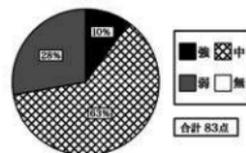
S15完形率



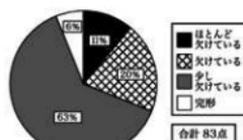
S16



S16赤化度



S16完形率



0 50cm (1/20)

第91図 縄文時代早期集石遺構実測図③ (1/20)

【調査方針】

変形率： A=ほとんど欠けている(0%～) B=欠けている(40%～) C=少し欠けている(80%～) K=完形(100%)

表面状況： 無=剥落していない 露=部分的に剥落している 中=全体的に剥落している 露=露出が顕著している

黒色粉状物の有無： 1=有 2=無 (黒色粉状物の有無は、炭化剤・入スの付着や剥離等の影響を受けたと思われる露表面の黒色粉状物によって確認した。) (注) 番号は調査の都合上、便宜的に付けた任意の番号である。適合状況の「数」は、調査区域内の調査点(第18表)を指す。

5-16の構成

番号	直径 (g)	変形率	劣化度	黒色粉状物の有無	適合状況	備考
1	5500	C	中	2		
2	2285	C	中	2		
3	1115	C	中	2		
4	945	A	前	2		
5	950	C	中	1		
6	590	C	中	1		
7	765	C	前	1		
8	585	B	前	2		
9	360	C	露	2		
10	210	B	前	2		
11	300	A	中	1		
12	230	C	中	2		
13	150	B	中	1		
14	220	C	露	2		
15	185	C	中	1		
16	250	C	中	1		
17	312	C	露	1		
18	115	C	露	1		
19	55	K	中	2		
20	200	B	中	2		
21	37	B	中	2		
22	605	B	前	2	7	黒石内接合
23	313	C	中	2		
24	283	A	中	1		
25	330	C	中	1		
26	230	C	中	1		
27	123	C	前	1		
28	195	C	中	2	8	黒石内接合
29	270	A	前	1		
30	190	C	前	1		
31	265	K	中	1		
32	145	B	中	2		
33	55	B	中	1		
34	295	C	中	1		
35	25	B	前	2		
36	60	C	露	2		
37	285	B	中	2		
38	285	C	前	2		
39	220	C	前	1		
40	123	C	前	1		
41	305	K	前	1		
42	128	B	前	2		

5-17の構成

番号	直径 (g)	変形率	劣化度	黒色粉状物の有無	適合状況	備考
43	35	C	中	2	47	黒石内接合
44	70	C	中	1		
45	295	B	中	2		
46	40	C	中	2	75	黒石内接合
47	230	C	中	1	43	黒石内接合
48	110	B	中	2		
49	45	C	中	1		
50	90	B	中	1		
51	95	C	中	2		
52	70	C	中	2		
53	120	C	露	2		
54	130	K	中	1		
55	25	C	中	2		
56	300	C	露	1		
57	105	C	中	2		
58	95	C	中	2		
59	70	C	中	2		
60	120	C	中	2	63	黒石内接合
61	30	A	中	1		
62	70	C	中	1		
63	40	C	中	1	60	黒石内接合
64	32	C	中	2		
65	230	K	露	2		
66	235	A	中	2		
67	323	B	中	2		
68	110	B	前	2		
69	145	C	中	2		
70	190	A	露	2		
71	90	C	前	2		
72	23	C	中	2		
73	160	C	中	2		
74	60	A	中	2		
75	40	C	中	2	46	黒石内接合
76	65	C	中	2		
77	100	B	前	2		
78	90	C	中	2	23	黒石内接合
79	23	C	前	2		
80	35	C	前	2		
81	25	C	中	2	28	黒石内接合
82	20	A	前	2		
83	15	C	前	2		

5-17の構成

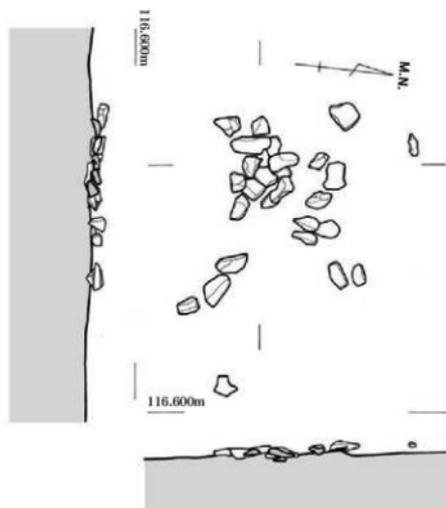
番号	直径 (g)	変形率	劣化度	黒色粉状物の有無	適合状況	備考
1	560	A	中	2		
2	173	A	中	1		
3	215	B	前	1		
4	233	A	中	1		
5	160	B	中	1		
6	175	A	中	1		
7	10	C	中	2	8	黒石内接合
8	180	C	中	2		
9	290	A	中	2		
10	270	C	中	1		
11	295	C	前	1		
12	175	C	中	1		
13	520	B	中	2		
14	285	C	前	1		
15	283	A	前	1		
16	140	C	前	2		
17	160	C	前	2		
18	295	C	中	1		
19	380	C	中	2	7	黒石内接合
20	420	C	前	2		
21	85	C	露	2		
22	165	C	中	2		
23	285	C	中	2		
24	150	C	中	1		
25	160	C	中	2		
26	305	A	中	2		
27	150	C	前	2		
28	125	C	前	2		

5-18の構成

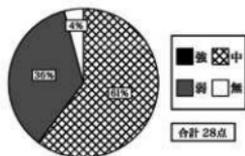
番号	直径 (g)	変形率	劣化度	黒色粉状物の有無	適合状況	備考
1	175	C	前	2		
2	50	C	露	2		
3	100	B	前	2		
4	185	C	中	2		
5	160	C	露	2		
6	135	C	露	2		
7	1720	A	露	2		
8	370	A	露	2		
9	405	C	中	2		
10	120	C	中	2		
11	115	C	中	1		
12	175	C	前	2		
13	55	C	前	2		
14	83	C	前	2	5+54	黒石内接合
15	125	A	中	2		
16	270	B	中	2		
17	375	C	前	2		
18	190	K	中	2		
19	50	C	露	2	5+3	黒石内接合
20	95	C	中	2		露石
21	585	C	露	2		
22	275	C	中	2		
23	280	A	中	2		
24	130	C	中	1		
25	190	C	中	2		
26	160	C	露	1		
27	25	C	前	2	30	黒石内接合
28	345	C	中	2		
29	350	A	中	2		
30	12	C	前	2	27	黒石内接合
31	110	C	露	2		
32	315	C	中	2		
33	65	B	露	1		
34	70	C	中	2	2+57	黒石内接合
35	180	C	露	2		
36	150	C	露	2		
37	90	B	中	2		
38	165	C	露	2		

第18表 集石遺構構成確認観察表⑤

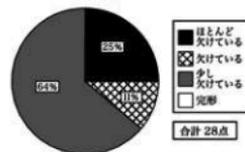
SI7



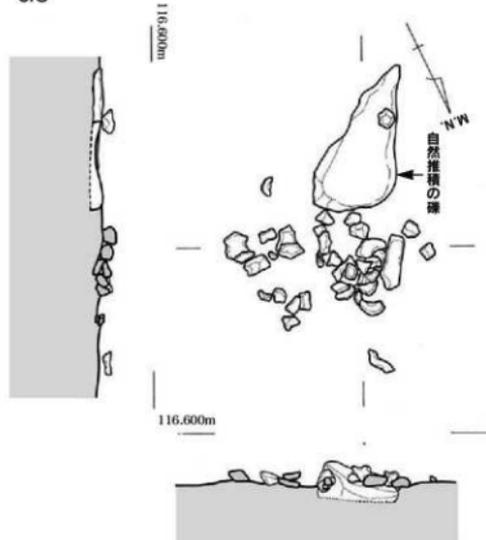
SI7 赤化度



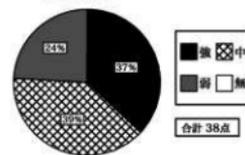
SI7 完形率



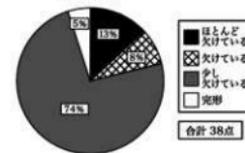
SI8



SI8 赤化度

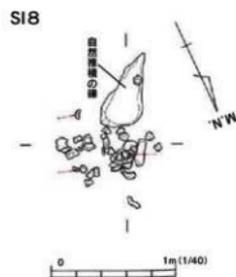
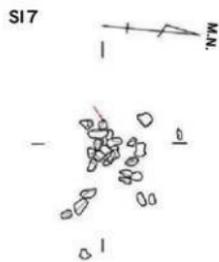
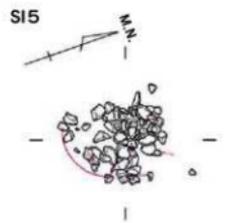
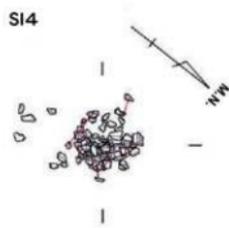
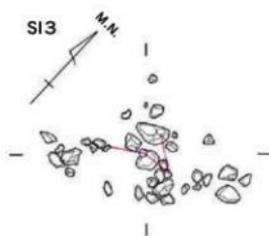
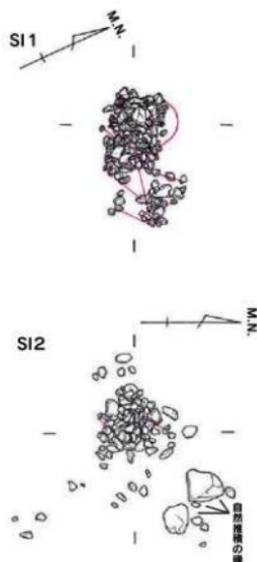
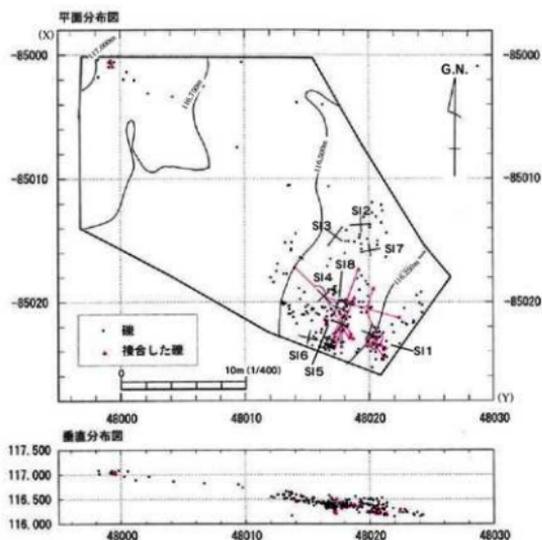


SI8 完形率



0 50cm (1/20)

第92図 縄文時代早期集石遺構実測図④ (1/20)



第93図 縄文時代早期：磯の接合状況（分布図は1/400、集石遺構は1/40）

【表の読み方】

測定形数： A=ほとんど欠けている(0%～) B=欠けている(40%～) C=少し欠けている(80%～) K=完形(100%)
 形数： 〇=全部形に欠けている 〇△=部分形に欠けている △〇=全部形に欠けている 〇△=全部形に欠けている
 重量物付着の有無： 1=有 2=無 (重量物付着の種類は、黒化剤・ススの付着や腐食等の影響を受けたと思われる黒化剤の付着等を行うによって確認した。)
 【注1】標号53は欠番である。
 【注2】標号79,91,102,245,265,271,279以外の石材はすべて底層の土層に由来する。

標号	国土産物 X 産地	国土産物 Y 産地	標高(m)	区	ゾーン	層	重量(g)	完形率	赤化度	重量物付着 の有無	検合状況	備	考
1	-85019.480	48023.820	B6.236	B2	E20-2G	黒	170.0	C	黒	2			
2	-85020.520	48022.820	B6.297	B2	E21-1G	黒	340.0	C	中	2			
3	-85021.310	48022.310	B6.272	B2	E21-1G	黒	170.0	C	中	2	514 1 4 18 22		黒石と数珠の検合
4	-85021.650	48022.680	B6.235	B2	E21-1G	黒	700.0	C	黒	2			
5	-85021.750	48022.930	B6.262	B2	E21-1G	黒	1050.0	C	黒	2			
6	-85021.830	48023.020	B6.236	B2	E21-1G	黒	90.0	C	中	2			
7	-85023.180	48021.350	B6.353	B2	E21-1G	黒	800.0	B	中	2			
8	-85021.840	48021.850	B6.322	B2	E21-1G	黒	150.0	C	中	2			
9	-85024.410	48021.020	B6.315	B2	E21-1G	黒	390.0	C	黒	2	286		数珠同検合3
10	-85023.620	48020.630	B6.360	B2	E21-1G	黒	175.0	C	中	2			
11	-85023.520	48020.320	B6.366	B2	E21-1G	黒	210.0	C	中	2			
12	-85024.080	48020.520	B6.365	B2	E21-1G	黒	60.0	C	中	2			
13	-85023.630	48019.840	B6.400	B2	D21-4G	黒	105.0	C	中	2			
14	-85024.000	48020.120	B6.387	B2	E21-1G	黒	105.0	B	中	2			
15	-85024.170	48017.760	B6.399	B2	D21-4G	黒	45.0	B	黒	2			
16	-85023.320	48017.730	B6.414	B2	D21-4G	黒	440.0	A	中	1			
17	-85023.320	48017.220	B6.413	B2	D21-4G	黒	230.0	B	黒	2			
18	-85023.070	48017.510	B6.407	B2	D21-4G	黒	275.0	B	黒	2			
19	-85023.320	48016.970	B6.500	B2	D21-4G	黒	150.0	A	黒	2			
20	-85023.950	48016.780	B6.390	B2	D21-4G	黒	885.0	C	中	1			
21	-85023.800	48016.480	B6.418	B2	D21-4G	黒	205.0	C	中	2			
22	-85023.450	48018.350	B6.416	B2	D21-4G	黒	120.0	B	中	2			
23	-85023.910	48016.450	B6.395	B2	D21-4G	黒	840.0	C	中	2			
24	-85023.720	48016.300	B6.413	B2	D21-4G	黒	300.0	C	黒	2			
25	-85023.310	48016.620	B6.411	B2	D21-4G	黒	65.0	C	中	2			
26	-85023.680	48016.090	B6.422	B2	D21-4G	黒	215.0	C	黒	2			
27	-85023.600	48015.990	B6.425	B2	D21-4G	黒	260.0	A	中	1			
28	-85020.200	48018.480	B6.423	B2	D21-4G	黒	45.0	C	黒	2			
29	-85023.180	48016.110	B6.419	B2	D21-4G	黒	440.0	C	中	2			
30	-85023.540	48015.420	B6.446	B2	D21-4G	黒	305.0	C	中	2			
31	-85022.820	48016.820	B6.415	B2	D21-4G	黒	360.0	C	黒	2			
32	-85022.450	48017.190	B6.520	B2	D21-4G	黒	160.0	B	黒	2	44		数珠同検合4
33	-85022.510	48017.280	B6.438	B2	D21-4G	黒	315.0	C	中	2			
34	-85022.600	48018.390	B6.399	B2	D21-4G	黒	195.0	C	中	2	205		数珠同検合5
35	-85022.000	48018.170	B6.442	B2	D21-4G	黒	475.0	A	黒	2			
36	-85020.000	48019.200	B6.430	B2	D21-4G	黒	110.0	C	中	2			
37	-85020.000	48019.520	B6.407	B2	D21-4G	黒	175.0	C	中	2			
38	-85019.510	48019.930	B6.375	B2	D20-3G	黒	1520.0	K	黒	2			
39	-85018.930	48020.250	B6.350	B2	E20-2G	黒	2950.0	B	黒	2	186 248 249		数珠同検合1
40	-85018.580	48019.900	B6.401	B2	D20-3G	黒	150.0	A	黒	2			
41	-85018.310	48019.750	B6.408	B2	D20-3G	黒	65.0	K	中	2			
42	-85017.880	48019.400	B6.428	B2	D20-3G	黒	135.0	C	黒	2			
43	-85018.100	48019.090	B6.332	B2	D20-3G	黒	5010.0	A	黒	2			
44	-85017.390	48019.060	B6.385	B2	D20-3G	黒	340.0	B	黒	2	32		数珠同検合4
45	-85016.330	48021.350	B6.425	B2	E20-2G	黒	270.0	A	中	2			
46	-85014.400	48021.400	B6.431	B2	E20-1G	黒	305.0	C	黒	2			
47	-85015.390	48020.700	B6.454	B2	E20-2G	黒	130.0	C	黒	2			
48	-85015.050	48020.720	B6.401	B2	E20-3G	黒	770.0	C	中	2			
49	-85015.710	48019.400	B6.346	B2	D20-3G	黒	830.0	K	黒	2			
50	-85015.310	48019.380	B6.411	B2	D20-3G	黒	4790.0	C	黒	2			
51	-85015.120	48018.860	B6.555	B2	D20-3G	黒	110.0	C	中	2			
52	-85015.080	48018.380	B6.490	B2	D20-3G	黒	275.0	C	黒	2			
54	-85016.060	48018.100	B6.488	B2	D20-3G	黒	430.0	C	黒	1			
55	-85016.500	48016.900	B6.535	B2	D20-3G	黒	265.0	A	黒	2			
56	-85017.100	48016.670	B6.470	B2	D20-3G	黒	1705.0	C	黒	2			
57	-85018.720	48017.320	B6.333	B2	D20-3G	黒	100.0	C	中	2			
58	-85018.750	48017.220	B6.344	B2	D20-3G	黒	135.0	A	中	2			
59	-85019.060	48017.220	B6.343	B2	D20-3G	黒	80.0	A	黒	2			
60	-85019.010	48017.260	B6.354	B2	D20-3G	黒	60.0	C	黒	2			
61	-85018.960	48017.270	B6.358	B2	D20-3G	黒	80.0	C	中	2			
62	-85019.020	48017.220	B6.357	B2	D20-3G	黒	35.0	C	中	2			
63	-85018.980	48017.020	B6.348	B2	D20-3G	黒	40.0	B	黒	2			
64	-85019.120	48017.190	B6.371	B2	D20-3G	黒	255.0	C	黒	2			
65	-85019.190	48017.320	B6.358	B2	D20-3G	黒	120.0	C	黒	2			
66	-85019.280	48017.330	B6.361	B2	D20-3G	黒	85.0	C	黒	2			
67	-85019.130	48017.670	B6.346	B2	D20-3G	黒	35.0	B	黒	1			
68	-85019.200	48017.320	B6.365	B2	D20-3G	黒	70.0	C	黒	2			
69	-85019.020	48019.230	B6.374	B2	D20-3G	黒	135.0	B	中	2			
70	-85019.410	48017.130	B6.387	B2	D20-3G	黒	30.0	B	黒	1			
71	-85019.350	48017.110	B6.372	B2	D20-3G	黒	45.0	C	中	2			
72	-85019.010	48016.770	B6.442	B2	D20-3G	黒	20.0	C	中	2			
73	-85019.200	48016.710	B6.414	B2	D20-3G	黒	100.0	C	黒	2			

第20表 縄文時代早期出土土器観察表①

調査号	国土地理院 X座標	国土地理院 Y座標	標高(m)	区	グッド	距離(m)	定利率	赤化度	黒色物付着 の有無	接合状況	備考
74	-85020.380	48018.220	B6.420	B2	D21-4G	並	200.0	B	無	2	
75	-85020.800	48017.620	B6.440	B2	D21-4G	並	240.0	C	無	2	
76	-85021.140	48016.980	B6.416	B2	D21-4G	並	475.0	A	中	2	
77	-85021.050	48017.010	B6.427	B2	D21-4G	並	85.0	C	無	2	
78	-85020.450	48016.470	B6.406	B2	D21-4G	並	145.0	C	中	2	
79	-85020.590	48016.940	B6.432	B2	D21-4G	並	170.0	C	無	2	
80	-85020.730	48016.630	B6.440	B2	D21-4G	並	60.0	C	無	2	ホルンフェルス副産物
81	-85021.190	48016.590	B6.420	B2	D21-4G	並	120.0	C	無	2	
82	-85021.520	48017.010	B6.484	B2	D21-4G	並	55.0	C	中	2	
83	-85021.530	48017.100	B6.474	B2	D21-4G	並	570.0	K	中	1	
84	-85021.530	48016.640	B6.442	B2	D21-4G	並	260.0	C	中	2	
85	-85021.550	48016.540	B6.393	B2	D21-4G	並	255.0	B	無	2	
86	-85021.780	48016.630	B6.392	B2	D21-4G	並	520.0	B	無	2	
87	-85021.020	48015.940	B6.445	B2	D21-4G	並	560.0	C	中	2	
88	-85020.920	48015.750	B6.445	B2	D21-4G	並	75.0	A	無	2	
89	-85021.530	48015.380	B6.483	B2	D21-4G	並	360.0	C	中	2	
90	-85021.750	48014.140	B6.448	B2	D21-4G	並	400.0	B	中	2	
92	-85021.040	48014.620	B6.466	B2	D21-4G	並	125.0	C	無	2	
93	-85021.030	48014.770	B6.430	B2	D21-4G	並	1290.0	C	中	2	
94	-85020.780	48014.970	B6.480	B2	D21-4G	並	35.0	C	中	2	
95	-85020.930	48015.060	B6.448	B2	D21-4G	並	240.0	C	中	2	
96	-85020.420	48014.880	B6.526	B2	D21-4G	並	355.0	C	中	2	
97	-85020.630	48015.400	B6.531	B2	D21-4G	並	45.0	C	中	2	
98	-85020.570	48015.530	B6.531	B2	D21-4G	並	45.0	B	中	2	
99	-85020.520	48015.410	B6.438	B2	D21-4G	並	2550.0	B	中	2	
100	-85020.500	48016.280	B6.446	B2	D21-4G	並	45.0	C	中	2	
101	-85020.390	48016.230	B6.451	B2	D21-4G	並	140.0	B	無	2	
102	-85020.300	48016.220	B6.447	B2	D21-4G	並	80.0	C	無	2	横引
103	-85019.220	48014.800	B6.472	B2	D20-2G	並	910.0	B	無	2	
104	-85020.260	48015.060	B6.480	B2	D21-4G	並	590.0	C	中	2	
105	-85019.750	48014.440	B6.582	B2	D20-2G	並	455.0	C	中	2	
106	-85020.820	48013.860	B6.523	B2	D21-4G	並	55.0	C	中	2	
107	-85021.230	48013.880	B6.498	B2	D21-4G	並	15.0	C	中	2	
108	-85020.940	48013.670	B6.501	B2	D21-4G	並	60.0	C	中	2	
109	-85020.580	48013.580	B6.571	B2	D21-4G	並	20.0	A	中	2	
110	-85020.960	48013.520	B6.575	B2	D21-4G	並	35.0	C	無	2	
111	-85020.350	48013.510	B6.577	B2	D21-4G	並	10.0	C	中	2	
112	-85020.300	48013.590	B6.580	B2	D21-4G	並	20.0	C	中	2	
113	-85020.120	48013.260	B6.525	B2	D21-4G	並	145.0	C	中	2	
114	-85020.010	48013.030	B6.594	B2	D21-4G	並	165.0	B	中	2	
115	-85020.120	48013.060	B6.592	B2	D21-4G	並	35.0	C	中	2	
116	-85020.060	48013.080	B6.578	B2	D21-4G	並	90.0	C	無	2	
117	-85020.110	48013.120	B6.574	B2	D21-4G	並	90.0	C	無	2	
118	-85020.380	48013.110	B6.590	B2	D21-4G	並	95.0	A	中	1	
119	-85020.150	48013.000	B6.583	B2	D21-4G	並	325.0	C	中	1	
120	-85018.400	48012.300	B6.532	B2	D20-2G	並	670.0	C	中	2	
121	-85018.010	48012.070	B6.551	B2	D20-2G	並	40.0	C	中	2	
122	-85017.500	48012.550	B6.586	B2	D20-2G	並	110.0	C	無	2	
123	-85017.720	48013.150	B6.510	B2	D20-2G	並	2510.0	C	中	2	
124	-85017.730	48013.380	B6.524	B2	D20-2G	並	35.0	C	中	2	
125	-85017.200	48013.920	B6.488	B2	D20-2G	並	3720.0	C	中	2	201 S14-46 61 黒石と数珠の接合
126	-85016.890	48012.630	B6.590	B2	D20-2G	並	145.0	C	中	2	
127	-85016.500	48014.640	B6.548	B2	D20-2G	並	75.0	B	無	2	
128	-85016.380	48014.460	B6.555	B2	D20-2G	並	200.0	B	無	2	
129	-85015.840	48013.700	B6.610	B2	D20-2G	並	520.0	C	無	2	
130	-85015.700	48013.720	B6.170	B2	D20-2G	並	890.0	A	無	1	
131	-85015.200	48013.260	B6.661	B2	D20-2G	並	385.0	C	無	2	
132	-85015.170	48013.750	B6.621	B2	D20-2G	並	590.0	C	無	2	
133	-85014.470	48014.070	B6.590	B2	D20-4G	並	645.0	C	中	2	
134	-85013.130	48019.580	B6.520	B2	D20-4G	並	70.0	C	無	2	
135	-85012.780	48020.280	B6.491	B2	E20-1G	並	235.0	C	無	1	
136	-85011.950	48020.280	B6.476	B2	E20-1G	並	145.0	B	中	2	
137	-85012.150	48021.000	B6.532	B2	E20-1G	並	95.0	C	中	2	
138	-85012.620	48021.100	B6.397	B2	E20-1G	並	75.0	C	無	2	
139	-85010.650	48016.750	B6.582	B2	D20-4G	並	170.0	C	中	2	
140	-85010.600	48013.480	B6.638	B2	D20-1G	並	1325.0	A	無	2	
141	-85010.550	48013.650	B6.638	B2	D20-1G	並	310.0	A	中	2	
142	-85004.020	48016.300	B6.440	B2	D19-4G	並	1105.0	C	中	2	
143	-85003.860	48014.210	B6.463	B2	D19-1G	並	450.0	C	中	2	
144	-85007.480	48009.420	B6.799	B2	C19-3G	並	200.0	C	中	2	
145	-85006.610	48009.750	B6.735	B2	C19-4G	並	595.0	C	中	2	
146	-85002.560	48006.700	B6.831	B2	C19-4G	並	65.0	C	中	2	
147	-85003.370	48004.200	B6.859	B2	C19-1G	並	140.0	B	中	2	

第21表 縄文時代早期出土土器観察表②

調査号	国土地理院 X 座標	国土地理院 Y 座標	標高(m)	区	グリップ	層	重量(g)	定形率	赤化度	黒色物付着 の有無	接合状況	備 考
148	-85002.060	48001.150	tt.691	B2	C19-IG	黒	530.0	C	中	2		
149	-85003.110	48002.230	tt.691	B2	C19-IG	黒	1450.0	K	中	2		
150	-85001.980	48000.270	tt.696	B2	C19-IG	黒	2860.0	B	中	2		
151	-85001.380	48000.530	tt.077	B2	C19-IG	黒	520.0	A	中	2		
152	-85000.570	47999.520	tt.060	B2	B19-4G	黒	630.0	B	中	2		
153	-85000.130	47999.830	tt.090	B2	B19-4G	黒	245.0	C	中	2		
154	-85000.480	47999.250	tt.046	B2	B19-4G	黒	1530.0	A	中	2		
155	-85000.430	47999.150	tt.082	B2	B19-4G	黒	110.0	C	中	2	157	数隣同接合6
156	-85000.700	47999.280	tt.079	B2	B19-4G	黒	570.0	C	中	2		
157	-85000.800	47999.300	tt.068	B2	B19-4G	黒	130.0	C	弱	2	155	数隣同接合6
158	-85000.980	47999.130	tt.038	B2	B19-4G	黒	400.0	C	弱	2		
159	-85000.400	47998.230	tt.085	B2	B19-4G	黒	295.0	C	中	2		
160	-85001.770	47998.270	tt.017	B2	B19-4G	黒	460.0	B	中	2		
161	-85013.100	48020.580	tt.650	B2	E20-IG	黒	220.0	C	中	2		
162	-85013.720	48020.110	tt.621	B2	E20-IG	黒	120.0	C	中	1		
163	-85013.950	48020.100	tt.650	B2	E20-IG	黒	140.0	C	中	2		
164	-85013.590	48021.000	tt.381	B2	E20-IG	黒	45.0	C	弱	2		
165	-85014.880	48019.900	tt.499	B2	D20-4G	黒	220.0	B	中	2		
166	-85014.800	48019.250	tt.493	B2	D20-4G	黒	120.0	C	中	2		
167	-85014.530	48019.300	tt.462	B2	D20-4G	黒	570.0	C	中	2		
168	-85014.200	48018.210	tt.480	B2	D20-4G	黒	765.0	C	弱	2		
169	-85015.080	48018.150	tt.478	B2	D20-3G	黒	400.0	C	弱	2		
170	-85018.900	48014.350	tt.471	B2	D20-2G	黒	760.0	C	中	2		
171	-85020.120	48017.400	tt.634	B2	D21-4G	黒	50.0	C	中	2		
172	-85019.900	48017.700	tt.630	B2	D20-3G	黒	160.0	C	弱	2		
173	-85019.920	48017.950	tt.615	B2	D20-3G	黒	300.0	C	弱	2		
174	-85019.850	48017.870	tt.640	B2	D20-3G	黒	75.0	C	無	2		
175	-85020.140	48018.150	tt.620	B2	D21-4G	黒	70.0	B	弱	2		
176	-85019.820	48018.130	tt.364	B2	D20-3G	黒	310.0	C	弱	2		
177	-85020.040	48018.060	tt.350	B2	D21-4G	黒	190.0	C	弱	2		
178	-85020.300	48018.230	tt.382	B2	D21-4G	黒	335.0	C	弱	2		
179	-85020.290	48018.220	tt.379	B2	D21-4G	黒	185.0	C	中	2		
180	-85019.700	48018.690	tt.388	B2	D20-3G	黒	70.0	C	弱	2	195 242	数隣同接合2
181	-85019.950	48018.680	tt.370	B2	D20-3G	黒	170.0	C	中	2		
182	-85020.250	48018.700	tt.329	B2	D21-4G	黒	160.0	C	弱	1		
183	-85020.810	48018.270	tt.363	B2	D21-4G	黒	495.0	A	弱	2		
184	-85020.460	48019.380	tt.332	B2	D21-4G	黒	180.0	A	弱	2		
185	-85020.850	48019.390	tt.352	B2	D21-4G	黒	65.0	C	弱	2		
186	-85020.820	48019.680	tt.266	B2	D21-4G	黒	110.0	C	弱	2	39 248 249	数隣同接合1
187	-85020.520	48020.120	tt.260	B2	E21-IG	黒	480.0	K	弱	2		
188	-85020.430	48020.200	tt.311	B2	E21-IG	黒	175.0	C	弱	2		
189	-85024.360	48021.150	tt.307	B2	E21-IG	黒	75.0	C	弱	2		
190	-85024.620	48021.010	tt.308	B2	E21-IG	黒	110.0	C	弱	1		
191	-85024.790	48021.060	tt.325	B2	E21-IG	黒	45.0	C	弱	2		
192	-85024.660	48021.130	tt.323	B2	E21-IG	黒	20.0	C	中	2		
193	-85024.670	48020.520	tt.240	B2	E21-IG	黒	150.0	C	弱	2		
194	-85025.320	48020.240	tt.375	B2	E21-2G	黒	25.0	C	弱	2		
195	-85023.650	48017.020	tt.265	B2	D21-4G	黒	6000.0	C	中	2	180 242	数隣同接合2
196	-85022.900	48017.030	tt.293	B2	D21-4G	黒	4000.0	B	弱	2	197	数隣同接合7
197	-85022.760	48017.120	tt.239	B2	D21-4G	黒	8300.0	B	弱	2	196	数隣同接合7
198	-85024.100	48019.010	tt.291	B2	D21-4G	黒	195.0	C	中	2		
199	-85023.850	48019.140	tt.229	B2	D21-4G	黒	55.0	C	弱	2		
200	-85022.980	48018.590	tt.405	B2	D21-4G	黒	295.0	B	中	2	267	数隣同接合8
201	-85022.930	48018.330	tt.417	B2	D21-4G	黒	120.0	C	弱	2	125 SH-46 61	黒石と数隣同接合
202	-85023.250	48017.920	tt.395	B2	D21-4G	黒	225.0	C	無	2		
203	-85022.000	48018.270	tt.356	B2	D21-4G	黒	600.0	C	中	2		
204	-85021.810	48018.310	tt.360	B2	D21-4G	黒	185.0	B	中	2		
205	-85021.990	48018.090	tt.358	B2	D21-4G	黒	70.0	C	中	2	34	数隣同接合5
206	-85021.930	48017.870	tt.336	B2	D21-4G	黒	150.0	C	中	2		
207	-85022.220	48017.910	tt.360	B2	D21-4G	黒	165.0	C	弱	2		
208	-85022.320	48017.920	tt.388	B2	D21-4G	黒	170.0	C	弱	2		
209	-85022.340	48017.680	tt.376	B2	D21-4G	黒	220.0	C	中	2	275	数隣同接合9
210	-85022.570	48017.100	tt.398	B2	D21-4G	黒	340.0	B	中	2		
211	-85021.220	48018.450	tt.359	B2	D21-4G	黒	155.0	C	弱	2		
212	-85021.400	48018.160	tt.324	B2	D21-4G	黒	490.0	C	弱	2		
213	-85021.250	48017.870	tt.379	B2	D21-4G	黒	100.0	C	弱	2		
214	-85021.100	48018.020	tt.377	B2	D21-4G	黒	300.0	C	中	2		
215	-85020.210	48018.220	tt.378	B2	D21-4G	黒	105.0	A	弱	2		
216	-85020.490	48018.010	tt.394	B2	D21-4G	黒	295.0	C	弱	2		
217	-85021.380	48016.320	tt.415	B2	D21-4G	黒	45.0	C	弱	2	219	数隣同接合10
218	-85021.680	48016.580	tt.413	B2	D21-4G	黒	355.0	C	中	2		
219	-85021.820	48016.380	tt.421	B2	D21-4G	黒	155.0	C	弱	2	217	数隣同接合10
220	-85022.500	48015.690	tt.435	B2	D21-4G	黒	70.0	C	中	2		
221	-85022.490	48016.120	tt.428	B2	D21-4G	黒	90.0	C	中	2		
222	-85023.100	48016.990	tt.373	B2	D21-4G	黒	750.0	K	弱	2		
223	-85022.220	48016.180	tt.410	B2	D21-4G	黒	170.0	C	中	2		
224	-85022.920	48016.470	tt.363	B2	D21-4G	黒	490.0	C	中	2		
225	-85022.920	48016.620	tt.368	B2	D21-4G	黒	105.0	C	中	2		

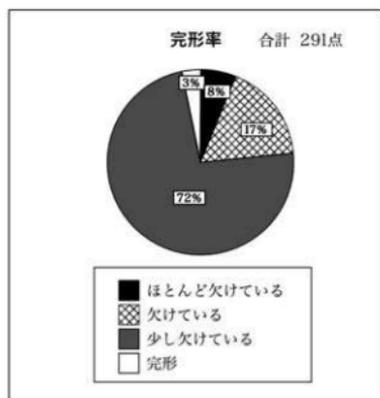
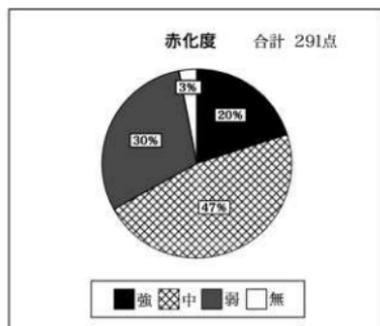
第22表 縄文時代早期出土土曜観察表③

調査号	国土地理院 X 座標	国土地理院 Y 座標	標高(m)	区	グリッド	層	重量(g)	定形率	赤化度	黒色物付着 の有無	組合状況	備	考
226	85023.240	48017.130	B6.338	B2	D21-4G	黒	350.0	C	中				
227	85023.000	48016.730	B6.365	B2	D21-4G	黒	145.0	C	弱	2			
228	85023.190	48017.210	B6.349	B2	D21-4G	黒	215.0	K	弱	2			
229	85023.370	48016.430	B6.348	B2	D21-4G	黒	120.0	C	中	2			
230	85023.520	48016.500	B6.340	B2	D21-4G	黒	270.0	C	弱	2			
231	85023.470	48016.750	B6.337	B2	D21-4G	黒	830.0	C	中	2			
232	85023.100	48016.610	B6.324	B2	D21-4G	黒	405.0	B	強	2			
233	85023.480	48016.580	B6.340	B2	D21-4G	黒	30.0	C	弱	2			
234	85023.520	48016.520	B6.317	B2	D21-4G	黒	550.0	C	強	2			
235	85023.720	48016.700	B6.359	B2	D21-4G	黒	340.0	C	強	2			
236	85023.720	48016.900	B6.326	B2	D21-4G	黒	305.0	C	強	2			
237	85023.720	48016.700	B6.324	B2	D21-4G	黒	150.0	C	強	2			
238	85023.670	48016.700	B6.328	B2	D21-4G	黒	180.0	C	中	2			
239	85023.580	48016.680	B6.327	B2	D21-4G	黒	575.0	C	中	2			
240	85023.620	48016.760	B6.383	B2	D21-4G	黒	100.0	C	弱	2			
241	85023.580	48016.960	B6.383	B2	D21-4G	黒	120.0	C	弱	2			
242	85023.550	48016.900	B6.396	B2	D21-4G	黒	75.0	C	中	2	180 195	数層間接合2	
243	85023.500	48016.950	B6.376	B2	D21-4G	黒	160.0	C	弱	2			
244	85023.670	48017.080	B6.315	B2	D21-4G	黒	530.0	B	強	2			
245	85024.470	48021.480	B6.162	B2	E21-IG	黒	370.0	C	中	2			溝目
246	85024.460	48021.400	B6.178	B2	E21-IG	黒	85.0	B	強	2			
247	85024.300	48021.230	B6.197	B2	E21-IG	黒	75.0	B	中	2			
248	85023.880	48021.020	B6.217	B2	E21-2G	黒	140.0	C	強	2	39 186 249	数層間接合1	
249	85023.780	48021.070	B6.198	B2	E21-3G	黒	65.0	C	強	2	39 186 248	数層間接合1	
250	85023.750	48021.210	B6.231	B2	E21-4G	黒	70.0	C	強	2	269	数層間接合1	
251	85023.770	48021.160	B6.183	B2	E21-IG	黒	690.0	B	強	2			
252	85023.380	48022.450	B6.299	B2	E21-IG	黒	280.0	B	中	2			
253	85022.470	48021.970	B6.153	B2	E21-IG	黒	105.0	C	中	2			
254	85021.720	48023.520	B6.202	B2	E21-IG	黒	220.0	C	中	2			
255	85021.670	48023.580	B6.182	B2	E21-IG	黒	180.0	C	弱	2			
256	85021.550	48023.550	B6.185	B2	E21-IG	黒	340.0	C	弱	1			
257	85020.960	48017.570	B6.370	B2	E21-IG	黒	130.0	C	中	2	S18-34	集石と数層の接合	
258	85020.850	48024.260	B6.182	B2	E21-IG	黒	620.0	C	弱	2			
259	85020.260	48024.280	B6.185	B2	E21-IG	黒	45.0	C	弱	2			
260	85020.100	48024.060	B6.162	B2	E21-IG	黒	105.0	C	弱	2			
261	85019.200	48024.180	B6.173	B2	E21-IG	黒	100.0	C	弱	2			
262	85022.070	48020.480	B6.300	B2	E21-IG	黒	200.0	C	弱	2			
263	85022.120	48020.740	B6.307	B2	E21-IG	黒	115.0	B	弱	2			
264	85022.400	48020.830	B6.246	B2	E21-IG	黒	175.0	C	中	2			
265	85022.400	48021.020	B6.264	B2	E21-IG	黒	50.0	C	強	2			チャート数層
266	85022.510	48021.130	B6.322	B2	E21-IG	黒	70.0	C	中	2			
267	85022.850	48018.350	B6.400	B2	E21-IG	黒	85.0	C	中	2	200	数層間接合8	
268	85023.680	48020.560	B6.228	B2	E21-IG	黒	95.0	C	強	2			
269	85023.540	48020.850	B6.228	B2	E21-IG	黒	65.0	C	中	2	250	数層間接合11	
270	85023.490	48020.850	B6.218	B2	E21-IG	黒	80.0	B	強	2			
271	85023.590	48020.750	B6.200	B2	E21-IG	黒	185.0	B	強	2			チャート数層
272	85023.320	48020.320	B6.327	B2	E21-IG	黒	25.0	C	弱	2			
273	85022.800	48020.800	B6.223	B2	E21-IG	黒	195.0	C	強	2			
274	85022.490	48020.640	B6.268	B2	E21-IG	黒	45.0	C	弱	2			
275	85023.620	48017.610	B6.338	B2	E21-IG	黒	300.0	C	中	2	209	数層間接合9	
276	85023.610	48017.260	B6.282	B2	E21-IG	黒	285.0	B	強	2			
277	85023.800	48017.150	B6.312	B2	E21-IG	黒	85.0	C	中	2			
278	85023.190	48017.080	B6.311	B2	E21-IG	黒	175.0	C	強	2			
279	85024.070	48017.610	B6.300	B2	E21-IG	黒	70.0	A	強	2			チャート数層
280	85024.220	48017.250	B6.325	B2	E21-IG	黒	50.0	C	中	2			
281	85022.490	48020.320	B6.240	B2	E21-IG	黒	210.0	C	強	2			
282	85022.980	48015.700	B6.418	B2	E21-IG	黒	75.0	C	中	2			
283	85022.800	48015.510	B6.376	B2	E21-IG	黒	145.0	B	強	2			
284	85023.130	48015.080	B6.418	B2	E21-IG	黒	200.0	C	強	2			
285	85023.380	48020.410	B6.227	B2	E21-IG	黒	270.0	C	強	2	S10-134	集石と数層の接合	
286	85023.040	48020.510	B6.313	B2	E21-IG	黒	80.0	C	強	2	9	数層間接合3	
287	85022.780	48020.350	B6.226	B2	E21-IG	黒	210.0	C	中	2			
288	85023.220	48019.920	B6.252	B2	E21-IG	黒	525.0	C	強	2			
289	85022.540	48020.000	B6.220	B2	E21-IG	黒	525.0	C	中	2			
290	85022.920	48020.340	B6.233	B2	E21-IG	黒	270.0	C	強	2			
291	85022.790	48020.050	B6.260	B2	E21-IG	黒	120.0	B	強	2	292	数層間接合12	
292	85022.890	48020.460	B6.242	B2	E21-IG	黒	95.0	B	強	2	291	数層間接合12	
						総重量	118715.0						
						1点あたりの平均重量	408.0						

第23表 縄文時代早期出土土礫観察④

集石遺構が検出された縄文時代早期面から集石遺構周辺を中心に291点の礫が検出された（集石遺構を構成する礫は除く）[第88図]。集石遺構の解説で述べたとおり、集石遺構を構成する礫との接合、散礫間の接合等も認められた [第93図]。集石遺構との関連を含めて、ここで礫の状況を述べることにする。

検出された礫291点中、7点（チャート3点、ホルンフェルス1点、他）を除く284点は在地礫の尾



【図の見方】

※完形率：A=ほとんど欠けている（0%～）
 B=欠けている（40%～）
 C=少し欠けている（80%～）
 K=完形礫（100%）

※赤化度：無=赤化していない 弱=部分的に赤化している
 中=全体的に赤化している 強=非常に赤化している

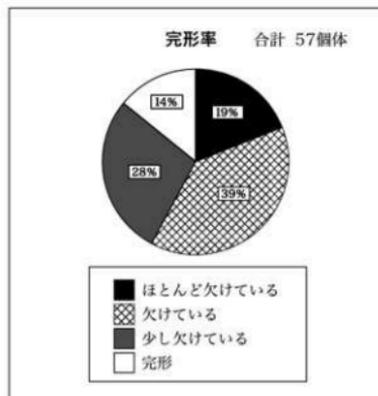
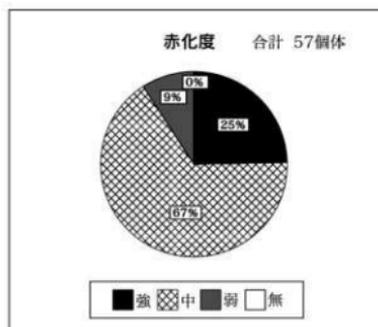
第94図 礫の赤化度・完形率

鈴山酸性岩類である。

礫の総重量は、118.715kgを量り、礫1点あたりの平均重量は408.0gを量る。

礫の赤化度、完形率は第94・95図のとおりである。

礫のほとんどに赤化が認められ、約3分の2の礫（赤化度中・強67%）には明瞭な赤化を認める。礫の赤化の要因は被熱によるもの、鉄分等の酸化によるもの、検出層の土色が影響したもの等々が考えられる。礫の完形率をみると約90%以上の礫が何らかの作用による割れ（欠損）部分を残す。分割礫が生じる要因としては、被熱による分割、人的な作用（例えば、意図的に礫を割る、石器製作の過程で割



第95図 接合礫（集石遺構を構成する礫）の赤化度・完形率

【観測箇所】

※パターン : A (同一集石遺構内掘台) B (集石遺構間掘台) C (散埋掘台) D (集石遺構と散埋掘台)
 ※突込率 : A=ほとんど突込している(0%~) B=次ぎている(40%~) C=少し次ぎている(80%~) K=突込していない
 ※測定位置 : 掘台番号に示している(0%~) 各体的に示している(40%~) C=少し次ぎている(80%~) K=突込していない
 ※遺石の掘台番号及び掘台番号は掘台の番号上、掘台別に付けた任意の番号である。

遺構番号	総合掘番号	パターン	掘										集石のゾーン				備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454

る、または割れる等)による分割、人的な作用以外の外的な圧力による分割等が考えられる。赤化礫、分割礫が比較的多く認められたことはこれらの礫が集石遺構の周辺部から集中して検出されていることを考えると、一部の礫においては被熱による赤化、分割の可能性も十分残される。

集石遺構を構成する礫の接合に関しては、57個体の接合礫の内52個体は同一集石遺構内での接合であった。2個体は集石遺構間(SI4とSI8)の接合、3個体は集石遺構と散礫間(SI4と散礫2個体、SI8と散礫1個体)の接合を認めた。

接合礫の赤化度と完形率の状況については第95図に示した。

赤化については、接合礫のうち約4分の1には非常に強い赤化が認められ、約3分の2についても赤化が認められた。礫の形状については同一集石遺構内での接合礫52個体中8個体は接合礫そのものが完形をなす。それらの礫は意図的に割って集石遺構を構成する礫として使ったか、被熱によって割れた礫である可能性がある。

なお、集石遺構を構成する礫の接合に関しては、その個体数やデータ量が十分とは言えない。事実のみを報告することとし、これ以上の言及は避けることにする。

(2) 遺物

縄文時代早期面での出土遺物は石器17点(石礫4点、剥片13点)と縄文土器片2点、磁器片1点の計20点である。それらの遺物分布については第96図に示したとおりである。

磁器片については土層のクラックや樹根痕等の影響を受け落ち込んだ遺物である。

①石器

出土した石器のうち、製品である石礫4点(第97図:281~284)のみを掲載した。なお、出土した石器の器種・石材の内訳は第26表のとおりである。

石礫(第97図:281~284)

281は流紋岩製の帖地型石礫である。背面は局部的に磨きを認める。先端部は欠損しているものの脚部は良好に残り、脚部に向かって窄まる。脚部に浅

器種 石材	石礫	二次加工のある剥片	剥片	砕片	計
チャート	2	1	6	1	10
赤色チャート			1		1
黒曜石 (桑ノ木津留)	1				1
流紋岩	1				1
ホルンフェルス			4		4
計	4	1	11	1	17

第26表 縄文時代早期石器器種・石材別数量表

いU字の袢りを入れている。

283は桑ノ木津留産黒曜石製の石礫である。ほぼ正三角形を呈し、脚部は平基となる。

282・284はチャート製の石礫である。282は脚部だけの石礫である。残存脚部から推定して3cmを超す、他に比して大型の石礫である。U字もしくはV字の袢り認める。284は二等辺三角形を呈し脚部に浅い袢りを入れている。

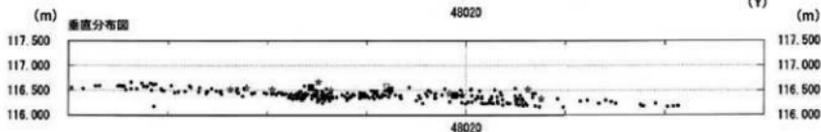
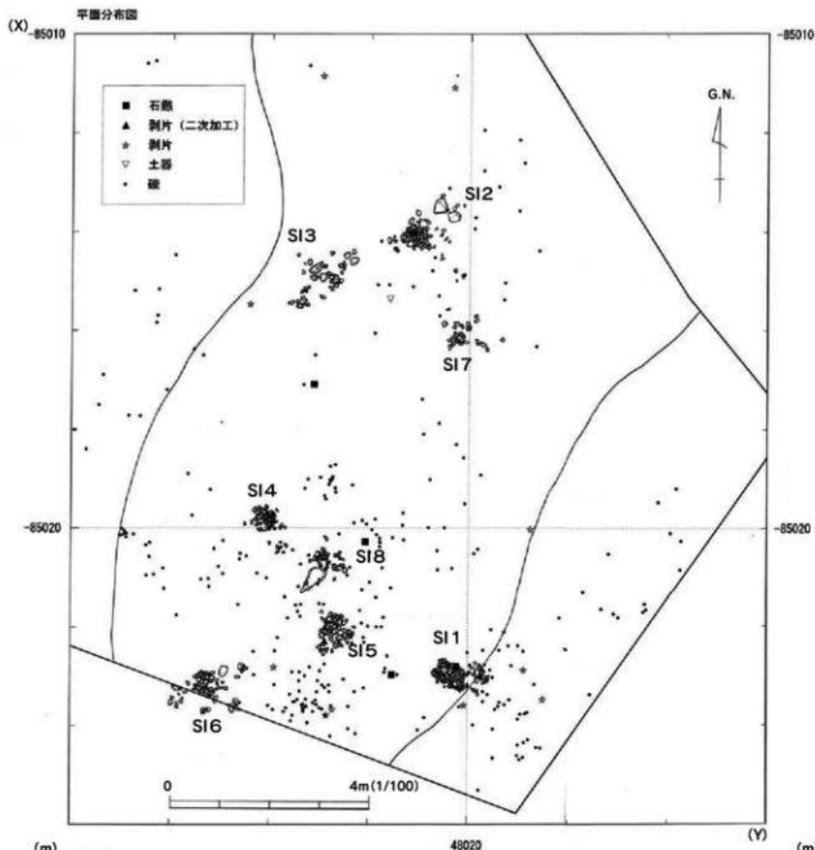
剥片

出土した13点中、1点は二次加工のある剥片(D21-4出土:チャート製)である。石材はチャート製が8点と最も多い。赤色チャート製、黒曜石製の剥片も1点ずつ出土した。接合については確認できなかった。

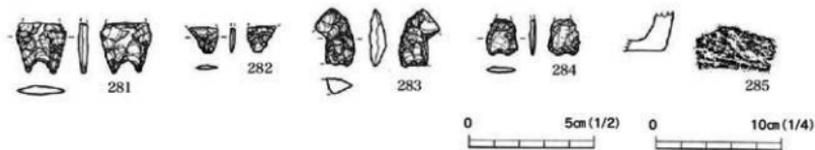
②土器(第97図:285)

土器片のうち1点は塞ノ神式土器の胴部で、外内面ともに風化が著しいが沈線及び縄文が認められる。

285は深鉢の底部である。内外面ともに風化が激しく調整や文様等是不明瞭であるが、条痕が認められる。



第96図 集石遺構集中域周辺の遺物・礫分布図 (1/100)



第97図 縄文時代早期石器・土器実測図 (281~284 : 1/2, 285 : 1/4)

No.	Gr. No.	出土層	注記No.	種類	石 材	X 座標	Y 座標	Z 座標 (標高-m)	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	備 考
281	D20-3	Ⅲ	6	石鏃	頁岩	-85017.090	48016.880	116.553	(2.05)	2.00	0.40	1.90	粘地質石鏃、先端部欠損。
282	D21-4	Ⅳ	17	石鏃	チャート	-85022.810	48019.700	116.394	(1.00)	(1.20)	0.20	0.20	基部のみ。
283	D21-4	Ⅲ	11	石鏃	黒曜石(後/本津町)	-85020.280	48017.930	116.399	(1.50)	1.30	0.21	0.60	基部一部欠損。
284	D21-4	Ⅲ	12	石鏃	チャート	-85022.980	48014.840	116.512	2.30	(1.60)	0.70	1.80	先端部欠損。

第27表 縄文時代早期石器計測表

No.	類別	種 類	出 土 区	出 土 地 点	法 量			備 考	手法・調整・文脈化		色 調		胎 土 の 特 徴	備 考
					口径	底径	器高		外 面	内 面	外 面	内 面		
285	縄文土器	深鉢底部	B	D20-3C	-	-	-	良好	風化が激しく、文様・調整等不明瞭 未処理をさすかに認める	風化が激しく、文様・調整等不明瞭	明赤褐色 橙 5YR 5/6 7.5YR 6/6	明赤褐色 5YR-5/6	2mm以下の灰白色、褐灰色、無色透明ガラス質の微細粒を含む にぶい赤褐色粒を顔かに含む	

第28表 縄文時代早期土器観察表

第4節 弥生時代後期の遺構と遺物

表土除去後、鬼界アカホヤ火山灰検出面にて精査した結果、弥生時代後期の溝状遺構1条（SE10）を検出した。

以下に溝状遺構と遺構内の出土遺物について記述する。

1 遺構（溝状遺構）

SE10（第98図）

SE10はB1区北から南南東方向にS字を描きながら延び、農道を挟んでB2区に続き、南東方向に緩やかなS字を描いて調査区外へと続く形で検出された。SE1・2・3・4によって切られる。検出面において長さ約9.0m、最大幅約0.6m、最深部約0.06mを測る。

遺構の形状に特色をもつ。B1区ではS字状の屈曲をなし、B2区においても緩やかではあるがS字状を描く。埋土については最下層部は砂や小石を多く含む砂礫層である。

遺構も遺構内から多数出土した。底面直上から出土した遺物は取上げ番号を付し個々に取り上げ、埋土上層～下層にかけての出土遺物は埋土上・中・下の3層に分け一括して取り上げた。

底面直上からは、238箇所、470点（石器7点、土器463点）の遺物が出土した。石器の内訳は石鏃1点、二次加工のある剥片3点、剥片3点である。

土器は弥生土器片である。

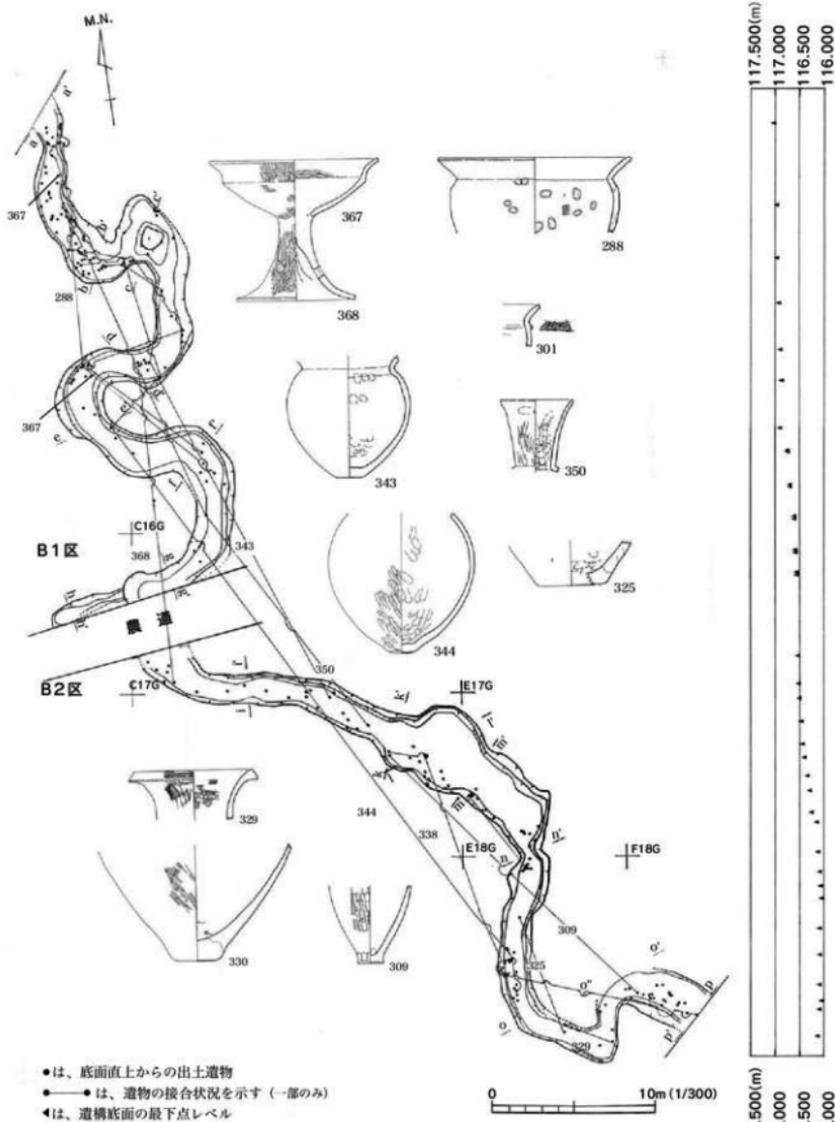
埋土からは1492点（上層：184点、中層：10点、下層：1298点）の遺物が出土した。その内訳は、石鏃1点、土師器37点、陶器1点、残りは弥生土器片である。

底面直上から出土した土器片の分布状況を第98図に示している。また本書に掲載した弥生土器片の中で底面直上から出土した土器片同士の接合状況も合わせて示している。

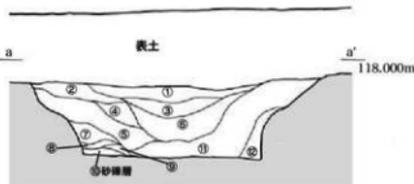
遺構の形状、埋土の状況、遺物の分布と接合状況等を総合的に検討すると、当時、この遺構は自然の流路であった可能性がある。土器片は5～10m以上離れて接合しているものもあり水流によって動かされた可能性がある。

また遺構最下部のレベルをつなぐとB2区南東方向に向けて緩やかに傾斜を認める（第98図）。このことから、遺跡内では北から南東方向に向けて流れていたと推定できる。

この遺構は当時、土器の廃棄場であったと考えられる。本遺跡（一～四次）調査では確認できなかったが遺跡周辺に弥生時代の集落が存在した可能性も残るであろう。



第98図 SE10平面実測図及び底面直上出土遺物分布図 (1/300)

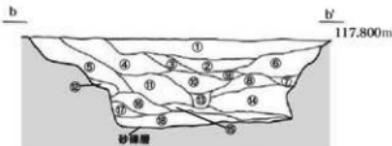


【土質注記】SE10 (断面a-a')

- ①黒色土 (7.5YR-1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~2mm程度の黄褐色粒を少量含む。ざるらざらしている。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。
- ②黒色土 (7.5YR-1.7/1) しまりは弱く、粘性は中や強い。脛るとざるらざらす。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。粘性は中や強い。脛るとざるらざらす。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。砂質粒を含む。
- ③黒色土 (7.5YR-1.7/1) しまりは弱く、粘性は中や強い。脛るとぼろぼろした感じで、脛り跡が毛羽立つ。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。
- ④黒色土 (7.5YR-3/2) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の白色粒をやや多く含む。
- ⑤黒色土 (7.5YR-2/1) しまりは強く、粘性は非常に強い。1mm以下の白色粒を中や多く含む。粘性が非常に強くべたべたしている。脛り跡が毛羽立つ。
- ⑥黒色土 (7.5YR-2/1) しまり、粘性ともに中や強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。脛るとざるらざらしている。砂質粒を含む。
- ⑦黒色土 (7.5YR-2/2) しまり、粘性ともに中や強い。1mm以下の白色粒を少し含む。粘性はあるが、べたべたした感じではない。
- ⑧暗褐色土 (10YR-3/4) しまり、粘性ともに強い。脛ると毛羽立つ。粘土質である。
- ⑨赤褐色土 (10YR-3/1) しまり、粘性ともに強い。ざるらざらす。1mm以下の黄褐色粒を少量含む。
- ⑩赤褐色土 (10YR-4/0) しまりは強く、粘性は中や強い。砂礫層である。
- ⑪赤褐色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに非常に強い。ブロックで土が落ちる。全体的に褐鉄鉱を中や多く含む。1mm以下の白色粒を少量含む。
- ⑫赤褐色土 (10YR-3/1) しまり、粘性ともに強い。ざるらざらす。1mm以下の白色粒を少量含む。べたべたとした感じである。

【土質注記】SE10 (断面c-c')

- ①黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに中や強い。脛ると毛羽が少し立つ。1mm以下の黄褐色粒を少量含む。
- ②赤褐色土 (10YR-1.7/1) しまりは中や強く、粘性は強い。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ③黒色土 (10YR-1.7/1) しまりは中や強く、粘性は非常に強い。脛ると毛羽が立つ。他の土粒は認められない。
- ④赤褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。脛ると毛羽立つ。1~2mm以下の黄褐色粒・白色粒を少量含む。
- ⑤暗褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに非常に強く脛ると毛羽立つ。1~2mm程度の黄褐色粒・白色粒を少し含む。
- ⑥黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに非常に強く脛ると毛羽立つ。1~2mm程度の黄褐色粒・白色粒を少し含む。
- ⑦赤褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。ざるらざらしている。
- ⑧暗褐色土 (10YR-3/4) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。ざるらざらしている。
- ⑨赤褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。
- ⑩赤褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。1~3mm以下の黄褐色粒を非常に多く含む。

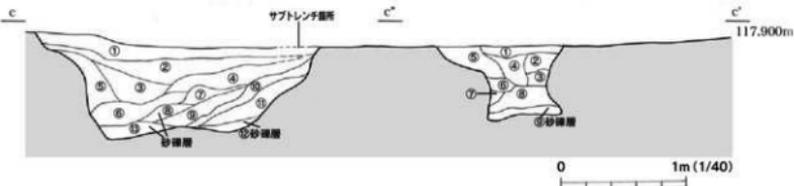


【土質注記】SE10 (断面b-b')

- ①黒色土 (7.5YR-1.7/1) しまりは強く、粘性は非常に強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~2mm程度の黄褐色粒を少し含む。全体的に褐鉄鉱を非常に多く含む。1~3mm程度の炭化物を少し含む。①よりも粘性がある。
- ②黒色土 (7.5YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。①よりも粘性がある。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1mm以下の黄褐色粒を少量含む。全体的に褐鉄鉱を中や多く含む。1~3mm程度の炭化物を少し含む。①よりも粘性がある。
- ③赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまりは中や強く、粘性は強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。ざるらざらしている。全体的に褐鉄鉱を中や多く含む。
- ④赤褐色土 (7.5YR-2/1) しまりは強く、粘性は中や強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~2mm程度の黄褐色粒を少量含む。ざるらざらしている。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ⑤暗褐色土 (7.5YR-2/2) しまりは中や強く、粘性は強い。1~2mm程度の小石を非常に多く含む。脛ると毛羽が立つ。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1mm程度の黄褐色粒を中や多く含む。
- ⑥赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~2mm程度の黄褐色粒を少量含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ⑦赤褐色土 (7.5YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ⑧赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまりは強く、粘性は非常に強い。1mm以下の黄褐色粒を中や多く含む。
- ⑨赤褐色土 (7.5YR-2/1) しまりは強く、粘性は非常に強い。1mm以下の白色粒を多く含む。
- ⑩赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。黒色の帯状の部分で確認される。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ⑪赤褐色土 (7.5YR-2/1) しまり、粘性ともに非常に強い。べたべたとおり粘土質である。1~2mm程度の炭化物を少し含む。
- ⑫暗褐色土 (7.5YR-2/2) しまり、粘性ともに強い。他の土粒はほとんど認められない。
- ⑬赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまりは中や強く、粘性は強い。ざるらざらしている。1mm以下の黄褐色粒を非常に多く含む。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。
- ⑭赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまり、粘性ともに非常に強い。黒色の帯状の部分で認められる。1mm以下の白色粒を少し含む。粘土質である。
- ⑮赤褐色土 (7.5YR-1.7/1) しまり、粘性ともに非常に強い。1mm以下の炭化物を少し含む。
- ⑯赤褐色土 (7.5YR-2/1) しまりは中や強く、粘性は強い。1~3mm程度の小石・砂粒を非常に多く含む。1~2mm程度の黄褐色粒を中や多く含む。
- ⑰赤褐色土 (7.5YR-2/2) しまり、粘性ともに非常に強い。1~2mm程度の黄褐色粒・白色粒を少し含む。脛ると毛羽立つ。
- ⑱赤褐色土 (7.5YR-3/3) しまり、粘性ともに非常に強い。1~2mm程度の小石・砂粒を非常に多く含む。砂礫層である。

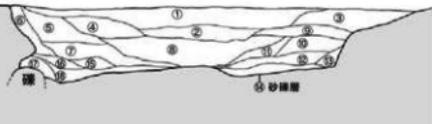
【土質注記】SE10 (断面c'-c'')

- ①黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに中や強い。1mm以下の白色粒を多く含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ②赤褐色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに中や強い。1mm以下の白色粒を極少量含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ③赤褐色土 (10YR-2/1) しまりは強く、粘性は中や強い。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ④赤褐色土 (10YR-2/1) しまりは強く、粘性は中や強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。ざるらざらしている。
- ⑤赤褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の白色粒と1~3mm程度の黄褐色粒を非常に多く含む。
- ⑥暗褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の白色粒を少し含む。全体的に褐鉄鉱を多く含む。
- ⑦赤褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに中や強い。ざるらざらしている。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ⑧赤褐色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。多少ざるらざらしている。1mm以下の白色粒を多く含む。
- ⑨赤褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに強い。砂礫層の為、ぼろぼろしている。10~50mm程度の小石が多く含まれる。



第99図 SE10断面実測図① (1/40)

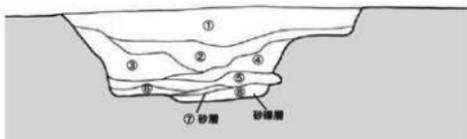
d



【土壌注記 SE10 (断面d-d')】

- ①黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は弱い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~3mm程度の黄褐色粒を少し含む。全体の褐鉄酸をやや多く含む。
 ②黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は弱い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1mm以下の黄褐色粒を極少量含む。
 ③黒色土 (HYR-2.7) しまりは中や強くない、ぼろぼろしている。1mm以下の白色粒を極少量含む。全体の褐鉄酸を非常に多く含む。
 ④黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は強い。1mm以下の白色粒を多く含む。1mm程度の黄褐色粒を少し含む。
 ⑤黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は強い。1mm以下の白色粒を少し含む。層と毛羽立つ。
 ⑥黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は弱い。ざらざらしている。1mm以下の白色粒を少し含む。
 ⑦黒色土 (HYR-1.7) しまりは強く、粘性は非常に強い。層と毛羽立つ。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を少し含む。
 ⑧黒色土 (HYR-1.7) しまりは非常に強く、粘性は強い。1~2mm程度の炭化物をやや多く含む。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。
 ⑨黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに強い。層と毛羽立つ。1~5mm程度の黄褐色粒を極少量含む。
 ⑩砂礫層土 (HYR-3.2) しまりは強く、粘性は非常に強い。1~3mm程度の黄褐色粒を少し含む。粘土質である。
 ⑪黒色土 (HYR-2.7) しまりは強く、粘性は非常に強い。1~3mm程度の炭化物を少し含む。
 ⑫黒色土 (N-1.5(4)) しまりは、粘性ともに非常に強い。粘土質である。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。
 ⑬黒色土 (HYR-2/4) しまりは中や強く、粘性は強い。ふいふ黄褐色土 (HYR5/4) のブロックを非常に多く含む。特にふいふ黄褐色土は粘性が強い。
 ⑭砂礫層土 (HYR-3/2) しまりは、粘性ともに非常に強い。砂礫層である。1~50mm程度の砂粒、小石が多く含まれている。
 ⑮赤褐色土 (HYR-2/2) しまりは、粘性ともに弱い。1mm程度の黄褐色粒・白色粒・炭化物を非常に多く含む。ざらざらしている。砂質である。
 ⑯赤褐色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに強い。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。べたべたして層と毛羽立つ。
 ⑰黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに中や強くない。1~4mm程度の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。全体の褐鉄酸をやや多く含む。
 ⑱黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに中や強くない。1~3mm程度の黄褐色粒を少し含む。1~100mm程度の砂粒、石を多く含む。

e

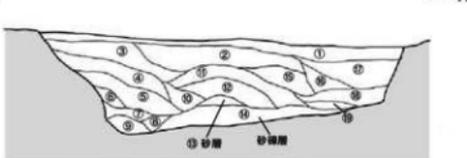


117.700m

【土壌注記 SE10 (断面e-e')】

- ①黒色土 (7.5VR-1.7/1) しまりは、粘性ともに強い。層と毛羽立つ。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~3mm程度の黄褐色粒を少し含む。全体の褐鉄酸をやや多く含む。
 ②黒色土 (7.5VR-1.7/1) しまりは中や強く、粘性は強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~2mm程度の黄褐色粒を極少量含む。①よりも粘性が強い。
 ③黒色土 (7.5VR-1.7) しまりは、粘性ともに強い。粘土質である。1~3mm程度の炭化物を少し含む。1~3mm程度の黄褐色粒を少し含む。
 ④赤褐色土 (HYR-3/1) しまりは、粘性ともに非常に強い。粘土質である。1mm以下の白色粒を少し含む。1~3mm程度の炭化物を少し含む。
 ⑤黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに中や強くない。上部に砂礫層の遺跡が入る。1mm程度の炭化物を極少量含む。
 ⑥黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は強い。1mm程度の黄褐色粒を非常に多く含む。ざらざらしている。1~2mm程度の炭化物を極少量含む。
 ⑦赤褐色土 (HYR-3/3) しまりは、粘性ともに弱い・砂質の高。ざらざらしている。
 ⑧赤褐色土 (HYR-3/3) しまりは中や強く、粘性は強い。砂礫層である。20~100mm程度の砂が入る。1mm程度の黄褐色粒をやや多く含む。

f



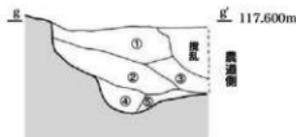
117.100m

0 1m (1/40)

【土壌注記 SE10 (断面f-f')】

- ①黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに中や強くない。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。全体の褐鉄酸を多く含むがざらざらしている。
 ②黒色土 (HYR-1.7) しまりは非常に強く、粘性は強い。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。全体の褐鉄酸を非常に多く含む。
 ③赤褐色土 (HYR-2/2) しまりは、粘性ともに中や強くない。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。全体の褐鉄酸を非常に多く含む。
 ④黒色土 (HYR-2.7) しまりは中や強く、粘性は強い。層と毛羽立つ。2mm程度の黄褐色粒を極少量含む。
 ⑤黒色土 (HYR-1.7) しまりは中や強く、粘性は強い。層と毛羽立つ。1mm以下の白色粒を少し含む。
 ⑥赤褐色土 (HYR-2/3) しまりは弱く、粘性は中や強くない。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。ざらざらしている。
 ⑦黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに強い。1~3mm程度の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。
 ⑧黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに強い。層と毛羽立つ。2mm程度の黄褐色粒を極少量含む。
 ⑨黒色土 (HYR-2/1) しまりは、粘性ともに強い。1mm以下の黄褐色粒・白色粒・炭化物をやや多く含む。少しざらざら感がある。
 ⑩黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに中や強くない。ざらざらしている。1~3mm程度の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ⑪赤褐色土 (HYR-2/2) しまりは、粘性ともに弱い。ぼろぼろしている。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。1~4mm程度の炭化物を多く含む。
 ⑫赤褐色土 (HYR-2/3) しまりは、粘性ともに弱い。ぼろぼろしている。30~50mm程度の砂粒、小石を非常に多く含む。
 ⑬黒色土 (HYR-2/1) しまりは非常に強く、粘性は強い。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。1~3mm程度の炭化物を少し含む。
 ⑭砂礫層土 (HYR-3/3) しまりは、粘性ともに強い。ざらざらしている。1mm程度の白色粒を非常に多く含む。砂質である。
 ⑮黒色土 (HYR-2/1) しまりは、粘性ともに強い。少しざらざらしている。1mm以下の白色粒を多く含む。全体の褐鉄酸を多く含む。
 ⑯黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに非常に強い。1mm以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。全体の褐鉄酸を多く含む。
 ⑰黒色土 (HYR-1.7) しまりは、粘性ともに非常に強い。砂質状の層が入る。1~2mm程度の炭化物を極少量含む。

第100図 SE10断面実測図② (1/40)



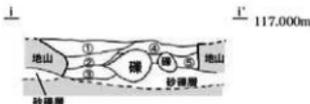
【土層注記】SE10 (断面g-g')

- ①黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い、3mm以下の黄鉄鉱を中々多く含む。1mm以下の白色粒を多く含む。
- ②黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに①より強い、3mm以下の黄鉄鉱を中々多く含む。層とも毛状立つ。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ③黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに②より強い、2mm程度の黄鉄鉱・炭化物を中々多く含む。多少さらさらしている。
- ④黒褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに非常に強い。層とも毛状立つ。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を多く含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR-2/3) しまり中々強、粘性は弱い。砂礫が入っているが、ぼろぼろしている。1mm程度の黄鉄鉱・白色粒を非常に多く含む。



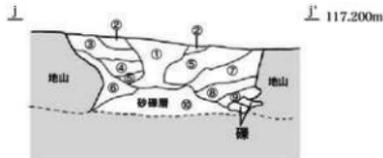
【土層注記】SE10 (断面h-h')

- ①黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。層とも毛状立つ。3mm以下の炭化物を中々多く含む。2mm程度の黄鉄鉱を中々多く含む。
- ②黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。層とも毛状立つ。にぶい黄褐色土 (10YR4/3) のブロックを少量含む。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ③黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに強い。層とも毛状立つ。1~2mm程度の黄鉄鉱を中々多く含む。



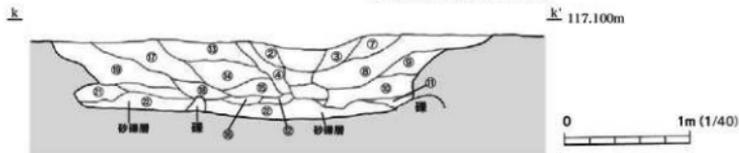
【土層注記】SE10 (断面i-i')

- ①黒色土 (10YR-2/1) しまりは強く、粘性は中強い。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を多く含む。
- ②黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに強い。にぶい黄褐色土 (10YR-2/3) のブロックが入る。1mm以下の黄鉄鉱を多く含む。
- ③黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに非常に強く、粘土質である。層の土は認められない。
- ④黒褐色土 (10YR-3/3) しまりは強く、粘性は中強い。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を非常に多く含む。少しさらさらしている。
- ⑤黒褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を少し含む。



【土層注記】SE10 (断面j-j')

- ①黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに中強い。さらさらしている。1mm以下の白色粒・1mm程度の黄鉄鉱を非常に多く含む。1~3mm程度の炭化物を少し含む。
- ②黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに中強い。少しさらさらしている。1mm以下の白色粒を非常に多く含む。1~3mm程度の黄鉄鉱を多く含む。
- ③黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに中強い。層とも毛状立つ。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を中々多く含む。
- ④黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の黄鉄鉱を少し含む。
- ⑤黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を中々多く含む。全体的に黄鉄鉱を非常に多く含む。
- ⑥黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに非常に強い。層とも毛状立つ。1mm以下の白色粒を中々多く含む。全体的に黄鉄鉱を多く含む。
- ⑦黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに非常に強い。層とも毛状立つ。1mm以下の白色粒を少し含む。全体的に黄鉄鉱を多く含む。
- ⑧黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。層とも毛状立つ。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ⑨黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに非常に強い。層とも毛状立つ。1mm以下の黄鉄鉱を中々多く含む。
- ⑩黒褐色土 (10YR-3/4) しまり、粘性ともに強い。砂礫の塊、ぼろぼろとした感じである。1~3mm程度の黄鉄鉱 (10YR5/6) を非常に多く含む。30~50mm程度の小石を非常に多く含む。

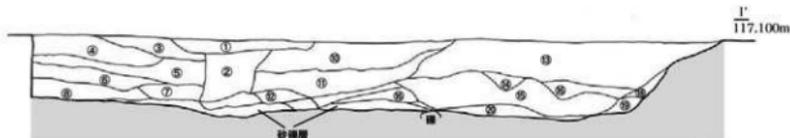


【土層注記】SE10 (断面k-k')

- ①黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに非常に強い。さらさらしている。1mm以下の白色粒・黄鉄鉱を中々多く含む。
- ②黒褐色土 (10YR-2/2) しまりは中強い。粘性は弱い。黒色土が層間に混入している。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を多く含む。
- ③黒褐色土 (10YR-2/2) しまりは中強い。粘性は中強い。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を中々多く含む。黄鉄鉱を少し含む。
- ④黒褐色土 (10YR-3/2) しまり、粘性ともに中強い。さらさら感がある。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を非常に多く含む。
- ⑤黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに強い。ぼろぼろしている。1mm以下の黄鉄鉱を非常に多く含む。
- ⑥黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに中強い。さらさらしている。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を非常に多く含む。
- ⑦黒褐色土 (10YR-1/7) しまり中々強、粘性は弱い。さらさらしている。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ⑧黒褐色土 (10YR-1/7) しまり中々強、粘性は弱い。多少さらさらしている。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を中々多く含む。全体的に黄鉄鉱を少し含む。
- ⑨黒褐色土 (10YR-3/2) しまり中々強、粘性は弱い。黄褐色土のブロックが層状に入る。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒・炭化物を多く含む。
- ⑩黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに中強い。さらさらしている。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒を非常に多く含む。
- ⑪黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに中強い。さらさらしている。1mm以下の白色粒を少し含む。
- ⑫黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。1mm以下の黄鉄鉱・白色粒・炭化物を中々多く含む。
- ⑬黒色土 (10YR-1/7) しまり、粘性ともに中強い。砂礫の塊、ぼろぼろしている。1mm以下の黄鉄鉱を中々多く含む。10~30mm程度の小石を非常に多く含む。

第101図 SE10断面実測図③ (1/40)

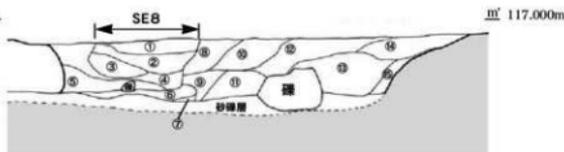
L



【土層注記】SE10 (断面L-I')

- ①黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに非常に強い。1m以下の白色粒を多く含む。
 ②黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。2m程度の黄褐色粒を少し含む。
 ③黄褐色土 (10YR-2/2) しまりは強く、粘性は弱い。1m以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ④黒色土 (10YR-1.7/1) しまりはやや強く、粘性は強い。1m以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ⑤黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともにやや強い。1m以下の白色粒を非常に多く含む。
 ⑥黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い。1m以下の白色粒を非常に多く含む。2m程度の黄褐色粒を少し含む。
 ⑦黒色土 (10YR-1.7/1) しまりは非常に弱く、粘性は弱い。ぼろぼろとしている。1m以下の黄褐色粒を少し含む。
 ⑧黒褐色土 (10YR-1.7/1) しまりは非常に弱く、粘性は強い。5m程度の黄褐色粒をやや多く含む。
 ⑨褐色土 (10YR-4/6) しまりは非常に弱く、粘性は非常に弱い。さらさらしている。
 ⑩黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。1m以下の黄褐色粒を非常に多く含む。
 ⑪黒褐色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い。1m以下の黄褐色粒・白色粒・炭化物を多く含む。
 ⑫黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともにやや強い。ぼろぼろとしている。1m以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ⑬黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。1m以下の黄褐色粒・白色粒を少し含む。
 ⑭黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともにやや強い。多少ざらざらしている。1m以下の黄褐色粒を少し含む。
 ⑮黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。褐色の小石が埋状に入る。1m程度の黄褐色粒を少し含む。
 ⑯黄褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。ざらざらしている。5m程度の小石を非常に多く含む。
 ⑰黄褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。ざらざらしている。1m以下の黄褐色粒を多く含む。
 ⑱黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに強い。2m程度の黄褐色粒・黒色粒を多く含む。
 ⑳黄褐色土 (10YR-3/2) しまり、粘性ともに強い。砂礫質の塊、ぼろぼろとしている。10m以下の小石を多く含む。
 ㉑黄褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。砂礫質の塊、ぼろぼろとしている。

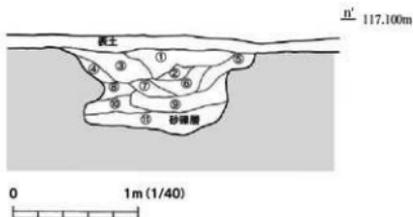
m



【土層注記】SE10 (断面m-m')

- ①黒色土 (10YR-2/1) しまりは非常に強く、粘性は強い。腐らと毛羽立つ。1m以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。
 ②黒色土 (10YR-2/1) しまりは非常に強く、粘性は強い。腐らと毛羽立つ。1m以下の白色粒を非常に多く含む。
 ③黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。1m以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ④黒褐色土 (10YR-2/3) しまりはやや強く、粘性は強い。1~2m程度の黄褐色粒。1m程度の白色粒を非常に多く含む。
 ⑤黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともにやや強い。腐らと毛羽立つ。1m以下の黄褐色粒・白色粒をやや多く含む。
 ⑥黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い。1~3m程度の黄褐色粒と1m以下の白色粒をやや多く含む。
 ⑦黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い。ぼろぼろとしている。1~4m程度の黄褐色粒と1m以下の白色粒を少し含む。
 ⑧黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。腐らと毛羽立つ。1m以下の白色粒をやや多く含む。
 ⑨黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともにやや強い。ややぼろぼろとしている。1m以下の白色粒を少し含む。
 ⑩黒褐色土 (10YR-2/2) しまりは強く、粘性はやや強い。1m程度の黄褐色粒を極少量含む。1m以下の白色粒をやや多く含む。
 ⑪黒褐色土 (10YR-2/3) しまりはやや強く、粘性は強い。ざらざらしている。1m以下の白色粒を非常に多く含む。
 ⑫黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしているが腐らと毛羽立つ。1m以下の黄褐色粒を少し含む。
 ⑬黒色土 (10YR-1.7/1) しまりはやや強く、粘性は強い。ややざらざらしている。1m以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。
 ⑭黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしているが腐らと毛羽立つ。2m以下の白色粒を少し含む。
 ⑮黄褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともにやや強い。ざらざらしている。1~3m程度の黄褐色粒を多く含む。1m以下の白色粒を多く含む。

n



【土層注記】SE10 (断面n-n')

- ①黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。1m程度の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ②黒色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに強い。多少ざらざらしている。1m以下の白色粒を非常に多く含む。
 ③黄褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。1m程度の黄褐色粒と1m以下の白色粒を非常に多く含む。
 ④黄褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに強い。1m程度の黄褐色粒と1m以下の白色粒を非常に多く含む。全体的に塊状面を少し含む。
 ⑤黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともにやや強い。さらさらしている。1m以下の白色粒を多く含む。
 ⑥黒色土 (10YR-1.7/1) しまりはやや強く、粘性は強い。1m以下の黄褐色粒を非常に多く含む。
 ⑦黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに強い。ぼろぼろとしている。1m以下の黄褐色粒を多く含む。
 ⑧黒褐色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い。1m以下の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ⑨黒褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。ぼろぼろとしている。1m程度の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ⑩黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともにやや強い。多少ざらざらしている。1m以下の白色粒を多く含む。
 ⑪黒褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。ぼろぼろとしている。1m程度の黄褐色粒・白色粒を非常に多く含む。
 ⑫黒褐色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに強い。さらさらしている。1m以下の白色粒を少し含む。
 ⑬黄褐色土 (10YR-3/3) しまり、粘性ともに非常に強い。砂礫質の塊、ぼろぼろとしている。10~30m程度の小石を非常に多く含む。

第102図 SE10断面実測図④ (1/40)

0

① 117.00m



【土層注記】SE10 (断面o-o')

- ①黒色土 (10YR 1.7/1) しまりは非常に密く、粘性は弱い、さらさらしている。1m以下の黄褐色粒を非常に多く含む。
 ②黒褐色土 (10YR 2/5) しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。1m以下の白色粒を少し含む。
 ③黒褐色土 (10YR 2/2) しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。1m以下の白色粒を少し含む。
 ④黒色土 (10YR 1.7/1) しまり、粘性ともに強い。1m以下の黄褐色粒を非常に多く含む。
 ⑤赤褐色土 (10YR 2/1) しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている。1m以下の黄褐色粒を多く含む。
 ⑥赤褐色土 (10YR 1.7/1) しまり、粘性ともに強い。1m以下の黄褐色粒・白色粒を少し含む。
 ⑦赤褐色土 (10YR 2/5) しまり、粘性ともに強い、隙ると毛羽立つ、腐葉層をやや多く含む。
 ⑧赤褐色土 (10YR 2/1) しまり、粘性ともにやや強い、1m程度の黄褐色粒・白色粒をやや多く含む。
 ⑨赤褐色土 (10YR 2/2) しまり、粘性ともに強い、隙るとやや毛羽立つ、隙の小石はほとんど認められない。
 ⑩腐葉層土 (10YR 2/5) しまり、粘性ともに強い、砂質の為、ぼろぼろとしている。50mm程度の小石は非常に多い。
 ⑪赤褐色土 (10YR 3/1) しまり、粘性ともに強い、隙ると毛羽立つ、1m程度の黄褐色粒を極少量含む、腐葉層がやや多い。
 ⑫赤褐色土 (10YR 1.7/1) しまりはやや弱く、粘性は強い、隙ると毛羽立つ、50mm以下の小石を少し含む。
 ⑬赤褐色土 (10YR 2/2) しまり、粘性ともに強い、砂質の為、ぼろぼろとしている。1m程度の黄褐色粒・白色粒・黒色粒を非常に多く含む。
 ⑭赤褐色土 (10YR 1.7/1) しまり、粘性ともに強い、さらさらしている。1m程度の腐葉層を少し含む。
 ⑮赤褐色土 (10YR 3/3) しまり、粘性ともに非常に弱い砂礫層の為、ぼろぼろとしている。10~200mm程度の小石、大礫を非常に多く含む。

0

① 117.00m

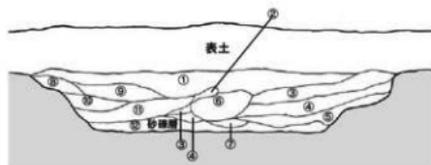


【土層注記】SE10 (断面o'-o')

- ①黒褐色土 (10YR 2/3) しまり、粘性ともに弱い、さらさらしている。1m以下の黄褐色粒・炭化物を少し含む。

P'

P 116.800m



【土層注記】SE10 (断面p-p')

- ①黒色土 (10YR 2/1) しまり、粘性ともにやや強い、多少ざらざらしている。2m以下の黄褐色粒を少し含む。
 ②黒褐色土 (10YR 3/3) しまり、粘性ともにやや強い、ざらざらしている。1m以下の黄褐色粒を非常に多く含む。
 ③黒褐色土 (10YR 2/2) しまり、粘性ともにやや強い、多少ざらざらしている。3mm程度の黄褐色粒を少し含む。
 ④赤褐色土 (10YR 2/2) しまりはやや弱く、粘性はやや強い、隙ると少し毛羽立つ。
 ⑤赤褐色土 (10YR 1.7/1) しまり、粘性ともにやや強い、少しざらざらする。
 ⑥赤褐色土 (10YR 2/1) しまり、粘性ともにやや強い、隙ると少し毛羽立つ、1m程度の黄褐色粒を多く含む。2m以下の腐葉層を少し含む。
 ⑦赤褐色土 (10YR 2/1) しまりはやや弱く、粘性はやや強い、さらさらしている。1m以下の黄褐色粒を少し含む。
 ⑧赤褐色土 (10YR 2/5) しまり、粘性ともにやや強い、ぼろぼろとしている。2~4mm程度の黄褐色粒をやや多く含む。
 ⑨赤褐色土 (10YR 2/1) しまり、粘性ともにやや強い、隙ると多少毛羽立つ。2~4mm程度の黄褐色粒・炭化物を多く含む。
 ⑩赤褐色土 (10YR 2/1) しまりは弱く、粘性はやや強い、ぼろぼろとしている。1m以下の白色粒を少し含む。
 ⑪赤褐色土 (10YR 2/1) しまり、粘性ともにやや強い、多少ざらざらしている。1m以下の黄褐色粒・白色粒をやや多く含む。
 ⑫赤褐色土 (10YR 3/3) しまり、粘性ともに非常に弱い砂礫層の為、ぼろぼろとしている。100~700mm程度の小石、大礫を非常に多く含む。

0 1m (1/40)

第103図 SE10断面測測図⑤ (1/40)

2 遺物 (第104~107図286~386)

SE10内からは多数の弥生土器片が出土した。土器の中から101点を掲載した。

甕 (286~325)

286~314は後期前半~中葉の甕である。286は緩やかにS字状に屈曲する口縁部をもち、全体的に風化が著しいが外面にスス、内面に黒斑を認める。287は明瞭に「く」の字に屈曲する頸部をもち、内外面の底部付近に黒斑を残す。288は推定口径30cmを越し、頸部は大きく「く」の字に屈曲する。内面に指頭圧痕を残す。289~292の頸部は緩やかに「く」の字に屈曲する。290は風化と鉄分付着(浅黄橙色を呈す)のため内外面の調整が明確ではない。292と293は同一個体と考えられ、293の内面には黒斑を認める。294の口縁部は不規則に波打ち、胴部からほぼ直立する。295の口縁部も胴部から直立する。風化が著しい。296は外反する口縁部で、口唇部が凹面状に窪む。297は頸部が残る口縁部で、明瞭に「く」の字に屈曲する。298と299は内外面にタタキを施す。300の頸部は緩やかに屈曲し、口唇部は平面状をなす。301~304は口縁部から胴部を残す。302と303の頸部は緩やかに「く」の字を描く。301と304は頸部下に斜位の刻目をもつ貼付突帯を施す。305は胴部で僅かに底部を残す。内外面に明瞭なハケメを認め条線が入る。306は胴部で、上部に縦の刻目を認める。307~311は胴部から底部である。307の底部は平底で端部が僅かに張り出す。308も平底であるが端部は張り出さない。309~311は上げ底で309は端部が僅かに張り出し、310と311は張り出しを認めない。312~314は底部である。上げ底であるが、312と313は端部が僅かに張り出し、314は張り出しがやや大きく脚台状をなす。

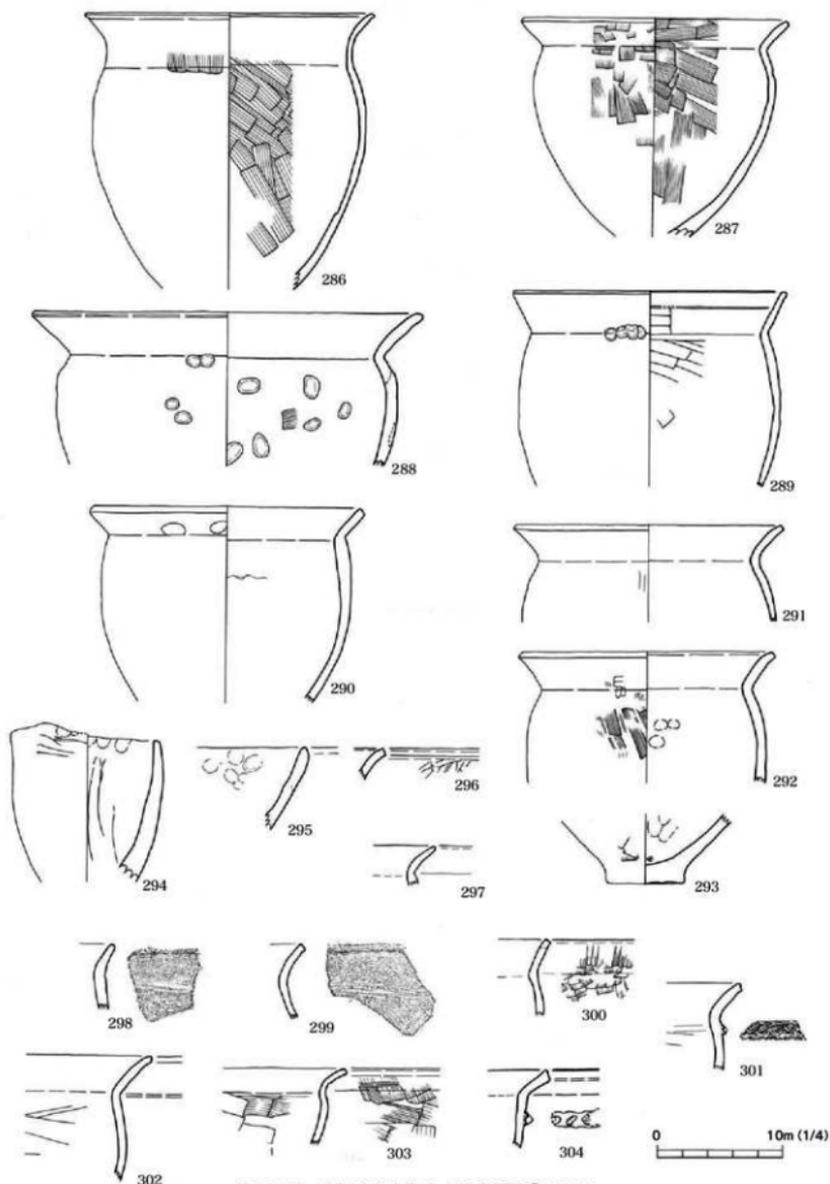
315~325は後期後半の甕である。315は口縁部から胴部を残し、頸部が「く」の字に屈曲する。外面にタタキを認める。316~321は口縁部である。316~318の口唇部は明確な平面状をなす。また318の口縁部は外反する。322は口縁部から頸部を残し、口縁部が口唇部に向け外反する。323と324

は頸部から胴部である。口縁部は頸部の状態から緩やかに立ち上がりと推定される。325は胴部から底部付近を残し、底部に黒斑を認める。

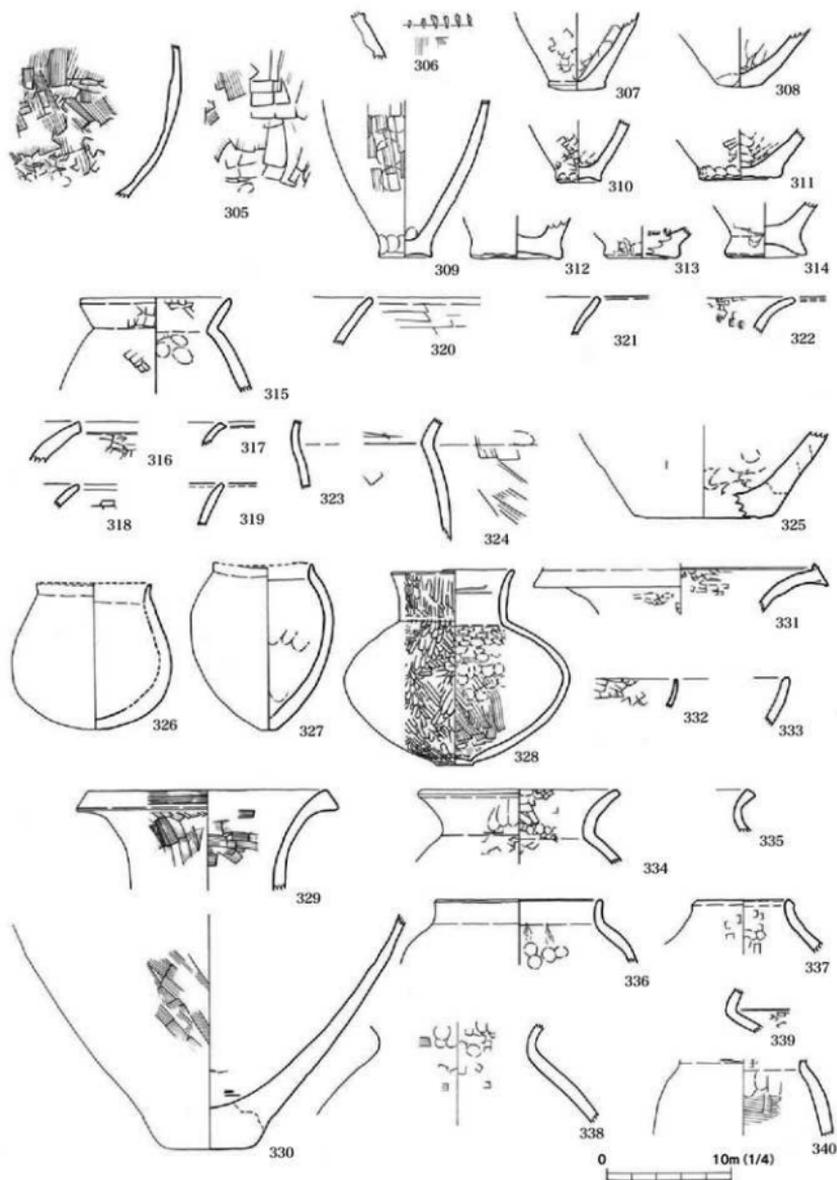
壺 (326~366)

326~349は後期前半~中葉の壺である。326~328は口縁部から底部を残すほぼ完形に近い壺である。326は短頸で若干外反する口縁部をもち、胴部最大径が胴部下に位置する寸胴形をなす。底部は平底であるが底径1.7cmと僅かに接地する。327は短頸で口縁部がほぼ直立し長胴形をなす。底部は平底で底径1.15cmを測り接地面は僅かである。328は寸胴形の偏球胴をもつ直口縁の壺で、口縁上部はやや外反する。底部はやや貼付的な平底である。329と330は同一個体の口縁部から頸部及び胴部から底部であり、大型の壺である。329の口唇部は平面状をなしハケメ調整を施す。頸部の内外面にもハケメ調整を施す。330は平底で胴部外面にハケメ調整を施す。331~333は口縁部である。331は口縁部形態が二重口縁をなす。332と333はやや内湾する口縁部である。334~337は口縁部から胴部上である。334と335の口縁部は緩やかに外反し、336と337は短頸で口縁部が僅かに外反する。338~340は頸部から胴部である。338は頸部は緩やかに屈曲し、339はややはっきり屈曲する。340は僅かに頸部を認める。341と342は貼付突帯をもつ胴部である。343は頸部から底部である。頸部はやや屈曲し底部は平底である。344はやや風化気味ではあるが、内外面とも丁寧な調整である。345~349は胴部下部から底部である。345~347は平底ではあるが、底部外周はやや浮いた状態である。また345と346の胴部下部は緩やかに外反しながら立ち上がる。349は平底で、胴部下部はほぼ直線的に立ち上がる。

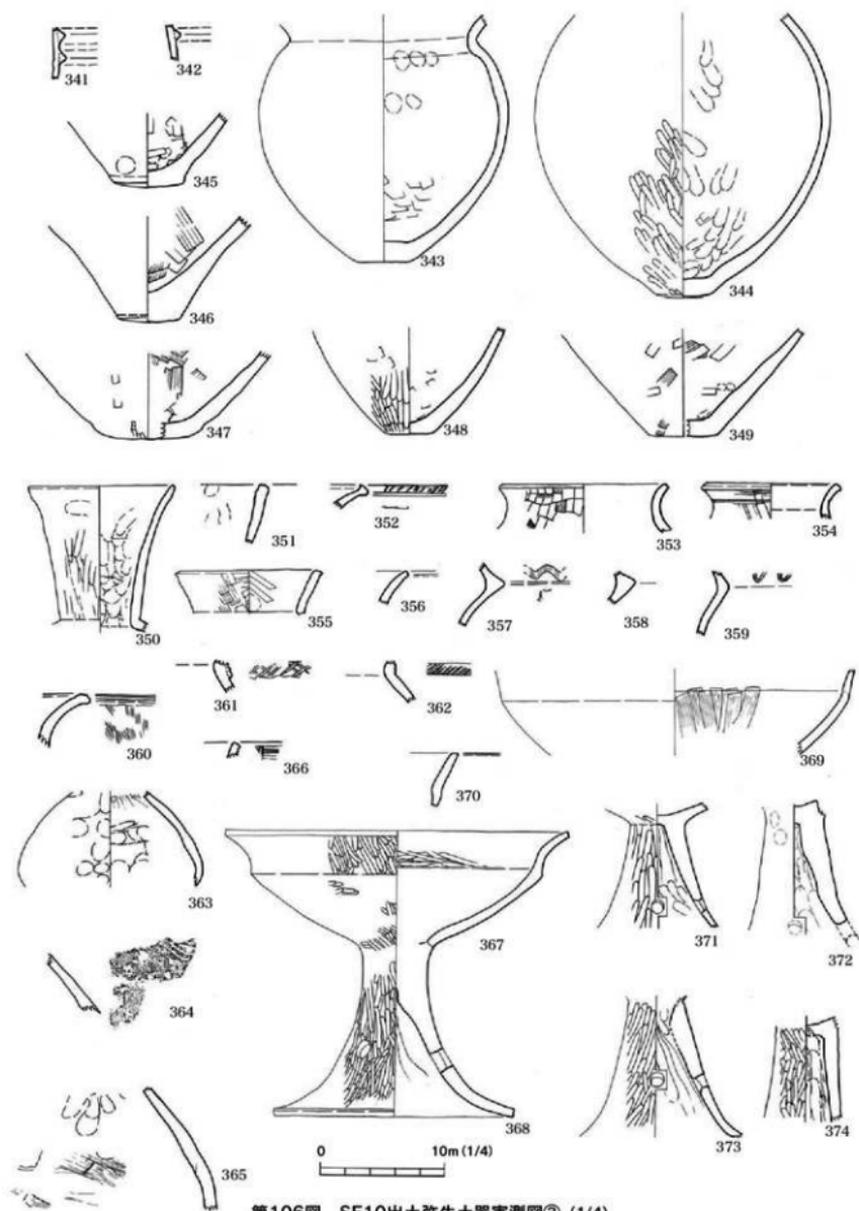
350~363は後期後半の壺である。350は頸部がほぼ直立的に長く伸び、口縁部で若干外反している長頸壺である。口径は11.4cmを測る。351は口縁部であるが風化が激しく調整が不明瞭である。352も口縁部で、二重口縁と推定され斜位の刻目を施す。353~356は口縁部から頸部である。353と354の口縁部は緩やかに外反し、弧を描きながら立ち上がる。



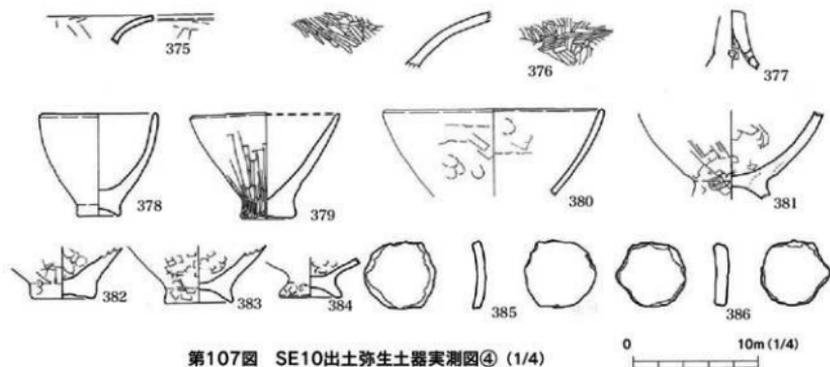
第104图 SE10出土弥生土器実測图① (1/4)



第105图 SE10出土弥生土器实测图② (1/4)



第106图 SE10出土弥生土器实测图③ (1/4)



第107図 SE10出土弥生土器実測図④ (1/4)

355と356は口縁部が僅かに外反する。357～360は二重口縁部である。357は口縁部に櫛描波状文を施す。358は風化気味で不明瞭であるが薄く櫛描波状文を残す。359も口縁部に櫛描波状文を認める。360は頸部から口縁部に向けて外反し二重口縁をなす。粘土のつなぎ痕を認める。361と362は頸部付近で、361は格子状の刻目文を施す貼付突帯を有し、362は斜位の刻目文を施す貼付突帯を有する。363と364は肩部から胴部で、364の外面には沈線と櫛描文を認める。

365と366は時期不明の壺である。365は胴部、366は口縁部で二重口縁である。366は直線的な深い条痕を縦と横に鋭く残す。

高環 (367～377)

367～374は後期前半～中葉の高環である。367と368は同一個体である。367の坏部は一度明瞭に屈曲し、口縁部は外反しながら立ち上がる。368の脚部は短くラッパ状に開く。円形三方透かしの高環である。369と370は坏部で、口縁部が屈曲後緩やかに外反気味に立ち上がる。371～374は脚部である。371～373は円形四方透かしの高環である。

371と372は体部の立ち上がり部分を一部残す。373は裾部を残し、374は脚柱部分を残す。

375～377は後期後半の高環である。375は坏部で口縁部を残す。口縁部は外反しながら立ち上がる。376は坏部で口縁部は認められない。内外面にヘラミガキを施す。体部が外反してせり上がる。377は小型の高環脚部で円形四方透かしを認める。

鉢 (378～384)

378～383は後期前半から中葉の鉢である。378は風化が著しく調整が不明瞭である。器高8cm強を測る。底面は上げ底で端部の張り出しを若干認める。胴部は内湾しながら立ち上がる。379も器高8cm強を測る。底部は若干の上げ底で端部が張り出す。胴部は僅かに内湾しながら立ち上がる。底部から胴部、口縁部に黒斑を認める。380は口縁部から胴部の一部を残す。内湾気味に立ち上がる。381～383は胴部から底部である。いずれの底部も上げ底をなすが、382は端部に広がりを見せず、380と381は脚台状の底部をもつ。

384は後期後半の鉢で、胴部から底部である。底部の端部に明確な張り出しを認め、脚台状を呈す。胴部は、脚部から緩やかに立ち上がると推定される。

土製円盤 (385・386)

385と386は土製円盤である。風化が激しく調整は不明瞭であるが、ナデを認める。角が取れ、丸みを帯びる。

No.	種別	器種部位	出土地区	出土層位	法量	形状	手法・調整・文様物		色調		胎土の特徴	備考
							口縁	底径	高さ	外面		
286	養生土器	胴部～底面付近	B	SE10	(22.8)	良好	風化が著しい 縦方向のハケメの痕跡ナデ スス付着	縦ナデ 斜め方向のハケメ 黒炭	にぶい黄褐色 10YR-7/2	にぶい黄褐色 10YR-7/4	3.5mm以下の褐灰色、灰褐色。灰白色を多く含む。2.5mm以下の褐色粒を多く含む	
287	養生土器	口縁部～底部	B	SE10	(21.1)	良好	風化気味 縦方向のハケメ 縦炭 灰状工具による縦方向のナデ	縦・横方向のハケメ	褐色 7.5YR-6/6	褐色 7.5YR-7/6	2mm以下のにぶい赤褐色、褐色色粒を含む	
288	養生土器	胴部～底面付近	B	SE10	(30.7)	良好	横ナデ ナデ 指面圧痕 スス付着	工具による横方向のナデ 指面圧痕 黒炭	明赤褐色 5YR-5/8	明赤褐色 5YR-5/8	2mm以下の灰白色粒、黄褐色粒。2.5mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を含む。3mm以下のにぶい黄褐色粒を多く含む	
289	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10	(21.8)	良好	斜め方向のナデ 横ナデ 指面圧痕 スス付着	風化気味 縦炭工具による斜め方向の丁寧なナデ 斜め方向のナデ	にぶい黄褐色 10YR-7/3	褐色 2.5Y 8/4	3mm以下の褐灰色、灰白色粒。2.5mm以下の黒色光沢粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	
290	養生土器	胴部～胴部	B	SE10	(21.3)	良好	風化が著しい ハケメ? 横ス付着	風化が激しく調整不明瞭 ナデ?	浅褐色 10YR-8/4	浅褐色 10YR-8/4	2.5mm以下の灰色、灰色粒を含む	
291	養生土器	胴部～胴部	B	SE10	(21.4)	良好	風化が激しく調整不明瞭 縦方向のハケメ?	風化が激しく調整不明瞭 縦方向のハケメ?	にぶい黄褐色 10YR-7/3	にぶい黄褐色 10YR-6/4	5mm以下のにぶい黄褐色、褐色、灰褐色。灰白色粒を含む 1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を多く含む	
292	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10	(19.9)	良好	斜め方向のハケメ 横ナデ スス付着	横色 にぶい褐色 1.5YR 5.8 10YR 7.4	褐色 7.5YR-6/6	1mm以下の透明光沢粒、灰褐色色粒を含む		
293	養生土器	胴部～底部	B	SE10	(5.4)	良好	ハケメ 工具による縦方向のナデ	丁寧なナデ 黒炭	褐色 5YR-6/6	黒褐色 2.5YR-3/1	5mm以下の乳白色粒、4mm以下の灰褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	
294	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10	(11.0)	良好	へら状工具によるナデ 斜め方向のナデ	ナデ 指面圧痕 横ナデ 黒炭	褐色 褐色 5YR-6/6 5YR-4/4	明褐色 褐色 3YR-5/6 2.5YR-5/5	3mm以下の灰色、茶色、黄褐色粒、褐色土質微細粒、ガラス質微細粒を含む	
295	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	風化が著しい 横ナデ	風化が著しい 横ナデ 指面圧痕	にぶい褐色 7.5YR-7/4	浅褐色 7.5YR-8/6	2mm以下の白色粒、4mm以下の透明光沢粒、3mm以下の明赤褐色粒、灰白色粒を含む	
296	養生土器	口縁部	B	SE10		良好	へらトギキ 黒炭	風化気味 ナデ 黒炭	にぶい褐色 黄褐色 10YR-6/4 10YR-3/2	にぶい褐色 黄褐色 10YR-6/4 2.5Y-4/4	微細～1mm以下の灰白色粒を含む 微細～1.5mm以下の浅黄褐色粒を含む	
297	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	風化しているナデ	風化しているナデ	にぶい黄褐色 10YR-7/4	褐色 7.5YR-7/4	2mm以下の灰褐色、灰白色粒を含む 2mm以下の白色粒を多く含む	
298	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	風化が著しいミガキ	風化が著しいミガキ	明褐色 褐色 10YR-5/4 7.5YR-6/6	にぶい黄褐色 10YR-5/4	4mm以下のにぶい黄褐色、明褐色、灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒、透明光沢粒を含む	
299	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	風化が著しいミガキ スス付着	風化が著しいミガキ	にぶい褐色 7.5YR-7/4 10YR-4/6	にぶい黄褐色 10YR-5/3	1mm以下の褐色、明褐色色粒、1.5mm以下の白色粒を含む	
300	養生土器	胴部～胴部	B	SE10		良好	縦方向のハケメ	丁寧なナデ	褐色 7.5YR-7/4	にぶい黄褐色 10YR-7/4	1mm以下の透明光沢粒、1.5mm以下の砂粒を多く含む	
301	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	顔目粘付突帯横ナデ	ナデ ハケメ 黒炭有り	浅黄褐色 7.5YR-8/4	浅黄褐色 褐色 10YR-8/4 10YR-5/5	3mm以下の赤褐色、灰褐色を多く含む 微細な透明光沢粒を少し含む	
302	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	風化が著しく調整不明瞭 ナデ	工具によるナデ、横ナデ	にぶい褐色 7.5YR-7/4	浅黄褐色 7.5YR-8/4	5mm以下の灰色、茶色、褐色岩片と同色粒を含む	
303	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10		良好	ハケメ後横ナデ ナデ	ハケメ 風化気味	褐色 5YR-8/6	にぶい褐色 7.5YR-7/4	4mm以下の白色粒、灰色岩片、1mm以下の黄褐色、茶色粒を含む	
304	養生土器	口縁部～胴部	B	SE10	4.1	良好	顔目粘付突帯横ナデ	風化著しく調整不明	にぶい褐色 7.5YR-7/4	にぶい黄褐色 10YR-6/4	2.5mm以下の灰色光沢粒、2mm以下の黒色、透明土質色を含む 2mm以下のにぶい褐色、灰白色粒を多く含む	
305	養生土器	胴部～底面付近	B	SE10		良好	斜め方向のハケメ 指面圧痕 黒炭	縦・横・斜め方向のハケメ 指面圧痕 黒炭	にぶい褐色 7.5YR-5/4	にぶい褐色 7.5YR-5/4	微細～2mm以下の褐灰色白色粒、微細～2mm以下の灰白色粒を含む 4mm以下の浅黄褐色色粒を多く含む	
306	養生土器	胴部	B	SE10		良好	縦方向のハケメ ナデ 顔目	風化著しく調整不明	褐色 浅黄褐色 5YR-7.5 5YR-8/4	浅黄褐色 10YR-8/3	4mm以下の灰、灰白色、褐色岩片と同色粒を多く含む	
307	養生土器	胴部～底部	B	SE10	(4.5)	良好	縦・横・斜め方向のハケメ 縦方向のハケメ 黒炭	斜め方向にハケメ 縦方向にハケメ 黒炭	にぶい黄褐色 10YR-6/4	にぶい黄褐色 7.5YR-5/6	2.5mm以下の褐色色、にぶい黄褐色色粒、1.5mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒褐色色粒を含む	
308	養生土器	胴部～底部	B	SE10	3.45	良好	ナデ 指面圧痕後横ナデ	上方の指面圧痕後横ナデ	にぶい黄褐色 10YR-6/4	褐色 5YR-6/6	1.5mm以下の褐色、灰白、茶色粒、ガラス質の微細粒を含む	

第29表 SE10出土弥生土器観察表①

No.	種別	産層部位	出土地区	状況			構成	手法・調整・文様色		色調		胎土の特徴	備考	
				口縁	底縁	器高		外面	内面	外面	内面			
309	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10 SE10		(4.0)	良好	縦方向にハケメ、ナデ 黒黄、紺色、紅黄	丁寧なナデ 黒黄、紺色、紅黄	黒褐色 ちよい褐色 5YR-6/3 7.5YR-5/4	ちよい褐色 ちよい褐色 10YR-5/4 10YR-6/3	6mm以下の灰白色粒、4mm以下にちよい黄褐色粒を含む。2mm以下の黄褐色粒、6mm以下の灰白色粒を少し含む。		
310	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		3.7	良好	縦・斜め方向のナデ 紺色、紅黄	横・斜め方向の丁寧なナデ 紺色、紅黄	ちよい褐色 明褐色 2.5YR-6/4 5YR-5/6	ちよい褐色 明褐色 5Y-3/1 5YR-5/6	微細～1mm以下の灰白色粒、微細な明褐色粒を含む。1～3mm以下の明褐色粒を少し含む。		
311	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		6.7	良好	風化が著しい。紺色、斜め方向の丁寧なナデ 紺色、紅黄	横・斜め方向の丁寧なナデ 紺色、紅黄	褐色 褐色 5Y-3/1 7.5YR-7/3	チヨイ褐色 褐色 5Y-3/1 5YR-5/6	2mm以下の灰白色粒を含む。3mm以下の褐色粒、4mm以下の黄褐色粒を多く含む。		
312	弥生土器	壺 底部	B	SE10		7.42	良好	ナデ	ナデ 紺色、紅黄	ちよい褐色 褐色 7.5YR-6/4	ちよい褐色 褐色 7.5YR-5/4	6mm以下の褐色、灰色、白色、光沢粒を含む。1.5mm以下の灰白色粒を少し含む。		
313	弥生土器	壺 底部	B	SE10		(2.6)	良好	紺色、紅黄、黒黄	縦・斜め方向にハケメ 紺黄	ちよい褐色 褐色 7.5YR-6/4	褐色 褐色 2.5Y-3/1	3mm以下のちよい黄褐色粒を含む。		
314	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		6.05	良好	ナデ 紺色、紅黄	ナデ 紺色、紅黄	ちよい褐色 褐色 7.5YR-6/3	黒褐色 明褐色 2.5YR-3/1 7.5YR-5/6	5mm以下の褐色、灰色、黒色、白色粒を含む。1.5mm以下の透明光沢粒を少し含む。		
315	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10	(11.30)		良好	縦・横・斜め方向のナデ、タテメの調整、工具による多方向のナデ?	工具による丁寧なナデ? 紺色、紅黄	浅黄褐色 褐色 10YR-8/4 10YR-4/6	明黄褐色 褐色 10YR-7/6	微細～2.5mm以下の透明光沢粒、2.5mm以下の乳白色粒を含む。微細～1mm以下の透明光沢粒、2mm以下の白色粒を少し含む。		
316	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10			良好	風化が著しく調整不揃。縦・斜め方向のハケメ後、ナデ?	風化が著しく調整不揃。ハケメ後、ナデ?	浅黄褐色 褐色 7.5YR-8/4	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/3	2mm以下の褐色、茶色、灰白色、褐色、白色粒を含む。		
317	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	横ナデ	横ナデ	ちよい赤褐色 褐色 5YR-5/4	浅黄褐色 褐色 7.5YR-8/6	3mm以下の褐色、灰白色、茶色、褐色、ガラス粒を多く含む。光沢のある微細粒を多く含む。		
318	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	縦方向の工具による調整後、ナデ	横ナデ	灰白色 褐色 2.5Y-8/2	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/2	2mm以下のガラス質粒、褐色粒、光沢のある微細粒を含む。		
319	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	縦・横方向のナデ	丁寧なナデ	ちよい褐色 褐色 7.5YR-7/4	ちよい褐色 褐色 10YR-7/4	1mm以下の黄褐色、灰色、白色粒、ガラス質粒、粒状色光沢粒を含む。		
320	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	工具によるナデ、ス付調整	風化が著しく調整不揃。黄いナデ?	褐色 褐色 7.5YR-6/8	褐色 褐色 7.5YR-6/6	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の灰褐色粒、透明ガラス質のキラキラ光る微細粒を含む。		
321	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	風化気味。丁寧なナデ。強い工具痕	風化気味。丁寧なナデ	褐色 褐色 5YR-7/6	褐色 褐色 7.5YR-7/6	微細～1mm以下の灰白色粒を少し含む。1mm以下の灰褐色粒を多く含む。		
322	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10			良好	ハケメの横にヨコナデ 黒黄色	横方向のハケメナデ 黒黄色	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/4	ちよい黄褐色 褐色 10YR-6/4	3mm以下の褐色粒をおく含む。1mm以下の乳白色粒を少し含む。		
323	弥生土器	壺 胴部～胴部	B	SE10			良好	ナデ	ナデ	浅黄褐色 褐色 7.5YR-8/4	浅黄褐色 褐色 10YR-8/4	4mm以下の黒色粒と灰褐色、ガラス質の微細粒を含む。		
324	弥生土器	壺 胴部～胴部	B	SE10		2.1	良好	縦・斜め方向のハケメ、ナデ	工具による縦・斜め方向のナデ	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/4	明褐色 褐色 7.5YR-5/6	1.5mm以下の白色粒、褐色粒を多く含む。内・外面に鉄分付着		
325	弥生土器	壺 胴部～底部付近	B	SE10	(11.0)		良好	摩耗が著しいナデ	ナデ 紺色、紅黄	褐色 褐色 2.5YR-7/8	浅黄褐色 褐色 10YR-8/4	4mm以下の黒、灰、茶、褐色の粗片と褐色粒を多く含む。		
326	弥生土器	壺 口縁部～底部	B	SE10	9.05	1.7	11.8	良好	ナデ 黒黄	ナデ	ちよい黄褐色 褐色 10YR-5/4	褐色 褐色 7.5YR-6/6	微細～1mm以下の透明粒、～1.5mm以下の褐色色光沢粒、～2mm以下の乳白色粒を含む。	
327	弥生土器	壺 口縁部～底部	B	SE10	7.8	1.15	13.2	良好	ナデ 黒黄	ナデ 紺色、紅黄	浅黄褐色 褐色 7.5YR-8/4 7.5YR-2/1	褐色 褐色 7.5YR-4/4	4mm以下の乳白色、褐色色粒、3mm以下の褐色色粒、透明粒、光沢粒を少し含む。8mm以下の褐色色を1箇所認める。	
328	弥生土器	壺 口縁部～底部	B	SE10	(9.5)	3.1	15.7	良好	ハケメの後ミダシ、紺色、紅黄、黒黄	丁寧な横ナデ、ハケメ後ミダシ、紺色、紅黄	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/4 7.5YR-4/6	明黄褐色 褐色 10YR-7/6 7.5YR-4/3	4mm以下の灰白色粒を多く含む。4mm以下の明褐色粒を少し含む。	
329	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10	(18.0)		良好	縦め方向にハケメ、横め方向にナデ、横め方向にハケメ	横・斜め方向にハケメ	褐色 褐色 7.5YR-7/6	褐色 褐色 7.5YR-7/6 6/6	4mm以下の乳白色粒、3mm以下の灰褐色色粒を多く含む。3mm以下の褐色色光沢粒を多く含む。		
330	弥生土器	壺 胴部～底部	B	SE10		5.2	良好	縦め方向にハケメ	ナデ 工具痕有り	浅黄褐色 褐色 10YR-7/4	褐色 褐色 10YR-8/4	6mm以下の灰褐色、3mm以下の褐色色粒を多く含む。3mm以下の赤褐色色粒を多く含む。		
331	弥生土器	壺 胴部(二重口)	B	SE10	(24.6)		良好	工具調整後強いナデ 紺色、紅黄、黒黄	風化気味。横方向のナデ、工具による縦・斜め方向の丁寧なナデ?	褐色 褐色 7.5YR-7/6	灰色 褐色 5Y-4/1	4mm以下の白色粒、3mm以下の暗赤褐色粒、2.5mm以下の灰白色粒を含む。3.5mm以下の暗褐色粒を少し含む。	二重口縁	
332	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	風化が著しく調整不揃。工具によるナデ?	工具による縦・斜め方向の丁寧なナデ?	灰黄色 褐色 2.5YR-7/2	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/3 7.5YR-4/5	1mm以下の灰白色粒、透明光沢粒を含む。		
333	弥生土器	壺 口縁部	B	SE10			良好	縦方向に工具による丁寧なナデ	横方向に工具による丁寧なナデ	ちよい黄褐色 褐色 10YR-6/4	ちよい黄褐色 褐色 10YR-6/4	1.5mm以下の褐色色光沢粒、1mm以下の褐色透明光沢粒、3mm以下の黒褐色色粒を含む。		
334	弥生土器	壺 口縁部～胴部	B	SE10	(15.7)		良好	縦・斜め方向の丁寧なナデ? 紺色、紅黄	丁寧なナデ 紺色、紅黄	ちよい褐色 褐色 7.5YR-7/4	ちよい黄褐色 褐色 10YR-7/4	微細～1mm以下の褐色透明粒、微細～1.5mm以下の褐色色粒、微細～2.5mm以下の暗褐色粒を含む。		

第30表 SE10出土弥生土器観察表②

No.	観測 番号	観測部位	出土 地区	法 量			観 成	手法・調査・文書化				色 調		胎土の特徴	備 考
				口径	底径	深高		外 面	内 面	外 面	内 面				
335	弥生土層	壺 口縁部～胴部	B SE10				良好	縦方向のハケメ	縦・横・斜め方向 のハケメ	褐色 5YR-6/6	にぶい黄褐色 10YR-7/3	5mm以下の黄褐色色粒を多く含む			
336	弥生土層	壺 口縁部～胴部	B SE10 (13.3)				良好	風化が激しく調整 不明 指図圧痕 軽なり痕	風化が激しく調整 不明	浅黄褐色 2.5Y-7/3	にぶい褐色 10YR/74 5YR/78	5mm以下の黒褐色色粒を多く含む 3mm以下の赤褐色色粒を少し含む			
337	弥生土層	壺 口縁～胴部	B SE10 (7.4)				良好	縦・横・斜め方向 のハケメ	縦・横・斜め方向 のハケメ 指図圧 痕	にぶい褐色 7.5YR-5/4	にぶい赤褐色 5YR-5/4	4mm以下の黄褐色色、3mm以下の にぶい赤褐色色、赤褐色。2mm以下の 黒褐色透明光沢粒。2mm以下の褐色 色粒を含む			
338	弥生土層	壺 胴部～胴部	B SE10				良好	縦・横・斜め方向 のハケメ 指図圧 痕	ナデ 横ナデ 縦・ 横・斜め方向のハ ケメ	にぶい黄褐色 10YR-7.3	暗黄褐色 2.5Y-5/2	4mm以下の暗褐色色粒、2mm以下の 黒褐色色を含む。2mm以下の灰白色 粒。2.5mm以下の褐色色粒を多く含む			
339	弥生土層	壺 胴部～胴部	B SE10				良好	ナデ 縦・横・斜 め方向にハケメ	縦・横・斜め方向 にハケメ 指図圧 痕	にぶい褐色 暗褐色 10YR/64 5YR/5.6	にぶい暗褐色 10YR/64 10YR/54	3mm以下の灰白色粒を多く含む			
340	弥生土層	壺 胴部	B SE10				良好	ナデ?	ハケメ 指図圧 痕	灰白色 2.5Y-8/2	灰黄色 2.5Y-7/2	3.5mm以下の灰白色粒、3mm以下の 褐色色粒を含む。3.5mm以下のにぶい 褐色色粒を含む			
341	弥生土層	壺 胴部	B SE10				良好	胎付突帯	風化著しく調整不 明	明褐色 7.5YR-5/6	にぶい黄褐色 10YR/5/4	2mm以下の灰褐色色、灰色色粒。2.5 mm以下の黄褐色色、灰白色色粒を含む			
342	弥生土層	壺 胴部	B SE10				良好	胎付突帯	風化著しく調整不 明 スス付着	明褐色 7.5YR-5/6	暗褐色 黒褐色 10YR/3/4 2.5YR/3.2	1mm以下の黒褐色色粒を含む。5mm 以下の灰白色色粒を多く含む			
343	弥生土層	壺 胴部～底部	B SE10	4.4			良好	ナデ	ナデ 指図圧痕	にぶい褐色 暗褐色 7.5YR/6.3 7.5YR/4.6	暗褐色 にぶい暗 褐色 5YR/5.6 5YR-4/3	5mm以下の灰白色、3mm以下の赤 褐、黒、灰色色粒を含む			
344	弥生土層	壺 胴部～底部	B SE10 観測点3 (23.6)	(4.4)			良好	ナデ 黒炭	ナデ 指図圧痕	にぶい褐色 2.5Y-7/3	10YR/7/4	3mm以下の灰白色粒、1.5mm以下の 褐色色粒を含む。2mm以下の 明赤褐色色粒を少し含む			
345	弥生土層	壺 胴部～底部	B SE10	5.7			良好	風化が著しい 指 図圧痕 黒炭	縦・横・斜め方向 のハケメ 指図圧 痕	褐色 2.5Y-7/2	5YR-6/6	3mm以下の灰白色、2mm以下の透 明光沢粒、暗赤褐色色粒を含む。3 mm以下の褐色色粒を多く含む			
346	弥生土層	壺 胴部～底部	B SE10	5.0			良好	風化が著しい ナデ?	丁寧なナデ	暗黄褐色 暗褐色 2.5YR-6/2 10YR/6.6	明褐色 灰黄色 7.5YR/5.6 10YR-4/2	2.5mm以下の灰白色色粒を含む。1 mm以下の透明光沢粒。2mm以下の 黒色光沢粒、3mm以下のにぶい黄 褐色色粒を多く含む			
347	弥生土層	壺 胴部～底部	B SE10	(6.7)			良好	縦方向のハケメ後 にゴガ、ナデ	目の粗い工具による 痕。斜め方向の ハケメ 黒炭	黒褐色 暗褐色 10YR/3/1 10YR/3/3	黄褐色 2.5YR-4/1	1.5mm以下の褐色色粒を含む	外面は胎付帯 黒炭のところど ころに胎付帯		
348	弥生土層	壺 胴部～底部	SE8+ SE10	3.7			良好	縦・横方向にハケ メ 縦方向にゴガ 黒炭	縦・横・斜め方向 にハケメ 風化が 著しい 黒炭	にぶい黄褐色 10YR-7/4	にぶい暗褐色 暗褐色 2.5YR/6.3 10YR/7.4	3mm以下のにぶい黄褐色色、2.5 mm以下の灰白色色粒を含む。2mm 以下の透明光沢粒。3mm以下の 明赤褐色色粒を多く含む			
349	弥生土層	壺 胴部～底部	B SE10	(5.5)			良好	ナデ ハケ目 加減	縦・横・斜め方向 のハケメ 指図圧 痕	にぶい黄褐色 灰褐色 10YR/7.3 2.5YR/7.2	灰色 にぶい赤褐色 5YR-5/1 5YR-4/4	2.5mm以下の灰白色、灰黄褐色色粒、 2mm以下の明赤褐色色粒を含む			
350	弥生土層	壺 口縁部～胴部	B SE10	6.4			良好	ナデ後縦方向のヘ ラミガキ	横ナデ 指図圧痕	浅黄褐色 10YR-6/4	にぶい褐色 5YR-7/4	縦線～4mm以下の灰白色粒、縦線 ～2mm以下の暗灰透明光沢粒を含む			
351	弥生土層	壺 口縁部	B SE10				良好	風化が激しく調整 不明 指図圧痕	風化が激しく調整 不明 指図圧痕	褐色 7.5YR-7/6	浅黄褐色 10YR-6/4	4mm以下の灰色、灰色、白色粒を 多く含む			
352	弥生土層	壺 口縁部	B SE10				良好	工具による調整痕。 ナデ	横ナデ、黒炭	浅黄褐色 10YR-6/4	灰色 5Y-4/2-5/1	3mm以下の灰色、淡灰色、褐色色粒、 柱状の炭褐色光沢粒、ガラス質 の微細色粒を含む			
353	弥生土層	壺 口縁部	B SE10 (13.3)				良好	縦方向のハケメ後 ナデ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR-7/4	にぶい黄褐色 10YR-7/4	4mm以下の灰色、赤色、褐色色、白 色色粒。ガラス質の光沢粒を含む			
354	弥生土層	壺 口縁部	B SE10 (10.5)				良好	縦・斜め方向のハ ケメ後、横ナデ	ナデ	にぶい暗褐色 7.5YR/6.3 10YR/7.4	にぶい黄褐色 10YR-7/4	3mm以下の灰色、赤色、赤褐色斜 片上褐色色粒を含む			
355	弥生土層	壺 底部	B SE10				良好	斜め方向にハケメ にぶい黄褐色	板状工具によるナ デ にぶい黄褐色	にぶい黄褐色 10YR-5/3	にぶい暗褐色 暗褐色 7.5YR/5.3 5YR-4/3	1.5mm以下の灰色色粒、3mm以下の 灰褐色色粒を多く含む			
356	弥生土層	壺 口縁部～胴部	B SE10				良好	縦方向の丁寧なナ デ	ナデ	にぶい褐色 7.5YR-6/4	にぶい黄褐色 10YR-6/4	3mm以下の褐色色粒、2mm以下の にぶい褐色色、灰色色粒を含む			
357	弥生土層	壺 口縁部(二重)	B SE10				良好	縦・斜め方向のハ ケメ	風化気味	にぶい暗褐色 10YR/7.4 7.5YR/6.6	にぶい暗褐色 暗褐色 10YR/6/4 7.5YR/4.3	4mm以下の灰黄褐色色粒、2mm以下 の灰白色色粒を含む			
358	弥生土層	壺 口縁部(二重)	B SE10				良好	縦方向のハケメ	全体的に風化気味	にぶい黄褐色 10YR-7/3	にぶい黄褐色 10YR-7/4	2mm以下の褐色光沢粒、3mm以下 の灰白色粒、3mm以下の灰色色粒を 含む			
359	弥生土層	壺 口縁部(二重)	B SE10				良好	縦・横・斜め方向 のハケメ	風化が著しい 縦 ・横・斜め方向 にハケメ	にぶい暗褐色 黄褐色 10YR/7.4 2.5YR/5.4	にぶい暗褐色 暗褐色 10YR/6/4 7.5YR/5.6	2mm以下の灰白色粒、暗赤透明光 沢粒を多く含む			
360	弥生土層	壺 口縁部(二重)	B SE10				良好	縦・斜め方向のハ ケメ	風化が激しく調整 不明	褐色 7.5YR-6/6	褐色 7.5YR-7/6	1mm以下の白色、黒灰色色粒を備か に含む			
361	弥生土層	壺 胴部	— 表土 一 掘				良好	斜目胎付突帯 ナデ	ナデ	浅黄褐色 5YR-7/6	10YR-8/4	1.5mm以下の白・褐色色粒、黒色光 沢粒、透明ガラス質微細色粒を含む。 灰白色色粒を多く含む			

第31表 SE10出土弥生土器観察表③

No.	観測位置	出土地点	法量			手法・調査・文書他		色調		胎土の特徴	備考		
			口径	深径	器高	成	外 面		内 面				
							外 面	内 面	外 面			内 面	
362	弥生土層 壱部～胴部	B SE10					細目筋付夾帯ナデ	ナデ	灰白色 10YR-8/2	浅黄褐色 10YR-8/3	1.5mm以下の灰白、灰褐色を含む		
363	弥生土層 壱部～胴部	B SE10					ナデ	指頭瓦肌 ナデ 指頭瓦肌 黒斑 粘土の絞リ肌	浅黄褐色 7.5YR-8/4-8/6	浅黄褐色 灰色 7.5YR-8/4 5Y-5/4	12mm以下の灰、灰白、褐色の薄片と同色粒を含む		
364	弥生土層 壱部	B SE10					ナデ	磨面瓦	ナデ	浅黄褐色 5YR-7/4	浅黄褐色 10YR-8/4	4mm以下の灰・赤・黒・白色粒を多く含む	
365	弥生土層 壱部	B SE10					ナデ	摩耗気味	斜め方向のハケメ	浅黄褐色 10YR-7/2-7/3	灰色 5Y-5/4-1	4mm以下の灰、茶、褐色の薄片と同色粒を含む	時期不明
366	弥生土層 壱部	B SE10					彫面状文 横ナデ 口縁部	横ナデ	浅黄褐色 7.5YR-8/4 10YR-8/4	浅黄褐色 10YR-8/4	3mm以下の灰、褐色粒を帯かに含む	時期不明	
367	弥生土層 高坏 口縁～胴部	B SE10(27.5)					ハケメ後ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 10YR-4/3	にぶい褐色 7.5YR-7/4	2mm以下の灰、灰、褐色粒、透明なガラス質粒を含む		
368	弥生土層 高坏 胴部	B SE10	19.05				ハケメ後ミガキ	ナデ 黒斑 絞リ肌	にぶい黄褐色 10YR-7/4	にぶい黄褐色 10YR-7/4	1mm以下の褐色粒、灰・白磁片、ガラス質微細粒を含む	三方透かし	
369	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					ハケメ	ハケメ	にぶい黄褐色 10YR-7/4	にぶい褐色 7.5YR-6/4	2mm以下の灰白色粒、3mm以下の灰白色粒を含む		
370	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					ナデ	黒斑	風化著しく調整不明 丁寧なナデ	メリアー黒色 10Y-3/1	褐色 7.5YR-7/6	微細～2mm以下の灰白色粒、キラキラする微細粒を含む	
371	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					縦方向のヘラミガキ	下・斜め方向の指ナデ (指頭瓦肌) 丁寧なナデ	にぶい褐色 5YR-7/4 7.5YR-7/4	にぶい黄褐色 褐色 10YR-7/4 7.5YR-6/4	6mm以下の赤褐色粒、3mm以下の褐色粒、2mm以下の透明ガラス質粒を少し含む 3mm以下の灰白色粒を含む	四方透かし	
372	弥生土層 高坏 胴部	B SE10	基部径 4.7				風化著しく調整不明 指頭瓦肌	下・斜め方向の指ナデ (指頭瓦肌) 絞リ肌	浅黄褐色 10YR-8/3	褐色 灰白 黄褐色 10Y-7/4 10Y-8/4	2mm以下の赤褐色粒、褐色粒を少し含む 4mm以下の灰白色粒を含む	四方透かし	
373	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					ミガキ	黒斑	ナデ	褐色 5YR-6/6	褐色 2.5YR-6/6	3mm以下の灰、灰白、透明、赤色粒を含む	四方透かし
374	弥生土層 高坏 胴部	B SE10	基部径 5.5				縦・斜め方向のヘラミガキ	縦方向の指ナデ 絞リ肌	にぶい赤褐色 褐色 5YR-4/4 7.5YR-7/4	にぶい黄褐色 褐色 5YR-4/4 5YR-6/6	微細～3mm以下の灰白色粒を含む 褐色色粒を帯かに含む	内面に赤黒斑部で残した磨面跡を認める	
375	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					風化により調整不明 磨面工具によるナデ	風化気味 ナデ	にぶい褐色 褐色 7.5YR-7/4 7.5YR-4/6	褐色 7.5YR-7/6	3mm以下で乳白、2/7以下で黒褐色粒を含む		
376	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					縦・斜め方向のヘラミガキ	斜め方向のヘラミガキ	にぶい黄褐色 10YR-7/4	にぶい褐色 褐色 10YR-7/4 7.5YR-6/4	灰白色、キラキラする微細粒を含む 2mm以下の赤褐色、2mm以下の黒褐色粒を少し含む		
377	弥生土層 高坏 胴部	B SE10					風化著しく調整不明	絞リ肌 指ナデ	浅黄褐色 10YR-8/4	浅黄褐色 7.5YR-8/4	浅黄褐色 微細～2mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒褐色粒を少し含む 1mm以下の赤褐色粒を帯かに含む	小形の高坏 四方透かし	
378	弥生土層 鉢 口縁部～底部	B SE10 (8.9) (3.3)					風化が著しく調整不明 ナデか?	風化が著しく調整不明 ナデか?	褐色 5YR-7/6 2.5YR-6/6	褐色 7.5YR-7/6	4mm以下の白色、白灰色、灰色、茶褐色、褐色磁片とガラス質の微細粒を含む		
379	弥生土層 鉢 口縁部～底部	B SE10 11.75	4.0				横ナデ ナデ 縦ナデ 黒斑	横ナデ	にぶい褐色 7.5YR-7/3	にぶい褐色 7.5YR-7/4	4mm以下の灰、茶褐色、白色磁片を含む		
380	弥生土層 鉢 口縁部～底部	B SE10 (7.3)					ナデ	指頭瓦肌	斜め方向の丁寧なナデ	褐色 7.5YR-6/6	褐色 5YR-6/6	1mm以下の灰白色、透明光沢粒を含む、キラキラする微細粒を多く含む	
381	弥生土層 胴部～底部	B SE10					ハケメの後ナデ 黒斑	ハケメの後ナデ	浅褐色 褐色 粘 10Y-8/5 10Y-8/4 10Y-8/3	にぶい黄褐色 褐色 10YR-6/4 5Y-3/1	6mm以下の茶、褐色、灰色の粗粒と同色粒、ガラス質、微細光沢粒を含む		
382	弥生土層 胴部～底部	B SE10					ハケメの後ナデ つまみ調整	ハケメの後ナデ 指頭瓦肌	浅黄褐色 褐色 7.5YR-8/5 7.5YR-7/6	浅黄褐色 10YR-8/4	3mm以下の茶、褐色、灰白色の薄片と同色粒、ガラス質の微細粒を含む		
383	弥生土層 壱部	B SE10	5.4				縦・斜め方向のハケメ ナデ	縦・斜め方向のハケメ 横・斜め方向のハケメ	にぶい褐色 褐色 7.5YR-8/3 7.5YR-4/6	にぶい褐色 褐色 10YR-7/4 10YR-8/4	4mm以下の褐色粒、2mm以下の灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む		
384	弥生土層 壱部	B SE10	(4.8)				ナデ	斜め方向のハケメ 指頭瓦肌	縦・斜め方向のハケメ 粘土層合肌	にぶい黄褐色 10YR-6/4	浅黄褐色 2.5Y-7/4	2mm以下の灰白色粒を含む	
385	弥生土層 土層内層	B SE10					風化著しく調整不明	ナデ	黒斑	浅黄褐色 7.5YR-8/4	灰色 明褐色 5Y-4/1 7.5YR-5/6	3mm以下の灰白色、4/7以下の灰白色粒、5mm以下の褐色色粒を含む 1mm以下の褐色色粒を少し含む	
386	弥生土層 土層内層	B SE10					風化著しく調整不明	調整 (黒毛)	調整か?	にぶい黄褐色 10YR-7/4	褐色 7.5YR-6/4	2mm以下で灰白色粒を多く含む 1mm以下の赤褐色粒を帯かに含む	

第31表 SE10出土弥生土器観察表④

第5節 中世以降の遺構と遺物

1 遺構（溝状遺構）と遺物

表土除去後、K-Ah面で揃えて精査した結果検出された溝状遺構のうち、中世以降の溝8条について報告する。

SE1・SE6（第108図）

SE1とSE6はB2区の中央部付近で検出された。SE1はSE10（弥生時代の溝状遺構）を切り、SE6に切られている。

SE1はB2区の北側中央から南南西に向けてほぼ直線的に延び調査区外へと続く遺構である。検出面において長さ約35m、最大幅約2.50m、最深部約0.30mを測る。断面形は弓形を呈する。

SE6はD-20～D-21グリッドにかけてSE1を切り、沿う形で検出された。長さ約8.0m、最大幅約0.8m、最深部約0.20mを測る。部分的な検出のため、断面形は不明である。埋土から遺物は検出されず、明確な時期は不明である。

SE1の埋土から遺物が22点出土した。石器2点、弥生土器片1点、土師器片7点、陶磁器片12点である。石器は中世の火打石？と石英の破片が出土した。陶磁器片には中国龍泉窯系青磁碗片2点、京焼風陶器片1点、備前焼陶器片1点が含まれる。387は、底面直上から出土した16世紀頃の中国産の青花碗口縁部である。

SE2・SE3・SE5（第110図）

SE2・SE3・SE5はB2区、SE1の東側に並行して検出された。SE2はSE10を切り、SE3とSE5、SE8に切られる。SE3はSE8に切られる。

SE2は農道南縁から南南東方向に延び、長さ約37.5m、最大幅約1.75m、最深部約0.35mを測る。断面形は弓形を呈する。検出面南端部E-20グリッド付近で東北東方向に屈曲し、約3.5m程延び、それ以降は残存しない。区画溝の可能性を残す。

SE2の埋土から遺物は21点出土した。内訳は石器5点、土師器片5点、陶磁器片11点である。

石器はチャート製の剥片、破片である。そのうち1点は中世の火打石、2点は火打石使用時に割れた破片の可能性がある。陶磁器片のうち2点を掲載した。388は陶器で糸切り底の皿底部である。胎土目積み技法をもつ。時期、産地は不明である。389は17世紀中頃の磁器碗の高台部である。内面見込みに蛇の目軸割ぎを施す。

SE3もSE2同様、農道南縁から南南東方向に延びSE2を切る。長さ約22.5m、最大幅約1.25m、最深部約0.24mを測る。断面形は弓形である。SE8に切られる南側約2.5m程は削平部分も重なり検出されない部分がある。

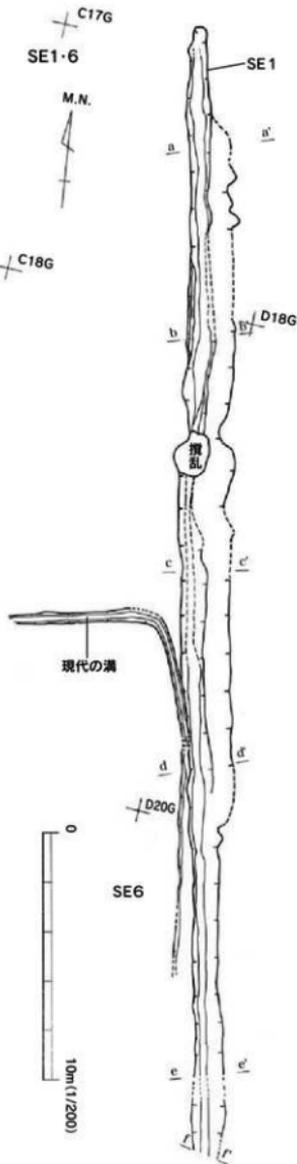
SE3の埋土から遺物は34点出土した。石器8点、弥生土器片4点、土師器片8点、須恵器1点、陶磁器片13点である。

石器は、船野型細石刃核（第6節：第118図405）、チャート製、石英製、姫島産黒羅石製の剥片、破片等が出土した。

破片は火打石使用時に割れた破片と思われる。第111図390は中世に使用されたと思われるチャート製火打石である。垂円礫を素材とする。火打石は鉄（火打金）と打ち合わせて火花が出る硬い石を指す。火打石を見分ける観点は、特徴的な稜線の摩耗・石器刃部相当部分以外に残された微細剥離にある。陶磁器には、外面に銅緑釉をかけた土版片1点、播鉢片1点が含まれる。391は須恵器で、東播系中須恵器鉢である。体部～底部を残す。

SE5はD-18～D-19グリッドにかけてSE3を切る形で検出された。約9.0m、最大幅約0.6m、最深部約0.06mを測る。溝の一部分のみの検出のため、断面形は不明である。

遺物は埋土から4点の弥生土器片が出土した。そのうち3点は接合した。遺構の切り合い関係から判断して流れ込みの土器片である。遺構の明確な時期は不明である。



第108図 SE1・6実測図(平面1/200、断面1/40)



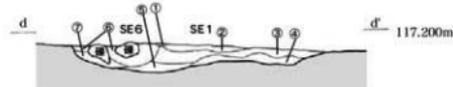
【土層法記】SE1(遺構a-a')
 ①赤褐色土(10YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、鉄分が多く含まれている。1m以下の黄褐色土・白色土を非常に多く含む。10cm程度の小石を多く含む。
 ②赤褐色土(10YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、さらさらしている。1m以下の白色土を多く含む。
 ③赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、さらさらしている。鉄分が非常に多く含まれている。



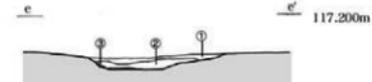
【土層法記】SE1(遺構b-b')
 ①赤褐色土(10YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、鉄分が多く含まれている。1m以下の黄褐色土・白色土を非常に多く含む。10cm程度の小石を多く含む。
 ②赤褐色土(10YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、さらさらしている。1m以下の白色土を多く含む。
 ③赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、さらさらしている。鉄分が非常に多く含まれている。
 ④赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、1m以下の白色土を非常に多く含む。陶器を多く含む。
 ⑤赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは中強く、粘性も強い。1m以下の黄褐色土・白色土を多く含む。
 ⑥赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性は中強い。10cm程度の砂礫土を含んで埋まっている。層と毛根が分つ。2m程度の黄褐色土を多く含む。



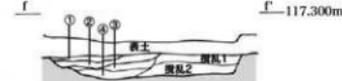
【土層法記】SE1(遺構c-c')
 ①赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは非常に強く、粘性は非常に強い、さらさらしている。鉄分が非常に多く含まれている。
 ②赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは中強く、粘性も強い。1m以下の黄褐色土・白色土を多く含む。
 ③赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性も強い。K.A.B(アオキヤ中央山土)が混ざる。さらさらしている。
 ④赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性は中強い。10cm程度の砂礫土を含んで埋まっている。層と毛根が分つ。
 ⑤赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性は強い。層と毛根が分つ。
 ⑥赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性は弱い。さらさらして粘性が強い。1m程度の黄褐色土を多く含む。



【土層法記】SE1(遺構d-d')
 ①赤褐色土(10YR5/2) しまりは強く、粘性は弱い、さらさらしている。K.A.B(アオキヤ中央山土)を多く含む。混ざっている。
 ②赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性は弱い。
 ③赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは中強く、粘性も強い。1m以下の黄褐色土・白色土を多く含む。
 ④赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性も強い。K.A.B(アオキヤ中央山土)が混ざる。さらさらしている。
 ⑤赤褐色土(7.5YR5/2) しまりは弱く、粘性も弱い。1m程度の黄褐色土を多く含む。
 ⑥赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性も弱い。1m程度の黄褐色土を多く含む。
 ⑦赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性も弱い。非常にK.A.B(アオキヤ中央山土)が混ざる。



【土層法記】SE1(遺構e-e')
 ①赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性は弱い。上層(1~2m程度)に陶器が混ざる。1~2m程度の黄褐色土・白色土を多く含む。
 ②赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性も弱い。中や下層の赤褐色土を多く含む。
 ③赤褐色土(10YR5/2) しまりは弱く、粘性は中強い。1~2m程度の黄褐色土を多く含む。



【土層法記】SE1(遺構f-f')
 ①赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性は弱い。1m以下の白色土を多く含む。
 ②赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性は弱い。陶器を非常に多く含む。1m以下の黄褐色土を多く含む。
 ③赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性も弱い。さらさらしている。1m程度の黄褐色土・白色土を多く含む。
 ④赤褐色土(10YR5/2) しまりは中強く、粘性は非常に強い。層と毛根が分つ。1m程度の黄褐色土・白色土・陶器を多く含む埋まっている。



387

0 10cm (1/3)

第109図 SE1出土遺物実測図(1/3)

SE4 (第112図)

SE4はSE1とSE2に挟まれて検出された。SE10(弥生時代の溝状遺構)を北端部で切る。B2区北部中央から南南東方向に伸び、SE2に交差する手前まで検出された。長さ約16.3m、最大幅約1.1m、最深部約0.18mを測る。断面形は弓形である。

埋土から遺物は確認できなかったが、埋土の状況は他の陶磁器等を含む遺構と類似しており、明確に時期は確定できないが、中世以降の遺構と推定される。

SE7 (第113図)

SE7はB1区北端部から南東方向にかけて調査区中央を走る農道までの間で検出された。農道に接する付近で東側へ屈曲している様相を示し、区画溝の可能性を残す。

長さ約37.5m、最大幅約1.20m、最深部約0.15mを測る。断面形は弓形である。

遺物は埋土から89点出土した。石器(ホルンフェルス製剥片)1点、弥生土器片66点、土師器片19点、須恵器片1点、陶磁器片2点を認めた。土師器片には叩き目技法を施すもの1点が含まれる。

392は合わせ口で焼成した口縁部が口禿の磁器皿である。底面は蛇の目軸刺ぎを施す。時期は13世紀後半から14世紀のものである。393は東播系中世須恵器鉢で、体部～底部を残す。

SE8 (第113図)

SE8はB2区東側でSE10(弥生時代の溝状遺構)を切る形で検出された。またSE2・3を切る。長さ約37.0m、最大幅約1.50m、最深部約0.14mを測る。断面形はU字形である。

遺物は埋土から8点(弥生土器片、土師器片)出土した。土器片のいくつかはSE10出土の土器片と接合した。これらの土器片はSE10の埋土から浮き上がった土器片ではないかと想定される。SE8はSE2・3を切って検出されたことから明確に時期は確定できないが中世以降の遺構と推定される。

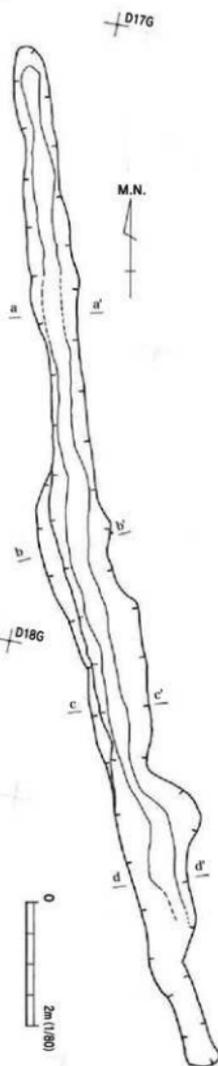
SE9 (第115図)

SE9はB1区東端側、農道として利用されていた区画の下から検出された。農道が調査区北側にある耕作地への出入り用であるため、出入りに影響のない範囲で調査を進めた。遺構の全容は明らかにできていない。SE7とほぼ並行に走り、南東方向に伸び、調査区中央農道へと消える。遺構南部で2方向に分かれる様相を呈す。樹根痕1箇所を認めた。長さ約26.5m、最大幅約2.75m、最深部約0.80mを測る。断面形は弓形である。

遺物は埋土から砥石、土器、須恵器、陶磁器等30点が出土した。埋土下層からは、中世の壺または甕と思われる須恵器、京焼風陶器片等4点が出土している。

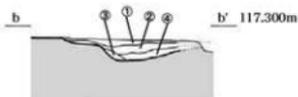
394は砥石である。石材は砂岩である。長さ約10cm、幅約5cmを測る。三次調査区の表土等からも砥石を検出したが、この砥石は他に比して大型である。395は15世紀の中国産白磁皿である。口縁の一部～高台部を残す。396は埋土下層から出土した中国産龍泉窯系の青磁端反皿である。時期は14～16世紀後半の範疇に入るが、明確に時期を絞ることは避けたい。397は埋土一括で取り上げた磁器皿で口縁部～体部を残す。時期は15世紀である。398は瓶である。高台部外面に赤絵の圏線を施す。内面表層は鉄分の酸化により赤変している。399は内外面ともに刷毛目文様を施す碗である。体部(下部)を残す。398、399ともに時期は近世後半である。

SE4



【土層注記】SE4 (断面a-a')

- ①黒色土 (10YR-2/1) しまり、粘性ともに弱い、1mm以下の明黄褐色粒・白色粒をやや多く含む。
- ②黒色土 (10YR-1.7/1) しまりはやや弱く、粘性はやや強い、全体的に灰黄褐色粒が強い。



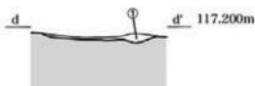
【土層注記】SE4 (断面b-b')

- ①黒褐色土 (10YR-2/2) しまりは非常に強く、粘性は弱い、腐植土が非常に多く含まれている。
- ②黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともにやや弱い、1mm程度の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。
- ③黒褐色土 (10YR-2/3) しまりは弱く、粘性はやや強い、1mm以下の黄褐色粒・白色粒を極少量含む。
- ④黒色土 (10YR-1.7/1) しまりは弱く、粘性はやや強い、ぼろぼろとした感じがある。



【土層注記】SE4 (断面c-c')

- ①黒褐色土 (10YR-1.7/1) しまり、粘性ともに弱い、1mm以下の黄褐色粒・白色粒をやや多く含む。
- ②黒褐色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに弱い、ぼろぼろとした感じがある、1mm以下の黄褐色粒・白色粒を多く含む。
- ③黒色土 (10YR-2/3) しまり、粘性ともに弱い、さらさらしている、1mm以下の黄褐色粒を極少量含む。

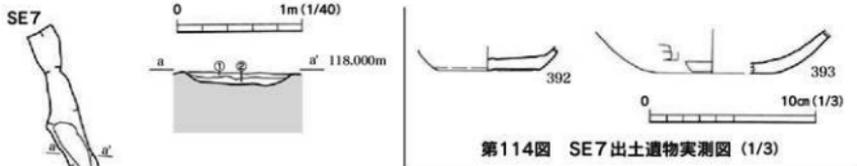


【土層注記】SE4 (断面d-d')

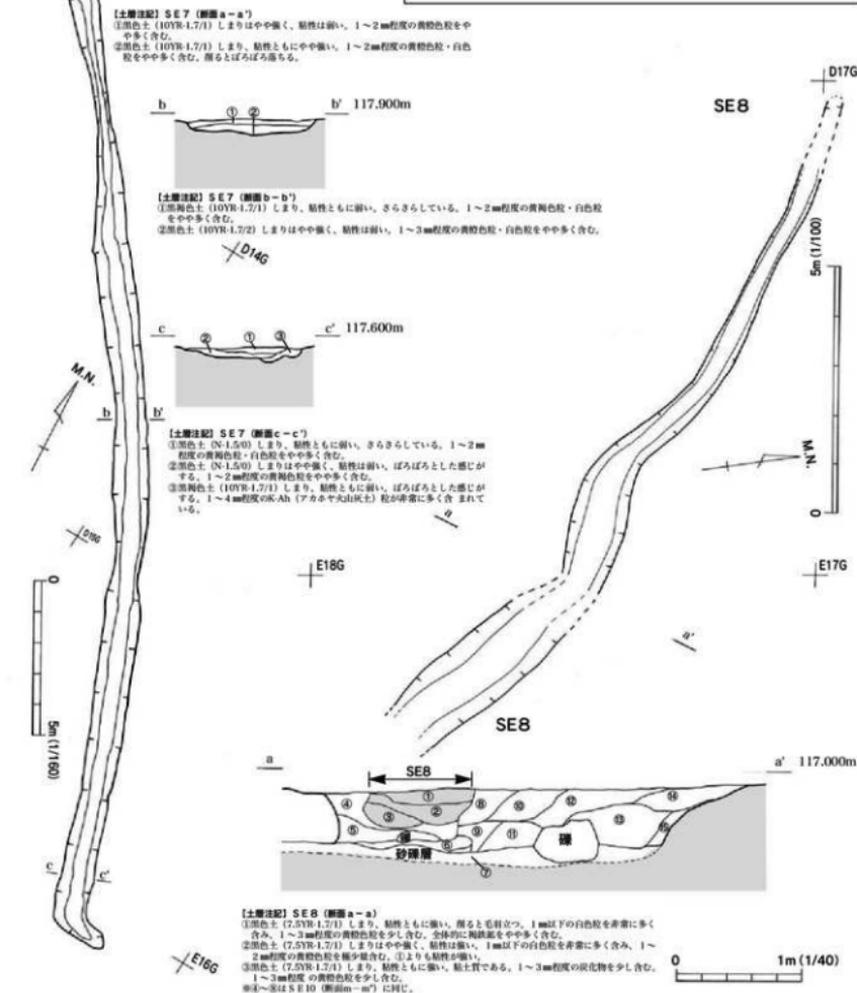
- ①黒褐色土 (10YR-2/2) しまり、粘性ともに弱い、1~2mm程度の黄褐色粒・白色粒を多く含む。



第112図 SE4実測図 (平面1/80、断面1/40)

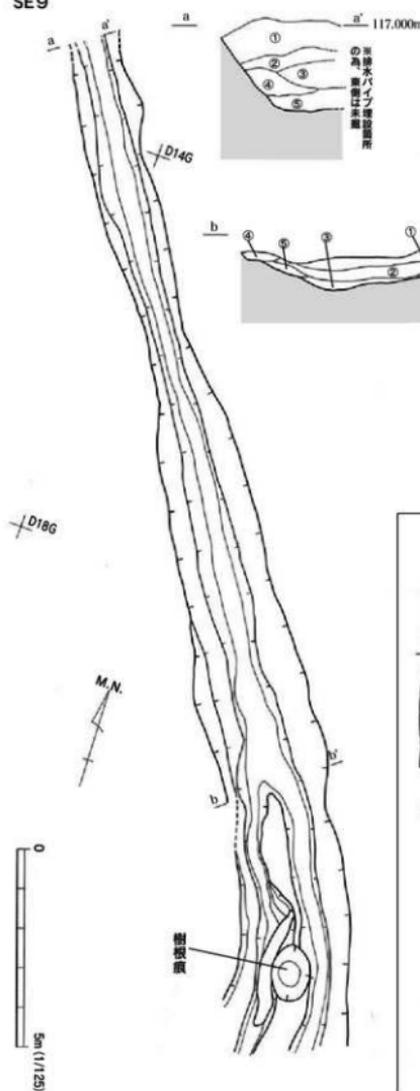


第114図 SE7出土遺物実測図 (1/3)



第113図 SE7・8実測図 (SE7平面1/160、SE8平面1/100、断面1/40)

SE9



第115図 SE9実測図(平面1/25、断面1/40)

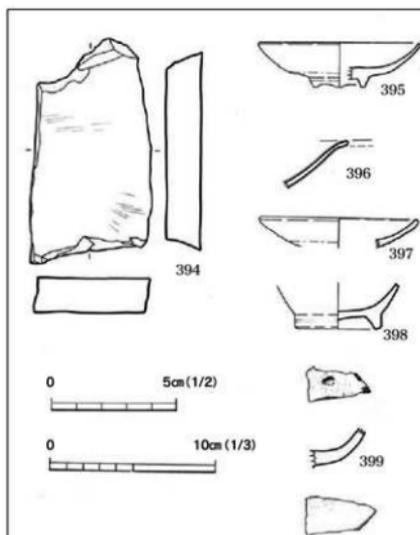
【土層追記】SE9(断面a-a')

- ①赤褐色土(10YR-2/3)しまりは強く、粘性はやや弱い、さらさらしている、1~10mm程度の炭化物、1mm程度の黄褐色粒をやや多く含む。
 ②赤褐色土(10YR-2/3)しまり、粘性ともにやや強い、ぼろぼろしている、5mm程度の炭化物を極少量含む、1~3mm程度の黄褐色粒を少し含む。
 ③黒土(10YR-2/1)しまり、粘性ともにやや強い、1~3mm程度の黄褐色粒を極少量含む。
 ④赤褐色土(10YR-3/2)しまり、粘性ともにやや強い、1mm程度炭化物をやや多く含む、30mm程度の黄褐色粒を3箇所含む。
 ⑤黒褐色土(10YR-3/4)しまり、粘性ともに強い、10mm程度の小石や砂粒が含まれていて、じわりじわりする、2mm程度の黄褐色粒をやや多く含む、暗褐色土全体に、小石、砂粒、黄褐色土が混じっている。



【土層追記】SE9(断面b-b')

- ①黒土(10YR-1/1)しまり、粘性ともにやや強い、1mm程度の黄褐色粒を多く含む、2~5mm程度の炭化物を少量含む。
 ②赤褐色土(10YR-2/2)しまり、粘性ともにやや強い、1~2mm程度の黄褐色粒を多く含む、2mm程度の炭化物を極少量含む、③より粘性は強い。
 ③黒褐色土(10YR-3/2)しまり、粘性ともに強い、1~20mm程度の黄褐色粒またはブロックを多く含む。
 ④黒褐色土(10YR-1/1)しまり、粘性ともにやや強い、さらさらしている、50cm以下の黄褐色粒ブロックを1箇所含む。
 ⑤黒土(10YR-2/1)しまりはやや強く、粘性はやや強い、さらさらしている、2~4mm程度の黄褐色粒を少し含む。
 ⑥黒褐色土(10YR-1/1)しまり、粘性ともにやや強い、1~50mm程度の明黄褐色粒のブロックを多く含む。



第116図 SE9出土遺物実測図(394は1/2、395~399は1/3)

No.	類別	器部位	出土地点	法 量 (cm)			手法・調整・文様他		輪 調		胎土の特徴	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
387	磁器	碗 口縁部～体部	SE1				回転ナデ、施軸	回転ナデ、施軸	明緑灰	明緑灰	灰白 精良	青花碗 染付
388	陶器	皿 体部～底面	SE2		6.2		回転ナデ、施軸	回転ナデ、仕上げナデ 施軸	エメラルドグリーン (透明)	エメラルドグリーン (透明)	灰白 精良	高切り皿 胎土に灰 緑色を含有
389	磁器	碗 高台部	SE2			(4.1)高台径:推定復元径	回転ヘラケズリ、 施軸	回転ナデ、無軸、 施軸	灰白	明緑灰	灰白 精良	蛇の目輪割ぎ ケズリ出し高台
391	土器	鉢 体部～底面	SE3			(6.2)	工具によるナデ? (風化が激しい)	ナデ? (風化が 激しい)	暗灰黄	灰黄	灰白 精良	東播系
392	磁器	鉢 体部～底面	SE7			(6.2)	回転ナデ、施軸	回転ナデ、施軸	灰白	灰白	灰白 精良	口毛 合わせ口
393	土器	鉢 体部～底面	SE7			(8.0)	工具による横方 向のナデ? (風 化が激しい)	調整不明 (風化 が激しい)	灰白	灰白	灰白 精良	東播系
395	陶器	皿 口縁部～高台部	SE9	(9.5)	2.7	(3.1)	回転ナデの後、 施軸、露胎、 貫入	回転ナデの後、 施軸	灰白	灰白	灰白 精良	切り高台
396	青磁	皿 口縁部～底面	SE9				回転ナデ、施軸	回転ナデ、施軸	オリーブ灰	オリーブ灰	灰白 精良	龍泉窯 龍反皿
397	磁器	皿 口縁部～体部	SE9	(9.3)			回転ナデ、回転ヘ ラケズリ、施軸	回転ナデ、施軸	灰白	灰白	灰白 精良	
398	磁器	瓶 底面	SE9			(5.7)高台径:推定復元径	回転ナデ、施軸、 線絵 (赤絵)	無軸、表層は明 赤褐色	灰白	灰白	明赤褐色 灰白 精良	赤絵 内面表層は 鉄分酸化
399	陶器	皿 体部～底面	SE9				回転ナデ、施軸	回転ナデ、施軸	灰白 淡黄(透明)	灰白 淡黄(透明)	暗赤褐色 精良	外面に横方向の 磨毛目条線

第33表 SE1・2・3・7・9出土陶磁器等観察表

No.	出土地点	注記No.	器種	石材	X座標	Y座標	Z座標 (標高:m)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
390	SE3	SE3-28	火打石	チャート	-	-	-	1.75	1.60	1.30	3.40	密閉燻素材 節理を認める
394	SE9	SE9	砥石	砂岩	-	-	-	9.25	4.90	1.45	112.70	表面に砥面 上・下部欠損

第34表 SE3・9出土石器計測表

第6節 その他の遺構と遺物

本節では、時期不明の遺構、表土一括として取り上げた遺物や流れ込みの遺物等について概説する。

1 遺構

SE11 (第117図)

SE11はB2区東側で現在の農道に沿い、弧を描く形で検出された。K-Ah層を切る溝状遺構である。検出面において長さ約20m、最大幅約1.95m、最大深約0.32mを測る。

埋土は黒色土～黒褐色土を呈し黄褐色粒を若干量含む。下層には一部に砂礫も認められSE10の様相に似ている部分もあり、SE10と同時期の溝とも考えられるが、埋土中からは遺物が確認できなかったため、時期を断定することは避け、時期不明の遺構とした。

2 遺物

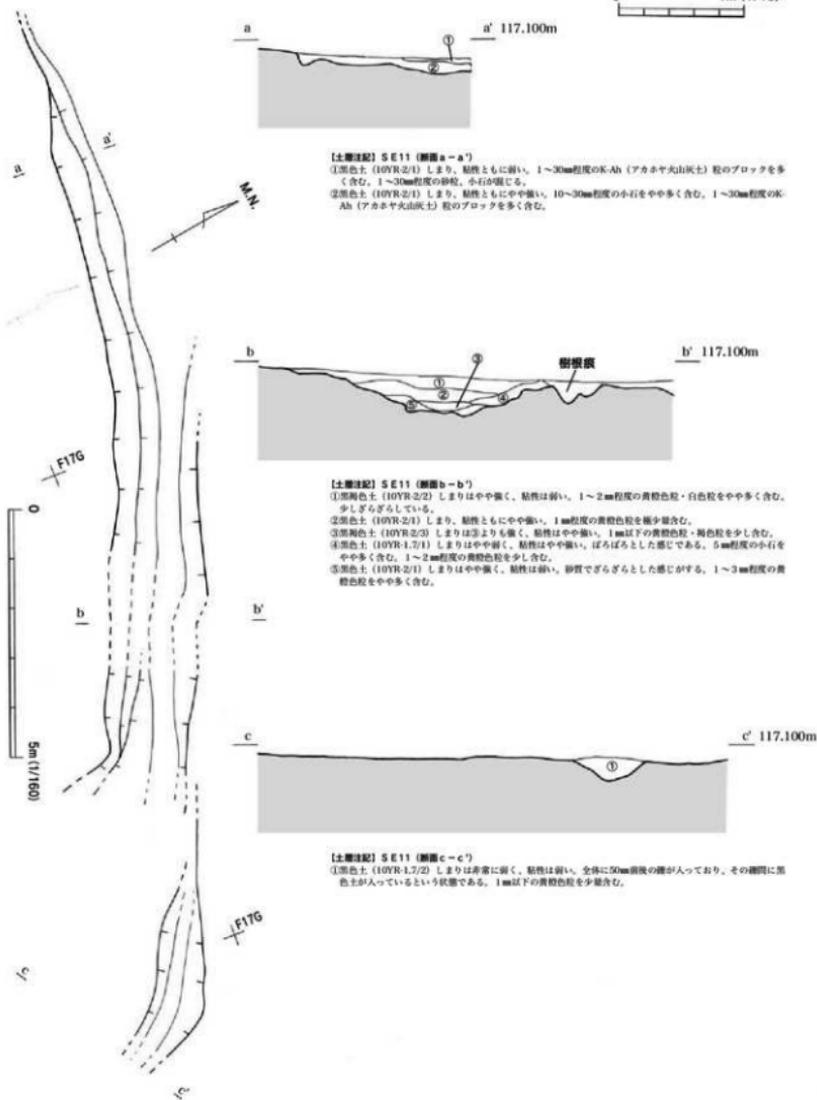
表土一括として取り上げた遺物(423点)や遺構の認定した時代にそぐわない遺物、遺構埋土一括の遺物等の中から主な石器、土師質土器、須恵器、陶磁器を掲載した。

(1) 石器 (第118図400～418)

石鏃

400はSE10の底面直上、401は埋土から出土した石鏃である。400はチャート製で二等辺三角形を呈し、基部は平基をなす。401は姫島産黒曜石製石鏃で欠損の為脚部のみを残す。402も姫島産黒曜石製の石鏃である。ほぼ正三角形を呈し、基部に浅い抉りを認める。403はチャート製の石鏃である。背面右部分には細かい調整痕を残す。未製品の可能性がある。404はホルンフェルス製の石鏃である。風化が著しく剥離痕も不明瞭である。402～404は表土一括として取り上げた遺物である。

SE11



第117図 SE11実測図 (平面1/100、断面1/40)

船野型細石刃核

405は宮崎県宮崎郡佐土原町（現宮崎市佐土原町）船野遺跡出土例を標識とする流紋岩製船野型細石刃核である。SE3の埋土から出土した。旧石器時代に相当する石器である。

剥片

406～408はSE10の床面直上からの出土である。406は流紋岩製で右側部及び下部に微細剥離のある剥片である。使用による剥離痕の可能性がある。407はチャート製の二次加工のある剥片である。両側部及び上部に腹面からの加工痕を認める。弥生時代のものと思われる。408は頁岩製である。礫面を残す礫片を使った石器で、腹面の周辺を加工しており刃部を作った可能性も残される。“小型の石斧状の剥片”とも言えよう。

石斧

409は砂岩製の石斧である。元は粗い砥石であった痕跡を残す。割れ口の稜も潰れており、砥石としての使用がうかがわれる。砥石のリサイクル品として敲打具、石斧として使用したと考えられる。

砥石

410～415は砥石である。410～413は頁岩製である。410は表裏面、左右両側面に砥面を残す。411は節理によって分割した状態で出土した。表裏面に砥面を残す。412は表面のみに砥面を認める。周囲に加工痕を認める。413は表面に砥面を認める。414は表面に砥面を残す砂岩製の砥石である。415は表裏面に砥面を残すホルンフェルス製の小型の砥石である。

火打石

416～418はチャート製火打石である。表土から出土した遺物であるので時期は明確には断定できないが、中世以降の溝状遺構から出土した火打石と石材、形状、大きさ等が類似している。418には表面に鉄分の付着を認める。火打金との関連を類推できる。

(2) 土器・須恵器・陶磁器 (第119図419～441)

表土や遺構埋土等より中世から近世にかけての土器・須恵器・陶磁器が数多く出土した。器種も甕、

壺、碗、皿、杯、瓶、罌鉢、土鍋等様々である。

いくつか例を示すと、土器では口縁部の残る土鍋片が出土した。須恵器では東播系中世須恵器片が出土している。陶磁器は輸入陶磁器として、中国龍泉窯系青磁片、景德鎮窯磁器片等が出土している。国内産陶磁器では、中世の常滑焼陶器片、近世前半の京焼風陶器、近世後半の内野山窯陶器片等が、また磁器は18世紀の波佐見焼くらわんか手磁器片等が出土した。

以下、中世と近世に分けて主な遺物を掲載する。掲載した23点はすべて表土一括の取り上げ遺物である。

中世 (419～429)

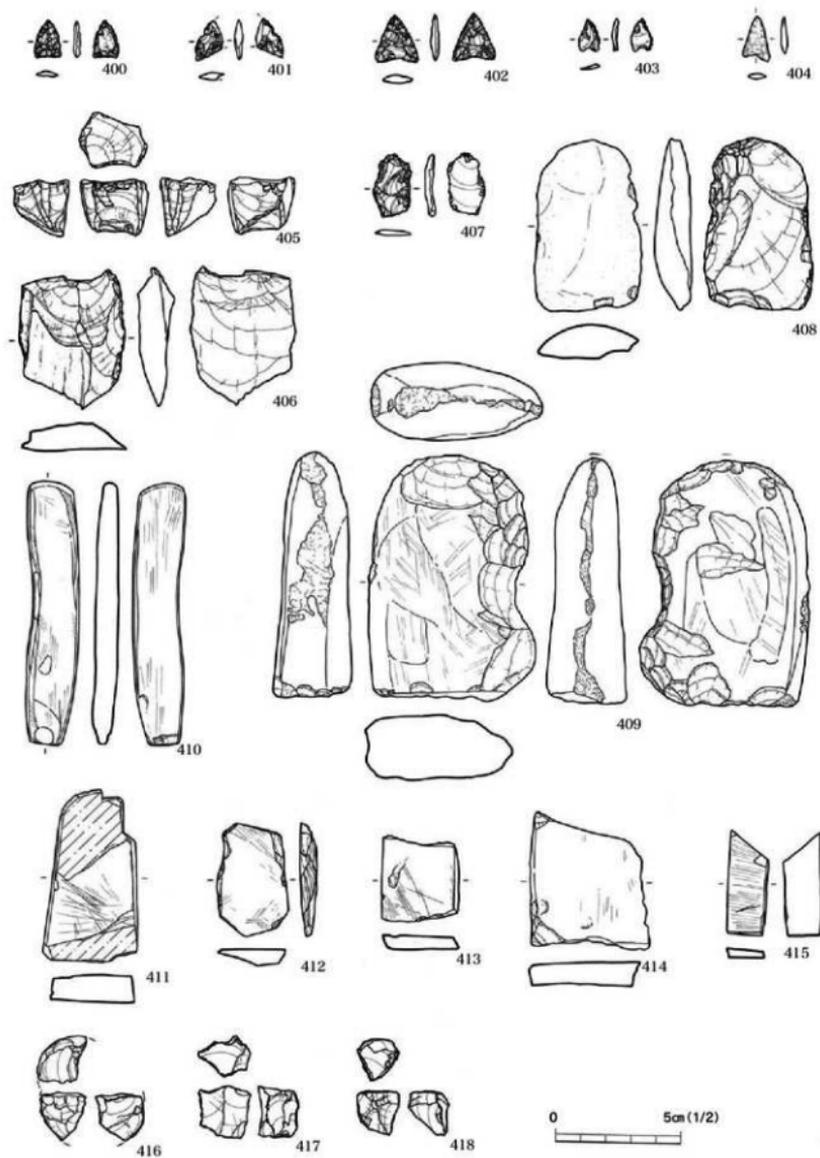
419～425は中国産龍泉窯系の青磁である。419は青磁碗で蓮弁文を施す。1mmほどの厚い釉がかけられている。体部から高台部付近を残す。14～15世紀にかけてのものである。420も釉の厚い線描蓮弁文の青磁碗体部である。421は体部～高台部を残す青磁皿である。釉が厚い。422は青磁皿である。体部～底部付近を残す。見込部分に線描多重輪状文様を施す。423～425は龍泉窯系終末期にあたる16世紀の青磁碗である。外面に施されている線描蓮弁文が雑になる。423・424は口縁部、425は体部である。

426は東播系中世須恵器鉢の口縁部である。427は備前の甕の口縁部である。口縁部は胎土を内側から外側へ折り曲げて成形している。428は備前の罌鉢である。罌目は内面左上から右下方方向に走り、4条以上を一単位とし、幅1.5cm以上を認める。

429は土器で、中世後半の土鍋である。内外面ともにハケメを施す。口縁部を「く」の字に屈曲させ、端部を上方に引き上げている。

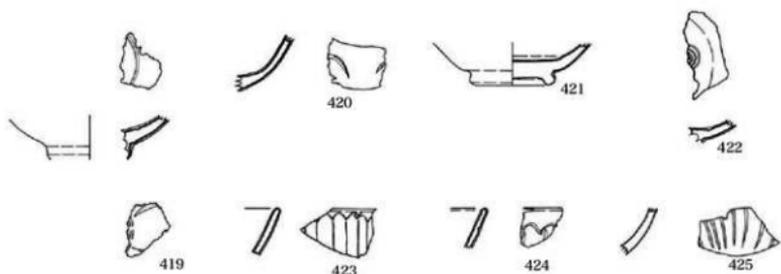
近世 (430～441)

430は白磁の小杯である。体部～高台部を残す。17世紀中頃のものと推定される。431は近世の碗である。体部下部外面と高台外面に圈線を施す。432は18世紀後半、波佐見焼のくらわんか手の碗である。433は内外面に圈線を施し、外面には亀甲文様を施す碗である。434は18世紀の草花文の染付を外面に施すくらわんか手の碗口縁部である。435は内面に刷毛目文様を施す皿の高台部である。重ね焼きによ

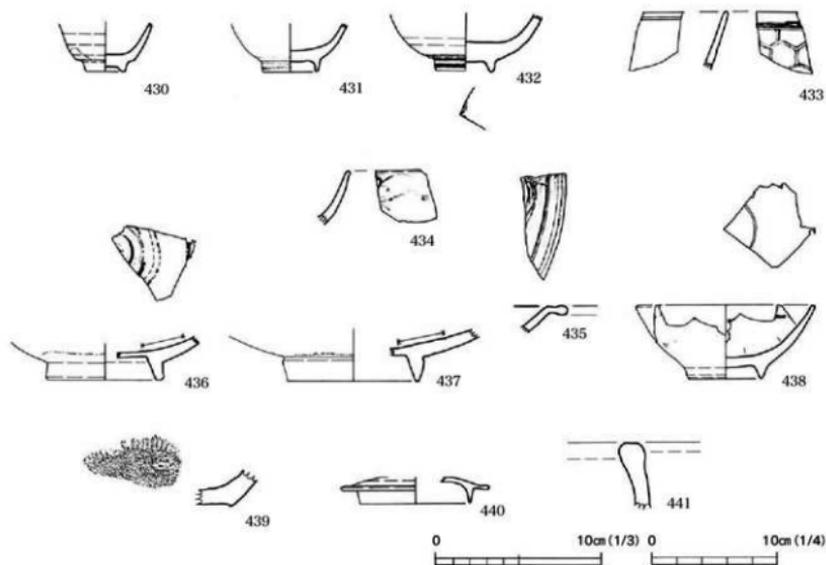


第118図 その他の遺物（石器）実測図（1/2）

[中世]



[近世]



第119図 その他の遺物（土器・須恵器・陶磁器）実測図（1/3、429は1/4）

り見込みに軸の剥がれた痕を認め、高台接地面の一部に灰白の軸が付着している。436は皿の高台部である。見込に蛇の目軸剥ぎを認める。437は陶器皿の口縁部で近世後半のものである。内面に刷毛目文様を施す。438は口縁部の一部から高台部を残す刷毛目文様のある碗である。砂目積みによる重ね焼き

の痕を見込み部分に認める。近世後半のものである。439は罫系の摺鉢底部である。櫛目は一単位10条以上、2.9cm以上を認める。440は薩摩焼の土瓶蓋である。時期は近世後半にあたる。外面は軸を施し内面は無軸である。441は火鉢の口縁部である。外面にはススが付着しているのを認める。

No.	出土地点	注記No.	器種	石材	X線検査	Y線検査	Z線検査 (標高:cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
400	SE10	SE10-146	石鏡	チャート	-	-	-	1.50	1.02	0.30	0.50	二等辺三角形 平基
401	SE10	SE10	石鏡	黒曜石(福島)	-	-	-	(1.60)	(1.10)	0.30	0.40	欠損品 脚部のみ
402	表土一括	ギンザIB	石鏡	黒曜石(福島)	-	-	-	1.90	1.70	0.38	0.80	ほぼ正三角形 基部に残り快り
403	表土一括	ギンザIB	石鏡	チャート	-	-	-	1.30	0.80	0.29	0.20	未製品の可能性?
404	表土一括	ギンザIB	石鏡	カルンフェルス	-	-	-	1.80	1.10	0.25	0.40	風化が著しい
405	SE3	SE3-16	船形型細石刀核	流紋岩	-	-	-	2.30	2.70	2.20	16.20	
406	SE10	SE10-124	微細網目のある剥片	流紋岩	-	-	-	5.60	4.30	1.45	29.20	
407	SE10	SE10-41	二次加工のある剥片	チャート	-	-	-	2.50	1.50	0.40	1.70	発生時代?
408	SE10	SE10-16	二次加工のある剥片	頁岩	-	-	-	6.95	4.30	1.50	54.60	断面を残す剥片 小型の石舟状の剥片
409	表土一括	ギンザIB	石舟	砂岩	-	-	-	10.00	6.80	3.20	250.00	元は磁石 磁石のリサイクル品
410	表土一括	ギンザIB	磁石	頁岩	-	-	-	10.80	2.10	2.10	37.20	表面、左右両側に磁面
411	表土一括	ギンザIB	磁石	頁岩	-	-	-	7.00	3.85	1.10	44.60	表面に磁面
412	表土一括	ギンザIB	磁石	頁岩	-	-	-	4.60	2.90	0.70	9.00	表に磁面
413	表土一括	ギンザIB	磁石	頁岩	-	-	-	3.50	3.10	0.60	13.40	表に磁面
414	表土一括	ギンザIB	磁石	砂岩	-	-	-	5.50	4.90	1.10	45.60	表に磁面
415	表土一括	ギンザIB	磁石	カルンフェルス	-	-	-	4.20	1.65	0.40	4.10	表面に磁面
416	表土一括	ギンザIB	火打石	チャート	-	-	-	2.00	1.90	2.00	6.80	円礫素材 節理を認める
417	表土一括	ギンザIB	火打石	チャート	-	-	-	2.10	2.10	1.70	6.70	節理を認める
418	表土一括	ギンザIB	火打石	チャート	-	-	-	1.80	1.70	2.20	4.70	SI7-S18に比べ良質の石 鉄分付着

第35表 その他の遺物(石器)計測表

№	種類	器種部位	出土地点	法量 (m)			手法・調整・文様他		釉 調		胎土の特徴	備 考
				口徑	底径	胎高	外 面	内 面	外 面	内 面		
419	青磁	碗 体部~高台部付近	表土一括				回転ナデ、陶軸、 線道運弁文	回転ナデ、陶軸	浅黄色に近い緑	浅黄色に近い緑	灰白 精良	釉が厚い
420	青磁	碗 体 部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 線道運弁文	回転ナデ、陶軸	オリーブ灰	オリーブ灰	灰色 精良	
421	青磁	皿 体部~高台部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 貫入	回転ナデ、陶軸、 貫入	明緑灰	明緑灰	黄灰 精良	ケズリ出し高台
422	青磁	皿 体部~高台部付近	表土一括				回転ナデ、陶軸	回転ナデ、陶軸	オリーブ灰	オリーブ灰	灰 精良	内面に多重輪状の 文様有り
423	青磁	碗 口縁部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 線道運弁文	回転ナデ、陶軸	オリーブ灰	オリーブ灰	灰黄褐色 精良	
424	青磁	碗 口縁部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 貫入	回転ナデ、陶軸、 貫入	オリーブ黒	オリーブ黒	灰 精良	外面に線道運弁文
425	青磁	碗 体 部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 線道運弁文	回転ナデ、陶軸、 線道運弁文	オリーブ灰	オリーブ灰	灰黄	釉は薄い 気泡痕 跡の濃細なくびみ 有り
426	土器	鉢 口縁部	表土一括				回転ナデ	回転ナデの後、 磨毛状工具による 調整	無釉	無釉	灰白色の微細粒を 少し含む	灰土系
427	陶器	壺 口縁部	表土一括				回転横ナデ、工 具による回転ナ デ、陶軸	回転横ナデ、 回転ナデ、陶軸	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	褐灰	備前
428	陶器	壺 口縁部	表土一括				ナデの後、磨方 向の磨毛目 摩 耗気味	ヨコナデ 横方 向の磨毛目	浅黄褐色	浅黄褐色	3mm以下の灰白、 白、黒、褐色粒、 黒色柱状気泡粒を 含む	備前磨鉢 内面に スス付着
429	土器	土瓶 口縁部~胴部	表土一括				回転ナデ、陶軸	回転ナデ、陶軸	灰白 淡黄 (透明)	灰白 淡黄 (透明)	暗赤褐色 精良	外面に横方向の磨 毛目象線
430	磁器	小杯 体部~高台部	表土一括	(2.4)	高台径: 擬定 復元径		回転ナデ、陶軸	回転ナデ、陶軸	灰白	灰白	灰白 精良	
431	磁器	碗 体部~高台部	表土一括	(5.7)	高台径		回転ナデ、陶軸、 隠線 灰い伏頭	明オリーブ灰	明オリーブ灰	灰白 精良		
432	磁器	碗 体部~高台部	表土一括	(3.3)	高台径: 擬定 復元径		回転ナデ、陶軸、 隠線	回転ナデ、陶軸	明緑灰 オリーブ黒色	明緑灰	灰白	くらわんか手 高台内面に染付
433	磁器	碗 口縁部~体部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 隠線 亀甲文様	回転ナデ、陶軸、 隠線	灰白 黒	灰白 灰	灰白 精良	
434	磁器	碗 口縁部~体部	表土一括				回転ナデ、陶軸、 染付 梅花文	回転ナデ、陶軸	明緑灰 青灰期 オリーブ	明緑灰	灰白	くらわんか手
435	陶器	皿 口縁部	表土一括				回転ナデ、陶軸	回転ナデ、陶軸 灰白釉による波 状文様	黒褐	黒褐 灰白	にぶい赤褐 精良	
436	陶器	皿 口縁部~高台部	表土一括	(6.8)	高台径: 擬定 復元径		回転ナデ、陶軸	回転ナデ、陶軸	暗オリーブ褐	オリーブ黄 灰白	にぶい赤褐 赤灰 精良	
437	陶器	皿 体部~高台部	表土一括	(8.0)	高台径: 擬定 復元径		回転ヘラナデ、 陶軸	回転ナデ、陶軸	オリーブ褐	オリーブ褐	にぶい橙	
438	磁器	碗 口縁部~高台部	表土一括	(10.4)	高台径 (4.4)	(4.5)	回転ナデ、陶軸	回転ナデ、陶軸、 砂付着	明緑灰 暗オリーブ	明緑灰 暗オリーブ	灰 精良	
439	陶器	磨鉢 底 部	表土一括				回転ナデ	回転ナデ、磨工 具による斜め方向、 放射状の調整	-	-	明赤褐	磨系
440	陶器	土瓶蓋 口縁部~天井部	表土一括	(9.0)			回転ナデ、陶軸	回転ナデ、無釉	暗オリーブ	-	黒褐 にぶい赤褐	
441	土器	火鉢 体部~底部	表土一括				回転ナデ、スス 付着	回転ナデ	-	-	にぶい黄褐色	

第36表 その他の遺物(土器・陶磁器等)観察表

第VI章 まとめ

1 旧石器時代

本遺跡では旧石器時代の遺構は確認されず、一・二・四次調査でナイフ形石器・剥片など5点が、三次調査で船野型細石刃核1点が出土したのみである。ナイフ形石器・剥片は、第IV章で述べたように石器の形態や石材からKr-Kb~ML2相当の時期に帰属するものと判断した。

周辺遺跡における当該期の調査成果をみると、南西側に隣接する銀座第2遺跡のML1~Kr-Kb相当層およびML2相当層でそれぞれ文化層が確認されている。特に前者では流紋岩を中心とした石器・剥片などが200点近く出土しているが、接合資料が少なく、礫群も見られない。後者では礫群が2基とされるが、礫が散漫で赤化が弱く、炭化物も確認されないなど人為的なものは断定しづらい状況である。

さらに南へ丘陵斜面を登った先には銀座第3A遺跡・蔵座村遺跡があるが、やはり石器類が散漫に出土する状況で、銀座第3A遺跡の礫群も第2遺跡同様の特徴を示すものである。

こうした点からすると、本遺跡周辺は旧石器時代人の行動半径内にはあたるが、起居する場所のものではないということになるであろう。遺跡周辺は扇状地上の凹部に位置し、現在でも湧水が見られるため、そうした水を求めた可能性があると思われる。

2 縄文時代早期

縄文時代早期の文化層は、本遺跡では三次調査B2区南部(約500m)においてのみ認められた。

集石遺構を8基検出し、遺構周辺を中心に礫を291点検出した。遺物は石器17点(石鏃4点、剥片13点)、縄文土器片2点の計19点出土した。

○遺構

集石遺構は8基確認された。本遺跡の一次・二次・四次調査区域、近隣の銀座第2遺跡、銀座第3A遺跡からは認められていない。

集石遺構は一般的に長軸・短軸ともにそれぞれ

0.5m~2m程度の範囲に礫が密に集まっている遺構で、構成礫の赤化度、炭化物の有無等、人為的に礫を集め、使用した痕跡が認められる。動植物を調理する機能を有する施設跡や炉跡、石器製作のための準備礫の集積、廃棄礫の集積等が想定されている。

本遺跡の集石遺構の主な特色を述べる。

構成している礫の石材については、在地礫である尾鈴山酸性岩類のみであったことが特色である。遺構周辺に点在した礫の97%以上が同石材であった。

遺構の形状として、掘込みが認められなかったことも特色としてあげられる。構成礫は、S11・2・4・5・6においては礫が遺構中心部に重なるように配置されていて、他に比べて密である。礫の大きさ(重量)で比較するとS13については大型礫(1点あたり約0.60g程度)を使用している。他は1点あたり約0.20~0.30g程度の礫で、S16の構成礫の半分以下の重量の礫で構成されている。

S12・3・6からは炭化物が認められ、S16においては遺構中心部に炭化物の集中域を認める。礫の赤化状況と合わせて火を使用した可能性を認める。

8基の集石遺構は、本遺跡南西部縁地の最も低い部分で検出された。南北約12m、東西約7mの範囲に集中し、ほぼ同レベルで検出された。

集石遺構は更に調査区外に広がると予想され、当時、遺構群として一定の範囲をもって形成されていたと考えられる。ただし、遺構周辺の出土遺物数が僅かであり他の遺構も認められない等の状況から、これ以上遺構に関する言及は避けることにする。

○遺物

縄文時代早期の遺物としては、石器17点(石鏃4点、剥片13点)、縄文土器片2点を認めた。4点の石鏃のうち、1点が県西部の桑ノ木津留産

の黒曜石であった。関連する碎片等の出土は認められないことから、石鏃は遺跡外から持ち込まれた可能性があり、本遺跡が石器製作の場であった痕跡は積極的に認められない。

石鏃のうち281は帖地型石鏃であった。帖地型石鏃は大久保型石鏃（長崎県大久保遺跡：渡邊康之氏1997）とも呼称される。帖地型石鏃は鹿児島県帖地遺跡出土の形態が特徴的な石鏃に対して、報告者の永野達郎氏が型式設定したものであり、更に2つに類型化している（永野1999）。

Aタイプは「縦長の二等辺三角形で、先端部は鋭く尖り、断面は直線形で薄く、平均3mmを測り、基部にわずかに抉りの入ったもので、最大幅が基部の下端から4分の1付近にある」ことを特徴とする。Bタイプは「縦長の五角形で左右の側縁部の肩部が張り出し、基部で狭まるもので、先端部は鋭く尖り、基部にわずかに抉りが入る」ことを特徴とする。本遺跡出土の281は先端部は欠損しているが、Bタイプの特徴をもつ。帖地遺跡では、アカホヤ火山灰層の下層から出土し、条痕文土器と塞ノ神式土器が出土している。本遺跡で出土した2点の土器は、同様に条痕文土器と塞ノ神式土器である。

宮崎県内で出土した帖地型石鏃は、チャート、赤色チャート、玉髄、桑ノ木津留産黒曜石、多久サヌカイト製の出土を計20点余認める。本遺跡で出土したこの石鏃は特色として石材が流紋岩製であり、しかも背面に磨きを認める。宮崎県内では他に類例を見ないものであった。

剥片はチャート製の剥片が11点中6点を数える。剥片同士の接合は認めず、剥片の性格も断定できるまでには至らなかった。剥片に限らず、本文化層出土の石器17点のうち10点がチャート製であったことは特色としてあげられよう。

土器片の出土は2点にとどまった。出土数が僅かであったことは、何らかの点を意図するものであるかも知れないが、狭小の範囲での調査であり、検出した集石遺構との関連も明確ではないため土器について具体的な言及は避けることにする。他遺跡の同文化層の調査結果を待ちたい。

3 弥生時代

当該期の土器はほとんどが溝状遺構から出土している。特に一・二・四次調査SE17・21、三次調査SE10からはまとまった量の出土が見られた。これらの溝は他と比べると大きく蛇行しており、自然流路である可能性が高い。ただしそれらの帰属時期比定については、水流による攪拌と緩慢な堆積を繰り返したと考えられることから断定はしがたい。そうした中でも三次調査SE10については、弥生土器と後世の遺物との量差や出土状況（第98図）から、弥生時代に流路として存在していたものと判断される。

土器の様相は一〜四次調査で共通しており、後期前半頃を中心とする土器群と後期後半〜終末を中心とする土器群が認められ、一部が古墳時代初頭まで下る。特に後期後半の土器がまとまっており、遺跡の近隣に当該期の集落が存在することを示唆する。

川南の段丘上では中期以前に遡る遺跡が少数であるにもかかわらず、後期後半を中心とする遺跡が町城南部を中心として密に展開していることが知られているが、本遺跡の出土状況もそうした傾向を裏付けるものである。

後期前半の土器は三次調査区に多く見られるが、本遺跡の南方丘陵上には数少ない中期〜後期初頭の遺跡である蔵座村遺跡が位置することに関係するかもしれない。

いずれにしても「後期後半における遺跡激増現象」を追認する結果が得られたのみであり、その背景に迫りうるものとはなりえなかった。

外来系の遺物としては瀬戸内系の小型高環があり、当時の地域間交流の一端をうかがわせる資料が得られた。

4 中世～近世

○遺構

中世から近世における本遺跡の性格は、「縦横に走る溝によって方形に区画された土地に成立した集村」とすることができる。ただし文中では「区画溝」と性格づけたものの、ほとんどの溝状遺構は蛇行したり、角部でも緩いカーブを描いたりしており、溝どうしの接点・交点もきちんとしていない。このように必ずしも整然としているとは言えない状況であるが、そうした中においていくつかの規格性を見出すことができる。

第一にD区SE31とC区SG2との位置関係である。これら二つの遺構は完全に並行して走るわけではないが、互いの間隔は調査区北西縁付近で約54mを測り、1町が約109mとするとはほぼ半町に相当する(第120図①)。

第二にA区SE3は南西端部をコーナーと見た場合、南北幅が約47mである。これだけでは半端な数字となっているが、南東に隣接するSE1・3間の帯状の空地が幅約8mを測り、これを合算すると約55mでやはり半町に相当する(第120図②・③)。

第三に同様な帯状の空地がD区SE31・44間にも存在することである。SE44が蛇行しており測定しづらいが、同一遺構と考えられるE区SE49から通る直線を引くと幅約8mが得られ、先述した空地と同規模である(第120図④)。そうしてみると、④の空地の南西側にある区画①は単独で半町を有するため、SE44・49によって区画された部分が南北幅47m前後の規模である可能性が想定できる(第120図⑤)。

第四として溝状遺構が複雑に切り合う区画①・②間については他ほど明瞭な区画を想定しづらいが、A区SE3とC区SG2間を測定すると約22mであり、0.2町(4分の1町?)に相当する。

これらの点から、概ね半町を基礎として方形区画がなされ、それぞれに宅地などが存在した可能性を指摘できよう。

次にこの区画がなされた時期が問題となるが、

遺物の出土している溝状遺構について遺物の様相を整理し、存続年代の推定を試みたい。ただし宮崎平野部における中世土器編年は進んでおらず、生産地や大規模消費地の調査・研究によって導きだされた陶磁器類の年代観を参考とせざるをえないため、現段階での大まかな傾向把握にとどまることを明記しておく。

SE1は中世遺物が最もまとまって出土した遺構である。中国産青磁・白磁の年代観は15世紀代を中心とし、一部が16世紀代に下る。国産陶磁器類もほぼ15世紀代の所産で、1点のみ掲載したくらわんか碗をはじめとする近世後半の陶磁器は埋没の過程で流れ込んだと判断される。

SE3の備前焼罎鉢は15世紀後半頃と思われ、SE6の中国産青磁・白磁は14世紀代～15世紀初頭の、備前焼罎鉢も15世紀前葉の年代を示す。

SE31は14世紀前半～15世紀中頃と陶磁器の年代観に幅があるが、SE44は概ね14世紀後半～15世紀初頭の年代を示す。

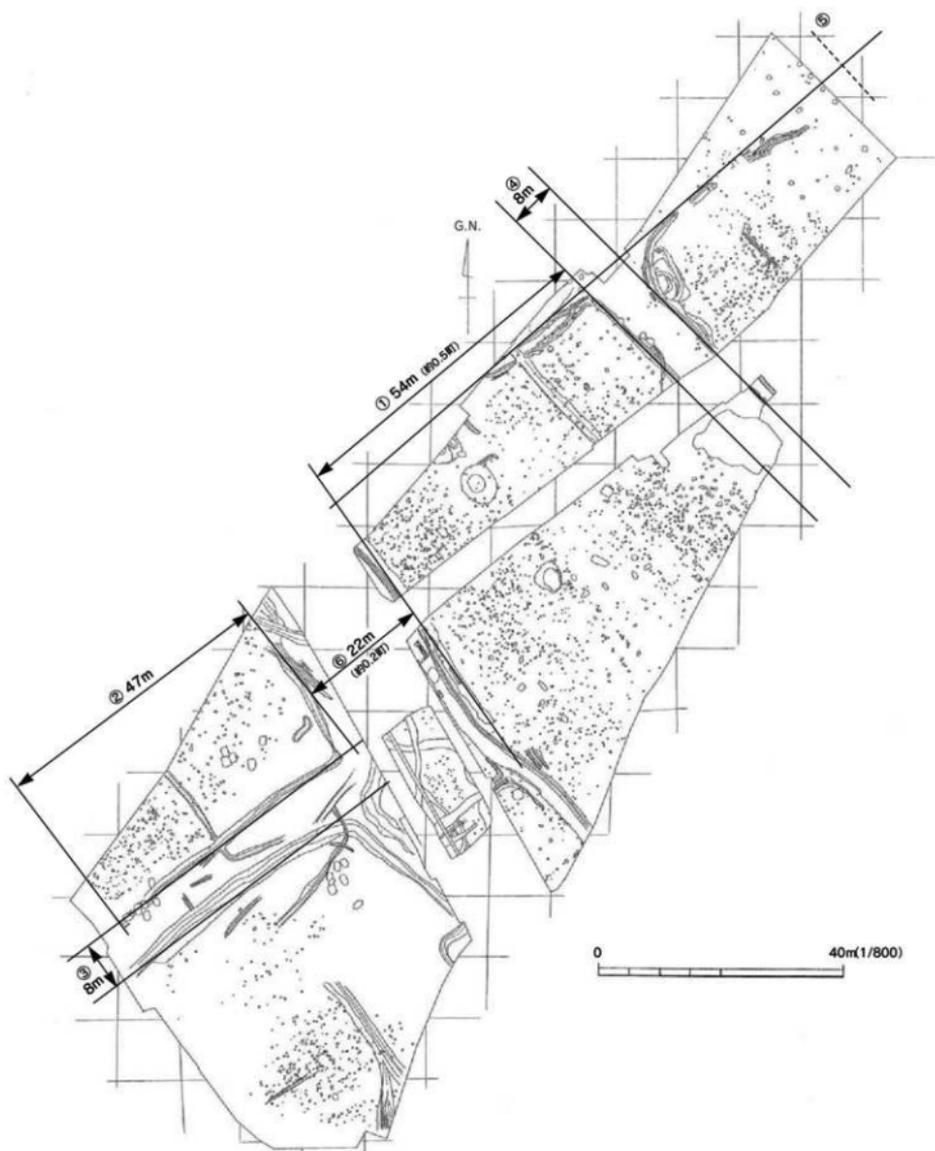
これらを総合すると15世紀代とされる陶磁器類が目立ち、溝の存続年代の一端がそこにあると判断されよう。16世紀代に入ると出土量が増加する中国産青花がほとんど見られないことも上記年代の傍証になる。

ただし看過できないのは第IV章の最後でも触れたように近世陶磁器の存在である。SE1の近世陶磁器について流れ込みとしたが、その判断根拠について触れねばなるまい。

実は本遺跡と類似する調査内容の遺跡が、宮崎平野部で他に2例確認されている。一つは同じ川南町の前ノ田村上第1遺跡であり、もう一つが宮崎市の池開・江口遺跡である。

前ノ田村上第1遺跡は宮崎平野北部の扇状地上に位置し、平成13年度から平成15年度にかけて宮崎県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施し、方形区画と多数の掘立柱建物跡などを検出した(第121図)。

池開・江口遺跡は大淀川河口付近の砂丘上に位置し、平成15年度に宮崎市教育委員会によって調査が行われ、やはり溝状遺構による方形区画に



第120図 銀座第1遺跡の方形区画 (1/800)

囲まれた掘立柱建物群が検出されている（第122図）。

ここで改めて3遺跡の共通点をあげるならば、

- ①当時の主要交通路に近接
- ②溝による方形の区画を有する
- ③掘乱・削平によりかなりの遺構が消滅
- ④溝状遺構出土遺物の年代幅

という4つがあげられる。

まず①についてみるならば、銀座第1遺跡・前ノ田村上第1遺跡はいずれも現在の県道都農・綾線沿いに立地するが、この道路は鬼塚久美子氏の想定する古代官道にあたっている（鬼塚1997）。一方の池開・江口遺跡は宮崎平野の海沿いを南北に走る山崎街道沿いにあり、この道も式内社である江田神社の存在などからやはり古代道に由来する可能性が高いと考えられている。

次は②についてである。銀座第1遺跡では先述したように方形区画が半町を基礎とするとみられた。

前ノ田村上第1遺跡では遺構の重複が激しく、それぞれの存続時期・先後関係確定には困難が伴うが、ほぼ東西南北に走る溝が方形区画をなし、ほとんどの建物が溝と軸を揃えて建てられている。区画の規模も測定しづらいが、担当者によって区画溝8の西辺が約62m（第121図①）、区画溝5の東辺が39m（同②）との測定値が提示され、1町ないし半町に近い単位を基礎とした傾向があるとされる。強いて言えば、区画溝8の62mは半町の55mに銀座第1遺跡の带状空地幅である8mを加えた値に近似する。また区画溝4・5間や区画溝8・12間は带状の空地のようにも見られる。

池開・江口遺跡は調査範囲が限られるためやはり規模の測定が難しいが、担当者により池開遺跡SE3・10間が約45mとされるほか（第122図①）、SE2・11間も45m程度の距離をもつ可能性がある（同②）。半町にはやや短い、周囲の状況が不明でありこれ以上の追求はしづらい。

2遺跡における分析では、銀座第1遺跡ほどの規格性を見いだすには至らなかったが、溝の配置



第121図 前ノ田村上第1遺跡の方形区画（1/800）

に何らかの基準があることは想定してもよいだろう。

次の③・④はいずれも遺跡の分析における障害となるものである。

③については、3遺跡全てが耕地としての基盤整備などにより中世の生活面を削平されていることによる。このため集落の構造把握は困難な状況である。

また④が本題の近世陶磁器混入に深く関わる部分であるが、3遺跡ともほとんどの溝状遺構から中世～近世の陶磁器が混在して出土するということである。このため区画溝についてはそれに基づく集落の存続時期を絞り込めない恨みがある。

ただし銀座第1遺跡、池開・江口遺跡では中国産青磁（雷文帯や蓮弁を施す碗ほか）・白磁（挟入高台の皿ほか）、備前焼（壺・甕・播鉢）などが主体をなし、15世紀代を中心とする年代を想定しうるものである。加えて池開遺跡SE1出土漆器碗の年代測定結果が1440AD～1480ADを示していることも傍証となろう。

前ノ田村上第1遺跡は遺物の年代幅が最も広いが、中世墓と考えられるSD1～3が区画溝内に軸を揃えて掘られており、区画が中世に遡ることを示唆する。

それではどうして遺物の混在が起るのか、という疑問が生じるが、その回答を得るためにヒントとなりそうな池開・江口遺跡の溝状遺構の埋土で確認されたテフラである。

池開SE1・2・9・10、江口SE1・3・9では埋土中より桜島3テフラ（Sz-3：15世紀後半頃噴出と推定）が検出され、さらに池開SE2・10、江口SE3ではその上位に霧島新燃享保テフラ（Kr-SmK：1717年噴出と推定）が検出されている。

つまり上記7本の溝は少なくとも15世紀後半頃には掘削されており、さらに一部の溝は18世紀前半頃までは窪地化しつつも存続していたと判断されるのである。担当者は上層からも中世の青磁が多数出土することから、水の流れなどによる堆積土の攪拌がしばしば起こったと推定している

が、その攪拌は桜島3テフラを流失させるようなものではなく、さらには霧島新燃享保テフラの噴出時までにはある程度の堆積があり、溝がやや浅くなっていったと考えたい。

これに掘立柱建物のほとんどが溝と軸を揃え、一部は確実に近世後半期まで下る（例えば銀座第1遺跡SB14など）ことを合わせ考えると、集落の断続はあるかもしれないが、区画自体は中世から近世に至るまで踏襲されていたことになり、その結果として近世遺物が溝に流れ込んだとの解釈が導きだされる。

これらの区画は1町あるいは半町単位を基礎とするとも判断されることや、前ノ田村上第1遺跡で正方位を示し、銀座第1遺跡では約45°斜行することなどから、条里制地割が淵源となっているとも想定しうるが、明確に12世紀以前に遡りうる遺物がほとんど確認できないため、可能性の指摘にとどまらざるをえない。

○遺物

中世陶磁器類の概要は既に述べたので、ここでは中世土師器について考察する。

本遺跡では溝状遺構・掘立柱建物跡の柱穴・土坑などから土師器が出土している。それらは杯・小皿の二種に大別され、さらに製作時における底部の切り離し技法によってヘラ切り・糸切りの二種が存在する。製作技法が全国的に糸切りへと転換した後も宮崎県下の中世土師器にヘラ切りが残ることについては既に指摘があり、これは九州地方においても特異な現象であるとされる（山本・山村1997など）。

県内の研究としては近年、都城盆地の中世土師器について栗畑光博氏が編年を提示しているが（栗畑2004）、宮崎平野部の編年は岡本武憲氏の作業（岡本1995など）以降は目立ったものが見られず、停滞状況にあることは先にも記した。

そのような中で検討を進めていかなければならないが、本遺跡の調査でも編年を検討しうる良好な一括資料等には恵まれていない。よって陶磁器類が15世紀代を中心とすることから、大きく見て中世後半期の一様相として、そこに見られる特

微・問題点を提示しておきたい。

本遺跡出土の中世土師器にヘラ切り・糸切りの二者が存在するとしたが、その内のヘラ切りの土師器においてのみ見られる特徴がある。

一つ目は「外底面の回転ヘラ切り痕の上から施されるハケメ状の調整痕」である。これは一見、いわゆる板状圧痕（スノコ痕）にも類似するように思われるが、残存良好な資料ならば圧痕ではなく粘土が一方へへと引きずられているのが観察できること、また底面中央部のみに見られ、さらにその部分のみが凹む資料が目立つことなどにより別種のものと思えたい。

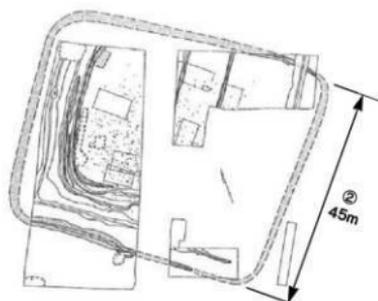
ヘラ切りの場合、手元を見下ろしながらヘラを入れるためか、どうしても外底面中央部が突出するよう安定がよくない。第74図151などはその最たる例である。それをわずかも解消するため、切り離した後におそらく板の木口部分でなでつけるような調整を施すのではないかと想像される。

それを裏付けるかのように、この調整痕は糸切り痕を残す土師器には全く見られなかった。これは糸切りの場合、ヘラ切りとは逆に外底面が自然と上げ底状になることと関係すると思われる。

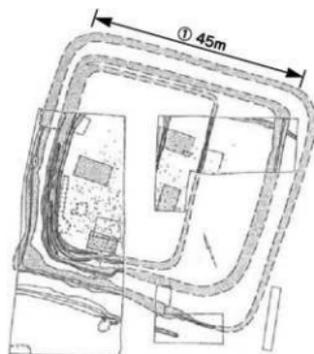
次に「内底面の指頭による横位のナデ」がある。これは内底面に回転ナデとは明らかに方向の異なるナデが確認できるものであるが、おそらく内底面の盛り上がりにならず意図で行われていると考える。この調整もやはり糸切りの土師器には観察できなかった。

胎土についても、二種の土師器で異なる印象があった。すなわちヘラ切りの土師器は赤褐色の粒子（風化礫片か）を比較的多く含み、胎土は粉質で触ると指に粉が残るようで、一方の糸切りの土師器は器表がややざらつき、指を滑らせると引つかかるような感触があるようなものが多かったように思われる。ただし現時点では主観的な判断の域を出るものではない。

以上の点から見ると、ヘラ切りと糸切りの土師器は、生産技術の系譜や担い手が全く異なっている可能性は指摘してもよいと思われる。類似する現象が都城盆地の資料でも確認されており、日向



第1段階



第3段階

第122図 池開遺跡の方形区画 (1/1,000)

国全体で検討すべき課題である（都城市教育委員会1993、栗畑2004）。

ただし上述してきたような土師器にみえる特徴を即座に宮崎平野部で普遍的な現象であるとするのは早計であり、今後同様な視点で分析を進めていきたいと考えている。

最後にS D 16出土の特徴的な土師器杯について触れておきたい。

第64図84（第123図上に再掲載）はヘラ切りの土師器杯であるが、体部内外面に成形時の調整痕

が明瞭に残り、本遺跡出土土師器の中でも異彩を放つ資料である。

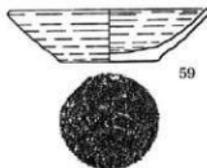
実はこれに酷似する土器が、豊後地方では15世紀末～16世紀前半頃に特徴的に出現する在地区土師器とされている（坂本2001、坪根・塩地2001など）。

実際に大友氏館跡・中世大友府内町跡出土の資料と84とを並べる機会を得たが、器形・胎土の特徴は極めて似ており、底部がへら切りであることが異なるのみで、底部を見せずに並べたら区別が付かないほどであった。ただし豊後では12世紀代には完全に糸切りへと転換しているため、豊後の影響を受けつつも日向で作られた土師器としておきたい。その帰属時期については、豊後の編年を参考にするると15世紀末～16世紀前半頃ということになるが、中世陶磁器類の中でも新しい一群と年代が合致する。

なお豊後地方の土師器との比較検討にあたっては、坪根伸也氏はじめ大分市教育委員会の方々から様々なご教示を得た。末筆ながら謝意を記したい。



銀産第1 SD16



大友府内町跡

59：第3次調査A区 S D151
14：第3次調査B区 S D151下層
※遺物の番号は報告書と一致

第123図 土師器杯の形態比較 (1/3)

引用・参考文献

【論文等】

- 茂山 護・大野寅夫 1977 「児湯郡下の旧石器」『宮崎考古』第3号 宮崎考古学会
- 川南町 1983 『川南町史』
- 岡本武憲 1991 「日向における古代末の土器 宮崎学園都市遺跡群を中心として」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会
- 岡本武憲 1995 『九州南部』『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社
- 鬼塚久美子 1997 「宮崎平野の古代交通路に関する予察」『宮崎県史研究』第11号 宮崎県
- 山本信夫・山村信榮 1997 「九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集 国立歴史民俗博物館
- 坂本嘉弘 2001 「考古学から見た中世大友府内城下町の成立と構造」『南蛮都市・豊後府内 都市と交易』中世大友再発見フォーラム 大分市教育委員会・中世都市研究会
- 坪根伸也・塩地潤一 2001 「豊後国の土器編年」『大分・大友土器研究会論集』大分・大友土器研究会
- 桑畑光博 2004 「都城盆地における中世土器の編年に関する基礎的研究(1)」『宮崎考古』19号 宮崎考古学会

【発掘調査報告書等】

- 高鍋町教育委員会 1982 『持田中尾遺跡 発掘調査概要報告書』
- 川南町教育委員会 1983 『川南町の埋蔵文化財 遺跡詳細分布調査報告書』
- 都城市教育委員会 1993 『天神原遺跡』都城市文化財調査報告書第23集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 1997 『霧島遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第4集
- 後半田遺跡調査団・川南町教育委員会 2002 『後半田遺跡』
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2002 『蔵座村遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第53集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2003 『東九州自動車道(都農～西都農)関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第76集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2003 『北牛牧第5遺跡・銀座第3A遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第80集
- 宮崎市教育委員会 2004 『池間・江口遺跡』宮崎市文化財調査報告書第59集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2004 『東九州自動車道(都農～西都農)関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第91集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2005 『東九州自動車道(都農～西都農)関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第111集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2005 『銀座第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第115集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2005 『前ノ田村上第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第116集
- 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2005 『豊後府内1 中世大友府内町跡第5次・第8次調査区』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第1集
- 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2005 『豊後府内2 中世大友府内町跡第9次・第13次・第21調査区』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第2集

※なお中・近世陶磁器の分類等については主として以下の文献による

【中国産白磁】

- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 田中克子 2002 「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁(その二)」『博多研究会誌』第10号 博多研究会
- 田中克子 2003 「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁(その三)」『博多研究会誌』第11号 博多研究会
- 新垣 力・瀬戸哲也 2005 「沖縄における14世紀～16世紀の中国産白磁の再整理」『紀要 沖縄埋文研究』3 沖縄県立埋蔵文化財センター

【中国産青磁】

- 太宰府市教委委員会 『大宰府条坊跡XV 陶磁器分類編』太宰府市の文化財第49集
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

【中国産青花】

小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

【古瀬戸】

藤澤良祐 2001 「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通 研究の現状と課題」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品』資料集 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤良祐 2005 「瀬戸系（施釉陶器生産技術の伝播）」『中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年』全国シンポジウム「中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年」実行委員会

【常滑焼】

中野晴久 1995 「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館

中野晴久 2005 「常滑・親美系」『中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年』全国シンポジウム「中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年」実行委員会

【備前焼】

乗岡 実 2000 「中世の備前焼甕（壺）の編年案」『第2回中近世備前焼研究会資料』中近世備前焼研究会

乗岡 実 2000 「備前焼摺鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』中近世備前焼研究会

乗岡 実 2005 「備前」『中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年』全国シンポジウム「中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年」実行委員会

【東播系須恵器】

森田 稔 1986 「東播系中世須恵器生産の成立と展開 神出古窯址群を中心に」『神戸市立博物館研究紀要』第3号 神戸市立博物館

森田 稔 1995 「中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社

荻野繁春 2005 「須恵器系（須恵器系陶器の編年と生産技術の展開）」『中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年』全国シンポジウム「中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年」実行委員会

【堺・明石系摺鉢】

白神典之 1988 「堺摺鉢について」『堺環壕都市遺跡（S K T 79地点）発掘調査報告』堺市文化財調査報告書第37集 堺市教育委員会

白神典之 1990 「堺摺鉢と明石摺鉢」『江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会

【肥前系陶磁器】

九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の編年」

版 圖



A区全景



SE 1土層断面 (北西より)



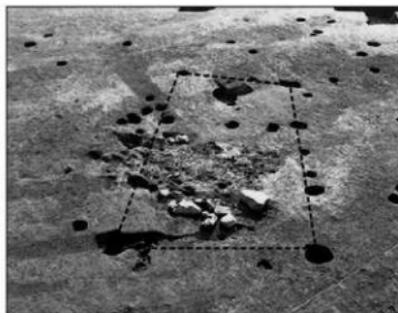
SE 3土層断面 (西より)



SE 4土層断面 (南より)



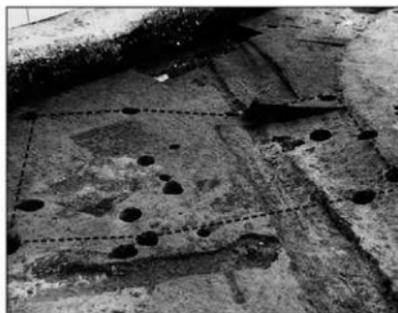
SE 6土層断面 (北より)



SB 1 (北西より)



SB 5 (北西より)



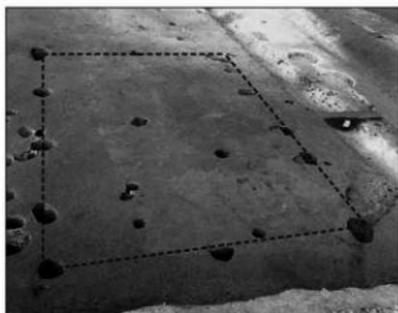
SB 6 (北西より)



SB 7 (北より)



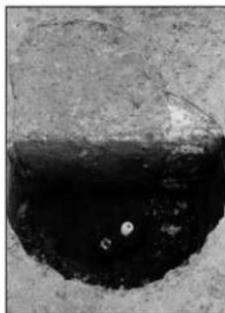
SB 11・12 (北東より)



SB 14 (南西より)



SB 14 - P 1 遺物出土状況 (石臼)



SB 14 - P 4 遺物出土状況 (銭貨)



SB 15 (東より)



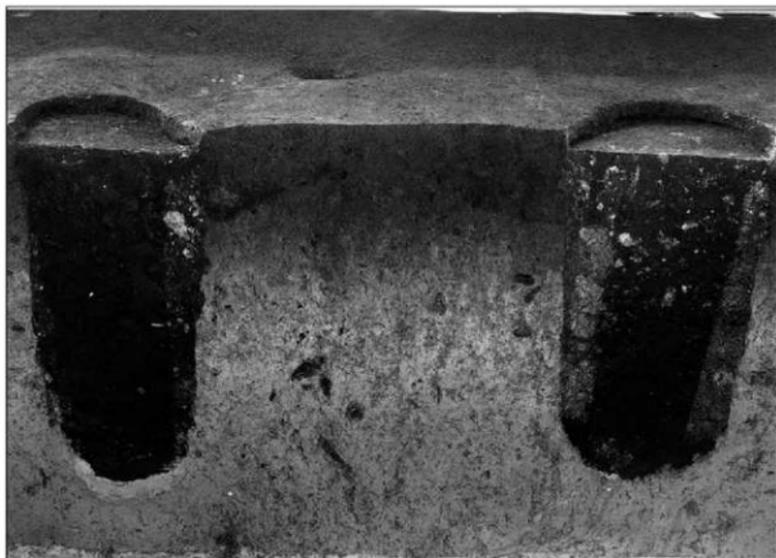
SB 17・18 (東より)



SB 19 (南東より)



SB 21 (東より)



SB14 - P3・P4土層断面（柱痕跡）



SB14土層剥ぎ取り（薬品塗布）



SB14土層剥ぎ取り（布がけ）



作業風景①



作業風景②